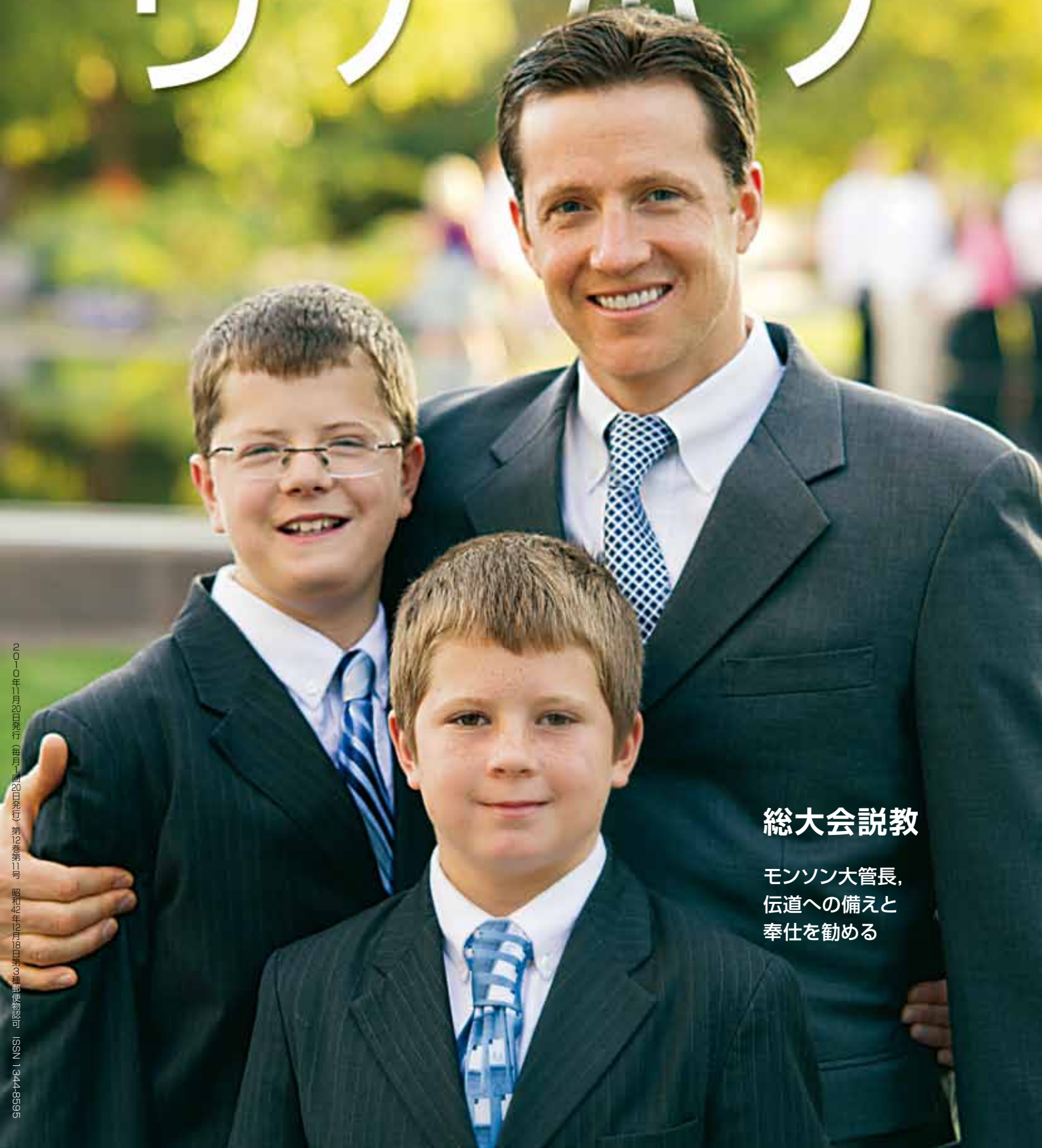


# リアホナ



## 総大会説教

モンソン大管長、  
伝道への備えと  
奉仕を勧める



「イエスはどろを  
盲人の目に塗られた」  
ウォルター・レーン画

生まれつきの盲人を哀れに思い、  
救い主は「地につばきをし、  
そのつばきで、どろをつくり、  
そのどろを  
盲人の目に塗って言われた、  
『シロアム……の池に行つて  
洗いなさい。』  
そこで彼は行つて洗つた。  
そして見えるようになって、  
帰つて行つた。」  
(ヨハネ9:6-7)

## 2 第180回半期総大会の概要

### 土曜午前の部会

- 4 再びともに集い  
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 あなたがたは信仰があるので  
ジェフリー・R・ホランド長老
- 9 道にとどまる  
ローズマリー・M・ウィクソム
- 11 預言者に従う  
クラウディオ・R・M・コスタ長老
- 13 福音を学び、教える  
デビッド・M・マッコスキー
- 16 奉獻された生活についての熟考  
D・トッド・クリストファーソン長老
- 19 最も大切な事柄について  
ディーター・F・ウークトドルフ管長

### 土曜午後の部会

- 23 教会役員への支持  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 24 選択の自由——  
命の計画になくはないもの  
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 27 光あれ  
クエンティン・L・クック長老
- 31 信仰——選択するのはあなたです  
リチャード・C・エッジリー ビショップ
- 34 生死にかかわる事柄  
ケビン・R・ダンカン長老
- 36 永遠に続く  
神殿の鏡——家族についての証あかし  
ジェリット・W・ゴング長老
- 39 決して主を離れず  
ニール・L・アンダーセン長老
- 43 本質を変える信仰の力と人格  
リチャード・G・スコット長老

### 神権部会

- 47 信者の模範になりなさい  
ラッセル・M・ネルソン長老
- 50 「十分に固い決意をもってわたしのもと  
に戻って来[なさい]。わたしは[あなた]を癒そう。」  
パトリック・キアロン長老
- 53 主は、生まれながらの人を捨てるよう  
教えておられる  
フアン・A・ウセダ長老

## 55 高慢と神権

ディーター・F・ウークトドルフ管長

## 59 御霊とともに奉仕する

ヘンリー・B・アイリング管長

## 67 選びについての3つのR

トーマス・S・モンソン大管長

### 日曜午前の部会

- 70 神を信頼し、行って行う  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 74 器の内側を清める  
ボイド・K・パッカー会長
- 77 聖霊と啓示  
ジェイ・E・ジェンセン長老
- 80 信者の模範になる  
メアリー・N・クック
- 83 二つの伝達経路  
ダリン・H・オークス長老
- 87 感謝という神の賜物たまもの  
トーマス・S・モンソン大管長

### 日曜午後の部会

- 91 アロンの神権  
L・トム・ベリー長老
- 94 聖霊を受けなさい  
デビッド・A・ベドナー長老
- 98 勇気ある子育て  
ラリー・R・ローレンス長老
- 101 魂に休みが与えられ  
ベア・G・マーム長老
- 103 罪というわなを避ける  
ジャイロ・マサガルディ  
長老
- 105 わたしの名前で何を  
してきたか  
マービン・B・アーノルド  
長老
- 108 おお、悪しき者の  
あの狡猾な策謀よこつかつ  
M・ラッセル・バラード  
長老
- 111 また逢う日まで  
トーマス・S・モンソン  
大管長

### 中央扶助協会集会

- 112 「わたしの王国の娘」  
——扶助協会の歴史と業  
ジュリー・B・ベック
- 116 確固として、揺るぎなくある  
シルビア・H・オールレッド
- 119 ある者は哀れみの心を持ち、  
違いを生み出す  
バーバラ・トンプソン
- 122 愛はいつまでも絶えることがない  
トーマス・S・モンソン大管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会  
中央幹部
- 125 大会で話された実話や物語の索引
- 126 中央補助組織会長会
- 126 わたしたちの時代のための教え
- 127 教会のニュース



# 第180回 半期総大会の概要

## 2010年10月2日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——オクタビオ・テノリオ長老。閉会の祈り——エドアルド・ガバレット長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース、クレア・クリスチャンセン。「導きたまえよ」『賛美歌』41番；“Let Zion in Her Beauty Rise,” *Hymns*, 41番；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ウィルバーク編曲、未刊；「世はよく働く人を求む」『賛美歌』161番；「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36、マーフィー編曲、未刊；「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年10月2日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——クラウディオ・D・シビック長老。閉会の祈り——ホルヘ・F・ゼバヨス長老。音楽——ユタ州サンディーおよびドレーパーの家族による聖歌隊；指揮——ティモシー・ワークマン；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「来たれ、主の子女ら」『賛美歌』31番、リヨン編曲、ジャックマン刊；「み空に麗し」『賛美歌』27番；「われ主を愛して」『賛美歌』134番；“Home,” *Children’s Songbook*, 192, デーリー編曲、未刊

## 2010年10月2日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——マルコス・A・アيدカイトイス長老。閉会の祈り——ジェームズ・J・ハムラ長老。音楽——プロボ宣教師訓練センターの神権者聖歌隊；指揮——ダグラス・ブレンチリー、ライアン・エゲット；オルガニスト——リチャード・エリオット。「天よりの声聞け」『賛美歌』166番、イブソン編曲、未刊；“Go, Ye Messengers of Heaven,” *Hymns*, 327番；「山の上に」『賛美歌』2番；「われ主を愛して」『賛美歌』134番；「われらは天の王に」『賛美歌』157番、ブース編曲、未刊

## 2010年10月3日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会

の祈り——ジェラルド・コセー長老。閉会の祈り——カルロス・A・ゴドイ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。“Truth Eternal,” *Hymns*, 4番；「エホバ、天地の主」『賛美歌』171番；「羊を守る羊飼いの愛」『賛美歌』136番、ウィルバーク編曲、未刊；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「共に愛し合え」『賛美歌』192番、ウィルバーク編曲、未刊；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年10月3日 日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ローレンス・E・コーブリッジ長老。閉会の祈り——H・デビッド・バートンビショップ。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「来たれ、喜べや」『賛美歌』8番、マーフィー編曲、未刊；「取り巻く闇の中を」『賛美歌』52番、ウィルバーク編曲、未刊；「神の子です」『賛美歌』189番；「わかれにまた」『賛美歌』88番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年9月25日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ジュリー・B・ベック。開会の祈り——シャロン・L・ユーバンク。閉会の祈り——マーシャ・G・ベック。音楽——ユタ州カーンズ地区の幾つかのステークの扶助協会聖歌隊；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「み恵み数えあげ」『賛美歌』153番、カセン編曲、ジャックマン刊；「山のごとく強く」『賛美歌』167番、ニールセン、ブース編曲、未刊（フレンチホルン——クリスティーナ・オーカット・トレフソン、メアリー・ラムプロス、クレール・グローバー）；「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番、バーベ編曲、ラリス刊；「主のみたまは火の

ごと燃え」『賛美歌』3番、デフォード編曲、未刊（フルート——ティア・ジェーンズ、ナタリー・ホール；独唱——キャスリーン・ドース、オリビア・ドース・プロトン、ジェニ・ドース、サリー・ドース・ダフィン、ソフィア・リー・ドース）

## 総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで [conference.lds.org](http://conference.lds.org) または [languages.lds.org](http://languages.lds.org) を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

## 表紙

表紙——写真/レス・ニルソン

裏表紙——写真/ウェルデン・C・アンダーセン

## 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。

ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、レス・ニルソン、スコット・デービス、リンゼー・ブリッグズ、コーディー・ベル、マーク・ウェインバーク、ウェストン・コルトン、ロッド・ボーム、サラ・カービン。アルゼンチン——ルシオ・フレイタス。ブラジル——ラウレニ・フォチェット、アナ・クラウディア・ソリ。ドミニカ共和国——クリスタ・グロル。アイルランド——ファリス・ジェラード。イタリア・アレッサンドロ・ディニ・シアチ、ニュージーランド——ビクトリア・タウバウ。南アフリカ——ケビン・クニー。スウェーデン——イェンズ・リドグレン。ウルグアイ——アベル・ゴメス・ペレイラ。モンソン大管長の写真/ブラス・フォトグラフィー社



大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・バイバー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

クラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ラリー・ボーター, ガーント・ラリー・ヒラー, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカー, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロ, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サル, ジャネット・トーマス, ボール・パンデンバーク, ジュリー・ワートル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ポット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ピンクレイ, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマカー, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラセセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙)でお申し込みになります。郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)

普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」は、www.liahona.lds.org に様々な言語で掲載されています。「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリヤン語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイヌ語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: November 2010 Vol. 34 No. 11. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト (50音順)

アーンノルド, マービン・B, ... 105
アイリング, ヘンリー・B, ... 23, 59, 70
アンダーセン, ニール・L, ... 39
ウイクソム, ローズマリー・M, 9
ウークトドルフ, ディーター・F, ... 19, 55
ウセダ, フアン・A, ... 53
エッジリー, リチャード・C, 31
オークス, ダリン・H, ... 83
オールレッド, シルビア・H, 116
キアロン, バトリック, ... 50
クック, クエンティン・L, ... 27
クック, メアリー・N, ... 80
クリストファーソン, D・トッド, 16
コスタ, クラウディオ・R・M, 11
ゴング, ジェリット・W, ... 36
ジェンセン, ジェイ・E, ... 77
スコット, リチャード・G, ... 43
ダンカン, ケビン・R, ... 34
トンプソン, バーバラ, ... 119
ネルソン, ラッセル・M, ... 47
バックナー, ボイド・K, ... 74
バラード, M・ラッセル, ... 108
ヘイルズ, ロバート・D, ... 24
ベック, ジュリー・B, ... 112
ベドナー, デビッド・A, ... 94
ペリー, L・トム, ... 91
ホランド, ジェフリー・R, ... 6
マーム, ベア・G, ... 101
マサガルデイ, ジャイロ, ... 103
マッコスキー, デビッド・M, 13
モンソン, トーマス・S, ... 4, 67, 87, 111, 122
ローレンス, ラリー・R, ... 98

テーマ別索引

あ愛, ... 53
証, ... 31, 77, 101
贖い, ... 36, 108
アロン神権, ... 91
哀れみ, ... 119
イエス・キリスト, 31, 39, 87
依存症, ... 108
祈り, ... 9, 83
戒め, ... 105
癒し, ... 50
教えること, ... 9, 13
親, ... 98
か改宗・改心, ... 39
開拓者, ... 34
学習, ... 13
確認の儀式, ... 94
家族, ... 19, 36, 98
家族歴史, ... 36
感謝, ... 6, 87
簡潔さ, ... 19
罪, ... 91
義, ... 91
犠牲, ... 6
逆境, ... 116
キリストの特質, ... 53
キリストの光, ... 27
勤勉, ... 19
悔い改め, 24, 50, 53, 74, 103
啓示, ... 11, 77, 83, 94
決意, ... 67
結果, ... 67
権威, ... 83
謙遜, ... 55, 122
高潔, ... 16, 27
高慢, ... 55
子供, ... 9
さ裁き, ... 122
慈愛, ... 122
従順, 11, 34, 43, 50, 70, 94, 98, 101, 105, 111

祝福, ... 87
純潔, ... 16, 27, 74, 80
正直, ... 27
人格, ... 43
神権, ... 59, 91
信仰, 6, 31, 34, 43, 80, 111
神殿, ... 4, 36,
信頼, ... 70
救いの計画, ... 9, 24, 116
聖文研究, ... 9, 13
聖約, ... 36
聖霊, ... 13, 59, 77, 94, 98
責任, ... 67
選択, ... 67
選択の自由, ... 24, 27, 31, 67, 74, 103
総大会, ... 4, 111
た忠実さ, ... 39
仕える天使, ... 91
つまずき, ... 39
罪, ... 103
伝道活動, ... 4, 47
は標準, ... 80
フェローシップ, ... 47
福音の基礎, ... 19
扶助協会, ... 112
平安, 平和, ... 101
奉獻, ... 16
奉仕, ... 6, 16, 55, 59, 91, 112, 119
訪問教師, ... 119
ボルノグラフィー, ... 74, 103
ま模範, ... 9, 47, 80
モルモン書, ... 77
や薬物乱用, ... 108
勇気, ... 98
預言者, ... 11, 34, 70
ら労働, ... 16



トーマス・S・モンソン大管長

## 再びともに集い

宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。

**愛** する兄弟姉妹の皆さん、総大会に皆さんを歓迎します。この大会は様々な方法により世界中で視聴されています。この大規模な大会のために複雑な実務をこなしているすべての人たちに感謝しています。

今年4月の大会以来、教会の業は妨げられることなく進んでいます。わたしは4つの新しい神殿を奉献する特権にあずかりました。大管長会顧問と中央幹部に

同行してもらってアリゾナ州ヒラバレー、ブリティッシュコロンビア州バンクーバー、フィリピン・セブシティ、ウクライナのキエフに行きました。どの土地の神殿も堂々として美しく、教会員の生活を祝福しています。また、どの神殿もわたしたちと異なる信仰を持つ人たちに良い影響を与えています。

それぞれの神殿の奉献前夜には、文化的祝典を鑑賞する特権に浴しました。出

### スウェーデン、ストックホルム



演したのは若い人たちだけでなく、あまり若くない人たちもいました。このような行事は通常、大きなスタジアムで開催されるのですが、キエフでは美しい宮殿に皆が集まりました。踊りや歌、楽器の演奏、展示品は見事でした。これらの行事に携わった人たちに賛辞を呈し、わたしの愛を伝えます。

どの神殿の奉献でも御<sup>みたま</sup>霊をよく味わいました。すべての奉献式で主の御霊を感じました。

来月にはハワイ州ライエ神殿を再奉献し



ます。教会で最も古い神殿の一つであり、何か月もかけて全面的に改装されました。この神聖な機会を楽しみにしています。

わたしたちはこれからも神殿を建設していきます。今朝、新たに5つの神殿用地の取得を発表できることをうれしく思います。これらの神殿は向こう何か月か何年かのうちに次の場所で建設されます。ポルトガル・リスボン、インディアナ州インディアナポリス、フィリピン・ウルダネータ、コネチカット州ハートフォード、メキシコ・ティファナ。

神殿で行われる儀式は、わたしたちの救いと亡くなった愛する人たちの救いにとって不可欠なものです。教会員にとってますます身近になってくる神殿に、引き続き忠実に参入できますように。

さて、今朝の話者の話を聞く前に、わたしが深く心にかけていることを話してもよいでしょうか。わたしたちが心から留意するべき事柄です。伝道活動について話します。

まず、アロン神権の若い男性の皆さんと長老になる若い男性の皆さんに、預言

者たちが長年教えてきたことを繰り返します。ふさわしく、能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。いつも清く純粋で、主を代表するにふさわしくあってください。健康と体力を維持してください。聖文を研究してください。セミナーやインスティ

テュートがある地域では、それに出席してください。宣教師の手引きである『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に精通してください。

若い姉妹の皆さん。皆さんには専任宣教師として奉仕するという若い男性と同じ神権の責任はありませんが、宣教師として価値ある貢献ができます。皆さんの奉仕を歓迎します。

そして熟年の兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは熟年の夫婦をもっと大勢必要としています。現在奉仕している、また過去に奉仕した忠実な夫婦の皆さん、イエス・キリストの福音に対する皆さんの信仰と献身的な奉仕に感謝しています。皆さんは進んでよく奉仕し、非常に良い働きをしています。

夫婦宣教師として奉仕できる時期がまだ来ていない皆さんには、伴侶とともに夫婦宣教師に召される日のために今準備するよう強く勧めます。状況が許し、引退できるようになって健康的に可能であれば、家を離れて専任宣教師として奉仕してください。夫婦そろって専任で主の業に携わることで得られる、すばらしい御霊と充実感を味わう機会は、人生にそうめったにあるものではありません。

さて、兄弟姉妹の皆さん、この2日間、主の僕たちの言葉を聞くときに主の御霊を受けることができますように。皆さん一人一人にこの祝福がありますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。■



十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホルランド長老

## あなたがたは 信仰があるので

すばらしいすべての教会員……が、キリストの純粋な愛は「絶えることがない」ことを日々証明してくださっていることを感謝しています。

モ ンソン大管長、世界中のすべての教会員がこのすばらしい聖歌隊とともに、この偉大な賛美歌を歌い、「感謝を神に捧げん、預言者の導き」と述べました。大管長の人生と模範に、そして、この教会の総大会に参加しているわたしたちを歓迎してくださったことに感謝します。わたしたちは大管長を愛し、称賛し、支持しています。今日の午後の部会においてわたしたちはモンソン大管長だけでなく教会の中央役員を支持する正式な機会が与えられます。わたしの名前もその名簿に加えられるので、支持を受ける前から厚かましくはありますが、皆さんの賛意の挙手に対する感謝を、皆を代表してここで申し上げます。わたしたちは皆さんの祈りと支持なくして働くことができません。皆さんの忠誠と愛は言葉に表せないほどの大きな意味があります。

この思いから、わたしは今日、わたしたちも皆さんを支持していること、わたしたちも皆さんのために心から祈り、愛していることをお伝えします。教会の管理役員には特別な鍵と聖約そして責任があることを全員が知っていますが、教会は、どのような立場にあろうと、一人一人の会員の

信仰と献身によって比類ない力を得ており、まことに独特の活力にあふれていることも実感しています。皆さんがどの国で生活し、どれほど若く、力不足を感じているとしても、あるいはどれほど年老いており、自分の限界を感じているとしても、神が皆さん一人一人を愛しておられることを証します。皆さんは神の業の中心となる存在であり、教会の管理役員が皆さんを慈しみ皆さんのために祈っています。一人一人に価値があり、神聖な輝きを放っているからこそ、救いと昇栄の計画が存在するのです。現代のはやり言葉とは逆になりますが、これはあなたに関係のあることです。いいえ、周りの人を見回さないでください。わたしはあなたに話しているのです！

神が皆さんをどれほど愛しておられ、壇上にいるわたしたちが皆さんにどれほど感謝しているかをどうしたらお伝えできるかあれこれずっと考えてきました。皆さんの善い行い、思いやりのある言葉、イエス・キリストの福音の美しさと祝福をだれかに——だれに対しても——差し出すために払ってきた犠牲に対して、天使になり代わって感謝の言葉を述べたいのです。

若い女性の指導者たちに感謝してい





ます。指導者たちはシャンプーもシャワーもなく、マスカラもつけずに、キャンプ場へ行って、煙の立ち込めるキャンプファイヤーでの証会を、少女や指導者の心に残る、生涯忘れられない霊的な体験に変えています。これまでに会った、シナイ山のように力強く、山上の垂訓が説かれた山のように憐れみを与えてくれた教会のすべての女性に感謝しています。教会の姉妹たちにまつわる話、例えば色鮮やかなゼリーや、キルト、葬儀のときのジャガイモ料理の話の話を聞くと、ほほえましく思います。わたしの家族もその一つ一つを様々な場面でありがたく頂きました。キルトと葬儀のジャガイモ料理が同じ日に届けられたこともありました。それはほんとうに小さなキルトでした。まだ赤ん坊だった弟が亡くなったとき、天の家に戻る弟の旅が温かく安らかであってほしいとの願いを込めて扶助協会の姉妹たちが作ってくれたものでした。葬儀を終えたわたしたち家族は、姉妹たちが自発的に用意してくれた食事を、感謝して頂きました。ほほえましい伝統です。でも、手が垂れ、ひざが弱わっているときには、<sup>1</sup>なぜかいつも、称賛を受けることのあまりない教会の女性たちがそこにいてくれるのです。彼女たちは次のキリストの言葉の神性を本能的に悟っ

ているようです。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」<sup>2</sup>

これは神権者も同じです。例えば、環境や地域によって異なりますが、50マイル(80キロ)の険しい道のりを踏破するハイキングを実施したり、氷の穴を掘ってその中で眠ったりという生涯で最も長い夜となる活動を率いる若い男性の指導者たちがいます。わたしは所属する大祭司グループの中で経験した数々の思い出に感謝しています。何年前に、死期の近づいた定員会会員の傍らで付き添って、小さなクライニングチェアに数週間にわたって交代で眠りました。それは、年老いてご主人と同様に衰弱した姉妹が彼の最後の数週間に少しでも睡眠を取ることができるようにするためでした。教会の多くの教師、役員、アドバイザー、書記の皆さん、そしていつも机といすを並べたり片付けたりしてくれる皆さんに感謝しています。聖任された祝福師や、音楽や家族歴史を担当してくれる皆さん、骨粗鬆症になっても体よりも大きく見えるスーツケースを手にして朝5時に神殿にやって来る高齢の夫婦の皆さんに感謝しています。子供に障がいがあり、時には複数の障がいがあり、さらにはそのような子供を複数持ちながら、

自分を顧みず、恐らく一生涯彼らの世話をしている親の皆さんに感謝しています。病氣や年老いた両親に恩返しをするために力を合わせている、中年を過ぎた息子の娘の皆さんに感謝しています。

最近のことですが、ほとんど完璧に近い高齢の姉妹がすまそうにこうさきやきました。「わたしは教会で指導者として働いたことが一度もありません。してきたのはただお手伝いをするだけだったと思います。」わたしはこう言いました。「敬愛する姉妹、主はあなたと『御自分の王国の中でお手伝いをしてください方』すべてを祝福されることでしょう。」現在の指導者の中には、皆さんがすでに到達している状態に、いつか神の御前で到達できるよう願っている人もいます。

わたしはこれまで、そのような人々の信仰と善良さに感謝を表さなかったことがしばしばありました。ジェームズ・E・ファウスト管長は13年前にここに立ち、こう語りました。「わたしはまだ幼かったころに、……わたしの祖母……が熱い薪コンロでおいしい食事を作っていたことを思い出します。コンロの横の薪を入れた箱が空になると、祖母は黙ってその箱を取り上げて出て行き、外に積んである杉の薪を詰めて、重くなった箱を家の中に運び込

みました。わたしはとても無神経で、……そこに座って、愛する祖母が薪の箱を運ぶのをただ見ていたのです。」そして、声を詰まらせながらこう語りました。「わたしは自分が恥ずかしく、怠惰であったことをそれ以来ずっと後悔してきました。いつの日か、祖母に赦しを求めることができればと願っています。」<sup>3</sup>

ファウスト管長ほど完成の域に達している人が、少年時代の過ちを認めるのであれば、わたしも今日、同じような過ちを認め、遅ればせながら感謝を伝えるべきでしょう。

時が始まるはるか以前の昔にわたしが伝道に召されたとき、宣教師の費用を均等にする制度はまだありませんでした。宣教師は赴任先の伝道部で費用を全額負担していました。一部の伝道部では非常に多額の費用を必要としました。わたしはそのような地域に召されました。

現在、わたしたちが宣教師に奨励しているように、わたしは伝道資金をできるかぎり自分で用意するため、貯金し、自分の持ち物を売り払いました。十分な資金が準備できたと思いましたが、伝道の最後の数か月までもつかどうかは分かりませんでした。そのような不安を抱えながらも、最高にすばらしい経験を求めてこの上なく幸せに家族のもとを離れました。わ



たしは後にも先にもこれほど伝道を愛する若者はいないと言うくらい伝道をこよなく愛しました。

そして帰還すると同時に、両親が伝道に召されました。わたしはどうなるのでしょうか。大学の学費など工面できるはずがありません。食費と部屋代をどうしたらいいのでしょうか。心の中で大きく夢に描いていた、非の打ちどころのない女性であるパトリシア・テリーとの結婚を、どう実現すればよいのでしょうか。正直に言えば、落胆し、恐怖を覚えました。

ためらいながらも地元の銀行に行き、家族ぐるみの友人である支店長にわたしの口座の残高を尋ねました。彼は驚いた様子で言いました。「ジェフ、君のお金は全部そのままだよ。ご両親から聞いていないのかい。君が伝道から戻ったときのために、ご両親は君の口座から1セントも引き出さなかったんだよ。知っていると思っていた。」

まったく知りませんでした。独学で会計士となった父は、夫婦で召しを受けたときに、小さな町にわずかな顧客しかいませんでした。伝道中の息子が衣類や靴に困らないように、恐らく2年間は自分は一度も新しいスーツやシャツを着ることはなかったでしょう。さらに、後に知ったのは、結婚してから一度も外へ働きに出たことなかった母が、わたしの伝道費用を捻出するために、地元のデパートで働いていたことでした。伝道中のわたしには、一言も知らせませんでした。そのことについてまったく何も言わなかったのです。この教会で、どれほど多くの父親がわたしの父とまったく同じことをしてきたことでしょう。この厳しい経済情勢の中、どれほど多くの母親がわたしの母と同じことをしているでしょう。

父は34年前に他界しました。ですからファウスト管長と同じように、次の世に行くまで十分な感謝を伝えられません。けれども来週95歳になる、愛する母は、セントジョージの自宅で今日この放送を楽

しく見ているので、母に感謝する機会はまだまだあります。お母さん、お父さん、また、すべての父親と母親、家族の皆さん、あらゆる地に住む忠実な人々に申します。皆さんが自分の子供たち（そしてほかの人の子供たち）のために犠牲を払い、自分が得ることのなかった機会と、最高の幸福を子供たちに与えるためにできる限りのことをしたいと思ったださっていることに感謝しています。

すばらしいすべての教会員、そして信仰は異なっても善良な大勢の人々が、キリストの純粋な愛は「絶えることがない」<sup>4</sup>ことを日々証明してくださっていることを感謝しています。皆さんの中にはだれ一人としてつまらない人などいません。皆さんはイエス・キリストの福音とは何かを示し、主の慈しみと憐れみを思い起こさせ、小さな村でも大都市でも、人に平安と救いをもたらそうと務めながら、主のよい業とささげられた命について、個人的でありながらも力強く証しているからです。そのような神聖な大義に皆さんとともに携われることをこの上なく光榮に思います。

イエスがニーファイ人に言われたように、わたしも今日申します。

「あなたがたは信仰があるので……わたしの喜びは満ちている。」

そして、イエスはこれらの御言葉を語ると、涙を流された。<sup>5</sup>

兄弟姉妹、皆さんの模範を見ながら、わたしは改めて、天の御父や多くの皆さんのように、より良く、もっと忠実であり、親切であり、献身し、もっと慈愛を持った誠実な人になることを決意します。これらを、すべてにおける偉大な模範であられる、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。■

#### 注

1. ヘブル12:12; 教義と聖約81:5 参照
2. マタイ25:40
3. ジェームズ・E・ファウスト「律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実」『聖徒の道』1998年1月号、65
4. 1コリント13:8。モロナイ7:46-47も参照
5. 3ニーファイ17:20-21



中央初等協会会長  
ローズマリー・M・ウィクソム

## 道にとどまる

子供たちをしっかりと離さずに救い主の導きに従うとき、わたしたち全員が天の家に帰り、天の御父の御腕の中で安息を得る〔ことができます〕。

**先** 日わたしは小さな赤ん坊ケート・エリザベスの誕生に立ち会いました。ケートはこの世に来て母親の腕に抱かれると、手を伸ばして母親の指をつかみました。それはあたかも、小さなケートが「こうしてつかまっていたら、天のお父様のところに帰る道にとどまれるように助けてくれる?」と言っているようでした。

ジョセフ・スミスは7歳のときに腸チフスにかかり、脚が菌で侵されました。ネーサン・スミス医師は、菌に侵された脚を切断せずに残す治療法の先駆者でした。彼は麻酔を使わずにジョセフの脚を切開し、骨の感染した部分を切除しなければなりませんでした。ジョセフは痛みに耐えるためにブランデーを飲むことも、ベッドに体を縛ることも拒否して言いました。「お父さんにベッドに座って、ほくを抱き抱えてもらえるなら、必要なことは何でもするよ。」<sup>1</sup>

わたしたちは世界中の子供たちのためにこう言います。「わたしの手を取り、しっかりとつかまって。天のお父様のみもとに帰る道と一緒にとどまりましょう。」

親、祖父母、隣人、友人、初等協会の指導者の皆さん、わたしたちは皆、手を伸ばして子供たちの手を取ることができます。立ち止まり、ひざをつき、子供の目をのぞ

きこんで、救い主に従いたいという、彼らの生まれながらの願いを感じることができます。子供の手を握ってください。一緒に歩いてください。これはわたしたちが、彼らを信仰の道にしっかりととどめる機会です。

わたしたちが救いの計画について進んで子供に話しているかぎり、道を独りで歩かなければならない子供は一人もいません。計画を理解するなら、子供たちは自分が神の子供であること、自分のために神が用意された計画があること、前世で神とともに住んでいたこと、この地上に来るときに喜びよばわったこと、そして救い主の助けにより、わたしたちは皆、天の御父のみもとへ帰ることができるという真理につかまれていることができます。神の計画と、自分が何者であるかを理解するなら、子供たちは恐れることはありません。

アルマ書第24章にはこうあります。「神は我らの子供たちを愛するように我らも愛してくださっているので、……将来の子孫と同じように我らにも救いの計画を知らせてくださっている。」<sup>2</sup>

わたしたち自身が鉄の棒にしっかりとつかまるとき、子供たちに計画について知らせ始めることができます。

鉄の棒にしっかりとつかまっているなら、わたしたちは子供の手を握って細くて狭

い道を一緒に歩くことができるのです。親の模範は子供の目に大きく映ります。親の行動は正しいと確信するようになれば、子供は親の模範に従います。わたしたちが完全である必要はありません。ただ正直で誠実であればよいのです。子供は親と一体感を持ちたいと願っています。「一緒ならできるよ! 毎日家族で聖文を読もう!」と親が言えば、子供はついて来るでしょう。

その一例として、4人の幼い子供を持つある夫婦はこう書いています。「子供たちの集中力が短いので、少しずつ読むことにしました。長女はまだ字が読めませんでしたが、わたしたちの言葉を繰り返して言うことができました。そこで、毎晩モルモン書を3節ずつ読み始めました。夫とわたしが1節ずつ読み、娘のシドニーは後について1節読みました。そのうちほかの息子たちも復唱できるようになると4節、そして5節と増やしていきました。確かに時間がかかりましたが、続けました。早く読むことではなく、読み続けることを大切にしました。モルモン書を読み終えるのに3年半かかりましたが、すばらしい達成感がありました。」

母親は続けて書いています。「毎日聖文を読むことは今では我が家の習慣です。子供たちも聖文独特の言葉遣いが苦にならなくなりました。夫とわたしには真理を証する機会あかしにもなっています。何よりも、家庭に御霊みたまがより豊かに注がれるようになりました。」

この家族の経験から分かることがあります。それは、神の言葉にしっかりとつかまることが目的であれば、聖文を読むのは1節だけでもいいということです。始めるのに遅すぎることはありません。今から始めることができます。

親が子供に教えないければ、世の人々が教えるでしょう。子供たちには非常に幼い時期から、この世が教えるあらゆることを学ぶ能力があります。5年後の子供たちに知ってほしいと思うことは、今日きょうから



会話の話題にする必要があります。あらゆる状況で教えてください。子供が困っているとき、選定の結果を受けているとき、試練に直面するときなど、あらゆる機会をとらえて福音の真理にとどまる方法を教えてください。

シャノンという若い母親がいました。40分程度の道のりを自宅に向かって帰ろうと子供たちとバンに乗り込んだとき、彼女は子供たちに祈りの力について教えることになるとは思っていませんでした。祖母の家を出たときまだ嵐はまだ来ていませんでした。しかし、谷に差しかけたところで、小雪は吹雪となり、車は路面をスリップするようになりました。間もなく視界がほとんどなくなりました。切羽詰まった状況を感じた年下の二人の子供は泣き始めました。年上の二人で8歳と6歳のハイディとトーマスにシャノンは言いました。「お祈りしてちょうだい。家に無事に着くように、天のお父様の助けが要るのよ。車が動かなくならないように、スリップして道路から飛び出ないようにお祈りするのよ。」ハンドルを握る彼女の手は震えていました。それでも後ろの座席から「天のお父様、無事に家に帰れるように助けてください。道路から飛び出ないように助けてください」と祈るささやき声が続けて聞こえてきました。

そのうちに、祈りのおかげで下の二人は落ち着きを取り戻して泣きやみました。

すると道路が閉鎖されており、それ以上先へは行けないことが分かりました。シャノンは慎重にUターンし、宿泊施設を見つけてその夜はそこに泊まることにしました。到着すると、皆でひざまずいて無事だったことを天の御父に感謝しました。その夜、母親は子供たちに心からの祈りが持つ力を教えたのです。

今の子供たちとはどのような試練に遭うのでしょうか。ジョセフ・スミスのようにわたしたちの子供たちも「必要なことをすべて行う」勇気を見いだすことができます。わたしたちが心を傾けて子供たちをしっかりと離さず、祈りと聖文を通して天の御父の計画を教えるなら、子供たちは自分がどこから来て、なぜ今ここにいるのか、これからどこへ行こうとしているのかを知るようになります。

去年の春、夫と一緒に4歳になる孫のサッカーの試合を見に行きました。子供たちがボールを追って走り回るグラウンドの興奮がどんなものか、皆さんもお分りになるでしょう。試合終了の笛が鳴ったとき、子供たちはどちらが勝ってどちらが負けたのか分かりませんでした。ただ、試合を戦ったのです。コーチたちに促されて子供たちは対戦チームの選手と握手しました。その後、とてもすばらしい光景を目にしました。勝利のトンネルを作るようにというコーチの呼びかけに、試合を見に来ていた親や祖父母、観客全員が立ち上

がり、向かい合って2列に並ぶと、手を伸ばしてアーチを作りました。子供たちは歓声を上げながら、喝采の声を上げる大人が作る道を駆け抜けました。するとすぐに、相手チームの子供たちも加わって、勝った者、負けた者の区別なく、選手全員が大人たちの声援を受けながら勝利の道を走り抜けました。

わたしの心の目にはもう一つの光景が見えました。子供たち一人一人が御父の計画に従って生きる姿を見ているように感じたのです。それは、天の御父が子供たち一人一人のために立てられた計画です。子供たちは皆、道に沿って歩み続ける喜びを感じながら、自分を愛してくれる観客が作ったアーチを通して、細くて狭い道を走っていました。

ヤコブはこう言いました。「おお、わたしたちの神の計画の何と偉大なことよ。」<sup>3</sup> 救い主は「光と生命の道を示し」てくださいました。<sup>4</sup> 子供たちをしっかりと離さずに救い主の導きに従うとき、わたしたち全員が天の家に帰り、天の御父の御腕の中で安息を得るということを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ルーシー・マック・スミス、*History of Joseph Smith by His Mother*、プレストン・ニブリー編（1958年）、56 - 57 参照
2. アルマ 24:14
3. 2 ニューファイ 9:13
4. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番



七十人会長会  
クラウディオ・R・M・コスタ長老

# 預言者に従う

現代にも預言者がいることは何と大きな祝福でしょう！

**わ**たしは改宗者です。神がわたしの祈りにこたえてくださり、ジョセフ・スミスが神の預言者であるという知識と証<sup>あかし</sup>を与えてくださったことに心から感謝しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会に入るためにバプテスマを受ける決意をする前に、わたしはジョセフ・スミスの歴史からの抜粋を研究しました。一つ一つの段落を注意深く読んでから、祈りました。自分でやってみたいと思う人に言いますが、14時間かかるかもしれません。

読んで、深く考え、祈った後、主はジョセフ・スミスが御自身の預言者であるという確信を下さいました。わたしはジョセフ・スミスが預言者であることを皆さんに証します。そして、この答えを主から受けたので、ジョセフの後継者たちも預言者であることを知っています。現代にも預言者がいることは何と大きな祝福でしょう！

まことのイエス・キリスト教会とその会員を導く生ける預言者がいることは、なぜ重要なのでしょうか。

『聖句ガイド』では、「預言者」という言葉をこう定義しています。「神によって召され、神に代わって語る人。神の使いとして神から戒めや預言、啓示を受ける。」(scriptures.lds.org「預言者」の項；Bible Dictionary, 754も参照)

地上のこの困難な時代にあって、主の御言葉、戒め、導きを受けられることは大

きな祝福です。預言者は靈感を受けて、人類の益のために将来を予見することができます。

わたしたちは「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」と教えられています(アモス3:7)。この聖句から、主はわたしたちに伝える必要があると感じる事柄は何でも、御自分の預言者に明らかにされるのが分かります。御心をわたしたちに示し、預言者を通して教導いてくださいます。

主は、わたしたちが聖なる預言者を信じるなら、永遠の命を受けると約束されました(教義と聖約20:26参照)。信仰簡条の第6条で、わたしたちは預言者を信じると宣言しています。信じるとは、預言者に信仰を持ち、信頼し、預言者が求めることに従ってそれを行うという意味です。

1980年、エズラ・タフト・ベンソン大管長は十二使徒評議会の会長を務めていたとき、マリオットセンターで行われたBYUディボーションで預言者に従うことについて力強く語りました。わたしは「預言者に従う14の原則」(“Fourteen Fundamentals in Following the Prophet”)と題したその偉大な説教に感銘を受けました。バプテスマを受けて主のまことの教会に加わったとき、生涯預言者に従おうと決心してよかったと思いました。

ベンソン大管長が教えた幾つかの原則を紹介したいと思います。

「1. 預言者はすべての事柄について主に代わって語る唯一の人である。」(1980 Devotional Speeches of the Year [1981年], 26)

今日、神の預言者はわたしたちに、戒めを守り、同胞を愛し、奉仕し、若い世代を育て、教会にまったく出席していない会員やあまり出席していない会員を救助し、「預言者の優先事項」と呼ばれる多くのことを行うように語っています。これらの優先事項が神の優先事項であること、そして預言者がそれを教会全体と全世界に伝える主の声であることを理解しなければなりません。

わたしたちは「〔預言者の〕言葉と戒め……のすべてを心に留め〔る〕」ように勧められています(教義と聖約21:4)。また、このように教えられています。

「忍耐と信仰を尽くして、あたかも〔主御自身〕の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。

これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。」(教義と聖約21:5-6)

2つ目の原則——「生ける預言者は、わたしたちにとって標準聖典よりも重要である。」(“Fourteen Fundamentals,” 26)

生ける預言者はわたしたちのために具体的な啓示を受けています。わたしは、主の僕がある町または国のために具体的な事柄を語るその場にいたことが何度もあります。わたしの母国ブラジルについて語った生ける預言者、聖見者、啓示者を少なくとも3人知っています。そのうち一人の僕は、ブラジルがインフレのない、世界の経済大国になると述べました。当時ブラジルでは、毎月物価上昇率が2けたという状態でした。多くの人にとって、預言者の言葉を信じることは難しいことでした



が、わたしは信じました。ここ何年もの間、ブラジルでは毎年およそ5パーセントの物価上昇率を維持しています。今や世界で8番目の経済大国となり、国は良い経済状態にあります。

3つ目の原則——「わたしたちにとって生ける預言者は、過去の預言者よりも大切である。」(“Fourteen Fundamentals,” 27)

これについては偉大な教訓を聖典から学ぶことができます。ノアの時代、人々にとって過去の預言者を信じることは簡単でしたが、ノアを信じるのは難しいことでした。信じなかったために、彼らが洪水を生き延びることができなかったことをわたしたちは知っています(創世6-7章参照)。

4つ目の原則——「預言者は教会を間違った方向に導くことはない。」(“Fourteen Fundamentals,” 27)

これもまた、生ける預言者から学んでいます。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう述べました。「主はわたしであろうと、ほかのだれであろうと、この教会の大管長として立つ者が皆さんを誤った道へ導くのをお許しになることは決してありません。そうすることは、計画の中にはありません。それは神の御心の中にありません。もしわたしがそうしようとしたならば、主はわたしをこの職から退けられることでしょう。また、ほかのだれであろうと人の子らを神託や彼らの職務から誤った道に導こうとする者に、主はそのようにされる

でしょう。」(『公式の宣言1』)

5つ目の原則——「預言者はいつでも、いかなる主題について語る時も、またいかなる行動を起こす時も、特別にこの世的な訓練や教育を受ける必要はない。」(“Fourteen Fundamentals,” 27)

主はジョセフ・スミスという若者を召して、御自身の教会を回復されました。皆さんはジョセフ・スミスが神学や科学の博士だったと思いますか。わたしたちはジョセフが謙遜な、学歴のない若者だったことを知っています。しかしジョセフは主に選ばれ、回復の預言者の召しを尊んで大いなるものとするために必要なことをすべて主から受けました。

ベンソン大管長は続けて教えました。

「6. 預言者はわたしたちに聖文を与えるとときに、『主がこのように言われる』と宣言する必要はない。

7. 預言者は必ずしもわたしたちが知りたいことを告げるのではなく、知る必要のあることを告げる。」(“Fourteen Fundamentals,” 27, 28)

この後、ベンソン大管長はニーファイ第一書16章1節と3節から引用しました。

「さて、わたしニーファイが兄たちに語り終えると、見よ、兄たちは、『おまえは我々が聞くに堪えないほど厳しいことを言った』とわたしに言った。……

『兄さんたち、もし兄さんたちが義にかなっていて、神の御前をまっすぐに歩めるように、進んで真理に聞き従い、それを心に留めるならば、その真理のためにつぶやいて、「おまえは我々に厳しいことを言った」などとは言わないでしよう。』

8つ目の原則——「預言者は人の理論に制約されない。……

重い皮膚病を治すために、ある川へ行行って7度身を洗いなさいと告げることは、理にかなっていると思えるでしょうか。しかし、これはまさに預言者エリシャが重い皮膚病を患っている人に行うよう告げた言葉であり、その人は癒されたのです(列王下5章参照)。」(“Fourteen Fundamentals,” 28)



中央日曜学校会長会第一顧問  
デビッド・M・マッコッキー

ベンソン大管長は預言者に従うことについてそのほかの原則も挙げました。残りの6つを読み上げますので、皆さんが開く次の家庭の夕べで、この総大会で語られた、生ける預言者、聖見者、啓示者の言葉や教えの中からこれらの原則を見つけるように勧めます。

「9. 預言者は霊のおよび物質的ないかなる物事についても啓示を受けることができる。……

10. 預言者は一般社会の問題に携わることができる。……

11. 預言者に従ううえで最大の障害を持つ人とは、教養を誇る人と富を誇る人である。……

12. 預言者はこの世と世の人々から必ずしも好評を博することはない。……

13. 預言者とその顧問は、教会における最高の定員会である大管長会を構成する。

14. 預言者とその会長会、すなわち生ける預言者と大管長会に従う人は祝福を受け、拒む人は苦難を受ける。」「(“Fourteen Fundamentals,” 29)

このすばらしい総大会で生ける預言者、聖見者、啓示者の言葉を聞けることは特権です。彼らは主の御心を主の民であるわたしたちに語ります。神の御言葉と勧告を伝えてくれます。注意を払って彼らの教えや提案に従うなら、皆さんの生活が全面的に祝福されることを証します。

イエスはキリストであり、わたしたちの救い主、贖い主です。トーマス・S・モンソンは神の生ける預言者であり、大管長会および十二使徒定員会は預言者、聖見者、啓示者です。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

## 福音を学び、教える

学ぶときに最も重要なことは、教師が教えるときの姿勢、態度です。

中 央日曜学校会長会の一員として、次のように言って今朝の話を始めるべきだと感じています。

「クラスの皆さん、おはようございます。」

今日わたしは、教える責任を受けているすべての皆さんに向けて話します。皆さんがどの組織で奉仕しているのか、改宗して間もないのか、長い教師経験があるのか、それは問題ではありません。

わたしは「どのように」教えるかではなく、むしろ「どのように」学ぶのかについて話します。教師が語る言葉と、クラスの生徒が聞いて学ぶことの間大きな誤差が生じることがあります。

皆さんの人生を変えた教師について少し考えてください。その教師によって、なぜあなたは教えられた内容を覚えているのですか。なぜ真理を自分で見いだした

いと思うようになったのですか。なぜただ強いられてではなく、選択の自由を働かせて行動するようになったのですか。言い換えれば、なぜ学びたくなったのですか。その教師はほかの教師とどこが違うのでしょうか。

卓越した教師であり作家でもある人がこう言いました。「学ぶときに最も重要なことは、教師が教えるときの姿勢、態度です。」<sup>1</sup>

学習に最も大切なことが、教師の教会員歴の長さでも教えた経験がどの程度あるかでもなく、ましてや教師の福音の知識でも教える技術でもないという点に注目してください。いちばん重要なのは、教師が教えるときの態度、つまり心だということです。

世界指導者訓練集会においてジェフ





レッスンの準備とは別に、毎日聖文を研究する習慣を身に付けてください。福音を教えられるようになるにはまず、福音を知らなければなりません。

トーマス・S・モンソン大管長は子供のころ教わった日曜学校の教師の思い出を今でも大切にしており、次のように語っています。「幼かったころ、わたしたちの言葉によく耳を傾け、愛を示してくれた非常に優れた教師がいて、わたしは彼女から大きな影響を受けました。その教師の名は、ルーシー・ガーシュ姉妹です。日曜学校の時間に、ガーシュ姉妹は世界の創造や、アダムの墮落、イエスの贖いの犠牲などについて教えてくれました。ガーシュ姉妹は、モーセやヨシュア、ペテロ、トマス、パウロ、そしてもちろんキリストをゲストとして教室に招きました。その姿は見えませんでした、わたしたちは彼らを愛し、称賛するようになりました。彼らの模範に熱心に従うようになりました。」<sup>4</sup>

ルーシー・ガーシュ姉妹がゲストを教室に招き入れることができたのは、彼らを知っていたからです。ゲストは彼女の愛する友人でした。だからこそ、生徒たちは「彼らを愛し、称賛し、彼らの模範に熱心に従うように」なったのです。

主はハイラム・スミスに言われました。「わたしの言葉を告げようとしないうで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。」<sup>5</sup> この勧告はわたしたちすべてに当てはまります。

主は聖文を調べ、<sup>6</sup> 御言葉をよく味わい、<sup>7</sup> 蓄える<sup>8</sup> よう戒められました。わたしたちが熱心に主の御言葉を調べ、深く考えるなら、御霊がともにいてくださいます。主の御声を知るようになるのです。<sup>9</sup>

わたしがステーキ会長に召されて間もなく、わたしたち会長会は地域七十人の訓練を受けることになりました。訓練の最中にわたしが質問をすると、こんな答えが返ってきました。「いい質問です。では、『教会指導手引き』を開いてください。」そこで手引きを開けると、質問の答えがそ

リー・R・ホランド長老は次のような話をしました。「長いこと忘れられない話があります。パッカー会長が何度も引用した話です。ウィリアム・E・ベレット兄弟が少年時代に会った日曜学校の教師の話です。騒々しい少年たちのクラスを教えるために、年配のデンマーク人の兄弟が召されました。彼が召されたのは意外でした。英語はよく話せません。かなり強いデンマークなまりの英語でした。農夫特有の大きな手をした年配の兄弟が、15歳の荒々しい少年たちを教えるのです。どの点から見ても、適任とは思えません。しかし、パッカー長老から聞いた言葉ですが、ウィリアム・E・ベレット兄弟はよく次のように言っていたそうです。『この男性はあらゆる障害や限界を乗り越え、暴れ者の15歳の少年たちの心を動かし、彼らの生活を変えたのです』と。

そして、ベレット兄弟はこう証しました。『その教師は信仰の火でわたしたちの冷たい手を温めてくれました。』<sup>2</sup>

福音を教える教師として成功している人は福音を愛しています。福音に胸を躍らせているのです。また生徒を愛しているので、自分の思いを生徒にも感じてほしい、自分が経験したことを生徒にも経験してほしいと思っています。福音を教えるとは、福音に対して持っている愛を分かち合うことです。

兄弟姉妹、教師の態度は教えられるものではなく、見て学ぶものです。<sup>3</sup>

では、良い教師になるために必要な態度をどうすれば養うことができるのでしょうか。福音を教えるための4つの基本原則について話します。

第1に、聖文研究に没頭してください。知らないことを愛することはできません。



ここにありました。しばらくしてまた質問すると、「いい質問です。では、『教会指導手引き』を開いてください」という返事がまた返ってきました。その後はあえて質問をしませんでした。手引きを読むのがいちばんいいと思ったからです。

以来、わたしたちが主に心配事を相談したり質問したりするときに、主は同じような返事をなさるのではないかと思うようになりました。このような返事です。「いい質問です。アルマ書第5章が教義と聖約第76章を読めば、これについてわたしがすでに話していることを思い出してください。」

兄弟姉妹、主がわたしたち全員に1度明らかにしたことを一人一人に繰り返しておっしゃることは、天の摂理に反していません。聖文にはキリストの御言葉が収められています。それは主の御声です。聖文を読むということは、主の御声を聞く訓練なのです。

第2に、学んだことを生活で実践してください。ハイラム・スミスがこの大いなる末日の業の一端を担いたいと願ったとき、主はこう言われました。「見よ、あなたの勢力と思いと力を尽くしてわたしの戒めを守ることが、あなたのなすべきことである。」<sup>10</sup> 教師であるわたしたちの仕事は、まず何よりも、勢力と思いと力を尽くして戒めを守ることなのです。

第3に、天の助けを求めてください。熱意を込めて主の御霊を願い求めてください。聖文は告げています。「御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」<sup>11</sup> たとえ正しい教授法をすべて使い、真実を教えていたとしても、御霊がなければ、ほんとうの意味ではだれも何も学ばないということです。

教師の役割とは、「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助すること、すなわち、福音を研究し、理解して、福音に従って生活する意欲を持たせ」ることです。<sup>12</sup> すなわち、わたしたち教師は、人々が福音を学び、福音に従うよう助けることに力を注ぐべきであって、自分の教え

方が良いかどうかについては、それほど焦点を当てる必要はないことを意味しています。<sup>13</sup>

レッスンに助けを願うだけではなく、生徒一人一人を知り、その必要を満たすことができるよう、ひざまずいて主に祈り求めたのはいつですか。どれほど大きなクラスでも、一人一人の心に届くレッスンがどうしたらできるのか靈感を求めて祈ることができます。

教師が力不足を感じるのは自然なことです。「主と交わり、主の御霊と交わるのに、年齢、成熟度、知的訓練は少しも必要ない」<sup>14</sup> ことを理解しなければなりません。

主の約束は明白です。熱心に聖文を探究し、命の言葉を心の中に大切に蓄えるなら、心を尽くして戒めを守り、生徒一人一人のために祈るなら、聖霊を伴侶とし、啓示を受けるでしょう。<sup>15</sup>

第4に、兄弟姉妹、最も重要なことは、霊的な促しを受けたらすぐに選択の自由を働かせて行動することです。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように教えました。「わたしたちは心を澄ませて待ちます。あの『静かな細い声』に耳を傾けるのです。御霊が語られるとき、賢い人は従います。御霊のささやきに従

### ブラジル、サンパウロ



うのを後回しにはしてはいけません。』<sup>16</sup>

選択の自由を働かせて主の御霊が心に与えてくださる考えや印象に従って行動することを恐れてはいけません。最初は自信が持てないかもしれませんが。しかし、教師として最も楽しく満足できる経験は、主の御心に身をゆだね、聖霊から受ける促しに従うときだということに約束します。経験の積み重ねが信仰を強め、将来行動するときさらに大きな勇気をもたらすのです。

愛する教師の皆さん、皆さんはこの教会の偉大な奇跡の一つです。皆さんには神聖な義務があります。わたしたちは皆さんを愛し、信頼しています。聖文を探究し、聖霊を伴侶にできるような生活をするならば、主は、わたしたちを召しと責任の中で大いなるものとし、主から託された務めを果たせるようにしてください。わたしたち皆がそうできますように、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

### 注

1. デビッド・マッカロー、「Teach Them What You Love.」(2009年5月9日、ユタ州ソルトレーク・シティ、ソルトレークタバナクルにおける説教、2009年5月9日)
2. ジェフリー・R・ホランド「教会で教え、学ぶ」『リアホナ』2007年6月号、72
3. マッカロー、「Teach Them What You Love」参照
4. トーマス・S・モンソン「偉大な教師の模範」『リアホナ』2007年6月号、76
5. 教義と聖約 11: 21
6. ヨハネ 5: 39 参照
7. 2ニーファイ 32: 3 参照
8. ジョセフ・スミス—マタイ 1: 37 参照
9. 教義と聖約 18: 36; 84: 52 参照
10. 教義と聖約 11: 20
11. 教義と聖約 42: 14
12. 『教師、その大いなる召し——福音を教えるための資料集』61
13. 『教師、その大いなる召し』60—62 参照
14. J・ルーベン・クラーク・ジュニア、*The Charted Course of the Church in Education* (1938年8月8日、ユタ州アスペングロップにおけるセミナー・インスティテュート指導者への説教)、6
15. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』132 参照
16. トーマス・S・モンソン「霊は人を生かす」『聖徒の道』1997年6月号、4



十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老

# 奉献された生活 についての熟考

この世の生涯における真の成功は、自分の生涯、つまり時間と選択を神の目的のために奉献することからもたらされます。

**少**年時代に、1964年ニューヨーク万博を訪れました。わたしが大好きだったのは、ソルトレーク神殿の尖塔の印象的なレプリカのある末日聖徒の教会のパビリオンでした。そこで初めて『幸福の探求』(Man's Search for Happiness)という映画を見たのです。リチャード・L・エバンズ長老の語り、救いの計画について描いたその映画に、わたしや多くの訪問者は深く感動しました。その中でエバンズ長老が次のように言います。

「人生には二つの貴重な賜物<sup>たまもの</sup>が与えられています。一つは時間です。もう一つは選択の自由、与えられた時間で望むものを買う自由です。与えられた時間でスリルを買うことも、卑しい望みを買うことも可能です。欲望を買うこともできるでしょう。……

選択の自由はあなたのものです。でも、特価品はありません。そのようなものには永遠の満足などないからです。

あなたの暮らすこの世の時間は、どの瞬間を取っても、その使い方についていつの日か報告が求められます。信仰をもって歩み、悪ではなく善を、単なる娯楽ではなく永続する幸福を選ぶことができることを証明するのは、この世をおいてほかに

ありません。そして、あなたの永遠の報いはあなたがどう選ぶかにかかっているのです。

神の預言者はこう言っています。『人が存在するのは喜びを得るためである。』喜びとは、満ち足りた生活、奉仕にささげた生活、家庭にあって愛と調和にささげた生活であり、正直に努力することや、イエス・キリストの福音の求めと戒めを受け入れることで結ぶ実のことです。

こうしたものの中のみ真の幸福が存在するのであり、そのような幸福は、照明や音楽が消え、群衆が去っても消えることはないのです。』<sup>1</sup>

つまり、この世の生涯は、創造主が下さった時間と選択の自由を管理するためにあるのです。管理をするという言葉は、主の奉献の律法を思い出させます(例として、教義と聖約42:32, 53参照)。それは財政的な側面もありますが、それ以上に、この世の生涯で日の栄えの律法を適用することなのです(教義と聖約105:5参照)。奉献とは、聖なる目的にささげるために、何かを神聖なものとして聖別することです。この世の生涯における真の成功は、自分の生涯、つまり時間と選択を神の目的のために奉献することからもたらされます(ヨハネ17:1, 4; 教義と聖

約19:19参照)。そうするときに、神がわたしたちを最高の高みにまで上げることが可能になるのです。

皆さんとともに、奉献された生活を構成する5つの要素について考えてみましょう。清さ、労働、肉体を尊ぶこと、奉仕、高潔の5つです。

救い主が模範を示されたように、奉献された生活とは清い生活です。イエスは罪のない生涯を送られた唯一の御方ですが、イエスのみもとに来て、そのくびきを負う人々は、主のように罪も汚れもない人物に変えていただくよう主の恵みを求める資格があります。主は深い愛の心でわたしたちを次のように励ましておられます。「地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ27:20)

つまり、奉献とは悔い改めです。強情さ、反抗心、正当化を捨て、代わりに、服従する心、自分を正したいという望み、主の要求をすべて受け入れる心を持つ必要があります。これが、ベニヤミン王の言った、生まれながらの人を捨て、聖なる御霊の勧めに従い、「主なるキリストの贖罪により聖徒」となる(モーサヤ3:19)という意味なのです。そのような人には、聖なる御霊がいつまでもともにおられると約束されており、その約束は、悔い改めた心で主の晩餐の聖餐を取る度に、覚えられ、更新されるのです(教義と聖約20:77, 79参照)。

その過程について、かつてB・H・ロバーツ長老は次のように説明しました。「神の光と知恵と力の中を歩む人は、それらと接することによって、最終的に神の光と知恵と力を自分のものにします。つまり、そうした輝かしい光の束を神聖な鎖に織り込み、自分を神に永遠に結びつけ、また神を自分に結びつけるのです。それがメシヤの言われた『あなたがわたしのうち



におられ、わたしがあなたのうちにいるように』というなぞめいた言葉の意味するところなのです。これは人が到達できる最高のことです。』<sup>2</sup>

奉獻された生活とは、労働の生活です。イエスは、生涯の早い時期から、御父の業に携わられました（ルカ 2: 48 - 49 参照）。神御自身は、人の不死不滅と永遠の命をもたらす業によって栄光をお受けになります（モーセ 1: 39 参照）。わたしたちが神の業に参加したいと願うのは当然のことですが、それと同時に、正直な労働は皆神の業だということを認識する必要があります。トーマス・カーライルはこう述べました。「真の労働は皆神聖である。あらゆる真の労働には、それがほんの手仕事だとしても、何か神聖なものがある。労働のすそ野は大地に広がり、その頂点は天にまで及ぶ。』<sup>3</sup>

神はこの世の生涯を、常に努力しなければならぬように造られました。預言者ジョセフ・スミスの飾らない言葉を思い出します。「わたしたちは……絶え間なく働くことで不自由のない生活をするができた。」（ジョセフ・スミス—歴史 1: 55）労働は、生活を支え、豊かにします。この死すべき世にあって、失意や悲劇を乗り越える力です。懸命に働いて得られる達成感、自尊心になります。労働により人格が築かれ、磨かれ、美が創造されます。労働は同胞や神に奉仕する手段です。奉獻された生活は労働にあふれ、繰り返しも多く、目立つことも感謝されることもないかもしれませんが、そのような労働には

常に、成長、秩序、支えとなること、高めること、仕えること、志を抱くことが伴います。

労働をたたえたところで、娯楽についても前向きな言葉を述べておきましょう。正直な労働の後の休息が快いように、健全な娯楽は労働の友であり、忠実な仲間です。音楽、文学、芸術、ダンス、演劇、運動、これらは皆、人生を豊かにし、人生をさらに奉獻するための娯楽となります。それと同時に、言うまでもなく、今日の娯楽と呼ばれるものの大半は、粗野で、品がなく、暴力的で、退屈で、時間を浪費させるものです。皮肉なことに、健全な娯楽を見つけるために骨が折れることもあるのです。娯楽が美德から悪徳に変わるとき、娯楽は奉獻された生活を破壊するものとなります。「あなたがたは悪いものを神から出たと思わないように、……気をつけなさい。」（モロナイ 7: 14）

奉獻された生活は、神の姿に創造された自分の肉体という比類ない賜物を大切にします。この死すべき世を経験する最大の目的は、それぞれの霊が肉体を受け、その肉の幕屋をまわって道徳的な選択の自由をうまく行使できるようになることにあります。肉体はまた昇栄に不可欠なものです。昇栄は、わたしたちの愛する復活した主がそうであられるように、肉体と霊が完全な形で結合してもたらされるものだからです。この墮落した世界にあっては、痛ましいほど短命の人もあります。肉体の奇形や、欠損、あるいはほとんど命を維持できない肉体もあります。それでも、この世の生涯はどの霊にとっても十分に長

く、どの肉体も復活にふさわしいのです。

肉体は進化が偶然に生み出した結果以外の何物でもないと考える人は、自分の肉体であるいは肉体に何をしようと、神に対してもだれに対しても責任を感じません。しかしながら、前世、現世、来世というも<sup>あかし</sup>と広遠な永遠の流れが存在することに証を持っているわたしたちは、神が最高傑作として創造してくださったこの肉体について、神に対する義務があることを認めなければなりません。パウロの言葉を紹介します。

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

あなたがたは、代価を払って買われただのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」（1 コリント 6: 19 - 20）

これらの真理と、前回の 4 月の総大会のトーマス・S・モンソン大管長の指導を念頭に置けば、わたしたちは、入れ墨で肉体を損なったり、薬物で痛めたり、私通や<sup>かんいん</sup>姦淫などの不道徳な行為で汚したりすることは決してしないでしよう。<sup>4</sup> わたしたちの肉体は自分の霊の器なので、最善を尽くして大切に扱う必要があります。肉体の力を、奉仕をし、キリストの業を進めるために奉獻するのです。パウロはこう言いました。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。」

(ローマ12:1)

イエスは奉獻された生活とは奉仕の生活であることを自らお示しになりました。贖罪の苦しみの数時間前、主は謙遜に弟子たちの足を洗い、こう言われました。

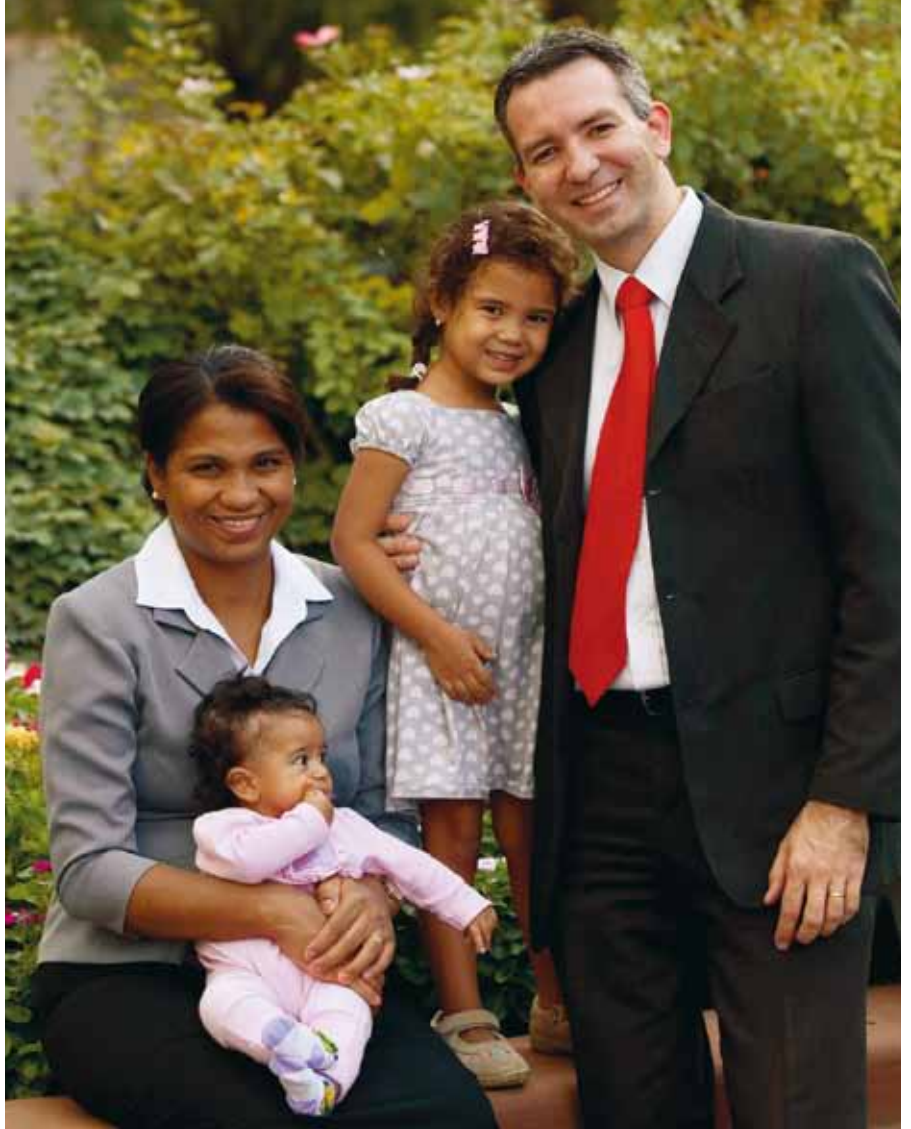
「主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。

よくよくあなたがたに言うておく、<sup>しもべ</sup>はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。」(ヨハネ13:14-16)

静かに思いやり深く善を行う人々は、奉獻の模範です。この時代に、トーマス・S・モンソン大管長ほど、この特性を日々の生活の中で完全に実践している人はいません。大管長は、自分が手を差し伸べられる人が必要としていることを知るために、御霊のどんな小さなささやきも識別できる聞く耳を養ってきました。たいていは神の愛と気遣いを示す簡単な行為によってですが、トーマス・モンソンはいつも、いつもそのささやきにこたえています。

わたしの祖父母であるアレクサンダー・デウット・クリストファーソンとルイズ・ピッカリーの生涯にも奉獻の模範が見られます。祖父は力自慢で、電気バリカンがなかった時代に羊の毛を刈ることを得意としていました。祖父は自分の腕前についてこう言っていました。「1日に287頭を刈ったよ。もしもつといれば300頭以上刈れただろうね。」1919年には1万2,000頭以上を刈り、およそ2,000ドル稼ぎました。それを基に、農場を拡張し、家を改築する予定でした。しかし、南部諸州伝道部で奉仕する召しが中央幹部から伝えられて、祖母ルイズの全面的な支持を受けて、その召しを受け入れました。そして祖父は、わたしの父となる長男を身ごもっていた祖母と3人の娘を残し、羊の毛を



刈って得たお金を残して旅立ちます。2年後、喜び勇んで帰還した祖父はこう言いました。「あの蓄えのおかげで2年間やり通せた。しかも、29ドルも残っていたよ。」

奉獻された生活は高潔な生活です。それは「結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ」<sup>5</sup>夫婦の中に見られます。また、優先順位の第1位を、結婚生活を豊かにし、子供たちの肉体と霊の幸福を確保することに置いている父親と母親の模範に見られます。正直な生活を送る人々に見られるのです。

何年も前に知り合ったある二つの家族は、当時、共同で所有していた会社を解散しようとしていました。代表を務める二人の男性は、友であり、同じキリスト教会に通う信者同士でもあって、何年も前に共同で会社を設立したのです。二人は、仕事上のパートナーとしては良好な関係にあったのですが、年を取り、次の世代が経営に参加するようになると、対立が生じてきました。最終的に、資産を分割して、それ

ぞれの道を進むのが最善だという結論になりました。ところが、片方の創業者と弁護士が策を練りました。解散に当たり、相手方とその息子たちを出し抜いて、かなりの資産を有利に確保したのです。双方が集まった会合で、息子の一人がこの不公平な扱いに不満を述べ、相手方の名誉とクリスチャンの信条に訴えてこう言いました。「これが正しいやり方でないことは御存じでしょう。どうしてこんなふうに人を、ましてや同じ教会の兄弟を、だませるのですか。」相手方の弁護士はこう言い返しました。「大人になってくださいよ。いつまで世間知らずなことを言っているのですか。」

高潔さは世間知らずではありません。世間知らずとは、人は神に対する責任はないと考えることです。救い主はこう宣言されました。「父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。……わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられて

わたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。」(3 ニーファイ 27:14) 奉獻された生活を送る人は、人をだましません。むしろ、もう片方の頬を出し、下着を求め人には上着をも差し出すのです(マタイ 5:39-40 参照)。救い主から最も厳しく叱責されたのは偽善者です。偽善はひどく破壊的で、自分自身はおろか、その行いを見たり聞いたりする人、特に子供たちを滅ぼします。偽善は信仰を破壊します。反対に信仰の種が育つ豊かな土壌は称賛に値します。

奉獻された生活は美しいものです。その強さと静かさとは、まるで「良い土地で清らかな流れのほとりに植えられた、多くの貴い実を結ぶ実り豊かな木」です(教義と聖約 97:9)。奉獻された男女がほかの人、特に身近な親しい人に与える影響は、実に奥深いものです。すでに世を去った多くの人、周囲にいる人々の奉獻の模範が、わたしたちの幸福の土台を築く助けになってきました。同じように、将来の世代も、皆さんの奉獻された生活から勇気を得、皆さんが残した真に重要なものすべてに恩義を感じるでしょう。わたしたちが神の息子娘として、自らを奉獻できますように、また「御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように」(モロナイ 7:48。1 ヨハネ 3:2 も参照) イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。■

#### 注

1. *Man's Search for Happiness* (パンフレット, 1969年), 4-5
2. B・H・ロバーツ, "Brigham Young: A Character Sketch," *Improvement Era*, 1903年6月号, 574
3. トーマス・カーライル, *Past and Present* (1843年), 251
4. トーマス・S・モンソン「備えは祝福をもたらす」『リアホナ』2010年5月号, 64-67 参照
5. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長

## 最も大切な 事柄について

日々の生活と慌ただしいペースと多くのストレスのために喜びを感じられなくなっているなら、恐らく今こそ、最も大切なことに再び焦点を当て直す時期なのです。

自然を研究することで、人生について驚くほど多くを学ぶことができます。例えば、科学者は木の年輪を見て、何百年前あるいは何千年も前の気候や生育環境について科学的根拠に基づいた推測をすることができます。木の生長に関する研究から学べるものの一つは、木は理想的な状況下では通常の速さで生長するけれども、生長環境が理想的でない場合は生長を遅らせ、そのエネルギーを生き残るのに必要な基本的要素に注ぐということです。

皆さんの中には今、「それはよく分かったけれども、それと飛行機の操縦とはどのような関係があるのか」と考えている人もいることでしょう。では、説明しましょう。

皆さんは飛行機に乗っているとき乱気流に遭遇したことがありますか。乱気流の最も一般的な原因は空気の流れの急激な変化です。それによって飛行機は上下や左右に揺れたり、回転したりします。飛行機は、通常のフライトで遭遇するよりはるかに大きな乱気流にも耐えられるように作られています、それでも乗客は不安になります。

乱気流に遭遇したとき、パイロットは何

をしたいと思いますか。パイロット訓練生は、より速く乱気流を切り抜けるには、スピードを上げればよいと考えるかもしれませんが、それは恐らく間違っています。プロのパイロットは、乱気流を切り抜ける際、その影響を最小限に抑えるのに最適なスピードがあることを知っています。それはほとんどの場合、スピードを落とすことを意味するのです。同じ原則が、道路の減速帯にも当てはまります。

ですから、状況が思わしくない場合には、少しペースを落とし、進路を安定させ、必要不可欠なことに集中するのが得策と言えるでしょう。

#### 現代生活のペース

これは単純ですが非常に大切な教訓です。木や乱気流にたとえるときと当然だと思えるのに、この原則を日々の生活に当てはめた場合、わたしたちは驚くほどいつも簡単にこの教訓を無視してしまいます。ストレスが高まり、苦悩し、悲劇に見舞われても、あまりに多くの場合、わたしたちはそれまでどおりの慌ただしい生活を続けようとします。あるいは、もっと速く進めば暮らし向きはもっと良くなるはずだと考



えて、さらにペースを上げようとさえするのです。

乱気流や障害にもかかわらず、ますます速いペースで進んでいることが、現代社会の特徴の一つであるようです。

正直に言って、忙しくするのはむしろ簡単です。わたしたちは皆、スケジュール表に書き切れないほどの仕事を思いつきます。また、自分の価値はなすべきことの多さで決まると考えている人さえいます。そういう人は空き時間に集会や小さな仕事を詰め込みます。ストレスや疲れを感じているときでさえもそうするのです。不必要に生活を煩雑にするので、ますます欲求不満が募り、喜びは消えうせ、生活に意義を見いだせなくなってしまいます。

どんな良いことでも「過ぎたるは及ばざるがごとし」と言いますが、毎日の生活になすべきことを詰め込みすぎるのは、まさにこの典型です。一線を越えれば、目標は重荷になり、大志は足かせとなるのです。

## 解決策

賢明な人は、木の年輪や乱気流の教訓を理解し、応用します。彼らは日々の慌ただしさに身を任せるといった誘惑を退けます。そして「スピードを上げることはばかりが人生のすべてではない」<sup>1</sup>というアドバイスに従います。つまり、彼らは最も大切なことに焦点を当てるのです。

少し前の総大会で、ダリン・H・オークス長老はこう教えました。「わたしたちは、より良いものや最も良いその他のものを選ぶために、良いことをあきらめる必要があります。なぜなら、より良いものや最も良いものは、主イエス・キリストへの信仰をはぐくみ、家族を強めるからです。」<sup>2</sup>

最も良いものを求めれば、必ずイエス・

キリストの福音の基本原則に行き着きます。それは、思いやりに満ち、すべてを御存じである永遠の天の御父によって示された簡潔で美しい真理です。これらの基本的な教義と原則は子供でも分かるほど簡単ですが、人生の最も難しい質問にも答えてくれます。

わたしたちは、難しい解決策を求めあまり、簡単で明快であることのすばらしさを理解しない場合があります。

例えば、宇宙飛行士が地球の周りを回るようになって、宇宙ではボールペンが使えないことが分かりました。そこで、非常に優秀な人たちがその問題に取り組み始めました。多くの時間とお金をかけて、ついに、どんな場所でも、どんな温度でも、どんなものの表面にも書くことができるペンが開発されました。しかし、その問題が解決するまでの間、宇宙飛行士たちはどうしていたのでしょうか。単に、鉛筆を使っていたのです。

レオナルド・ダ・ビンチは次の言葉を残しています。「簡潔さこそ、洗練された究極の形である。」<sup>3</sup> 幸福の計画、救いの計画の基本原則を見てみると、その明白さと簡潔さの中に、天の御父の知恵の気品と美しさが表されていることに気づき、その価値を味わうことができます。ですから、わたしたちの方法を主の方法に変えることこそ、知恵の始まりなのです。

## 基本の力

伝説のフットボールコーチ、ピンス・ロンバルディはトレーニングの初日に必ずあることを行ったと言います。彼はフットボールを掲げ、長年プレーしている選手たちに見せてこう言うのです。「諸君、これはフットボールだ。」そしてそのサイズや形、けり

方や抱え方、またパスの仕方を説明します。それからチーム全員をフィールドに連れて行き、「これがフットボールのフィールドだ」と言って、選手たちを連れて歩きながら、その大きさや形、ルールやゲームの進め方を説明するのです。<sup>4</sup>

このコーチは、たとえ経験を積んだ選手たちであっても、基本をマスターして初めて偉大なチームになれることを知っていたのです。複雑なトリックプレーを練習することもできたでしょう。しかし、試合の基礎をマスターしないかぎり、優勝チームにはなれないのです。

ほとんどの人が、基本の大切さを直感的に理解していると思います。ただ、もっと魅力的に思えることがあまりに多くあり、気をそらされてしまうのです。

印刷物、あらゆるメディア、電子機器など、ふさわしく使えば便利なものばかりですが、ともすれば、わたしたちの気をそらす妨害物や、人と人とを隔てる冷酷な壁となってしまうかねません。

しかし、多くの声や選びの中であって、ガリラヤの謙遜な御方は両手を広げて立ち、待っておられます。「わたしに従ってきなさい」<sup>5</sup>という簡潔なメッセージを、大音量のマイクを使うことなく、静かな細い声で語っておられます。<sup>6</sup> しかし、その基本的な福音のメッセージは、四方から押し寄せる情報の洪水に、いとも簡単に流されてしまいます。

聖典と生ける預言者の語る言葉は、福音の基本的な原則と教義を強調しています。わたしたちがこれらの基本的な原則や純粋な教義に立ち返らなければならない理由は、それらが意義深い真理に通じる扉だからです。そこから入らなければ、わたしたちには到底理解することができない、崇高で重要な経験に通じる扉です。これらの簡潔で基本的な原則は、神と人々と調和した生活を送るための鍵であり、また天の窓を開くための鍵でもあります。それを開けることによって、天の御父が御自分に聞き従う子供たちに約束された平

安や喜び、理解へと導かれるのです。

兄弟姉妹の皆さん、もう少しペースを落とし、それぞれの状況に最適なスピードで進みましょう。重要なことに焦点を合わせ、目を上げて最も大切なことを真に見詰めましょう。天の御父がその子供たちに与えられた基本的な教えを心に留めましょう。それは、この世では豊かで実り多い生活の基盤を築き、さらには約束された永遠の幸福をもたらすのです。わたしたちはこう教えられています。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。〔わたしたち〕が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、〔わたしたちが〕賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。」<sup>7</sup>

兄弟姉妹の皆さん、最も大切なことに熱心に携わることで、わたしたちは世の救い主のみもとに導かれます。だからこそわたしたちは、キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを知ろうとするのです。<sup>8</sup> 複雑で、混乱した現代生活の慌ただしさの中であって、これこそ「最も優れた道」<sup>9</sup> なのです。

### では、基本とは何でしょうか

最も大切な事柄について、わたしたちが天の御父に頼り、主の知恵を求めるとき、次の4つの鍵となる関係について繰り返し学びます。神との関係、家族との関係、周囲の人々との関係、そして自分自身との関係です。自分自身の生活を進んで評価するとき、より優れた道からどの点で離れてしまっているかが分かるでしょう。理解の目が開かれ、心を清めて、生活の焦点を調節し直すために何が必要かに気づくでしょう。

まず、神との関係は最も神聖で重要です。わたしたちは神の霊の子供であり、神はわたしたちの御父です。神はわたしたち

の幸福を願っておられます。わたしたちが神を求め、御子イエス・キリストについて学び、聖霊の影響力に対して心を開くなら、わたしたちの生活はより堅固になり、安定します。神の永遠の計画に従って生活し、主の戒めを守るために最善を尽くすなら、より大きな平安と喜びを感じ、より偉大なことを達成できるでしょう。

わたしたちは次のような方法で、天の御父との関係を改善することができます。神について学び、神と話し、罪を悔い改め、積極的にイエス・キリストに従うことです。「だれも〔キリスト〕によらないでは、父のみもとに行くことはできない」からです。<sup>10</sup> 神との関係を強めるには、神と自分だけの意義深い時間を持つ必要があります。日々の個人の祈りや聖文研究に静かに集中し、常に神殿推薦状を持つのにふさわしくあろうと努力します。天の御父に近づくために、このように時間と努力

をささげることは賢明な投資です。詩篇に記されている勧めに聞き従いましょう。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」<sup>11</sup>

第2の鍵は家族との関係です。「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」<sup>12</sup> ので、家族を優先順位の高い位置に置かなければなりません。夕食を囲んだり、家庭の夕べをしたり、ただ一緒に楽しい時間を過ごしたりするなど、簡単なことを一緒に行うことで、愛にあふれた、深い家族関係を築くことができます。家族関係において、愛するとは、時間をともに過ごすことです。互いのために時間を取ることは、家庭での一致を図るための鍵です。家族について話すのではなく、家族と話すのです。共通点だけでなく相違点も認め合い、違いからも互いに学び合うことができます。家族の祈りや聖文研究、日曜日の礼拝を通してともに神に近



づくとき、家族は互いに対する神聖なきずなを築くことができるのです。

第3の鍵は、周囲の人々との関係です。人々の必要に敏感になり、仕え、時間や才能をささげることによって、個人的な関係を一人ずつ築いていきます。ある姉妹が高齢と病気で大変であるにもかかわらず、多くはできないけれど、人の話を聞くことができると決心したとき、わたしは深い感銘を受けました。彼女は毎週、困っている人や、落胆している人を探してともに時間を過ごし、話を聞きました。彼女は、実に多くの人の人生に祝福をもたらしました。

第4の鍵は自分自身との関係です。自分自身との関係を築くと言うと、奇妙に思えるかもしれませんが、実際築いているのです。中には、自分とうまくつきあえない人もいます。一日中自分を非難し、けなし、しまいには自分を嫌いになってしまうのです。急ぐのをやめ、ほんの少し時間を取って、自分自身をもっとよく知みましょう。自然の中を散策したり、日の出を眺めたり、神の創造物を満喫したり、回復された福音の真理について思い巡らしたりしながら、それらが自分にとってどのような意味があるかを見いだしてください。皆さんも天の御父と同じ目で自分自身を、神聖な可能性を持った、貴い神の息子や娘として見ることができますように。

### 純粋な福音を喜ぶ

兄弟姉妹の皆さん、賢くありましょう。回復されたイエス・キリストの福音という泉から純粋な教義の水を飲みましょう。喜びをもって簡潔な真理を味わいましょう。天は再び開かれたのです。イエス・キリストの福音が再び地上にもたらされ、その簡潔な真理にはあふれるほどの喜びがあるのです！

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちには喜ぶべき大きな理由があります。日々の生活と慌ただしいペースと多くのストレスのために喜びを感じられなくなっているなら、今こそ、最も大切なことに再び焦点を



アイルランド、ダブリン

当てる時期です。

強さは、慌ただしい生活からではなく、真理と光の堅固な土台に基を据えることでもたらされます。強さは、回復されたイエス・キリストの福音の基礎を築くことに関心を向け、努力を傾けることからもたらされます。強さは、最も大切で神聖な事柄に注意を向けることからもたらされるのです。

もう少し生活を簡素化しましょう。生活を見直し、変えるべきことを変えて、キリストの弟子として簡単なことを謙虚に行うという崇高で美しい道に立ち返りましょう。その道は常に、意義深い、喜びと平安に満ちた生活に続いているのです。そのためわたしは祈り、皆さんに祝福を残します。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■

### 注

1. マハトマ・ガンジーの言葉、ラリー・チャン、*Wisdom for the Soul* (2006年)、356で引用
2. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号、107
3. レオナルド・ダ・ビンチの言葉、ジョン・クック編、*The Book of Positive Quotations*、第2版(1993年)、262
4. ビンス・ロンバルディの言葉、ドナルド・T・フイリップス、*Run to Win: Vince Lombardi on Coaching and Leadership* (2001年)、92
5. ルカ 18:22
6. 列王上 19:12 参照
7. モーサヤ 4:27
8. 2 ニューファイ 25:26
9. 1 コリント 12:31; エテル 12:11
10. ヨハネ 14:6
11. 詩篇 46:10
12. J・E・マカロー、*Home: The Savior of Civilization* (1924年)、42; Conference Report, 1935年4月、115も参照





大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長による提示

## 教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、その意を表して

ください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・ア

ンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、スペンサー・J・コンディー、ブルース・C・ハーフェン、ケネス・ジョンソン、グレン・L・ペイス、ランス・B・ウィックマンの各長老を七十人第一定員会の会員から解任し、名誉中央幹部に指名するよう提議します。

また、スペンサー・V・ジョーンズ、ウォルフガング・H・ポールの各長老を七十人第二定員会の会員から解任するよう提議します。

兄弟たちのすばらしい奉仕に、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

また、フェルナンド・マルエンダ、ホセ・L・トーレスの各長老を地域七十人から解任するよう提議します。

彼らのすばらしい奉仕に、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちはウェンセスラオ・H・スベクを地域七十人として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。■





十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ長老

# 選択の自由—— 命の計画になくては ならないもの

わたしたちはキリストのみもとに来て、キリストの御名を受け、キリストの僕に従うことを選ぶかぎり、永遠の命への道を歩むのです。

**最** 近、50年来の友人から1通の手紙を受け取りました。彼は教会員ではなく、以前に送った、福音に関する資料について感想を書きました。「最初は、『選択の自由』など、モルモン特有の専門用語が理解し難かったです。簡単な専門用語のページがあると助かるでしょう。」

「選択の自由」を意味する“agency”という単語が理解できないことに驚きました。インターネット上の辞書で調べてみると、10に上る定義と用法がありました。 「選択する」という意味はありませんでした。教会では、選択の自由は、神から授けられた、選ぶ能力と特権であり、人は「思いのままに行動することができ、強いられることはない」<sup>1</sup>と教えています。選択の自由とは、自分の行動に責任をもって物事を行うことで、救いの計画に不可欠です。選択の自由のおかげで、人は「すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由」<sup>2</sup>なのです。

よく知られている賛美歌の歌詞が、この原則をはっきりと教えています。

人は皆、自由であり  
己の生活と行く末を選び取る  
この永遠の真理があるゆえに  
神はいかなる人にも救いを強いられない<sup>3</sup>

友人の質問とすべての善良な男女の疑問に答えるために、「選択の自由」の意味についてわたしたちが知っていることをもっと詳しく紹介しましょう。

わたしたちがこの地上に来る前、天の御父は御自身の救いの計画を示されました。すなわち、地上に来て肉体を受け、善と悪を選んで行い、御父のようになって、御父とともに永遠に住むという計画です。

選択の自由、つまり自分で選び行動する能力は、この計画になくてはならない要素でした。選択の自由がなければ正しい選択をして進歩することはできません。しかし、選択の自由を使って選択を誤り、罪を犯して、天の御父のみもとへ戻る機会を失ってしまうこともあり得ます。このた

め、悔い改める人の罪を負い、贖<sup>あがな</sup>ってくださる救い主が備えられることになりました。救い主は無限の贖罪<sup>しよくざい</sup>によって「憐れみの計画を成し遂げ……正義の要求を満た」<sup>4</sup>されるのです。

天の御父が計画を示されると、ルシフェルは進み出て言いました。「わたしをお遣わしてください。……わたしは全人類を贖って、一人も失われないようにしましょう。……ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」<sup>5</sup> 御父はその計画を退けられました。選択の自由を否定するものだったからです。確かに、それは反抗の計画だったのです。

次に、天の御父が「初めから……愛し選んだ[息子]」であるイエス・キリストは、御自分の選択の自由<sup>みこころ</sup>を使って言われました。「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」<sup>6</sup> こうしてイエスはわたしたちの救い主、世の救い主となられたのです。

ルシフェルが反抗したため、天で大きな争いが起こりました。天の御父の子供たちはそれぞれ、天の御父から授かった選択の自由を行使する機会を得ました。わたしたちは救い主イエス・キリストを信じる道を選びました。主のみもとに来て、主に従い、天の御父がわたしたちのために示された計画を受け入れることにしたのです。しかし天の御父の子供の3分の1は救い主に従う信仰がなく、ルシフェル、すなわちサタンに従うことを選びました。<sup>7</sup>

神はこう言われました。「あのサタンはわたしに背いて、主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、……わたしは……彼を投げ落とさせた」<sup>8</sup>と言われました。サタンに従った者たちは、死すべき肉体を得ることや、地上での生活、そして進歩する機会を失いました。選択の自由を行使した結果として、選択の自由を失ったのです。

現在、サタンとサタンに従う者たちが持っている力は、人を誘惑し、試す力だけです。彼らの唯一の喜びは、わたしたちを



「[[彼ら]のように惨めに」<sup>9</sup> することであり、唯一の楽しみは、わたしたちを主の戒めに不従順にすることです。

しかし、よく考えてください。わたしたちは前世で救い主イエス・キリストに従うことを選びました。そのため、地上に来ることを許されました。この地上にいる今も同じように救い主に従うことを選ぶなら、さらに大いなる祝福を永遠に受けることをわたしは証します。しかし忘れないでください。救い主に従うことを引き続き選ばなければならないのです。これは永遠にかかわる問題であり、選択の自由を賢明に使うことは永遠の命を得るために不可欠なのです。

救い主は生涯を通じて、選択の自由をどのように使うべきかを示されました。エルサレムでの少年時代に、イエスは自ら選択して御父の業に携わられました。<sup>10</sup> 人々を教え導くとき、従順に「父の御心を行う」<sup>11</sup> ことを選び、ゲツセマネではあらゆる苦しみを受けることを選んで、言われました。「『わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけ」<sup>12</sup> ました。十字架上で主は敵を愛することを選んで祈られました。「父よ、彼らをお

ゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」<sup>13</sup> そしてついに、御自身の選びであることを証明するために、主は孤立無援の状態になって、「[[父よ] どうしてわたしをお見捨てになったのですか」<sup>14</sup> とお尋ねになりました。主は最後まで選択の自由を行使し、そして言われました。「すべてが終わった。」<sup>15</sup>

主は「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ」<sup>16</sup> すべての選びと行いにおいて選択の自由を行使して救い主となり、人のために罪と死の鎖を断ち切ってくださいました。また完全な生活を送ることによって、天の御父の御心を行うならば選択の自由が守られ、機会が広がり、成長できることを教えてくださいました。

この真理は聖文の至る所で見られます。ヨブは持てるものをすべて失いながらも忠実であることを選んだので、神の永遠の祝福を得ました。マリヤとヨセフが天使の警告に従ってエジプトに逃れる選択をしたので、救い主の命が守られました。ジョセフ・スミスがモロナイの指示に従うことを選んだので、預言された回復の業が始まりました。わたしたちはキリストのみもとに来て、キリストの御名を受け、キ

リストの僕に従うことを選ぶかぎり、永遠の命への道を歩むのです。

この世の旅路では、この逆もまた真理であることを知っておくとよいでしょう。つまり、戒めを守らず、聖霊のささやきに従わないでいると、機会は狭められ、活動して成長する力がそがれるのです。カインは神よりもサタンを愛したので弟の命を奪いましたが、その時点でカインの霊的な成長は止まってしまいました。

わたしは少年時代に、自分の選択の結果、自分の自由が奪われるという大切な教訓を得ました。ある日、板張りの床にニス塗るよう父から言いつけられました。わたしはドアの所から始めて、室内に**向**かってニス塗ることにしました。間もなく仕事が終わろうというとき、部屋から出られなくなっていることに気づきました。奥には窓もドアもありませんでした。部屋の隅に追い込まれ、行き場がありません。身動きが取れなくなったのです。

不従順になると、必ず霊的に片隅に追い込まれ、自分の選択に縛られます。霊的に行き詰まっても、戻る方法は常にあります。悔い改めと同じで、方向転換して塗ったばかりの床の上を元へ戻るのは努力を要します。ニスを塗り直すのは大仕

事だからです。主のみもとへ戻るのは簡単ではありませんが、努力する価値があります。

悔い改めが容易でないことが分かると、正しい選択へと導いてくださる聖霊の祝福に感謝し、戒めを与えてそれを守れるよう力づけ、支えてくださる天の御父に感謝する気持ちがわいてきます。また、戒めに従うことによって、結局は選択の自由が守られることが理解できるようになります。

例えば、知恵の言葉に聞き従うならば、思いどおりに行動する能力を文字どおり奪ってしまう病気や薬物依存に陥ることはありません。

負債を避け、今すぐ負債から抜け出さないという勧告に従うならば、選択の自由を行使し、自分の収入を使って人を助け、祝福する自由が手に入ります。

預言者の勧告に従って家庭の夕べを開き、家族の祈りをささげ、家族の聖文研究



を行うならば、わたしたちの家庭は子供が霊的に成長する場所になります。そこは子供に福音を教え、証を述べ、愛を表す場所となり、子供の気持ちや経験に耳を傾ける場所になります。わたしたちの義にかなった選択と行動により、子供は光の中を歩む力を増し加えて、暗闇から解放されるのです。

世の中には選択の自由について偽りの教えがたくさんあります。多くの人はこう考えます。「飲み食いし、楽しみなさい。……たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。」<sup>17</sup> 世俗主義を信奉し、神を否定する人もいて、「すべての事物には反対のものが」<sup>18</sup> あると考えず、「人がすることはどんなことも決して罪にならない」<sup>19</sup> と信じています。これは、「神の知恵とその永遠の目的……を滅ぼ[す]」<sup>20</sup> ものです。

世の中の教えとは逆に、聖文の教えによれば、人には選択の自由が与えられていて、それを義にかなって行使すれば、様々な機会が広がり、選択の自由に基づいて行動し、永遠に進歩する能力が増し加えられるのです。

例えば、主は預言者サムエルを通して、サウル王に明確な命令をお与えになりました。

「主は、わたしをつかわし、あなたに油をそそいで、その民イスラエルの王とされました。それゆえ、今、主の言葉を聞きなさい。……

『今、行ってアマレクを撃ち、そのすべての持ち物を滅ぼしつくせ。』」<sup>21</sup>

しかし、サウルは主の命令に従いませんでした。彼の行為は「選り好みの従順」と言えます。サウルは自分の知恵に頼って、アガグ王の命を許し、羊と牛とその他の動物の最も良いものを持ち帰りました。

主はこのことを預言者サムエルに告げて、サウルを王座から降ろすために再びサムエルを遣わされました。預言者が到着

すると、サウルは「わたしは主の言葉を実行しました」<sup>22</sup> と言いました。しかし、そうではないことを知っていた預言者は言いました。「それならば、わたしの耳にはいる、この羊の声と、わたしの聞く牛の声は、いったい、なんですか。」<sup>23</sup>

サウルは他人のせいにして言い逃れるために、主に犠牲としてささげるために民が動物を残したと言いました。預言者は明確にこう答えました。「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、[主の戒めを]聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」<sup>24</sup>

ついにサウルは告白して言いました。「わたしは主の命令とあなたの言葉にそむいて罪を犯しました。民を恐れて、その声に聞き従ったからです。」<sup>25</sup> サウルは厳密に従うのではなく、「選り好みの従順」を選んだため、王座を保つ機会、王でいることを選択する自由を失ったのです。

兄弟姉妹、わたしたちは主と主の預言者の声に厳密に聞き従っているでしょうか。それとも、サウルのように、人の声を恐れて、「選り好みの従順」を実行しているでしょうか。

確かに、だれでも過ちを犯します。聖文にあるように「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」<sup>26</sup> います。過去の間違った選択に縛られて暗い片隅で動けなくなり、選択の自由を正しく使っていれば得られたはずの祝福をすべて失っている人に申します。皆さんを愛しています。戻って来てください。隅の隅から光の中へ出て来てください。ニスを塗ったばかりの床を歩かなければならないとしても、それだけの価値があります。「キリストの贖罪により、[あなたとわたしを含む] 全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」ことを信じてください。<sup>27</sup>

贖罪を成し遂げる時が訪れたとき、救い主は偉大な執り成しの祈りをささげて、わたしたち一人一人について、こう言われ

ました。「父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。……わたしに賜った栄光を、彼らに見させて下さい。」<sup>28</sup>「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがかわされたイエス・キリストとを知ることです。」<sup>29</sup>

御二方が生きておられることを特別に証します。選択の自由を正しく行使するならば、わたしたちは御二方を知り、御二方のようになり、「すべてのひざがかがみ、すべての舌が〔イエスが救い主であられることを〕告白」する日に備えることができるでしょう。<sup>30</sup> 初めに御子と永遠の御父に従ったように、引き続きこの御二方に従えるよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

#### 注

1. 2ニーファイ 2:26
2. 2ニーファイ 2:27
3. "Know This, That Every Soul Is Free" 『賛美歌』(英文) 240番
4. アルマ 42:15
5. モーセ 4:1
6. モーセ 4:2
7. 教義と聖約 29:36 参照
8. モーセ 4:3
9. 2ニーファイ 2:27。2ニーファイ 9:9も参照
10. ルカ 2:49
11. 3ニーファイ 27:13
12. ルカ 22:42-43
13. ルカ 23:34
14. マタイ 27:46; マルコ 15:34
15. ヨハネ 19:30
16. ヘブル 4:15
17. 2ニーファイ 28:8
18. 2ニーファイ 2:11
19. アルマ 30:17
20. 2ニーファイ 2:12
21. サムエル上 15:1, 3
22. サムエル上 15:13
23. サムエル上 15:14
24. サムエル上 15:22
25. サムエル上 15:24
26. ローマ 3:23
27. 信仰箇条 1:3
28. ヨハネ 17:24
29. ヨハネ 17:3
30. モーサヤ 27:31



十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老

## 光あれ

不義が増す世の中であって、宗教上の信念に基づく価値観について公に話すことは非常に重要です。

わたしは先月誕生日を祝い、プレゼントとして、妻のメアリーからCDをもらいました。ベラ・リンという有名なイギリスの歌手の、希望と信仰に満ちた歌が収録されたものです。ベラは第二次世界大戦の暗い日々であって聴く人を元気づけました。

妻がこの贈り物をしたかった理由があります。1940年9月のロンドン空襲はわたしが生まれる前日に始まりました。<sup>1</sup> 母は病室のラジオでロンドン大空襲のニュースを聞き、そのラジオのアナウンサーの名前にちなんでわたしをクエンティンと名付けることにしたのです。

歌手のベラ・リンは現在93歳です。昨年、戦時中の彼女の歌が数曲、再び売り出され、瞬間にイギリスの音楽チャートで1位になりました。少し年配の皆さんは「ドーバーの白い崖」("The White Cliffs of Dover")などの歌を覚えているでしょう。

わたしは「世界中に再び明かりがともるとき」("When the Lights Go on Again All over the World")という歌に深く感動しました。その歌を聴いて二つのことが心に浮かびました。一つは、イギリスの政治家の次のような預言的な言葉です。「ヨーロッパ中の明かりが消える。我々の時代に二度と再び明かりがともることはない。」<sup>2</sup> もう一つは、ロンドンのようなイギリスの都市を襲った空襲です。爆弾を

落とす飛行機が目標を見つけにくくするために灯火管制が敷かれました。人々は明かりを消し、窓のカーテンを引きました。

その歌は自由と光が戻るという明るい希望の歌です。今なお続く善と悪の戦いにおける救い主の役割と「キリストの光」<sup>3</sup>について理解しているわたしたちにとって、世界大戦と現代の道徳的戦いの類似は明らかです。すべての人類が「善悪をわかまえることができる」<sup>4</sup>のはキリストの光によるのです。

自由と光は得るのも維持するのも決して容易ではありません。天上の戦い以来、悪の軍勢はあらゆる手段を講じて選択の自由を損ない、光を消そうとしてきました。道徳の原則と信教の自由に対する攻撃はとりわけ激しくなっています。

末日聖徒としてわたしたちは、光を保ち、道徳と信教の自由に対するこの攻撃から家族と社会を守るために最善を尽くす必要があります。

### 家族を守る

あらゆる方向から来るように思われる悪の軍勢の猛攻撃に家族は常にさらされています。わたしたちは何よりも光と真理を求めることに努めなければなりません。が、霊的な成長を損なう悪の攻撃から家庭を守るために知恵を働かせる必要があります。特に、ポルノグラフィは道徳の大量破壊兵器です。その影響力は最前



線に立って道徳的な価値観をむしろ壊しています。テレビ番組やインターネットサイトにも同様に破壊的なものがあります。こうした悪の力は世界から光と希望を取り去ってしまいます。墮落に拍車をかけています。<sup>5</sup> もしわたしたちが家庭や生活から悪を閉め出さなければ、当然、激しい道徳の退廃により、義にかなった生活の報いである平安は打ち砕かれることでしょう。わたしたちの責任は、世にあって世のものとならないことです。

さらにわたしたちは、家庭において、教会の教えに一段と忠実になる必要があります。家族で行う毎週の家庭の夕べ、毎

日の祈りと聖文の研究は悪と戦うために不可欠な要素です。また、徳高い、好ましい、あるいは誉れあり称賛に値するような内容のメディアを家庭に取り入れるように絶えず努力する必要があります。<sup>6</sup> もしわたしたちが家庭を、悪を避ける聖なる場所にするならば、聖文が預言してきた厳しい結果から守られるでしょう。

### 社会を守る

家族を守るだけでなく、社会を守るためにも、わたしたちは光の源になるべきです。救い主はこう言われました。「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、

人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」<sup>7</sup>

現代は「物が豊富な時代であるとともに疑いの時代でもある」<sup>8</sup>とされています。神の力と権能を信じる基本的な信仰は、単に疑問視されているだけでなく中傷されてさえいます。こうした状況の下で、信仰を持たない人や無関心な人の共感を得、暴力と悪への坂道を転げ落ちるのを食い止めながら、価値観を向上させるにはどうしたらよいでしょうか。

これはとてつもなく重要な問題です。預言者モルモンが次のように叫んだときの苦悶<sup>くもん</sup>について考えてください。「あなたがたは両腕を広げて立ってあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。」<sup>9</sup> モルモンの苦悶はもっともなことです。息子のモロナイは一人残って「〔彼の〕民の滅亡の悲話」<sup>10</sup>を書き記すことになりました。

わたしは世界各地に住み、多くの人と触れ合った経験から、楽観的になりました。光と真理は現代においても保たれると信じています。神を礼拝し、自分の行いについて神に責任を負うと考えている人がどの国にもたくさんいます。世界中で実際に宗教心が復興しているという見解を述べる人々もいます。<sup>11</sup> 教会の指導者としてわたしたちは、ほかの宗教の指導者とお会いするうちに、神学上の相違を超え、より良い社会を求めて一致しようという共通の道徳的基盤があることに気づきました。

また、大多数の人はまだ基本的な道徳観を大切にしています。しかし、誤解してはいけません。断固として信仰を打ち砕き、社会におけるいかなる宗教的な影響も拒もうとしている人々もいます。そのほかにも、麻薬やポルノグラフィ、性的搾取、人身売買、窃盗、不正直な商売などにより、社会を食い物にし、不正に操作し、引き裂こうとする邪悪な人々がいます。こうした人々は比較的少数とはいえ、その力

と影響は非常に大きいのです。

信仰を持つ人々と、宗教や神を市民生活から追い出そうとする人々の間には、常に戦いがありました。<sup>12</sup> 今日も世論の担い手の多くは、ユダヤ教やキリスト教の価値観に基づいた道徳上の見解を拒否しています。客観的な道徳上の秩序などないという見解に立ち、<sup>13</sup> 道徳的な目標にはいずれにも優先権を与えるべきではないと信じています。<sup>14</sup>

しかしながら、大多数の人々は善と高潔さを求めています。聖霊とは異なる「キリストの光」が人々の良心に語りかけます。聖文から「キリストの光」は、「世に来るすべての人に光を与え〔る御霊〕」<sup>15</sup>であることが分かります。この光は「全世界のために」<sup>16</sup>与えられます。ボイド・K・パッカー会長は、これは「霊感をもたらす……源であり、全人類が一人一人持っているものです」<sup>17</sup>と教えています。このようなわけで、自らは支持していない宗教的信念に基づくものであったとしても、多くの人が道徳に基づく価値観を受け入れるのです。モルモン書のモーサヤ書にはこう記されています。「民の声が正しいことに反する事柄を望むのはまれであるが、民の少数が正しくないことを求めるのは度々あることである。」そしてモーサヤはこう警告しています。「もしも民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、それは神の裁きあなたがたに下る時であ〔る〕」<sup>18</sup>

不義が増す世の中であって、宗教上の信念に基づく価値観について公に話すことは非常に重要です。宗教上の道義心に基づく道徳的見解は、ほかの見解と同様、公の場で論議されなくてはなりません。大抵の国の憲法の下では、宗教上の道義心は優先権を与えられるものではありませんが、無視されるべきものでもありません。<sup>19</sup>

宗教を信じる信仰は、光と知識と知恵の源です。そして信仰を持つ人々が神に責任を負うと感じるゆえに道徳的な行いをするとき、非常にすばらしい方法で社会

に利益をもたらします。<sup>20</sup>

この点を説明する二つの宗教上の原則について述べましょう。

### 神に責任を負うことによって動機づけられる正直な行動

信仰箇条第13条はこう始まっています。「わたしたちは、正直……であるべきことを信じる。」正直は宗教上の信念に基づく原則であり、神の基本的な律法の一つです。

何年前か、カリフォルニアで法律事務所を開業していたとき、教会員ではない依頼人の友人がやって来ました。そして、近所のワードのビショップから受け取った手紙を熱意を込めて見せてくれました。ビショップは自分のワードのある教会員について書いていました。その会員は、わたしの依頼人が以前雇っていた人で、仕事場から資料を持ち去り、余り物だと正当化していたそうです。しかし、献身的な末日聖徒になり、イエス・キリストに従う努力をした後、自分のしたことが不正直であったことを認めました。手紙には持ち去ったものの代金だけでなく、利子も含めた金額が同封されていました。わたしの依頼人は、一般の信者が指導者を務める教会が、神と和解しようと努力しているこの男性を助けようとしていることに感銘を受けました。

ユダヤ教とキリスト教の世界で、正直という共通の価値観を持つ光と真理について考えてください。もし青少年が学校でカンニングをせず、大人が仕事場で正直に働き、結婚の誓いに忠実であるなら、社会にどのような影響を及ぼすか考えてください。わたしたちにとって、正直の基本的概念は、救い主の生涯と教えに基づいています。また、ほかの多くの宗教でも歴史に残る文学でも、正直は価値ある特質です。詩人のロバート・バーンズは「正直な人は神の最も崇高な被造物である」<sup>21</sup>と述べています。ほとんど例外なく、信仰を持つ人は、正直であったかどうかにか

ついて神に責任を負うと感じています。このような理由からカリフォルニアの男性は以前に行った不正直な行為を悔い改めたのです。

ハーバード大学教授であり教会の指導者であるクレイトン・クリステンセンは、昨年行われた学位授与式の演説で、大学の同僚について実際にあった話をしました。友人は外国から来て民主主義を研究していました。民主主義にとって宗教がいかに重要なものかを知って驚き、次のように指摘しました。正直で誠実であることについて神に責任を負っていると意識するように市民が若いころから教えられている社会では、たとえ強制されなくても民主主義の理想の実現を促進する規則や慣習に従うのです。そうではない社会では、正直な行動を強制するために、幾ら警官がいても足りません。<sup>22</sup>

明らかに、正直に関する道徳的な価値観は、光と真理を行きわたらせ社会を向上させるうえで重要な役割を果たすことができ、信仰を持っていない人々もそうした価値観を大切にすることが望ましいのです。

### 神のすべての子供たちを兄弟姉妹として扱う

宗教を信じる信仰がいかに社会に利益を与え、世界に明かりをとすかを示す第2の例は、神のすべての子供たちを兄弟姉妹として扱う宗教の役割です。

過去2世紀の間、多くの宗教団体は悲惨な状況にある人々の救援に先頭に立って尽くしてきました。すべての人は神にとって等しい存在であるとそれぞれの信者が信じているからです。<sup>23</sup> そうしたすばらしい模範例が、大英帝国で奴隷売買の廃止に尽力したイギリスの偉大な政治家ウィリアム・ウィルバフォースです。<sup>24</sup> 彼の高潔な活動の話は、心を打つ賛美歌「アメイジング・グレイス」、そして精神を高揚させる、1800年代初期の雰囲気をとらえた同じタイトルの映画に描かれていま



す。ウィルバーフォースの不屈の努力は、この悲惨で堪え難く、残酷で腐敗した慣習を撤廃する第一歩となりました。そうした努力の一環として、彼はほかの指導者と協力して一般市民の道德観の向上に取りかかりました。教育と政府は道德を基としなければならないと信じていたのです。<sup>25</sup>「彼は結婚制度を擁護し、奴隷売買の慣行を攻撃し、安息日を守ることを強調するなど、道德的、精神的な豊かさという理想のために人生をささげました。」<sup>26</sup>精力を尽くし、国中の悪との戦いに国家の道德的、社会的指導者を動員したのです。<sup>27</sup>

わたしたちの教会の初期に、会員の大多数は奴隷制に反対でした。<sup>28</sup>これは宗教上の信念とともに、敵意と集団暴力を招いた大きな要因であり、ミズーリ州のボグgs知事が撲滅令を發布する事態にまでなりました。<sup>29</sup>1833年、ジョセフ・スマスは次のような啓示を受けました。「どんな人であっても、一人の人がほかの人に束縛されるということは正しくない。」<sup>30</sup>信教の自由を擁護し、すべての人を神の息子娘として扱うことは、わたしたちの教義の中心です。

以上は、信仰に基づく価値観が、社会にとって大きな祝福となる原則をどのように支えるかを示す二つの例にすぎません。もっとたくさんの例があります。わたしたちは、社会全体に祝福をもたらす道

德的価値観を再び確立するために、自ら取り組むとともに、高潔な人々がそうするのを助けなければなりません。

はっきり言いますが、公の場ではあらゆる声に耳を傾ける必要があります。宗教を持つ人もそうでない人も差別してはなりません。さらに、わたしたちの見解が宗教上の原則から生じたものだからといって、自動的に受け入れられたり優遇されたりすると期待してはなりません。しかし、そのような見解や価値観には、真価を見極められる資格があることも明白です。

わたしたちの教義の道德的基盤は、世の人々にとって良い模範となり得るものです。また、道德観とイエス・キリストを信じる信仰を結びつける力ともなります。わたしたちは家族を守るとともに、すべての善意ある人々と協力し、社会における光と希望、道德を守るために、世界中で先頭に立って最善を尽くす必要があります。

もしわたしたちがこれらの原則を宣言するとともに実践するなら、世の真の光であるイエス・キリストに従っていることとなります。そして、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの再臨に備えるに当たって義の軍勢となることができます。「世界中に再び明かりがともるとき、自由な心が歌う」<sup>31</sup>という美しい日を楽しみにしています。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

#### 注

1. リチャード・ハフ、デニス・リチャーズ共著、*The Battle of Britain: The Greatest Air Battle of World War II* (1989年)、264
2. エドワード・グレー卿の言葉とされている、ウィキペディア、“When the Lights Go On Again (All over the World)”の項参照
3. 教義と聖約 88:11-13 参照。キリストの光とは「万物の中にあり、万物に命を与える光であり、万物が治められる律法」である(13節)。キリストの光についての総合的な理解、およびキリストの光と聖霊の違いについては、ボイド・K・バッカー「キリストの光」[リアホナ] 2005年4月号、8-14を参照
4. モロナイ 7:19
5. ジェークス・バルザン、*From Dawn to Decadence: 500 Years of Western Cultural Life* (2000年)、798
6. 信仰箇条 1:13 参照
7. マタイ 5:16
8. ロジャー・B・ポーター、“Seek Ye First the Kingdom of God” (マサチューセッツ州ケンブリッジステーク、ケンブリッジ大学ワードでの講話、2009年9月13日)
9. モルモン 6:17
10. モルモン 8:3
11. ジョン・ミクスウェイト、エイドリアン・ワールドリッジ共著、*God is Back: How the Global Revival of Faith is Changing the World* (2009年)
12. ダイアナ・バトラー・バス、“Peace, Love and Understanding” (ジョン・ミクスウェイト、エイドリアン・ワールドリッジ共著、*God Is Back* の書評) Washington Post National Weekly Edition、2009年7月27日-8月2日付、39
13. デビッド・D・カークパトリック、“The Right Hand of the Fathers”, *The New York Times Magazine*、2009年12月20日付、27
14. カークパトリック、“The Right Hand of the Fathers”, 27。ロバート・P・ジョージは、わたしたちが得るのは道德的な理由および自由な選択か、あるいは道德観念の欠如と決定論のどちらかであると教えている。



15. 教義と聖約 84: 46
16. 教義と聖約 84: 48
17. ボイド・K・バックナー『リアホナ』2005年4月号, 8
18. モーサヤ 29: 26-27
19. マーガレット・サマビル, "Should Religion Influence Policy?" www.themarknews.com/articles/1535-should-religion-influence-police 参照
20. シャオ, チャオ, "Market Economies With Churches and Market Economies Without Churches" [2002年] www.danwei.org/business/churches\_and\_the\_market\_econom.php 参照。この中国政府の経済学者は、人々がうそをつき他人を傷つけるのを防ぐために道徳の基礎が必要だと主張している。
21. "The Cotter's Saturday Night," Poems by Robert Burns, (1811年), 191
22. クレートン・M・クリステンセン, "The Importance of Asking the Right Questions," ニューハンプシャー州マンチェスター, サザン・ニューハンプシャー大学学位授与式での講話, 2009年5月16日
23. 創世 1: 26 参照
24. ウィリアム・ヘーグ, William Wilberforce: The Life of the Great Anti-Slave Trade Campaigner (2007年), 352-356
25. ヘーグ, William Wilberforce, 104-105
26. ヘーグ, William Wilberforce, 513
27. ヘーグ, William Wilberforce, 107-108
28. ジェームズ・B・アレン, グレン・M・レナード共著, The Story of the Latter-day Saints, 第2版(1992年), 93, 120, 202 参照
29. レナード・J・アレントン, デービス・ビトン共著, The Mormon Experience: A History of the Latter-day Saints, 第2版(1992年), 48-51 参照。クライド・A・ミルナー他著, The Oxford History of the American West (1994年), 362: "Proslavery settlers and politicians persecuted them mercilessly." も参照
30. 教義と聖約 101: 79
31. "When the Lights Go On Again (All Over the World)" の歌詞の最後の行



管理ビショップブリック第一顧問

リチャード・C・エッジリー ビショップ

# 信仰—選択するのはあなたです

疑いではなく信仰, 恐れではなく信仰, 未知のものや見えないものではなく信仰, 悲観論ではなく信仰を選んでください。

わたしたちは歴史上最も大いなる神権時代に生きています。いにしへの預言者が心待ちにし、預言し、切望したであろう時代です。しかし、あらゆる天の祝福が与えられてはいるものの、実在するサタンは相変わらず非常に活動的であり、相反するメッセージで絶え間なくわたしたち全員を攻撃しています。天使モロナイは若き預言者ジョセフ・スミスに、彼の名が良くも悪くも世界中に知れわたると警告しましたが(ジョセフ・スミス—歴史 1: 33 参照)、これまでこれほど明らかに成就した預言<sup>あかし</sup>はありません。預言者ジョセフは自らの証のために命を犠牲にしました。教会、さらには救い主御自身に対する攻撃は、今日<sup>こんにち</sup>もやむことはありません。救い主の<sup>あがな</sup>実在と贖いの犠牲、そしてわたしたち全員に例外なく当てはまるその贖いの力は疑いをかけられ、意志が弱く無教養な人々の神話あるいは根拠のない希望として片付けられてしまうことがよくあります。さらに、この末日における福音の回復が真実であることも、依然として疑いをかけられています。そのようなメッセージによる絶え間ない攻撃は、混乱、疑い、悲観論をもたらす可能性があり、わたしたちの信じる基本的な真理や、神への信仰、将来への希望を攻撃

しているのです。

これがわたしたちの世界の現実かもしれませんが、それでもどう対処するかを選ぶことはできます。自分たちにとって神聖な教義や信条に疑いをかけられたりしても、それは最も個人的かつ親密な方法で神に近づく良い機会です。わたしたちにとって、それは選ぶ機会なのです。

今日の世界においてわたしたちは様々な争いと試練に直面しています。そこでわたしは一つの選択肢を提案します。平安と守りが得られる、だれにでも当てはまる選択肢です。その選択肢とは信仰です。信仰は何の考え、望み、あるいは努力もなしに与えられる無料の贈り物ではありません。天から降りる露のように簡単に得られるものではないのです。救い主は「わたしのものにきなさい」(マタイ 11: 28)、また「門をたたけ、そうすれば、与えられるであろう」(マタイ 7: 7) と言っておられます。「来る」も「門をたたく」も動作を表す言葉であり、選択肢です。そこで信仰を選ぶように提案します。疑いではなく信仰, 恐れではなく信仰, 未知のものや見えないものではなく信仰, 悲観論ではなく信仰を選んでください。

モルモン書のアルマ書第 32 章に記録されているよく知られた信仰に関するアル

マの言葉は、確実に信仰をはぐくみ守るための一連の選択から成っています。アルマはわたしたちに選ぶよう指示を与えました。その指示は、選ぶことによって始まる動作の言葉です。次のような言葉が用いられています。目を覚ます、尽くす、試す、働かせる、望む、育てる。その後アルマは、わたしたちがそのような選択をし、不信仰によって種を捨てるようなことがなければ、「その種は[わたしたち]の心の中でふくらみ始めるであろう」と説明しています(アルマ 32:28)。

そうです。信仰とは選択であり、追い求め、はぐくまなければなりません。したがって、わたしたちには自分自身の信仰に対して責任があります。信仰の欠如に対してもそうです。選択するのは皆さんののです。

わたしには知らないことがたくさんあります。物質がどのように組織されて、わたしたちの住むこの美しい世界となるのか詳しいことは知りません。贖いの複雑な仕組み、救い主の犠牲が悔い改めたすべての人をどのようにして清めることができるのか、あるいは救い主がどのようにして「すべての人の苦」をお引き受けになれたのか(教義と聖約 18:11)、わたしは理解していません。モルモン書に出てくるゼラヘムラがどこにあったのか知りません。自分の信じていることが、当然のこととされている科学的あるいはこの世的な知識と相いれないことがあります、それがなぜなのか知りません。恐らく、これらは天の御父が「天の……奥義」(教義と聖約 107:19)という言葉で表現しておられる事柄であり、後になって明らかにされることでしょう。

しかし、すべてのことは知らなくても、大切なことを知っています。救いと昇栄に導く単純明白な福音の真理を知っています。救い主が確かにすべての人の苦しみを受けられたこと、また、悔い改めるすべての人は罪から清められることを知っています。知らないこと、あるいは完全に

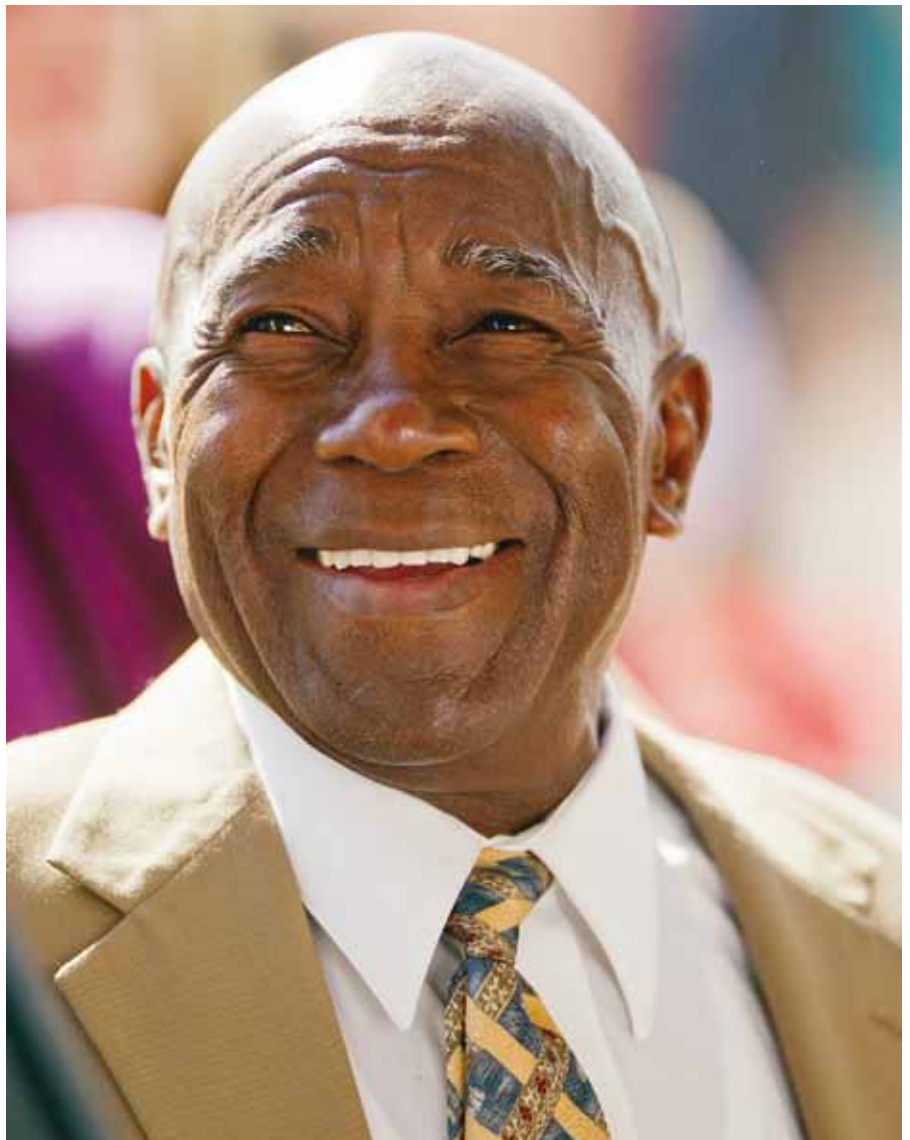
は理解していないことについては、信仰の力強い助けによって、ギャップを埋め、前進し、福音の約束と祝福にあずかっています。そのようにしてわたしたちの信仰は、アルマが教えているように、完全な知識に到達することができるのです(アルマ 32:34 参照)。希望と望みだけを持って、未知へと前進することにより、わたしたちは主への信仰と献身の証を示します。

ですから、アルマの方法に従い、選びましょう。信じることを選びましょう。

- 混乱と絶望が心に重くのしかかっている場合は、「目を覚まし、能力を尽くす」ことを選んでください(アルマ 32:27)。

打ち砕かれた心と悔いる霊をもってへりくだって主に近づいてください。それが真理へと続く道であり、光と知識、平安という主の道なのです。

- 証が未熟で、試されたことがなく、また不安定である場合は、「ごくわずかな信仰でも働かせ[る]」こと、「[主]の言葉を試[す]」ことを選んでください(アルマ 32:27)。救い主はこう説明しておられます。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17)
- 論理、道理、あるいは自らの知性が、神



聖な教えや教義と相いれない場合、あるいは相反するメッセージが、使徒パウロが表現した「火の矢」のように信仰を激しく攻撃している場合は（エペソ 6：16 参照）、不信仰によって自分の心からその種を捨てないことを選んでください。忘れないでください。信仰が試されてからでなければ、証は得られないのです（エテル 12：6 参照）。

- 信仰が試され、十分に成長しているならば、その信仰を「大切にはぐくむ」ことを選んでください（アルマ 32：27）。信仰が強いからこそ、あらゆる矛盾したメッセージによる攻撃を受け、非常にもろくなることもあります。信仰に絶えず養いを与えるためには、引き続き聖文を研究し、祈り、救い主の御言葉を実践する必要があります。

救い主が悪霊を追い出されるのを目の当たりにした弟子たちが、自分たちはどうして同じようにできなかったのかとイエスに尋ねると、イエスはこう答えられました。「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。」（マタイ 17：20）わたしは山が実際に移動するのをこの目で見たことはありません。しかし、信仰により疑いや絶望の山が移り、希望や楽観に取って代わられるのを見たことがあります。信仰により罪という山が悔い改めと赦しに取って代わられるのを直接見たこともあります。また、信仰により苦しみという山が平安、希望、そして感謝に取って代わられるのを直接見たこともあります。そうです、わたしは確かに、数々の山が移るのを見たことがあるのです。

- 信仰により、わたしは自分の持っている神権の力を行使し、福音の実の甘さを味わい、救いの儀式を受け入れてきました。
- 信仰により、わたしは平安や確信をもって人生の苦闘や困難を克服しています。



- 信仰により、わたしは疑問や疑いまでも確信と理解に変えることができています。
- 信仰により、わたしは未知の、目に見えない、不明な事柄に、絶対的な確信をもって臨むことができます。
- また、信仰により、最悪と思われるときでさえ、わたしは平安と感謝をもって、実際にはそれが最善の時だと分かります。

信仰を選び、主にかかわる事柄を「完全に知る」まで信仰をはぐくむときに、わたしたちは「証します」あるいは「知っています」という言葉を使います。わたしは自ら自分の心の中に種を植え、「完全に知る」までその種をはぐくもうと一生を通し

て努力してきました。そして今日、わたしはこの説教壇に立ち、イエスがキリストであり、世の贖い主であられることを証します。また、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、この地上に完全で真実のイエス・キリストの福音を回復するために主に使われた生ける道具であったことを証します。トーマス・S・モンソン大管長が今日の主の生ける預言者であることを証します。皆さんも同じように、信仰を持つか持たないかを選択しなければなりません。わたしは信仰を選んできました。信仰を選びましょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■



七十人  
ケビン・R・ダンカン長老

## 生死にかかわる事柄

わたしたちが知恵をもって生ける預言者と使徒たちを信頼し、その勧告に従うことができますように。

1848年の冬はソルトレーク盆地へ入植した開拓者たちにとって困難で厳しいものでした。1847年の夏、ブリガム・ヤングは聖徒たちがついに目的地へ到着したと宣言しました。聖徒たちが入植することになる場所を示現で見たブリガム・ヤングは、「まさにこの地である」<sup>1</sup>と言ったのです。福音の回復が進むにつれて、初期の教会員たちは途方もない逆境に耐えたのです。家から追い出され、迫害され、悩まされてきました。大平原を渡る旅は口では言い表せない苦難に満ちていました。でもついに、「まさにこの地」と言われた場所へ到着したのです。

それにもかかわらず、1848年の冬はきわめて厳しいものでした。あまりの寒さで足がひどい凍傷にかかった人もいました。聖徒たちの間には不安が広がり始めました。教会員の中には盆地に家を建てることはしないと宣言する人もいました。教会の指導者が自分たちをもっと良い所へ連れて行ってってくれると確信していたので、荷馬車の中にとどまっていたいと思ったのです。種や果物の苗木を持って来ていましたが、荒れた不毛の砂漠に植えて枯らすようなことはしたくありませんでした。当時の有名な探検家のジム・ブリッジャーはブリガム・ヤングにこう言いました。「ソルトレーク盆地でトウモロコシが育つわけがない。もし育ったら、最初の

1ブッシュェル(27キロ)に対して1,000ドル払おう。」<sup>2</sup>

折しもカリフォルニアで金が発見され、事態はさらに複雑になりました。教会員の中には、富とより良い気候を求めてカリフォルニアへ移れば、生活はもっとたやすく豊かになるだろうと考える人たちもいました。

こうした不満の空気の中で、ブリガム・ヤングは教会員に説き教え、こう宣言しました。

「〔この盆地は〕神がその民のために定められた場所です。

わたしたちはフライパンの中から火の中へ、そして火の中から床の真ん中へとけり

出され、この地にたどり着きました。わたしたちはここに定着します。ここは神がその民を置かれる場所であり、ここで民は繁栄するのです。聖徒たちのために神は気候を和らげ、霜や不毛の地を叱責してくださり、その結果、実り豊かな土地になるのです。兄弟の皆さん、さあ行って、皆さんの種をまいてください。」

こうした祝福を約束しただけでなく、さらにヤング大管長はソルトレーク盆地が諸国へ通じる大路として知られるようになると宣言しました。王や皇帝がこの地を訪れ、そして最もすばらしいことに、主の宮が建てられるのです。<sup>3</sup>

これは驚くべき約束でした。多くの教会員はブリガム・ヤングの預言を信じる信仰を持っていましたが、疑いを抱き、より良い生活を期待して去って行った人もいました。しかし歴史が示すとおり、ブリガム・ヤングの預言はすべて成就しました。盆地は豊かな実りをもたらし、聖徒たちは繁栄しました。1848年の冬は、主がその民に貴重な教訓を教えるまたとない機会となりました。現世で守りを得る唯一の確実な道は、神の預言者の勧告を信頼し、それに従うことであるという、わたしたち皆が学ぶ必要のある教訓を、当時の聖徒たちは学んだのです。



確かに、この教会の会員であることの最高の祝福の一つは、神の生ける預言者によって導かれているということです。主はこう宣言しておられます。「この力とこの神権の鍵を授けられる者は、地上において同時期にただ一人しかいない。」<sup>4</sup> 今日の預言者であり教会の大管長であるトーマス・S・モンソンは教会全体と全世界のために神の御言葉を授かります。さらに、わたしたちは大管長会の顧問と十二使徒定員会の会員を、預言者、聖見者、啓示者として支持しています。

凍傷の足で不毛の荒地を耕した初期の聖徒たちにとって、預言者を信頼するには確かに信仰が必要でした。まさに生死にかかわる事柄だったのです。けれども、主は彼らの従順に報い、主の代弁者に従った人々に祝福と繁栄をお与えになりました。

そして主は今日も、皆さんやわたしのために同じことをしてください。この世の中には非常に多くの自己啓発書があり、ありとあらゆる問題について助言や勧告を与えてくれる自称専門家や理論家、教育者、哲学者がたくさんいます。今日の進歩した技術により、コンピューターのキーを押すだけで、無数の問題に関する情報を得ることができます。子育てから幸福を見つける方法に至るまで、あらゆる問題について助言を求めて、いともたやすく「肉の腕」<sup>5</sup>に頼る罠に陥ってしまいます。中には価値のある情報もありますが、教会員としてわたしたちは純粋な真理の源、すなわち神御自身に頼ることができます。主の預言者を通して主が与えられた啓示を調べることで、自分の問題や疑問に対する答えを探す方がよいのです。今日の進歩した技術により、ほとんどの問題について、預言者の言葉がすぐ手の届くところにあります。結婚や家族の問題について、神は預言者を通してどのように教えておられるでしょうか。教育や賢明な生活について、神は預言者を通してどのように教えておられるでしょうか。人生の幸福や目



スウェーデン、ストックホルム

標の達成などの問題について、神は預言者を通してどのように教えておられるでしょうか。

預言者の教えは時代遅れだとか、人気がないとか、さらには実行不可能だと思う人もいるでしょう。しかし、神は秩序の神であり、わたしたちが御心を知る方法を備えておられます。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事もなされない。」<sup>6</sup> この時満ちる神権時代の始めに、主は預言者を通してわたしたちに御心をお伝えになることを再確認されました。こう述べておられます。「わたしの言葉は……すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」<sup>7</sup>

預言者を信頼し従うことは祝福や特権以上のことです。エズラ・タフト・ベンソン大管長は「わたしたちの救いはまさに預言者に従うことにかかっています」と宣言し、「預言者に従う14の原則」と呼ぶ事柄について説明しました。今朝の部会の中で、七十人会長会のクラウディオ・コスタ長老は、この14の原則について雄弁に教えました。わたしたちの救いにとって

非常に大切なことなので、もう一度繰り返します。

「1. 預言者はすべての事柄について主に代わって語る唯一の人である。

2. 生ける預言者は、わたしたちにとって標準聖典よりも重要である。

3. わたしたちにとって生ける預言者は、過去の預言者よりも大切である。

4. 預言者は教会を間違った方向に導くことはない。

5. 預言者はいつでも、いかなる主題について語る時も、またいかなる行動を起こす時も、特別にこの世的な訓練や教育を受ける必要はない。

6. 預言者はわたしたちに聖文を与えるときに、『主がこのように言われる』と宣言する必要はない。

7. 預言者は必ずしもわたしたちが知りたいことを告げるのではなく、知る必要のあることを告げる。

8. 預言者は人の理論に制約されない。

9. 預言者は霊的および物質的ないかなる物事についても啓示を受けることができる。

10. 預言者は一般社会の問題に携わることができる。

11. 預言者に従ううえで最大の障害を持つ人とは、教養を誇る人と富を誇る人である。

12. 預言者はこの世と世の人々から必ずしも好評を博することはない。

13. 預言者とその顧問は、教会における最高の定員会である大管長会を構成する。

14. 預言者とその会長、すなわち生ける預言者と大管長会に従う人は祝福を受け、拒む人は苦難を受ける。」<sup>8</sup>

兄弟姉妹の皆さん、1848年当時の聖徒たちのように、わたしたちは預言者に従うことを選ぶことも、肉の腕に頼ることもできます。わたしたちが知恵をもって生ける預言者と使徒たちを信頼し、その勧告に従うことができますように。わたしは彼らが善良な人々で、神から召されていることを証します。また、人生に取り組み、問題への答えを見だし、この世にあって平安と幸福を得、自分自身の救いを守るために、彼らの言葉に従う以上に安全な方法はないことを証します。このことを、主イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。■

#### 注

1. ブリガム・ヤングの言葉、ウィルフォード・ウッドラフ、*The Utah Pioneers* (1880年)、23で引用
2. プライアント・S・ヒンクレイ、*The Faith of Our Pioneer Fathers* (1956年)、9-15。ゴードン・B・ヒンクレイ、"Remarks at Pioneer Day Commemoration Concert," *Ensign*, 2001年10月号、70-72も参照
3. ヒンクレイ、*The Faith of Our Pioneer Fathers*, 11-12; *Ensign*, 2001年10月号、71参照
4. 教義と聖約 132:7
5. 教義と聖約 1:19
6. アモス 3:7
7. 教義と聖約 1:38
8. エズラ・タフト・ベンソン、"Fourteen Fundamentals in Following the Prophet," *1980 Devotional Speeches of the Year* (1981年)、29-30に収録



七十人  
ジェリット・W・ゴング長老

## 永遠に続く神殿の鏡—— 家族についての証

福音に改宗すること、そして神殿の聖約を交わすことで得る永遠の見地のおかげで、永遠に続く家族のどの世代にも豊かな祝福が与えられることが分かります。

愛する兄弟姉妹の皆さん、息子がプロボの宣教師訓練センターにいたとき、ゴング姉妹が息子と同僚たちに焼きたてのパンを郵送したことがありました。ゴング姉妹が受け取った、宣教師たちからの感謝の言葉を紹介しましょう。「ゴング姉妹、あのパンはふるさとの味がしました。」「ゴング姉妹、驚きの一言に尽きます。あのパンは母の手作りのエンチラーダ以来の絶品でした。」そして、わたしのお気に入りはこちらです。思わず笑ってしまいました。「ゴング姉妹、すばらしくおいしいパンでした。ゴング兄弟とうまくいなくなったら、わたしと付き合ってください。」

宣教師を愛しています。姉妹、長老、夫婦宣教師の一人一人を愛しています。わたしたちは、回復されたイエス・キリストの福音を家族に初めて伝えてくれた特別な宣教師に永遠に感謝することでしょう。福音に改宗すること、そして神殿の聖約を交わすことで得る永遠の見地のおかげで、永遠に続く家族のどの世代にも豊かな祝福が与えられることが分かります。感謝をもってこのことを証します。

ゴング家で初めて末日聖徒イエス・キリスト教会に改宗したのは母のジーン・ゴングです。ハワイ州ホノルルに住む10代の少女だった母は耳を傾け、知り、バプテスマと確認を受け、忠実であり続けています。忠実な教会員たちは、母が教会員の友達を作り、教会で召しを受け、引き続き神の善い言葉で養われるよう助けてくれました。現在使われている言葉で言う、いわゆる新しい改宗者、ヤングシングルアダルト、また教会に戻って来た人をはじめとする一人一人が同じ聖徒となり神の家族となると、<sup>1</sup>何世代にもわたる人々に祝福がもたらされるようになるのです。

母の面倒を見てくれた人々の中にジェリット・デ・ジョン・ジュニアの家族がいました。デ・ジョンおじいさんは心のもった靈感あふれる言い回しを愛する言語学者で、こんなことを言って子供のころのわたしの想像力を刺激しました。「ブラックベリーの実は、赤いうちはまだ青い、つまり若いんだよ。」今の若い人に向けてこれを携帯用電子機器に應用するとどうなるでしょうか。「教会でだれかがブラックベリーの端末を使って何か読んでいると、若いビ

ショップは青くなるんだよ。」(訳注——ブラックベリーとは通信機能を内蔵した携帯情報端末のこと。英語の「読む」は「赤い」と同じ発音になることがある。)

わたしの両親ウォルター・ゴングとジーン・ゴングは3度結婚式を挙げました。家族のためには中国式、友人のためにはアメリカ式の結婚式をし、そして主の宮での神聖な儀式によって、この世と永遠にわたる結婚式を挙げたのです。

初等協会の子供たちは「いつの日か入る神殿に」と歌っています。<sup>2</sup>そして教会の青少年は「神殿の儀式を受け〔る〕」と誓っています。<sup>3</sup>

最近わたしは、主の宮でふさわしい男女が聖約による祝福を受ける場に立ち会いました。わたしは二人に、ハネムーンを幸せを50年間続けるように、そして50年たったら、2回目のハネムーンを始めるようにと勧めました。

わたしはこの麗しい夫婦と一緒に神殿の鏡に映っていました。片方の壁に鏡があり、もう片方にも鏡があります。神殿の鏡は互いにどこまでも反対側の鏡を映し、そこに映っているものは永遠に続くように見えます。

永遠に続く神殿の鏡は次のことを思い起こさせてくれます。それは、人にはそれぞれ「神の属性と神聖な行く末」があること、また「聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にする」<sup>4</sup>こと、そして、愛と忠誠心の中でともに成長することにより、わたしたちは子供たちに人生の確かな土台を据え、神のみもとに帰るための靈感と手段を与えることができるということです。

わたしは、紀元837年(唐朝後期)に中国南部で生まれた1代目のドラゴン・ゴングに始まり、32代目として記録されている父に至るまでの世代を、永遠に続く神殿の鏡に重ねてみました。弟と妹とわたしは33代目に当たり、息子とそのいと

こたちは34代目、孫はゴング家の35代目として記録されます。永遠に続く神殿の鏡の中では、世代の始めも終わりも見えませんでした。

次にわたしは、世代のつながりだけでなく家族関係のつながりも心に描きました。一方を見ればわたしは息子、孫、ひ孫であり、1代目のドラゴン・ゴングの子孫です。そして別の方向を見ると、わたしは父親、祖父、曾祖父です。またわたしは、妻スーザンを娘、孫、ひ孫として、反対側では母親、祖母、曾祖母として見ることができました。

永遠に続く神殿の鏡を見ながら、妻とわたしが両親にとっては子供であり、子供に対しては親であり、祖父母にとっては孫、孫に対しては祖父母であることが分かってきました。子供と親、親と子供といった永遠の役割を果たしながら学び、教えるにつれて、わたしたちは人生の偉大な教訓を少しずつ学んでいくのです。

聖文の中で救い主は「御父にして御子」<sup>5</sup>と表現されています。肉体に宿りながら肉体を御父の御心みこころに従わせられた救い主は、苦痛、苦難、試練、病、そして死も受けなければならないわたしたち、すなわち





御自分の民をどのように救うかを御存じです。<sup>6</sup>「万物の下に身を落と〔された〕」ので、<sup>7</sup>救い主はわたしたちの病を負い、悲しみを担うことがおできになるのです。「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。……〔救い主〕の打たれた傷によって、われわれは癒されたのだ。」<sup>8</sup>

天上で会議が開かれたときから、救い主は御父の御心を行うことのみを求められました。この御父と御子のかかわりについて考えると、「わたしのために自分の命を失っている者は、それを得る」<sup>9</sup>という矛盾とも思える言葉が理解できるようになります。世の中は自己の利益を増やすことばかりを求めます。しかし人に自分自身を救う力はありません。力は主がお持ちです。無限かつ永遠<sup>10</sup>である救い主の贖罪のみが時間と空間を超え、死、怒り、憎しみ、理不尽、孤独、悲しみをのみ込むのです。

時には、最善を尽くしても物事が悪い方に進むことがあります。罪も汚れもない小羊である救い主は、わたしたちとともに、そしてわたしたちのために泣いてくださっています。わたしたちがいつも御子を覚えているならば、<sup>11</sup>救い主は「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」<sup>12</sup>わたしたちとともに立つことがおできになります。救い主がお持ち

の誠実さは死の縄目よりも強いのです。<sup>13</sup>御自身のみもとに引き寄せることで、救い主はわたしたちを天の御父のみもとにまで引き上げてくださいます。この世では不完全な事柄もありますが、わたしたちは「救いの計画 いかん<sup>あわ</sup>に尊し 憐れみと愛の神の恵み」<sup>14</sup>という詩にうたわれた贖いの偉大な計画を、天の御父が完全に成し遂げてくださると信じることができるのです。

永遠に続く神殿の鏡に映る人々について、わたしたちはある奇跡が起こることを知っています。それは彼ら、つまりわたしたちが変わることができるということです。ジーン・ゴングとウォルター・ゴングが新しくかつ永遠の聖約に入ったとき、二人は（1代目のドラゴン・ゴングをはじめとする）先祖たちに結び固めを受けるといふ道を開き、子孫には聖約の中で生まれるという道を開きました。兄弟姉妹の一人一人に手を差し伸べるとき、その人たちが受ける祝福は多くの世代に及ぶといふことを、どうか忘れないでください。

世の中は混乱していますが、<sup>15</sup>主の唯一まことの生ける教会<sup>16</sup>には信仰があって恐れがありません。使徒パウロの言葉をもって、わたしも厳粛に証します。

「わたしは確信する。死も生も、……

高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き

離すことはできないのである。」<sup>17</sup>

へりくだり証します。神は生きておられます。そして「わたしたちの目から涙を完全にぬぐい去ってくださいます。」<sup>18</sup>ただし喜びの涙は別です。永遠に続く神殿の鏡の中に、自分が汚れのない清い状態でみもとに帰り、幾世代にもわたる家族が神権の権能によって愛のうちに結び固められ、「ホサナ、ホサナ、ホサナ」と叫ぶ姿を見るとき、わたしたちは喜びの涙を流すことでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. エペソ 2:19 参照
2. 「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99
3. 「若い女性のテーマ」『若い女性——成長するわたし』3
4. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49
5. モーサヤ 15:2 参照
6. アルマ 7:11-12 参照
7. 教義と聖約 88:6;122:5-8 も参照
8. イザヤ 53:5
9. マタイ 10:39
10. アルマ 34:14 参照
11. 教義と聖約 20:77, 79 参照
12. モーサヤ 18:9
13. 教義と聖約 121:44
14. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番
15. 教義と聖約 45:26;88:91 参照
16. 教義と聖約 1:30
17. ローマ 8:38-39
18. 黙示 21:4







十二使徒定員会  
ニール・L・アンダーセン長老

# 決して主を離れず

皆さんがつまづかない、または恥ずかしく思わない方を選ぶなら、主の愛と承認を感じると約束します。そして自分がもっと主に似た人物になっていくことが分かるでしょう。

**愛** する世界各地にいる兄弟姉妹の皆さん、生活の中で信仰と勇気を示してくださっている皆さんに、わたしの心からの称賛をお伝えします。わたしたちは、最もすばらしい時代であるとともに問題の多い時代に生きています。

## 主は行く手にある危険について警告しておられる

主のみもとへ帰る目標を目指すわたしたちを、主は独りにしてはおられません。行く手にある危険について警告する主の御言葉に耳を傾けてください。「気をつけて、目をさましていなさい。」<sup>1</sup>「欺かれないように気をつけなさい。」<sup>2</sup>「用心深くまた注意深くありなさい。」<sup>3</sup>「あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。」<sup>4</sup>

この世の影響を受けない人はだれもいません。主の勧告のおかげで、わたしたちは常に用心深くいられます。

皆さんは、イエスがカペナウムでされた経験を思い起こすことでしょう。救い主について来た弟子たちは、イエスが神の御子であられるということを受け入れようとしませんでした。聖文には、「それ以来、多くの弟子たちは……もはやイエスと行動を共にしなかった」<sup>5</sup>と書かれています。

その後、イエスは十二使徒に向かってお尋ねになりました。「あなたがたも去ろうとするのか。」<sup>6</sup>

## あなたがたも去ろうとするのか

わたしは心の中でその質問に何度もこう答えてきました。「とんでもない。わたしは決して主を離れません。永久にみそばにいます。」皆さんも同じように答えてきたことでしょう。

しかし、「あなたがたも去ろうとするのか」という問いを聞くと、自分自身の弱さについて考えさせられます。人生は霊的にそうたやすくありません。別の場面で「主よ、まさか、わたしではないでしょう」<sup>7</sup>と言った使徒たちの言葉が静かに心よみがえります。

わたしたちは喜びと期待をもってバプテスマの水に入ります。救い主は「わたしのもとに来る」<sup>8</sup>よう招いておられ、わたしたちはそれに応じ、主の御名を受けます。霊的な旅路を短期間の軽薄な旅で終わらせることや、限られた期間だけとても活発に過ごすことを望む人はいないでしょう。弟子としての道は、霊的な心の弱い者には難しいものです。イエスはこう言われました。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」<sup>9</sup>「だれでもわたしについてきたいと思うな

ら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」<sup>10</sup>

救い主に従って行くにつれ、必ず、難しい問題が立ちはだかります。信仰をもって対処するとき、わたしたちを精錬するこれらの経験は生ける救い主へのさらなる深い帰依へと導いてくれます。しかし、この世の方法で対処すると、同じ経験でも視界が曇り、わたしたちの決意が揺らぐこともあります。わたしたちが愛し称賛する人たちの中にも、細くて狭い道からそれ、「もはやイエスと行動を共にしな[い]」人が出てきます。

## ずっと忠実でいるには

救い主と主の福音、主の神権の儀式にずっと忠実でいるにはどうしたらよいでしょうか。主から決して離れない信仰と強さをはぐくむにはどうしたらよいでしょうか。

イエスはおっしゃいました。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」<sup>11</sup> 幼子のように信じる心が必要です。

主の贖罪の力により、わたしたちは「子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主が[わたしたち]に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わな」<sup>12</sup> ければなりません。これが心の中の大きな変化です。<sup>13</sup>

わたしたちは間もなく心の変化が必要な理由が分かります。二つの言葉が行く手を阻む危険を警告してくれます。それはつまづきと恥じる思いです。

## つまづかないという選択をする

救い主が神の御子であられるということに心を乱した人々に、イエスはお尋ねになりました。「このことがあなたがたのつまづきになるのか。」<sup>14</sup> 種まきのたとえの中でイエスはこう警告されました。「[その人は]しばらく[堪え忍ぶが]、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつ



まずいてしまう。』<sup>15</sup>

つまずきは様々な衣装をまとい、絶えずわたしたちの前に現れます。信じていた人に期待を裏切られる。予想外の困難に遭遇する。人生が思いどおりに行かない。間違いを犯し、ふさわしくないと感じ、救されるかどうか心配する。教義のある点に疑問を抱く。150年前に教会の説教壇で言われたことに心を悩ます。子供たちが不当に扱われる。無視されたり過小評価されたりする。問題は幾らでも挙げることができます。どれもそのときにはきわめて重要に思える問題です。<sup>16</sup>

心が弱くなると、サタンはわたしたちの霊的な約束を奪おうとします。注意していないと、傷ついた子供のようなわたしたちの霊は、救い主の温かい癒しの光に背を向け、元の冷たく暗い自我の殻へ後戻りしてしまいます。

1835年にパーリー・P・プラットが不当な裁きを受け、本人も家族も当惑し、恥ずかしい思いをしたとき、預言者ジョセフ・スミスはこう勧告しました。「パーリー、……そのようなことを気にしてはなりません。全能の神があなたとともにおられます。」<sup>17</sup>

もう一つの例です。1830年、著名な医師のフレデリック・G・ウィリアムズがバプテスマを受けました。彼はすぐに自分の才能と財産を教会にささげました。教会の指導者になり、カートランド神殿の用地として土地を寄付しました。ところが1837年、当時の困難な状況に巻き込まれ、大きな間違いを犯しました。主は啓示の中で、「〔彼の〕罪の結果、〔教会の指導者としての〕以前の地位は〔彼〕から剥奪された」<sup>18</sup>と宣言されました。

フレデリック・G・ウィリアムズから学ぶべきすばらしい教訓は、「彼自身の弱さが何であれ、誘惑に負けて恨みを抱くことも容易にできたときに、主と預言者と教会に対する忠誠を新たに強い性格が彼にはあった」<sup>19</sup>ということです。1840年の春、彼は総大会に姿を現し、過去の行為に対する赦しを謙虚に求め、以後は神の御心を行うという強い決意を示しました。彼の件はハイラム・スミスによって提示され、彼は完全に赦されました。最後は忠実な教会員として生涯を閉じました。

わたしは最近、ブラジル・レシフェ神殿の神殿会長に会いました。彼の名前はフレデリック・G・ウィリアムズです。会長は高祖父の高潔な決断が自分の家族と何百人もの子孫にいかにも祝福をもたらしたかを語ってくれました。

### 恥じないという選択をする

つまずきは恥じる思いという、心をむしばむ感情を伴います。

モルモン書には、命の木についてのリーハイの示現について書かれています。その示現によると、気高い人々が「鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み」、到着して「その木の実を食べ」ました。<sup>20</sup>

ニーファイはその木は「神の愛」の表れであり<sup>21</sup>、心が「非常に大きな喜びに満たされ」る実をつけると述べています。<sup>22</sup>

その実を食べた後、リーハイは「一つの大きく広々とした建物」を見ました。「その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服……は、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の……実を食べている人々を指さし、あざけり笑った」と書かれて

います。<sup>23</sup> 天使は、指をさしてあざけり笑うことは世の人々の高慢と知恵を表していると説明しました。<sup>24</sup>

ニーファイは「わたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」<sup>25</sup>とはっきり述べています。

悲しいことに、勇気がにぶった人もいました。聖文はこう述べています。「人々は、その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった。」<sup>26</sup>

キリストの弟子として、わたしたちは多くの点で世の中から離れて立っています。わたしたちにとって神聖なものが指さされ、あざけり笑われ、退けられて、不快に思うときもあるでしょう。<sup>27</sup> トーマス・S・モンソン大管長はこう勧告しました。「証がしっかりと根付いていないと、皆さんの信仰を疑う人々のあざけりに立ち向かうことは困難になります。」<sup>28</sup> ニーファイは、彼らのことを「気に留めな〔い〕」ようにと言いました。<sup>29</sup> パウロはこう説いています。「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく〔い。〕……あなたは、わたしたちの主のあかしをすること〔を〕、……恥ずかしく思ってはならない。」<sup>30</sup> わたした





ちは決して主から離れません。

昨年、ディーター・F・ウークトドルフ管長に同行して東ヨーロッパへ行ったとき、聖徒たちの信仰と勇気に感銘を受けました。ウクライナのある神権指導者は、バプテスマを受けてからわずか半年後の1994年春に支部会長に召されたと話してくれました。この召しを受ければ、自分の信仰を公にすることと、ドニプロペトロフシク市に教会を登録する手助けをすることが求められます。当時ウクライナは不安定な時代でした。キリストと回復された福音を信じる信仰を公に示すなら、パイロットとしての仕事を失うなど、困難な問題にぶつかる可能性もありました。

その神権指導者はこう言いました。「わたしは何度も祈りました。わたしには証がありましたし、聖約を交わしていました。主がわたしに望んでおられることを知っていました。」<sup>31</sup> この夫婦は、勇気を出し、信仰をもって前進したのです。イエス・キリストの福音を恥としませませんでした。

### 多く与えられる者からは、多く求められる

次のように問う人もいますでしょう。「ほかの人々とそれほどまでに異なっている必要があるのでしょうか。」「自分の行動についてそれほど考えずに、キリストの弟子であることはできないのでしょうか。」「純潔の律法を守らずにキリストを愛する

ことはできないのでしょうか。」「日曜日にしたいことをしながら主を愛することはできないのでしょうか。」イエスは簡潔に答えておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」<sup>32</sup>

次のように問う人もいますでしょう。「ほかの宗派にもキリストを愛している人はたくさんいるのではないのでしょうか。」もちろんいます。しかし、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは聖書だけでなくモルモン書からも主が実際におられるという証を得ており、主の神権が地上に回復されたことを知っています。主に従うという神聖な聖約を交わし、聖霊の賜物が授けられています。また、主の聖なる神殿で力が授けられ、主が地上に戻って来られる輝かしい再臨の準備に参加しています。こうした真理をまだ受けていない人々と、わたしたちのあるべき姿を比較することはできません。「多く与えられる者からは多く求められ」るのです。<sup>33</sup>

主はこうおっしゃいました。「あなたは自分で選ぶことができる。」<sup>34</sup>

皆さんがつまずかない、または恥ずかしく思わない方を選ぶなら、主の愛と承認を感じると約束します。そして自分も主と似た人物になっていくことが分かるでしょう。<sup>35</sup>

わたしたちはすべてを理解するの

うか。もちろん、そんなことはありません。しばらくは答えを見いだせないままで、後に理解することになるものもあります。

すべてが公平になるのでしょうか。そんなことはありません。わたしたちは是正できないことを受け入れ、傷つけられても赦します。

時には疎外感を味わうことがあるのでしょうか。もちろんあります。

時には主の教会に対して少数の人が怒りを抱き、弱い人がどうにか保っている信仰を奪おうとするのを見て驚くことがあるのでしょうか。<sup>36</sup> はい、あります。しかし、そのことが教会の発展や行く末を妨げることもなく、主イエス・キリストの弟子として歩むわたしたち一人一人の霊的な進歩を遅らせることもありません。

### 決して主を離れず

わたしは次の賛美歌の歌詞が好きです。

「主、われに頼るものの霊  
敵の手には渡し得ず  
地獄、彼に迫るとも  
われその霊を見捨てはせず  
必ずわれは見捨てず」<sup>37</sup>

わたしたちはこの世では完全になることはありませんが、主イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、聖約を守ります。モ

ンソン大管長はこう約束しました。「絶えず養いを与えるなら、証が皆さんを安全に守ってくれるのです。」<sup>38</sup> わたしたちは、聖文にあるキリストの言葉を毎日よく味わいながら、霊の根を深く伸ばしていきます。わたしたちに道を示すために与えられた生ける預言者の言葉を信頼します。絶えず祈り、わたしたちを導き、霊に平安を告げてくださる聖霊の静かな声に耳を傾けます。どのような困難な問題が起きても、決して、決して主を離れません。

救い主は弟子たちにお尋ねになりました。「あなたがたも去ろうとするのか。」<sup>39</sup> ベテロは答えました。

「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言ことばをもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」<sup>40</sup>

わたしも同じ証を持っています。そのことを、イエス・キリストの御名により、証します。アーメン。■

注

- 1 マルコ 13:33
- 2 教義と聖約 46:8
- 3 教義と聖約 42:76
- 4 2ペテロ 3:17
- 5 ヨハネ 6:66
- 6 ヨハネ 6:67
- 7 マタイ 26:22
- 8 3ニーファイ 9:14
- 9 マタイ 22:37
- 10 マルコ 8:34
- 11 マタイ 18:3。マルコ 10:15、ルカ 18:17、3ニーファイ 9:22、11:37-38も参照
- 12 モーサヤ 3:19
- 13 アルマ 5:14 参照
- 14 ヨハネ 6:61
- 15 マタイ 13:21
- 16 デビッド・A・ベドナー「何ものも彼らをつまづかすことはできません」『リアホナ』2006年11月号、89-92参照
- 17 ジョセフ・スミス、*Autobiography of Parley P. Pratt*、パーリー・P・プラット・ジュニア編（1938年）、118で引用
- 18 *History of The Church*、第3巻、46、脚注
- 19 フレデリック・G・ウィリアムズ、"Frederick Granger Williams of the First Presidency of the Church," *BYU Studies*、第12巻、第3項（1972年）、261
- 20 1ニーファイ 8:24
- 21 1ニーファイ 11:25
- 22 1ニーファイ 8:12
- 23 1ニーファイ 8:26-27。33節も参照

- 24 1ニーファイ 11:35-36;12:18-19 参照
- 25 1ニーファイ 8:33
- 26 1ニーファイ 8:28。強調付加
- 27 ボイド・K・バックナー会長はこう述べた。「おもにテレビ〔とインターネット〕の影響により、わたしたちはあの広々とした建物を外から眺めているのではなく、実際にはその建物の中で生活しています。」（「リーハイの夢に自分の姿を見いだす」『リアホナ』2010年8月号、29）
- 28 モンソン大管長はこうも述べている。「リーハイの示現の大きく広々とした建物は、神の御言葉をあざける世の人々、御言葉を信じ、救い主を愛し、戒めを守る人たちをあざ笑うこの世の人々を表しています。」（トーマス・S・モンソン「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号、126）
- 29 1ニーファイ 8:33
- 30 2テモテ 1:7-8
- 31 アレクサンドル・ダビドフとの個人的な会話、および2010年7月16日に録音された彼の口述記録の翻訳文から引用
- 32 ヨハネ 14:15
- 33 教義と聖約 82:3
- 34 モーセ 3:17
- 35 1ニーファイ 19:9 参照
- 36 2ニーファイ 28:20 参照
- 37 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番
- 38 トーマス・S・モンソン「リアホナ」2009年5月号、123-127 参照
- 39 ヨハネ 6:67
- 40 ヨハネ 6:68-69





十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット長老

# 本質を変える信仰の力 と人格

一貫して義にかなった生活から、内なる力と強さが生まれます。この力と強さは、罪や背きという浸食作用に対して永続する抵抗力があります。

**信** 仰を正しく理解し働かせるならば、信仰の持つ影響力は絶大で広範囲に及びます。そのような信仰はわたしたちの生活を、感傷的でありふれた日常の活動から、喜びと幸福の交響曲に変えることができます。信仰を働かせることは、天の御父の幸福の計画に欠かせません。しかし、真の信仰、救いに至る信仰は、主イエス・キリストを中心とし、また、その教義と教えを信じる信仰、主の油注がれた者である預言者の教えを信じる信仰、人生を変える力のある自分の隠れた特性や特質を見いだす能力を信じる信仰を中心とするものです。まさに、救い主を信じる信仰は、行動と力の原則です。

信仰は創造の基本的な構成要素です。確かに、救い主イエス・キリストは、天の御父の指示の下、救い主としての御自身の役割に信仰を行使しておられます。主は信仰を行使することによって、銀河系から最も遠くにある星雲だけでなく、今日わたしたちが知る物質の最も小さな構成要素である粒子、クォークをもお造りになりました。しかし、驚嘆すべき創造にはクォークよりもさらに小さな構成要素があると、

わたしは信じています。

神殿で結び固められる夫婦が示すのは未来を信じる信仰です。彼らはイエス・キリストの教えと天の御父の幸福の計画に従うことで、二人の生活が喜びに満ちたものとなることを理解しています。試練に遭っても、その目的とするところは人を成長させることなので、生産的かつ人格を築く形で克服する道が聖霊の促しを通じて見いだせるということを認識しています。

信仰と人格の間には、密接な関係があります。神の戒めに従う力を信じる信仰は、必要に迫られたときに役立つ人格的な強さを築いてくれます。このような人格は、大きな試練や誘惑に遭う瞬間に培われるものではありません。そのような瞬間には、すでに培った人格を用いなければなりません。真の原則を信じる信仰を働かせるなら人格は築かれます。強められた人格は、さらなる信仰を働かせる能力を増します。その結果、人生の試練を乗り越えていく能力と確信がさらに強くなります。そして、人格が強まれば強まるほど、信仰の力を働かせることによる恵みをより受けられるようになるのです。信仰と人格がどのように作用し合い、互いを強

め合うのかが分かるでしょう。人格とは、原則や教義、従順という糸を根気よく編んでできる織物のようなものなのです。

ヒュー・B・ブラウン管長は、こう語っています。「人生でどのような状況に置かれているかにかかわらず、人は信仰によってのみ偉大で霊的に価値あるものを手にすることができます。人は信仰を持たずに生きていくことはできません。なぜなら、人生の冒険で中心となる課題は人格形成であり、人格形成は理屈の産物ではなく、理想を信じる信仰と、犠牲を払って理想に専心することから生まれるものだからです。」(Conference Report, 1969年10月, 105) わたしたちは行いによって信仰を働かせます。ジョセフ・スミスは次のように語っています。「信仰は行動と力の原則です。」(Lectures on Faith [1985年], 72)

わたしたちは、自分がそうありたいと願う人物になります。そのためには首尾一貫して毎日、自分がそうありたいと願う人物であらねばなりません。義にかなった人格は、皆さんがなろうとしている人物が備えるべき大切な特質です。義にかなった人格は、今手にしているいかなる物質、学習によって得たいかなる知識、あるいはこれまでに達成したいかなる目標よりもずっと大切です。たとえこの世がそういった事柄をどれほど称賛しようともです。現世という特権をどれほど有効に使ったか判断するために来世で評価されるのは、皆さんの人格だからです。

サタンもそのほかのいかなる力も、皆さんの培った人格を破壊したり、傷つけたりはできません。そうすることはできないのは、自分自身の不従順だけです。非の打ちどころのない人格は、欺きや背きにむしばまれるときに、価値のない灰へと変わるのである。

道義をわきまえた強固な人格は、人生の試練と試しの中で一貫して正しい選択をした結果として培われるものです。このような正しい選択は、自分が信じる事柄



き、従順にこたえる能力が高まります。一貫して信仰を働かせれば、強固な人格が形成されます。皆さんの人格の成長を支える確かな土台は、イエス・キリストとその教えを生活の中心とすることによって築かれるのです。

この地上の幸福だけでなく、永遠の救いを得るには、多くの正しい選択をする必要がありますが、難しい選択は一つもありません。それらの選択が合わさると、罪や背きという浸食作用に抵抗できる人格が形成されます。高潔な人格は、厳選された素材でできた貴重な磁器と同様、信仰によって形作られ、一貫性のある義にかなった行いで念入りに整えられ、人を向上させる経験という窯で焼かれます。非常に美しく大変貴重です。しかし、罪によって瞬く間に破損することもあります。元に戻すには、痛みを伴い、長期に及ぶ努力が必要となります。自制心で保護されれば、義にかなった人格は永遠に存続します。

物質的な事柄自体が、地上における幸福や満足、達成の喜びを生み出すことはありません。わたしたちを昇栄へと導くこともありません。人生にその進むべき方向を与えるのは、人格の高潔さ、すなわち無数の義にかなった決断で培われた内なる強さと確信です。一貫して義にかなった生活が、内なる力と強さを生み出すのです。この力と強さは、罪や背きという浸食作用に対して永続する抵抗力があります。イエス・キリストを信じ神の戒めを守ることによって、皆さんは自分の人格を強化することができます。皆さんの人格は、皆さんが今まさにどのような人物になろうとしているかを示す尺度です。それはこの試しの生涯の間、地上での時間をどれほど有効に使っているかを示す証拠です。

わたしたちのだれもが「支払った分だけ手に入る」という格言の意味を理解しています。この格言は霊的な事柄にも当てはまります。従順、イエス・キリストを信じる信仰、学んだ真理を地道に実践す

に信頼を置くときに行うことができます。また、そのような信条に従って行動するときに、その信条が正しいというさらなる確信が得られます。

信仰の基となる力の原則としてどのようなものがあるでしょうか。

- 神を信頼する。どんなに難しい状況でも、必要なときには神が喜んで助けてくださると信じる。
- 神の戒めに従って生活し、信頼に足る人物であることを神に示す。
- 聖なる御霊の静かな促しに敏感になる。
- 御霊の促しに、勇気をもってこたえる。
- 神があなたの成長のためにあなたが苦しむままにされているとき、また、長期にわたって答えが少しづつしか与えられないときに、忍耐し、広い視野に立つて考える。

「信仰とは待ち望んでいながらまだ見えないものである……。あなたがたは、

自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」(エテル 12:6) ですから、皆さんが「信仰を試す」度に、つまり何らかの印象に従ってふさわしい行動をする度に、御霊による確認の証を受けるのです。たとえ確信がなくても最善の判断に従い信仰を働かせながら歩むとき、ほかの方法では得られない答えに導かれるでしょう。どんなに強い信仰があっても、神が望みに応じてすぐに報いてくださるとは限りません。むしろ、神は、永遠の計画の中で皆さんにとって最もふさわしい方法で、最も実り多いときに、おこたえになるのです。時として、神は皆さんが答えを受けるまで長い間苦しむに任せられることがあります。感謝してください。そのような経験を通じて、皆さんの信仰が増し、皆さんの人格が培われるからです。

人格の基礎となるのは高潔さです。ふさわしい人格を培うと、御霊の導きに気づ

ることにおいても、自分が支払った分だけ手に入るのです。皆さんが手に入れるのは、磨かれた人格と高められた能力であり、試され喜びを得るといふ地上での目的を立派に成し遂げた生涯です。

人生において消極的であってはなりません。さもなければ、ふさわしく生活しようとする皆さんの努力を生まれながらの人がやがて台なしにしてしまいます。皆さんの行いと考えが、皆さんの将来を決めます。人格に足りない部分があると、人は欲望を満たしたり、個人的利益を追求したりするよう強いられることになります。見せかけの強さでひ弱な人格をしっかりと支えることなどできません。

目の前の状況に左右されて決断を下す人は、いつの日か、ほぼ確実に重大な罪を犯すことになります。真理という鉄の棒もそのような人を正しい道にとどめておくことはできません。そのような人は、戒め

から離れさせる多くの巧妙な誘惑にいつもさらされることになります。好ましくない選択をしても正当化します。それほど悪い選択ではないとか、社会に受け入れられやすく、仲間もたくさんできる選択はこちらの方だとか主張するのです。支えとなる原則がなくても器用に立ち回れば、一時的に目覚ましい業績を上げることができます。しかし、そのような業績は、砂の城のようなものです。人格の試しに遭うと、粉々に崩れてしまいます。その過程で、往々にして、ほかの業績まで台なしにしてしまいます。罪を犯した人が戒めに背いたことをどれほど入念に隠そうとしても、やがては、まず間違いなく、公の知るところとなります。サタン自身がそうなるように仕向けるからです。サタンとその手下は、天の御父の子供たち一人一人に可能な限りの害を及ぼそうと決意しています。たった一度でも重大な違反行為ある

いは背信行為があれば、必ず、ほかにも同様の行為はないかという疑念が生じます。周囲の人が抱いていた信用や信頼が根底から覆されるのです。

この現世は試しの場です。試しにどれほど正しく向き合うかで、皆さんの人格がどれほどしっかりしたものとなるかが決まります。イエス・キリストを信じる信仰とその教えを信じる信仰が皆さんの人格を高めてくれます。

わたしには自分で検証した事柄があります。それは、信仰、祈り、愛、謙遜といった概念は、経験を通して、また、聖き御霊の導きに助けられて、自分の特性となるまでは、何の重要な意味も持たないし、何の奇跡ももたらさないということです。若いころは、福音の教えは頭で学び、理性と分析の力でその大切さを理解できると思っていました。しかし、福音にはわたしの能力と想像力の限界を超えてわたしを高めてくれる途方もない力があると実感できたのは、それらの教えを忍耐強く実行し続け、聖き御霊がその意味を心にしみ込ませ深く理解させてくれたからのことでした。真心から奉仕しているとき、神がわたしの人格を築いてくださることに気づきました。神は御霊の導きを認識する能力を高めてくださいました。福音の計画の持つ特徴は、主に勧められていることを行うことによって、現世で平安と豊かな充実感を得るために必要なあらゆる理解、あらゆる能力が与えられるということです。またそれは、主のみもとで永遠に幸福な生活を送るために必要な備えにもなります。

証は、教えや義になかった行いが正なるものであることを確認する霊的な印象によって強められます。しばしばそのような導きには強烈な感情が伴います。涙が込み上げてきて、声が詰まることもあります。しかし、証は感情ではありません。証は、無数の正しい決断から生じる糸で織りなされた人格にとって、不可欠な要素です。自分が信じるもの、少なくとも最初のうちは、信じていながらまだ見ていない





アイルランド、ダブリン

ものに信頼を置くときに、このような選択を行うことができます。強い証は、平安と慰め、そして保証をもたらします。強い証は、救い主の教えにいつも従っていれば、人生は素晴らしいものとなり、将来は安定したものとなり、人生で遭う試練を克服する力が得られる、という確信を生むのです。証は真理を理解することによって強くなります。真理は祈ったり聖文に記された教義について深く考えたりすることで徐々に明らかにされます。約束された結果が得られるという不動の確信に支えられた信仰を持ち、真理に従った生活を送ることによって、証ははぐくまれていきます。

皆さんの証は、<sup>しやうぶん</sup> 自分自身の律法に喜んで従うときに、また、断食献金をささげるときに強くなります。主はこのことを通じて皆さんを豊かに祝福されます。皆さんの証が強められると、サタンはさらに激しく誘惑しようとしています。サタンの働きかけに負けないでください。皆さん自身が強くなればなるほど、サタンから受ける影響は弱くなります。

サタンの影響力は世界で増大していますが、それは同時に、わたしたち自身の強さを証明する環境が与えられているということでもあります。今日、サタンは大混乱を引き起こしていますが、サタンの最終的な運命はイエス・キリストの贖罪と復活によって決まっています。サタンは勝利を得ないのです。今でも、サタンは主が設けられた境界内で活動することしかできません。すでに与えられたいかなる祝福も取り去ることはできません。義になつた決断の蓄積により築かれた人格を変えることもできません。聖なる宮で結ばれた夫婦と子供との永遠のきずなを断ち切ることもできません。真の信仰を失わせることもできません。皆さんの証を取り去ることもできません。そうです。これらはわたしたちがサタンの誘惑に負けるときに失われます。しかし、サタンは自分自身の力でそれらを破壊することはできないのです。

要約すると――

- 神は皆さんの信仰を用いて、皆さんの人格を形成されます。
- 人格は、皆さんが今まさになろうとしている人物の姿を映し出すものです。
- 強固な人格は、一貫して正しい選択をした結果生まれるものです。
- 人格の根底にあるのは高潔さです。
- 人格が強められれば強められるほど、信仰を働かせる能力は増します。

謙遜とは、御霊を通して高い所から教えを受けることを可能にし、元々は主からの靈感であった源、例えば、聖文や預言者の言葉から教えを受けることを可能にする特質です。謙遜とは、義に<sup>ひよよく</sup> かなった人格をはぐくんでくれる貴重で肥沃な土壌です。そこで本人の成長という種が発芽します。信仰を働かせることで耕され、悔い改めによって刈り込まれ、従順と善い行いという囲いによって守られた種は、霊的な導きという実を結びます。その結果として、神の靈感と力、すなわち、主の御心を知る靈感、靈感により知った御心を果たす能力を高める力が得られるのです。

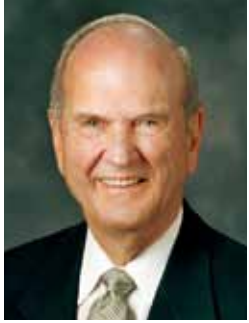
わたし自身の人生にこの上なく深い平安と幸福感をもたらしてくれた4つの原則を分かち合いたいと思います。主はその永遠の計画においてこれらの隅石を確立されました。その一つ一つが不可欠です。す

べての原則が調和しながら、互いに強め合っています。これらの原則を絶えず熱心に行うことで、強固な人格が形成され、人生の試練を幸福への足掛かりに変えていく能力が、今もとこしえにも増し加えられます。以下がその原則です。

- 主イエス・キリストを信じる信仰、およびイエス・キリストの計画を通して達成する力が得られるという信仰。
- してはいけないことをした誤り、あるいはするべきことをしなかった誤りの結果を正すための悔い改め。
- 生活に力と指針を与えてくれる主の戒めに対する従順。
- 周りの人の生活を豊かにする無私の奉仕。

義になつた生活を送ろうと決心しているのなら、落胆しないでください。今はつらい人生のように見えても、あの真理の鉄の棒にしっかりとつかまっています。皆さんは、自分で気づいている以上に進歩しているのです。一貫して神の戒めに従うとき、皆さんの苦難は、人格、自制心、そして天の御父と救い主の約束に対する確信をいっそう確かなものとしませぬ。聖霊の促しによって、皆さんが、人格を高め、多くの喜びと幸福をもたらす決断を常に下せまうように、イエス・キリストの御名<sup>な</sup>によって、アーメン。■





十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン長老

# 信者の 模範になりなさい

専任宣教師であろうと、会員であろうと、わたしたちはイエス・キリストの信者として良い模範となるべきです。

**愛**する兄弟の皆さん、今宵、わたしたちは世界各地で集っています。素晴らしい専任宣教師もいます。専任宣教師は皆立ってくださいますか。いずれの会場かは問わず、長老と伝道部長会は立ってください。皆さんに感謝しています。ありがとうございます。皆さん一人一人を愛しています。どうぞ座ってください。

時折、なぜ宣教師がいるのか思い出する必要があります。それは、主が次のように命じられたからです。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」<sup>1</sup>

これはイエス・キリストの完全な福音が回復されたおかげで新たにされた戒めの一つです。今日も新約時代と同じように宣教師が奉仕しています。使徒行伝には地上における主の務めの後に使徒やほかの弟子が行った初期の伝道について記されています。タルソのサウロの驚くべき

改宗とバプテスマ<sup>2</sup>についても記されています。サウロは以前、「主の弟子たちに対する脅迫、殺害の息をはずませ[て]」<sup>3</sup>、揺籃期の教会の会員を迫害していました。そのような始まりから、サウロは改心してパウロとなり、主の最も偉大な宣教師の一人となりました。使徒行伝の後半に当たる15の章には、パウロと同僚たちの宣教師としての働きが記録されています。

パウロは最も信頼を置いていた同僚の一人、若いテモテへの手紙でこのようにつづりました。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言

葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、**信者の模範になりなさい。**<sup>4</sup> この勧めは当時と同様、今日のわたしたちにも当てはまります。専任宣教師に当てはまり、教会員各自にも等しく当てはまります。専任宣教師であろうと、会員であろうと、わたしたちはイエス・キリストの信者として良い模範となるべきです。

## 専任宣教師

5万2,000人以上の専任宣教師が世界の340の伝道部で奉仕しています。彼らは信者であり、主の献身的な僕です。彼らの目的は「人々にキリストのもとへ来るよう勧めることです。そのために……イエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。」<sup>5</sup>

テモテのように、ほとんどの専任宣教師は年若い男性です。そのほかにも、姉妹やシニア宣教師がいます。わたしたちはどの宣教師も愛しています！宣教師は神の子供たちの人生をよりよくするために奉仕します。天の御父は一人一人の子供を愛しておられます。もちろん、それは彼らの御父だからです。御父は子供たちに最も大なる賜物、すなわち永遠の命を授けたいと望んでおられます。<sup>6</sup> どこで奉仕していても、宣教師はこれらのことを教

## ニュージーランド、オークランド



えます。人々が主を信じる信仰をはぐくみ、悔い改め、バプテスマと聖霊を受け、神殿の儀式を受け、最後まで堪え忍べるように助けます。神の業と栄光、すなわち「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」<sup>7</sup>は、各宣教師にとっても神聖な業と栄光なのです。

もっと多くの宣教師が必要です。ふさわしい宣教師が必要です。地上で教え導かれた間、主は弟子たちにこう告げられました。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。」<sup>8</sup>

総大会の今朝の部会で、わたしたちの愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長は、教会の若い男性一人一人に伝道に出る備えをするようにという願いを、熱意を込めて語りました。大管長のメッセージを教会のすべての家庭が心にとどめるよう願っています。

モンソン大管長の賢明な勧めにわたしの証を加えたいと思います。宣教師に注がれる祝福をわたしは自分の家族の中でよく見てきました。今日現在、子供、孫、そしてそれぞれの伴侶で専任宣教師として奉仕するために召されたのは49人で、今後まだ増えていくことでしょう。どの宣教師も、知恵が増し、判断力が高まり、信仰が開花しました。何世代にもわたる先輩たちのように、「〔彼らの〕心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕え〔る〕」<sup>9</sup>ために神の務めに<sup>い</sup>出で立ちました。宣教師として奉仕したことは彼らの永遠の行く末を方向づけるのに役立ちました。

### 会員宣教師

「信者の模範とな〔る〕」というパウロの勧めは、会員にも同様に当てはまります。ほとんどの会員は伝道に出たことも、今後出ることもないかもしれません。しかし、全員が会員宣教師となることができます。この言葉から、おもしろい出来事を思い出します。ある宣教師訓練センターの運動

場に看板があり、「宣教師以外立ち入り禁止」と書かれていました。その運動場を利用したいと思った人々は自分たちで作った看板を掲げました。それにはこうありました。「すべての会員は宣教師です！」

一人一人の会員は信者の模範となることができます。兄弟の皆さん、皆さん一人一人はイエス・キリストの信者として主の教えに添って生活できます。「純真な心と清い手」を持ち、「自分の顔に神の面影を刻まれ〔る〕」<sup>10</sup>ことができます。皆さんが行う善いことは人々にはっきりと分かるでしょう。<sup>11</sup> 主の光が皆さんの目に輝きます。<sup>12</sup> その輝きを持ったら、質問に答える準備もしておくといよいでしょう。使徒ペテロは次のように勧めました。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」<sup>13</sup>

温かく、喜びをもって答えましょう。そして、相手に合った答えを返しましょう。その人が神の子供であること、すなわち永遠の命を得るにふさわしくなって戻って来るよう切望されている神の子供であることを思い出してください。その人の救いと、キリストの教義への理解の扉を開くのはあなたかもしれないのです。<sup>14</sup>

最初の対応の後には、次の一步を踏み出す準備をしてください。教会と一緒に行くよう、友達を誘うことができます。わたしたちの友人の多くは、教会に来てよいこ

とを知りません。救い主は、御自身についてもっと知りたいと思った人々を「きてごらんないさい」<sup>15</sup>と招かれました。日曜日の集会と一緒に出席するよう、または教会の親睦会や奉仕活動と一緒に参加するよう招待することは教会への誤解を解き、気持ちよく訪れてもらうのに役立ちます。

会員として、知らない人々に手を差し出し、温かく歓迎してください。毎週日曜日は少なくとも一人の初対面の人と親交を深めてください。毎日の生活で友情の輪を広げる努力をしてください。

モルモン書を読むように友人に勧めることもできます。モルモン書が小説や歴史書ではないことを説明してください。イエス・キリストについてのもう一つの証なのです。その目的は「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させる」<sup>16</sup>ことです。この書物には、真理を誠心誠意求める人の心の琴線に触れ、生活を高める力があります。友達に、よく祈って読むよう勧めてください。

預言者ジョセフ・スミスは「『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」<sup>17</sup>と語りました。モルモン書はイエス・キリストの贖いについて教え、散らされたイスラエルを集めるという古代の約束をこの末日において成就するために神が用いられる道具なのです。<sup>18</sup>

何年も前、わたしの仕事場の二人の同僚、すなわち看護師の女性と医者をしているその夫はわたしに「なぜそのような生き方をしているのですか」と尋ねてきました。わたしは「モルモン書が真実であると知っているからです」と答えました。そして、わたしが使っているモルモン書を貸して、読むように勧めました。1週間後、彼らは丁寧に「ありがとうございました」と告げて返してきました。

わたしは尋ねました。「『ありがとうご





アイルランド、ダブリン

ざいました』とはどういうことでしょうか。この本を読んだとはとても思えない感想です。きちんと読まなかったのでしょうか。どうぞもう一度持ち帰って、読んでください。それから返していただきたいと思います。」

実はページを少しめくっただけだったと認めた二人は、わたしの勧めを受け入れました。次のときは涙を浮かべながらこう言いました。「モルモン書を読みました。それが真実であることを知りました。もっといろいろなことを知りたいです。」彼らはさらに学び、わたしは二人にバプテスマを施す特権にあずかりました。

福音を宣べ伝えるもう一つの方法は、皆さんの家庭で専任宣教師と会うよう友人を誘うことです。宣教師は福音を教えるために召され、備えられています。友人はあなたの家庭の心地よさとあなたが常に見守る中で救いと昇栄への旅路を歩み始めることができます。主は言われました。「あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている。わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしないからである。」<sup>19</sup>

聖文は「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる多くの人がいる」<sup>20</sup>と述べています。皆さんにとってチャンスではありませんか。人々が真理を見いだす仲立ちとなれるのです。

このインターネットの時代には、新しく、楽しい伝道方法があります。新しい mormon.org ウェブサイトを閲覧するよう友人や近所の人に勧めることができます。ブログを持っている人や、オンライン・ソー

シャルネットワークに登録している人は、自分のページに mormon.org のリンクをはることができます。mormon.org では個人のプロフィールを作成できます。プロフィールには自分の信じていること、体験や証を載せられます。まだ新しい機能ですので、ほとんどのプロフィールは英語ですが、今後、ほかの言語でのプロフィールも使えるようになるでしょう。

このプロフィールは大きな、良い影響を及ぼします。2か月前、大学1年生のザックという青年がルイジアナ州バトナージュで、mormon.org についてのテレビCMを見ました。ウェブサイトを開いてみた彼は、教会員たちのプロフィールに強い関心を持ちました。そして最寄りの教会の情報を載せたリンクを見つけました。次の日曜、白いワイシャツとネクタイを着けた彼は教会に出席し、ワードの会員に紹介され、3時間の集会にすべて楽しく参加しました。会員の家に夕食に招かれ、夕食後に宣教師から最初のレッスンを聞きました。2週間もたたないうちに彼はバプテスマを受け、教会の会員として確認されました。<sup>21</sup> ようこそ、ザック（彼もこの放送を聴いています。）

イエス・キリストを信じる、模範となる信者は皆、有能な会員宣教師となれます。会員と専任宣教師が力を合わせることで大切な友人や近所の人たちに福音の祝福をもたらすことができます。友人の多くは、約束どおり今集められているイスラエルの一員です。これらのことは皆、主の再臨への備えの一部です。<sup>22</sup> 主は、わたし

たちが心から信者の模範となることを望んでおられます。

神が生きておられることを知っています。イエスはキリストです。この教会は主の教会です。モルモン書は真実です。ジョセフ・スミスはモルモン書を翻訳し、この最後の神権時代の預言者となりました。トーマス・S・モンソン大管長は今日の神の預言者です。これらをイエス・キリストの神聖な御名により証します、アーメン。■

#### 注

1. マタイ 28:19-20
2. 使徒 9:3-18 参照
3. 使徒 9:1
4. 1テモテ 4:12。強調付加
5. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』1
6. 教義と聖約 14:7 参照
7. モーセ 1:39
8. ルカ 10:2
9. 教義と聖約 4:2
10. アルマ 5:19
11. マタイ 5:16; アルマ 7:24 参照
12. 教義と聖約 88:11 参照
13. 1ペテロ 3:15
14. 2ニーファイ 31:2, 21 参照
15. ヨハネ 1:39 参照。この規範については、黙示 6:1, 3, 5, 7も参照
16. モルモン書、タイトルページ
17. モルモン書、序文
18. 3ニーファイ 21:1-7 参照。(英文で)この7つの節が一文であることに注意(訳注——日本語版では7つの文に分かれている)。
19. 教義と聖約 29:7
20. 教義と聖約 123:12
21. ルイジアナ州バトナージュ伝道部会長ウィリアム・G・ウッズからの私信
22. マラキ 4:5; 3ニーファイ 25:5; 教義と聖約 2:1; 110:14-16; 128:17; 138:46; ジョセフ・スミス—歴史 1:38 参照



七十人  
パトリック・キアロン長老

# 「十分に 固い決意をもって わたしのもとに 戻って来〔なさい〕。 わたしは〔あなた〕を 癒いやそう。」

わたしたちの救い主は平和の君であり、大いなる癒しを与えてくださる御方です。罪という針……からわたしたちを真に清め……ることがおできになる唯一の御方です。

**今** 晩わたしは、孤独である、または見捨てられたと感じている人、心の平安を失った人、あるいは、もう一縷いちるの望みもないと感じているすべての人に慰めと癒しのメッセージを伝えます。完全な癒しと平安は救い主の足もとで見いだすことができます。

7歳のときアラビア半島に住んでいたわたしは、両親から必ず靴を履くようにいつも言われていました。理由は分かっていた。靴はヘビやサソリ、そしてトゲのある植物といった砂漠にある多くの恐ろしい危険から足を守ってくれるからです。

あるとき砂漠でキャンプをしました。翌朝、周囲を探検してみたいと思いましたが靴を履くのが面倒でした。ちょっと歩くだけで、キャンプから離れなければ大丈夫だと思い、靴ではなくビーチサンダルを履きました。ビーチサンダルだって靴の仲間だと自分に言い聞かせました。それに、大したことは起きないと思いました。

ビーチサンダルでひんやりした砂の上を歩いて行くと、土踏まずにトゲが刺さったように感じました。下を向いて目に入ったのはトゲではなくサソリでした。それがサソリだということと、何が起きたのかを理

解すると、刺された痛みが足の上の方にまで上って来ました。焼け付くような痛みがさらに広がらないよう足の上の方をぎゅっとなつかみ、大声で助けを求めました。両親がキャンプ場から飛んで来ました。

父がサソリをシャベルでたたきつぶし、一緒にキャンプをしていた両親の友人が勇敢にもわたしの足から毒を吸い出そうとしてくれました。そのとき、わたしは死ぬのだと思いました。両親は泣いているわたしを車に乗せ、最も近い病院へ向かって砂漠の中を猛スピードで進みました。最も近いと言っても2時間以上かかりました。足全体に激痛が広がり、車に乗っている間中、自分は死ぬのだと思っていました。

ようやく病院に着くと、医者は、この種類のサソリに刺されて危険なのは赤ちゃんといひ栄養失調の人だけだから心配ないと言いました。麻酔薬を打ってくれたおかげで足がまひして痛みの感覚がなくなりました。24時間もすると刺された影響は何もなくなりました。しかしわたしは大きな教訓を学びました。

両親から靴を履くように言われたとき、わたしはそれがビーチサンダルのことではないことを知っていました。ビーチサンダルは靴の代わりにならないことが分からないほど幼くはありませんでした。ところが砂漠でのあの朝、正しいと分かっていることをなおざりにしたのです。わたしは両親から繰り返し教えられていたことを無視しました。怠惰でもあり、少し反抗的でもありました。そしてその代価を払ったのです。

雄々しい若い男性の皆さんと、皆さんの父親、教師、指導者、友人の方々にこうして話す機会を借りて、主が必要とされる人物、望まれる人物になろうと懸命に努力するすべての方々に敬意を表します。しかしわたしは、正しいと分かっていることを無視すると、それが怠慢からであろうと反抗心からであろうと、好ましくない結果、そして霊を傷つけるような結果を必ずもたらすということを、少年時代、そして

大人になってからの経験から証あかしします。結局サソリに命を奪われることはありませんでしたが、自分も両親も大いに苦しみ、肝を冷やすことになりました。福音に従った生活をするとき、怠惰になったり反抗心を抱いたりしてはなりません。

イエス・キリスト教会の会員として、また神権を持つ者として、わたしたちは戒めと標準を知っています。わたしたちはそれらを守るという聖約を交わしました。親や指導者から教えられ、聖霊を通して心に確証を得たことにより、自分で正しいと知っている道があるにもかかわらず別の道を選ぶのは、靴の代わりにビーチサンダルを履いて砂漠の砂地へ足を踏み入れるようなものです。そうなるとわたしたちは、自分の怠惰な、あるいは反抗的な行動を正当化しようとします。特に間違っただけをしていないわけではない、大した問題ではない、鉄の棒を少しだけ離してもそれほど悪い事が起きることはないと言いかせさせるのです。ほかの皆もやっている、いや、皆はもっと悪いことをやっている、きっと悪い影響はないと思って自分を慰めることもあるでしょう。自分はこのルールには当てはまらない、だからルールを破っても、その結果は受けなくて済むと自分を納得させてしまうのです。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の中で言われているように「完全に従順になる」<sup>1</sup>ことを時として自分から拒み、心の一部を主から遠ざけます。するとサソリに刺されてしまうのです。

聖文は「主は心…を求める」<sup>2</sup>と教えています。そしてわたしたちは「心を尽くし〔て〕」<sup>3</sup>主を愛し主に仕えるよう命じられています。そうすれば、「終わりの日に神の前に罪のない状態で立てる」<sup>4</sup>ようになり、神のみもとへ帰ることができる約束されています。

モルモン書の中でアンタイ・ニーファイ・リーハイの民は、決して再び同胞に対して武器を取らないと聖約し、自分たちの武器を捨てて地中深く埋めました。しか

し彼らはそれ以上のことをしたのです。「彼らは義にかなった民とな〔りました〕。』なぜなら「彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と戦わ」<sup>5</sup>なかったからです。彼らの改宗は非常に完全で深いものだったので、彼らは「二度と道を踏み外〔しませんでした〕」<sup>6</sup>。

しかし、改宗する前の状態を思い出してください。彼らは、聖文にある「公然と神に背く者」<sup>7</sup>のような生活をしていました。「神の性質に反して行動してきた」ので、反抗心のために「幸福の本質に反する状態」<sup>8</sup>で生きることを強いられていた

のです。

謀反に使う武器を捨てたとき、彼らは主の癒しと平安にふさわしい者となりました。わたしたちも同じようにすることができます。救い主の言葉にわたしたちの心は安らぎます。「彼らがわたしに対してその心をかたくなにせず、強情でなければ、彼らは心を入れ替えるので、わたしは彼らを癒そう。」<sup>9</sup> 皆さんもわたしも「立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとの戻って来る……ならば、わたしは〔あなた〕を癒そう」<sup>10</sup>という招きを受け入れることができるのです。





この奇跡的な癒しは、次のような状態とは正反対のものです。「わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり……するとき、……天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。」そしてわたしたちは一人残されて「とげのある鞭をけり、……神と戦う。」<sup>11</sup>

兄弟の皆さん、わたしたちは偉大な医師、救い主イエス・キリストの足もとに来るときにのみ、癒しと安堵を見いだします。謀反の武器（それが何であるかはそれぞれが知っています）を捨てなければなりません。罪、虚栄心、高慢を捨てなければなりません。世に従い、世から尊敬され称賛されたいという願望を捨てるのです。神と戦うのをやめ、何もためらうことなく、心のすべてを神にささげなくてはなりません。そうすれば神により癒され、罪という毒針から清めていただくことが可能になるのです。

「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」<sup>12</sup>

ジェームズ・E・ファウスト管長はこう教えました。

「従順がわたしたちの目標になると、いらだつことがなくなります。それは障害ではなく踏み台となるのです。……

……従順は真の自由をもたらします。啓示された真理に従えば従うほど、わたしたちはもっと自由になります。」<sup>13</sup>

先週、第二次世界大戦で何回も大きな戦闘に加わった92歳の人に会いました。3度負傷しながらも生還した人です。一

度は乗っていたジープが地雷で爆破され、運転手が命を落としました。彼は地雷原で生き延びるためには、前の車が通った轍から少しも外れずに走らなくてはならないことを学びました。左右どちらかに少しでも外れると致命傷を負う可能性があり、また実際にそうなったのです。

わたしたちを破壊する攻撃を避けられるよう、預言者、使徒、指導者、親はたどるべき轍を絶えず示してくれます。彼らは地雷（あるいはほんとうのサソリ）が取り除かれた安全な道を知っており、後について来るよう根気強く勧めしてくれます。正しい道からそれるように誘惑する恐ろしいわなは実にたくさん存在します。インターネットやビデオゲームを通して不法薬物、アルコール、ポルノグラフィ、不道徳な行為へと迷い込むと、破滅へ向かってまっしぐらに進むこととなります。目の前に続く安全な道を右か左へそれることは、それが怠惰からであろうと反抗心からであろうと霊的な生活を送るうえで致命的な打撃となりかねません。このルールに例外はないのです。

しかし道からそれたととしても、わたしたちは自分を変え、元に戻り、喜びと心の平安を再び得ることができます。わたしたちは、地雷が取り除かれた道へ戻るときに計り知れないほどの安堵感を得られることに気づくことでしょう。

地雷原ではだれも平安を見いだすことはできません。

わたしたちの救い主は平和の君であり、大いなる癒しを与えてくださる御方です。罪という針と高慢という毒からわたしたち

を真に清め、わたしたちの反抗心を、改宗して聖約を交わす心に変えることができになる唯一の御方です。主の贖罪は無限であり、すべての人に及びます。

主が復活したキリストとしてニーファイの民を教え導いたときに与えられた勧めは、皆さんにもわたしにも当てはまります。「あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。」<sup>14</sup>

望みを完全に失った人は一人としていません。自分を変え、元に戻り、憐れみを請うことができます。癒すことができになる唯一の御方のもとへ来てください。そうすれば平安を得られるでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 伝道活動のガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』裏表紙の裏
2. 教義と聖約 64:34。強調付加
3. 教義と聖約 4:2; 59:5。強調付加
4. 教義と聖約 4:2
5. アルマ 23:7。強調付加
6. アルマ 23:6
7. モーサヤ 2:37; アルマ 3:18。モルモン 2:15も参照。
8. アルマ 41:11
9. 教義と聖約 112:13。強調付加
10. 3ニーファイ 18:32
11. 教義と聖約 121:37, 38
12. ヨハネ 3:17
13. ジェームズ・E・ファウスト「従順——自由への道」『リアホナ』1999年7月号, 53, 55
14. 3ニーファイ 17:7。強調付加



七十人  
フアン・A・ウセダ長老

# 主は、 生まれながらの人を 捨てるよう 教えておられる

わたしは、救い主の贖罪の力が確かにわたしたち自身と家庭を清め、聖なるものとしてくださることを証します。

ある朝のことでした。ある家族がいつものように聖文学習のために集まりました。父親は集まって来る家族が消極的な態度であると感じました。何人かがあまり気乗りしない様子だったからです。家族の祈りを終えて、聖文を読み始めたとき、父親は一人の子供が自分の聖典を持って来ていないのに気づきました。父親はその娘に部屋に行って聖典を持って来るように言いました。娘はしぶしぶ部屋へ行き、随分時間がたってから戻って来ると座って、こう尋ねました。「これはほんとうに今しなければいけないことなの。」

父親は、あらゆる義の敵であるサタンが家族に問題を起こして聖文学習を妨げようとしていると思い、気を静めて言いました。「そうだよ。今しなければいけないんだよ。主がそう望んでおられるのだから。」

すると娘は、「今はする気にならない

の」と言い返しました。

父親は思わず声を荒げて言いました。「ここはわたしの家だ。わたしの家ではいつも聖文学習をするんだ!」

その口調の厳しさと激しさに娘は傷ついて、聖典を手には家族の輪から飛び出し、自分の部屋に駆け戻り、荒々しくドアを閉めました。このようにして聖文学習は終わり、そのとき家族の間には愛も一致も感じられませんでした。

父親は自分が過ちを犯したことに気づきました。そこで自分の寝室に行き、ひざまずいて祈りました。主の子供の一人である心から愛する娘の心を傷つけてしまったことを知っていたので、主に助けを請い求めました。家庭に愛と調和の精神が戻り、再び家族で聖文を学ぶことができるよう主に願い求めたのです。祈っていると、「行って『悪かった』と言いなさい」という思いが頭をよぎりました。彼は家庭に主の御霊が戻るように続けて熱

心に祈りました。すると再び、同じ思いが心に浮かびました。「行って『悪かった』と言いなさい。」

彼は、良い父親になりたい、正しいことをしたいと心から望んでいました。そこで、立ち上がり、娘の部屋へ行きました。何度かそっとドアをノックしましたが、返事はありません。ゆっくりドアを開けると、ベッドの上で静かに泣いている娘の姿が見えました。父親はそばに行ってひざまずき、静かに優しく語りかけました。「悪かった。わたしがしたことを謝るよ。」父親は繰り返しました。「悪かった。愛しているよ。おまえを傷つけないんだ。」すると、子供の口を通して、主が父親に学んでほしいと望んでおられることが教えられたのです。

娘は泣きやみ、しばらく黙っていた後、自分の聖典を手にとって聖句を探し始めました。父親は純真な娘の細い指がページを次々にめくるのを見ていました。彼女は探していた聖句を見つけると、小さな声で読み始めました。「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」<sup>1</sup>

ベッドのわきにひざまずいたまま、父親は謙遜な気持ちでいっぱいになって思いました。「これは自分のために書かれた聖句だ……娘にすばらしいことを教えられた。」

すると、娘は父親の方を向き、こう言いました。「ごめんなさい。……ごめんなさい、お父さん。」

そのとき父親は、娘がその聖句を父親に当てはめるために読んだのではなく、彼女自身に向けて読んだことに気づいたのです。



彼は腕を広げて娘を抱きしめました。その瞬間、神の御言葉と聖霊によって和解がなされ、愛と調和が戻りました。娘が個人の聖文学習で読んで記憶していたこの聖句が、火のような聖霊の力で父親の心を動かしたのです。

愛する兄弟の皆さん、わたしたちの家庭は聖霊が宿る所でなければなりません。「神聖さにおいて、神殿と比べられるのは家庭だけである」からです。<sup>2</sup> 家庭には生まれながらの人のいるべき場所はないのです。生まれながらの人には「……自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり、あるいはいかなる程度の不義によって、人の子らを制御し、支配し、強制しようとする」傾向があります。その結果、「まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わり」となるのです。<sup>3</sup>

アロン神権またはメルキゼデク神権を持つわたしたちは、「いかなる力も影響力

も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、優しさと純粹な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである」ことをいつも覚えておくべきです。<sup>4</sup>

キリストのような特質をもって生活するよう努力するとき、わたしたちの家庭や生活から争いがなくなります。「あなたがたも互いに過ちを赦し合わなければならない。まことに、わたしはあなたに言う。隣人が悔い改めると言うときにその過ちを赦さない者は、自分自身に罪の宣告を招くことになる。」<sup>5</sup> 「ごめんなさい……ごめんなさい、お父さん。」

「平和の君」である主イエス・キリストは、家庭に平和を作り出す方法を教えておられます。

主はわたしたちに従順になるよう、すなわち主の御心と力に喜んで聞き従うように教えておられます。「行って、『悪かった』と言いなさい。」

また主は、柔和になるよう教えておられます。すなわち「穏やかで、優しく、寛大で、すぐに怒ったりいらだいたりせず、喜んで従い、人に傷つけられても忍耐する」ことです。<sup>6</sup>

主は、へりくだるように教えておられます。すなわち「高慢、横柄、尊大、傲慢とは対照的に、謙遜、控えめ、柔和、従順」でなければならないのです。<sup>7</sup>

「悪かった。わたしがしたことを謝るよ。」主はまた、忍耐強くあるように教えておられます。すなわち「不平を言ったり、いらだたずに不運に耐える」または「傷つけられたり気分を害されたりしても平静さを保つ」ことです。<sup>8</sup>

主はあふれるばかりの愛を持つよう教えておられます。「愛しているよ。おまえを傷つけないんだ。」

そうです、愛する兄弟たち、冒頭の話の中で主に助けを求めた父親のように、生まれながらの人を捨てるよう主は教えておられます。わたしたちが真に悔い改めるとき、父親が娘を愛の腕に抱いたように、救



い主も御腕を広げてわたしたちを抱いてくださるのです。

主は、主キリストの贖罪により聖徒になるよう教えておられます。そうすれば、わたしたちは神と和解し、神との親しい交わりにあずかるようになります。わたしたちが生まれながらの人を捨てて主に従おうと努めるとき、救い主の贖罪の力が確かにわたしたち自身と家庭を清め、聖なるものとしてくださることを証します。

主こそ「神の小羊」,<sup>9</sup>「聖なる正しいかた」,<sup>10</sup>「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君となえられる」<sup>11</sup> 御方です。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. モーサヤ 3:19
2. Bible Dictionary, "Temple" の項
3. 教義と聖約 121:37
4. 教義と聖約 121:41-42
5. モーサヤ 26:31
6. Noah Webster's First Edition of an American Dictionary of the English Language, 第9版(1996年), "meek" の項
7. Noah Webster's First Edition, "humble" の項
8. Noah Webster's First Edition, "patient" の項
9. ヨハネ 1:29
10. 使徒 3:14
11. イザヤ 9:6



大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

## 高慢と神権

高慢は神権の力を切断するスイッチであり、謙遜はその力を働かせるスイッチです。

**愛** する兄弟の皆さん、全世界で総大会のこの神権部会に集ってくださりありがとうございます。皆さんがどこにようと、出席しているということは、聖なる神権を持っていて、主なる贖い主イエス・キリストを敬って主に仕えている兄弟たちと行動を共にするという決意の表れです。

人は、思いと心に印象深く残っている出来事により、しばしば人生の様々な時期を振り返ります。わたしの人生にもそのような出来事が多々あります。その一つが1989年の出来事です。エズラ・タフト・ベンソン大管長の「高ぶりを心せよ」という、時代を超越した説教をその年に聞きました。その話の冒頭で、この主題がベンソン大管長の心に重くのしかかっていたと述べられています。<sup>1</sup>

わたしは過去数か月間、同様の心の重さを感じてきました。21年前のベンソン大管長のメッセージにもう一人の証人として話を加えるように、聖なる御霊の促しを受けたのです。

程度の差こそあれ、人は皆、高慢の罪にかかっています。それを回避できた人はおらず、克服している人もほとんどいません。このテーマで話すつもりだと妻に言ったところ、妻は笑いながら、「たくさん身に覚えのあることを話すのはいいことだわ」と言いました。

#### 高慢と誇り

わたしは、ベンソン大管長の影響力ある話から、興味深い別の結果がもたらされたことも思い出します。しばらく、教会員の間では、子供や国家を「誇り」に思う、あるいは仕事に「誇り」を持つと言う言葉が禁句になりました。高慢と同じ言葉である英語の「誇り(プライド)」という言葉がわたしたちの語彙から捨て去られたようでした。

聖文には、義を喜ぶと同時に神の慈しみをたたえる、善良で義にかなった人々の例がたくさん見受けられます。天の御父御自身が愛する御子を、「わたしの心になう者である」<sup>2</sup>と紹介しておられます。

アルマは「神の御手に使われる者」<sup>3</sup>になれるという思いに誇りを感じました。使徒パウロは教会員の忠実さを誇りとしました。<sup>4</sup>偉大な宣教師アンモンは、自分と兄弟たちが宣教師として達成した成功を誇りに感じていました。<sup>5</sup>

ある事柄を誇りに思うことと高慢になることとの間には違いがあると思います。わたしは多くの事柄を誇りに思っています。妻のこと、子供たちや孫たちのことを誇りに思っています。

教会の青少年を誇りに思っており、その善良さを喜んでます。愛する忠実な兄弟の皆さんを誇りに思っています。神の聖なる神権を持つ者として皆さんと一緒に



にいられることを誇りに思っています。

### 高慢は自分を高くする罪である

では、この種の気持ちと、ベンソン大管長が「至る所に見受けられる罪」<sup>6</sup>と呼んだ高慢の違いは何でしょうか。ベンソン大管長が印象深く教えているように、高慢は罪深いものです。それは憎悪と敵意を生み、神と同胞への反感をもたらすからです。根本的に高慢は比較の罪です。それは通常「わたしがどれほどすばらしい人か、またどれほど偉大なことを行ったか見てください」で始まり、いつも「だから、あなたより優れています」で終わるようです。

心が高慢で満たされると、由々しい罪を犯します。二つの大切な戒めを破るからです。<sup>7</sup> 神を礼拝し、隣人を愛する代わりに、自分の実際に崇拝し愛している対象が露見するのです。その対象とは鏡の中に見る自分です。

高慢は自分を高くする大きな罪です。多くの人にとって、それは個人のラミアンプトム、すなわち、ねたみ、<sup>ほんやく</sup>貪欲、虚栄心を正当化する聖台です。<sup>8</sup> ある意味で、高慢は原罪です。この地球の基が据えられる前に、「神の前で権威を持っていた」<sup>9</sup> 暁の子ルシフェルを倒したのは高慢でした。同様に、高慢が、有能で将来有望な人物を墮落させる可能性があるとするれば、わたしたちは自分を吟味するべきではないでしょうか。

### 高慢には多くの側面がある

高慢は致命的な<sup>がん</sup>癌です。そのほかの多くの弱さにつながる罪の始まりです。実際、その他の罪はどれも、本質的に、高慢の現れであると言えるでしょう。

この罪には多くの側面があります。この罪は、自負心や業績、才能、富、地位を人にひけらかすよう誘導します。「選ばれている」「優れている」、ほかの人々よりも「義にかなっている」という証拠としてこれらの祝福を数え上げます。これは「ほかの人に勝っていることを神に感謝する」という罪です。その中心には、称賛され、うらやましがられたいという思いがあります。自己賞揚の罪とも言えます。

ほかの人々に対しては、高慢はねたみに変わります。より高い地位、より多くの才能、より多くの財産を持っている人々を苦々しい思いで見ます。自分を高くして心得違いの不当な策を巡らし、相手を害し、傷つけ、引きずり落とそうとします。ねたむ相手がつまづき、苦しむとき、心の中で勝ちどきを上げます。

### スポーツの例

高慢の罪を見るのに最も良い例は、恐らくスポーツ界でしょう。わたしはスポーツの行事に参加するのも観戦するのも大好きです。しかし正直に言うと、スポーツにおける礼儀の欠如に困惑を覚えることがしばしばあります。普段は親切で思いやりのある人々が非常に寛大さを失い、相手チームとファンに対する憎しみでいっぱいになるのはどうしてでしょうか。

わたしはスポーツファンが相手を中傷し、悪魔扱いするのを見てきました。彼らは落ち度を探して誇張し、それを広く一般化して自分が憎むのを正当化し、相手チームに味方する者にそれを当てはめます。そして相手が不運に見舞われると喜びます。<sup>こんいち</sup>

兄弟の皆さん、残念なことに、今日、政治や民族、宗教に関する公の話の中に同じ態度と行為があまりにも多く見受けられます。

神権を持つ愛する兄弟たち、優しいキリストの弟子である愛する同胞の皆さん、わたしたちはより高い標準を持つてはいませんか。神権者であるわたしたちは、神の子供たち全員が同じユニフォームを着ていると思わなければなりません。わたしたちのチームは兄弟愛で構成されており、現世がグラウンドです。ゴールは神を愛することを学び、その愛を同胞に広めることです。わたしたちがいるのは神の律法に従って生活し、神の王国を打ち建てるためです。天の御父の子供たち全員を成長させ、高め、公正に扱い、励ますためです。

### 影響されてはならない

わたしは中央幹部に召されたとき、恵まれて多くの先任の兄弟たちから教えを受けました。ある日、ジェームズ・E・ファウスト管長を車でステーキ大会に送る機会がありました。車中で数時間を過ごす間に、ファウスト管長は時間をかけて、わたしの務めについて幾つかの重要な原則を教えてくださいました。教会員が特に中央幹部にどれほど優しいかについても説明してくれました。そしてこう言いました。「あなたもとても親切にされるでしょう。あなたについて快いことを言われるでしょう。」それから少し笑いながら言いました。「ディーター、それに感謝してください。しかし、決してそれに影響されないように。」

兄弟たち、その言葉はどんな召しでも、どんな状況でも、わたしたち全員にとって良い教訓です。健康や富、財産、地位を感謝できますが、それに影響され始めるようになると、すなわち、自分の立場だけを考えたり、自分自身の重要性や力、評判に集中したり、自分に対する人々の思いに心を奪われ、自分についての話を信じたりするようになると、それはトラブルの始まりです。高慢が墮落を招き始めます。

聖文には高慢について多くの警告があります。「高ぶりはただ争いを生じる、勧告をきく者は知恵がある。」<sup>10</sup>

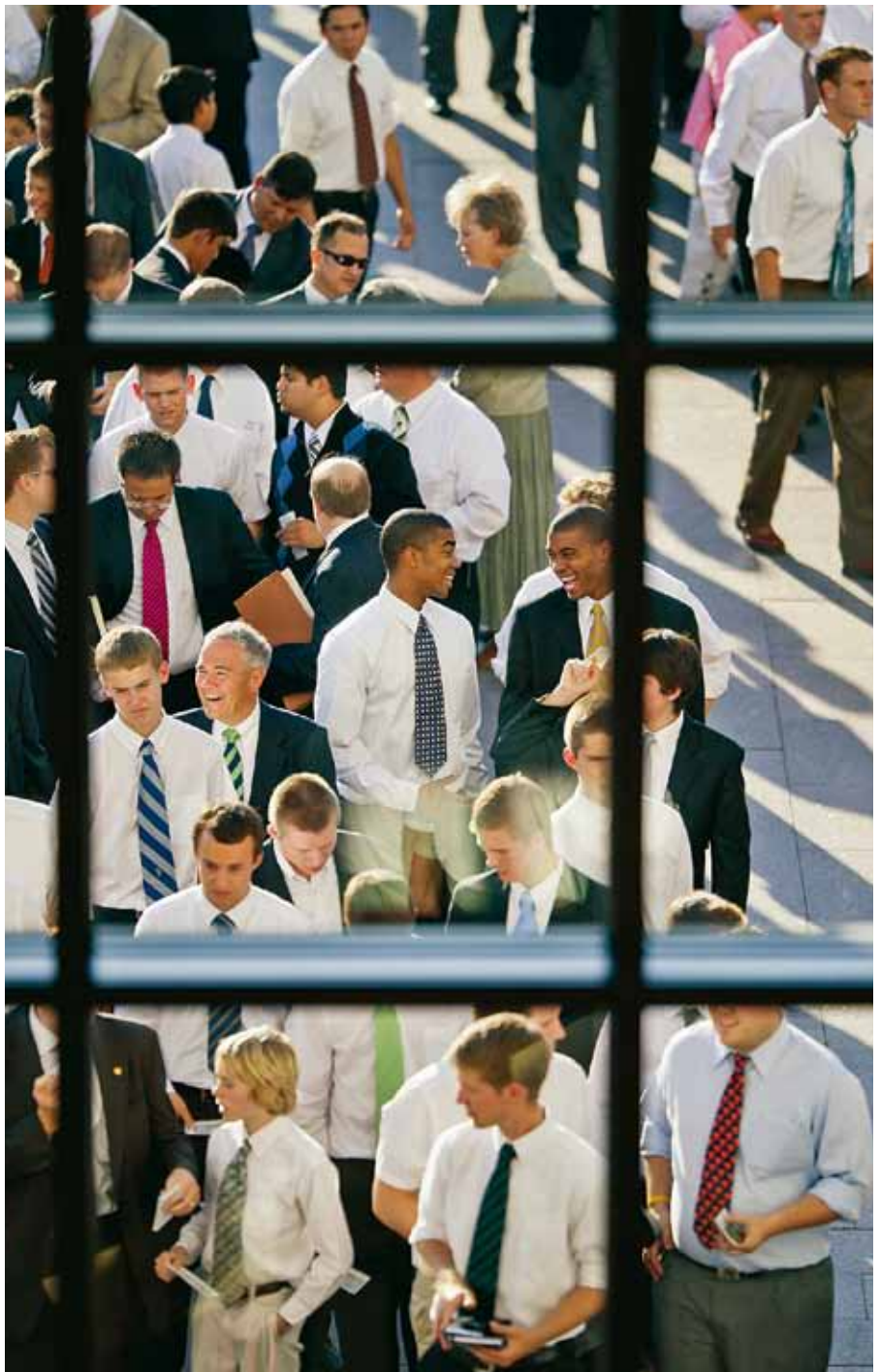
使徒ペテロは、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」<sup>11</sup>と警告しています。モルモンは、「柔和で心のへりくだった人でなければ、神の御前に受け入れられない」<sup>12</sup>と述べています。主は目的をもって、「強い者はずかしめるために、この世の弱い者を」選んでおられます。<sup>13</sup> それにより、主の業に御手が置かれていることを示されるのです。わたしたちが「肉の腕に頼る」ことのないようにするためです。<sup>14</sup>

わたしたちは主なる救い主イエス・キリストの僕です。礼を言われ、称賛を受けるために神権を与えられているわけではありません。そでをまくって熱心に働くためにわたしたちは存在しているのです。普通の務めに携わっているではありません。主なる救い主イエス・キリストの来臨に世を備えるために召されているのです。自分の名誉を求めず、神に賛美と栄光を帰します。わたしたちは自分の貢献が小さいことを知っています。それでも、義にかなって神権の力を行使するとき、その努力により、神は大いなる驚くべき業が現れるようにしてくださいます。モーセのように、わたしたちは、「人は取るに足りないものである」<sup>15</sup>が、「神にはなんでもできない事はない」<sup>16</sup>ということを知らなければなりません。

### イエス・キリストは謙遜の完全な模範である

すべてのことと同様、このことでもイエス・キリストは完全な模範です。ルシフェルが御父の救いの計画を変えて自分に誉れを得ようとしたとき、救い主は、「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように」<sup>17</sup>と言われました。偉大な能力と功績にもかかわらず、救い主は常に柔和で謙遜であられました。

兄弟の皆さん、わたしたちは「神の御子の位に従う聖なる神権」<sup>18</sup>を持っています。それは神に代わって行うためにこの世の



人々に神から授けられた力です。神の力を行使するために、救い主のようになるよう努めなければなりません。すなわち、救い主と同じように、すべてのことについて御父の御心を行うようにします。<sup>19</sup> つまり、救い主と同じように、御父にすべての栄光を帰します。<sup>20</sup> すなわち、救い主と同じように、自分のことを忘れてほかの人々に奉仕するのです。

高慢は神権の力を切断するスイッチで

あり、<sup>21</sup> 謙遜はその力を働かせるスイッチです。

### 謙遜であり、愛に満ち

では、広範囲に及ぶ、有害な、この高慢の罪をどのように克服できるでしょうか。どうすればもっと謙遜になれるでしょうか。

心が慈愛で満たされると、高慢になることはまずありません。「人は謙遜であり、愛に満ち[てい]なければ、だれもこの



業を助けること」はできません。<sup>22</sup> キリストの純粋な愛のレンズを通して周囲の世界を見ると、謙遜について理解するようになります。

謙遜とは自分を責めることだと考えている人々がいます。謙遜とは、自分はふさわしくない、役に立たない、あまり価値がないと自分に言い聞かせることではありません。神から与えられた才能を否認したり、使わなかったりすることではありません。自分を過小評価することで謙遜を知るのではなく、自分を勘定に入れずに行動することで謙遜を知ります。神と同胞に仕えるという姿勢で務めを果たすときに謙遜になります。

謙遜であれば、ほかの人々と天の御父の目的にわたしたちの注意と愛が向きます。高慢はその逆です。高慢は利己心という深い井戸からそのエネルギーと強さをくみ上げます。わたしたちが自分のことばかり考えるのをやめ、自分を忘れて奉仕すると、その瞬間に高慢は減り、消え始めるのです。

愛する兄弟の皆さん、自分のことではなく、心に向ける必要のある相手が非常に大勢います。自分の家族、自分の妻のことを忘れないでください。わたしたちが奉仕できる方法は実にたくさんあります。自分のことにかまけている時間はないの

です。

わたしがかつて航空機の機長を務めていたときに愛用していたペンがありました。グリップを回すだけで、4色のうちの1色を選ぶことができました。青色ではなく赤色を使おうとしても、ペンは文句を言いません。「午後10時以降や、深い霧の中や、高い高度では書きたくない」とも言いません。「日常の平凡な仕事ではなく、重要書類のためにだけ使ってほしい」とも言いません。重要であろうとささいであろうと、それはわたしが必要としたすべての仕事を大きな信頼性をもって果たしました。いつも仕える準備ができていました。

同じように、わたしたちは神の御手の中の道具です。心が正しければ、割り当てられた務めが自分の能力に合っていないと文句を言うことはありません。どこで求められようと、快く奉仕します。すると、主は業を成し遂げるために、わたしたちの理解を超えた方法でわたしたちを使ってくださいなのです。

21年前のエズラ・タフト・ベンソン大管長の靈感されたメッセージでこの話を終わります。

「高慢はシオンの大きなつまずきの石です。

わたしたちは高慢を克服して器の内側

を清めなければなりません。<sup>23</sup>

『聖なる御霊の勧めに従い』、『生まれながらの』高慢な人を捨て、『主なるキリストの贖罪により……聖徒となり』、『子供のように従順で、柔和で、謙遜』になるのです。<sup>24</sup>

「神は謙遜な民を求めておられます。……『やむを得ずへりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸い』<sup>25</sup>です。

自分からへりくだる道を選びましょう。わたしたちにはそれができます。確かにできるのです。<sup>26</sup>

愛する兄弟の皆さん、救い主の模範に従い、人の称賛や誉れを求めず、仕えるために手を差し伸べましょう。心の中の義にかなわない高慢を認識し、根絶し、それを「義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和」<sup>27</sup>に替えましょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. エズラ・タフト・ベンソン「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号, 4
2. 3ニファイ11:7
3. アルマ29:9
4. 2テサロニケ1:4 参照
5. アルマ26章参照
6. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1989年7月号, 7
7. マタイ22:36-40 参照
8. アルマ31:21 参照
9. 教義と聖約76:25
10. 箴言13:10
11. 1ペテロ5:5
12. モロナイ7:44
13. 1コリント1:27
14. 教義と聖約1:19
15. モーセ1:10
16. マタイ19:26
17. モーセ4:1-2 参照
18. 教義と聖約107:3
19. ヨハネ8:28-29 参照
20. ヨハネ17:4 参照
21. 教義と聖約121:34-37 参照
22. 教義と聖約12:8
23. アルマ6:2-4; マタイ23:25-26 参照
24. モーサヤ3:19. アルマ13:28も参照。
25. アルマ32:16
26. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1989年7月号, 7
27. 1テモテ6:11



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

# 御霊とともに奉仕する

聖霊を伴侶とするにふさわしくあるために必要なことをすべて行い……ましょう。

**神** 権を神から授けられるという栄誉を受けている皆さんと集うこの機会に感謝しています。わたしたちは天の御父の子供たちに仕えるため、神の力を使うよう召されています。この務めをどのように果たすかによって、わたしたちが召されて仕える人々に、わたしたち自身に、これから誕生する世代に、永遠の影響を与えることになるでしょう。

ある二人の神権者を思い起こすときにわたしは畏敬の念を抱きます。彼らは神の御霊を受けるにふさわしく、御霊とともに行って主から召された務めを果たしました。彼らはアメリカで回復された福音を見いだしました。そして彼らは主の僕として、わたしの二人のヨーロッパ人の先祖に初めて福音を伝えたのです。

その先祖の一人はスイスの小さな農場に暮らす少女でした。もう一人は親を失った少年で、ドイツから合衆国のミズーリ州セントルイスに渡って暮らしていました。

二人とも一人の神権者が回復された福音について証するのを聞きました。少女はスイスの小さな自宅の暖炉のそばで、少年はアメリカの貸しホールの階上席で聞きました。二人とも長老たちが携えて来たメッセージが真実であることを御霊によって知りました。

その少年も少女もバプテスマを受けることを選びました。何年も後に、ほこりにまみれながら、アメリカ西部の山間地帯に

向かう長い道のりを歩いていたときに、二人は初めて出会います。二人は歩きながら話しました。二人が話し合ったことは、奇跡的な祝福について、つまり神の僕が世界中から二人を見つけ、さらに奇跡的なことに、二人ともそのメッセージが真実であることを知ったということでした。

二人は恋に落ち、結婚しました。神権者が御霊の影響を受けて語った言葉を聞いたときに芽生えた御霊の証のために、二人は神権の力によって永遠に結び固められたのです。わたしは、この少年と少女の数万にも及ぶ子孫の一人です。わたしたち子孫は、この二人の神権者の名前をたたえています。彼らは、スイスの丘を登り、セントルイスの集会で立ち上がって話したときに、神の御霊の力をもたらしたのです。

この幸せな物語と数百万の同様の物語が世界中で繰り返され、また幾世代にもわたって繰り返されることでしょう。それは若いホームティーチャーの言葉があなたの祖父に教会へ戻る望みを燃え上がらせた話かもしれませんし、祝福師の慰めと祝福に満ちた言葉が、悲しみに押しつぶされそうだったあなたの母親を支えた話かもしれません。

これらの物語にはすべて共通のテーマがあります。それは神権者のうちにある神権の力についてであり、彼が仕え、祝福する力が聖霊によって強められるというこ

となのです。

そこで、わたしの今夜のメッセージはこうです。聖霊を伴侶とするにふさわしくあるために必要なことをすべて行い、主が求められることを何でも行う力が得られるように、恐れることなく前進しましょう。奉仕する力が増す速度は遅いかもかもしれません。ゆっくりしていて進歩が目に見えないかもしれませんが、必ず進歩します。

今晚わたしは、神権の奉仕の業において聖霊を伴侶として受けるふさわしさを身に付ける方法を幾つか提案します。それから、御霊の影響力によって、奉仕する力が強められることが分かるように、神権の奉仕の実例を幾つか紹介します。

さて、教会員に確認されるときに、聖霊の賜物が授けられることは、わたしたち全員が知っています。けれども、生活の中でまた奉仕するときに聖霊を伴侶とし、聖霊の現れを受けるには、それにふさわしく生活する必要があります。

霊的な賜物を養うには、戒めを守り、罪なく生きるよう努めなければなりません。そのためには、イエス・キリストを信じ、悔い改め、贖罪によって清められる必要があります。したがって、わたしたち神権者は、回復された教会の会員に聖餐会で毎回与えられている、あの約束を心から交わす機会を決して逃すべきではありません。それは次の約束です。「進んで〔神の〕御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守〔り〕、……いつも御子の御霊を受け〔る。〕」<sup>1</sup>

御霊を受けるには罪からの清めが必要ですが、御霊の必要性に気づくには神の御前において謙遜になることが必要です。モルモン書に記されているように、復活された救い主の弟子たちはその謙遜さを表しました。

救い主は彼らが教えを受ける備えができるよう助けておられました。彼らはひざまずいて祈っていました。こう記されています。「彼らは、自分たちが最も望んでいるものを求めて祈った。聖霊が授けられ



アイルランド、ダブリン

るようにと望んでいたのである。』<sup>2</sup> 彼らは皆さんと同じようにバプテスマを受けていました。そして記録によれば、彼らは願いがこたえられて、聖霊と火に満たされました。

救い主は、主への信仰のゆえに主が選んだ者たちに聖霊が与えられたことを、御父に感謝するために声に出して祈られました。続いて、救い主は彼らが仕える人々に霊的な祝福を授けることができるよう祈られました。主は御父にこう嘆願されました。「父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に聖霊をお与えください。』<sup>3</sup>

主の謙遜な僕であるわたしたちは、奉仕に携わる自分たちと、自分たちが仕える人々に、聖霊の現れがあるよう祈るべきです。聖霊を伴侶とするにふさわしくするには、イエス・キリストに対する深い信仰を持ちながら、天の御父にへりくだって祈る必要があります。

霊的な賜物を招くのに必要な謙遜さと信仰を増すには、聖文を読み、研究し、深く考える必要があります。皆、そのことを聞いたことがあります。けれども、聖文を毎日数行か数ページ読んで、これで十分だと思うのです。

しかし、読むことと、研究することと、深く考えることは同じではありません。読めば何かに気づき、研究すれば聖文中のパターンと関連性を見いだすでしょう。しかし、深く考えるときに、御霊の啓示を招くのです。わたしの場合深く考えるとは、聖文を入念に読み、研究した後に考え、祈ることを意味しています。

わたしにとって、ジョセフ・F・スミス大

管長は、深く考えることによって神から光がもたらされることについての模範です。教義と聖約第138章にそのことが記されています。彼は、主の御言葉を聞くことなく死んだ人々に救い主の贖罪の力が及ぼされることについて理解するために、多くの聖文を読み、研究していました。そのとき、このようにして啓示が与えられました。「書き記されているこれらのことを深く考えていると、わたしの理解の目が開かれ、主の御霊がわたしのうえにとどまった。そして、死者が小さな者も大なる者ともに群れを成しているのが見えた。』<sup>4</sup>

神権による奉仕において御霊の賜物を受けるにふさわしくするためには、悔い改めること、祈ること、聖文を深く考えることが欠かせません。聖霊の助けを受けながら、信仰をもって召しを果たしていくうちに、わたしたちの奉仕する力がさらに大きくなってきます。

トーマス・S・モンソン大管長はこう説明しています。「[あなたの] 召しを尊んで大なるものとするとは、どういう意味でしょうか。その召しが威厳をもって確立され、……さらに拡大され強化されて、それを通して人々に天の光が輝きわたることです。では、どのようにして召しを尊んで大なるものとすることができるのでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。』<sup>5</sup>

わたしたちは皆、二つの奉仕の業に召されています。御霊の影響の下で果たすとき、奉仕する皆さんの力が強まり拡大していることが自分の目にも人々の目にも明

らかになります。

第1は、主の代理人として人々に教え、証することです。主はこの奉仕の召しを果たす者の中に、最も若く経験の浅いアロン神権者を含めておられます。アロン神権者の義務について説明した後、主は次のようにおっしゃいました。

「しかし、教師や執事には、バプテスマを施し、聖餐を執行し、あんしゆ 接手を行う権能はない。

しかしながら、彼らは警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない。』<sup>6</sup>

今週、世界のどこかで、定員会集会にまだ来たことのない定員会の会員を連れて来るように定員会の会長から要請を受けている執事がいることでしょう。13歳の会長は「警告し、説き明かし、教え〔る〕』という言葉を使うことはないでしょう。しかし、救助の割り当てを受けた執事がそれを行うよう主は期待しておられます。

定員会の会員のところに行く召しを受ける執事の皆さんに、3つのことを約束します。第1に、助けを祈り求めるなら、御霊は恐れを和らげてくれます。第2に、その人の家に着いたとき、その人と一緒に教会に歩いて戻る間に、言うべきことが分かり、あなたは驚くでしょう。何を言うべきか考えると混乱しそうになるかもしれませんが、必要なときに言葉が与えられるのを感じるでしょう。第3に、結果はどうであれ、会長を通じてあなたを召された主があなたの奉仕を認めてくださるのを感じるでしょう。

成功を保証することはできません。すべての人には、神の僕にどう応じるかを選ぶ自由があるからです。けれども主の代理として皆さんが話しかける執事は、あなたが来てくれたことを忘れないでしょう。わたしは一人の少年を知っています。彼は成人した今も教会から離れています。彼は、20年前に彼を探すために遣わされて来たある執事から、そのような訪問を受けたことを自分の祖父に話しました。そ

の当時は何の効果もなかったかのように思われました。しかし彼は、やって来た執事の名前さえ覚えていたのです。その祖父は、招き、勧め、教える召しを受けたその執事に感謝したいので、捜してほしいとわたしに言いました。それは一人の少年の生涯のうちわずか1日のことでしかありませんでしたが、その祖父と主は少年が靈感によって語った言葉と彼の名前を覚えておられるのです。

年齢に関係なく、集会で主の御名によって話すよう求められたすべての人に、自己不信や力不足という気持ちを追い払うよう強く勧告します。飾り立てた言葉を使う必要もなければ、深い真理を語る必要も

ありません。簡潔な証で十分なのです。御霊は、話すべき言葉を教えてくれ、神からの真理を待ち望んでいる謙遜な人の心にその言葉を届けてくれます。主の代わりに話そうと努めるなら、御霊の助けを受けて、人々を祝福するために、あなたが自分の力をはるかに超えた力をもって警告し、勧め、教え、招いていたことに気づいて、驚く日が来ることでしょう。

教える召しに加えて、わたしたちは皆、助けを必要とする人を助けるために主から遣わされます。これはもう一つの神権の奉仕です。皆さんは御霊の影響力を受けて仕える力が増すのを感じるでしょう。人々の顔を見て、その人たちの痛みや悩み

をもっと感じ取ることができるようになります。また、定員会会員の名前や顔が、彼らが助けを必要としているという印象とともに頭に浮かんでくることでしょう。

ビショップは夜中に、また、壇上からワードの会員を見るとき、そこにいない人々について考えるとき、また病院や養護施設の近くを通るときにそのような気持ちになります。わたしは病院のドアを開けて中に入ったときに、「あなたが来ることが分かっていました」と言われたことが1度以上あります。

その場で、何を言い、何をすべきかが分からなくても心配ありません。神の愛と聖なる御霊があれば十分です。若いこ





総大会の説教を通訳するイタリア・ローマの会員たち

ろわたしは、大きな苦難を味わっている人に何を言い、何をすべきか分からず、不安を抱いていました。

重い症状で入院中の父に付き添っていたときの事です。廊下から看護師たちのざわめきが聞こえてきました。突然、スペンサー・W・キンボール大管長が病室に入って来て、父のベッドを挟んで反対側に座りました。わたしは心の中で思いました。「この機会に、痛みや苦しみの中にある人を見舞うことの達人が何を言い、何を行うかをよく見てみよう。」

キンボール大管長は簡単にあいさつすると、神権の祝福を受けたかどうかを尋ねました。父がすでに受けたと答えると、預言者はいすに深く腰かけました。

わたしにない、貴重な慰めのテクニックが披露されるのを待っていました。5分くらい、何も言わずに互いにほほえんでいる二人を見ていると、キンボール大管長は立ち上がって言いました。「ヘンリー、君が疲れる前に、おいとまするよ。」

学習する機会を逃したと思いましたが、それは後に訪れました。父が退院できるまでに回復したとき、父と静かなひとときを過ごしているとキンボール大管長の訪問が話題に出ました。父は静かにこう言いました。「お見舞いの中で、わたしを最も元気づけてくれたのは、大管長の訪問だった。」

キンボール大管長は多くの慰めの言葉をかけませんでした。少なくともわたしは聞きませんでした。しかし、大管長は慰めを与えるために主の御霊とともに来ました。彼がモンソン大管長の教えを実践していたことが、今になって分かります。「どのようにして召しを導んで大いなるものとすることができるのでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。」

これは、御霊によって福音を教えるよう召されたときにも、弱くなったひびを強め、垂れた手を上げるために聖霊とともに行くときにも、当てはまります。<sup>7</sup> 神権の奉仕の業は強化され、人々は祝福を受け、天の光がそこにさすことでしょう。天の光はわたしたちにも、奉仕を受ける人にも輝きます。疲れることもあるでしょう。自分や家族の問題が大きく立ちのぼることもあるでしょう。けれども、御霊の影響の下で奉仕する人には励ましの祝福が与えられます。

ジョージ・Q・キャノン管長は長年にわたる神権の奉仕の期間に、多くの悲しみや反対や試練を経験しました。また、苦難のときや困難な務めを果たすとき、聖霊を伴侶とする経験をしました。以下は、教会や家庭の中で神権の奉仕に携わるわたしたちへの約束です。わたしにとっては、その約束は、神権の業の中に御霊を感じるときに成就しています。「闇が心を

覆うときはいつも、神の御霊が自分から退いて行ったことが分かるだろう。……神の御霊に満たされているときは、どのような状況にあっても、喜び、平安、幸福で心が満たされている。なぜなら、それは喜びと平安の霊だからである。主はわたしたちに聖霊の賜物を与えておられる。聖霊にわたしたちの内側を統治していただいて、朝から夜まで、また夜から朝まで、喜びと光と聖霊からの啓示が受けられるようにしていただくのは、わたしたちの特権である。」<sup>8</sup>

神権の奉仕の業を忠実に果たしている途中で困難に遭遇し必要を感じたときにはいつも、幸福と喜びの祝福を待ち望むことができます。

わたしたちは預言によって神から召されていることを証します。この教会は預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストのまことの教会です。神は生きておられ、わたしたちのすべての祈りを聞いておられます。イエスは復活されたキリストであり、わたしたちの救い主です。皆さんはこれらが真実であることを、奉仕の業に携わるときに皆さんに訪れる聖霊の力によって知ることができます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 教義と聖約 20 : 77
2. 3 ニーファイ 19 : 9
3. 3 ニーファイ 19 : 21
4. 教義と聖約 138 : 11
5. トーマス・S・モンソン大管長「神権の力」『リアホナ』2000年1月号、60
6. 教義と聖約 20 : 58 - 59
7. 教義と聖約 81 : 5 参照
8. ジョージ・Q・キャノンの言葉、ブライアン・H・スタイン編、*Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻 (1987 - 1992年), 第4巻, 137に収録





# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会

2010年 10月現在



第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング



大管長  
トーマス・S・モンソン



第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ

## 十二使徒定員会



ロバート・D・ヘイルズ



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・ホークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ニール・L・アンダーセン



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファerson



ロナルド・A・ラスバンド



クワイグ・A・R・M・エヴァンス



スティーブン・E・スノー



ウォラター・B・ゴンザレス



L・ホイットニー・クラヴレン



ジェイ・E・ジエンセン



ドナルド・L・ホールストロム

## 七十人会長会

七十人第一定員会

(アルファベット順)



マルクス・A・アイトケン



マーク・H・アマート



マーク・B・アーニールド



スティーヴ・S・ビディズ



マーク・M・ブリエン



スティーヴ・D・チェルトン



マーク・H・チェイ



スティーヴ・C・クレアリー



ジョン・J・ガウリン



スティーヴ・E・ローファー



スティーヴ・W・オ'CONNELL



スティーヴ・W・オ'CONNELL



スティーヴ・W・オ'CONNELL



スティーヴ・W・オ'CONNELL



ベン・H・オハラ



ジョン・B・ディヤング



ケビン・R・ダンカン



スティーヴ・F・ドウィット



エリック・R・エンライト



エリック・V・ジョンソン



カルロス・A・ゴイディ



クリストフェル・C・コース



ジョセフ・W・ジェット



スティーヴ・W・ジョンソン



スティーヴ・W・ジョンソン



スティーヴ・W・ジョンソン



スティーヴ・W・ジョンソン



スティーヴ・W・ジョンソン



ジェームズ・J・ハラ



キース・K・ヒルビグ



リチャード・G・ヒンケル



マーティン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



ポール・V・ジョンソン



ポール・K・カロン



リチャード・S・リー



ポール・E・コーリス



エリック・W・コシェヴァル



ポール・D・フォスター



ポール・W・キブベン



ポール・R・クライン



ポール・R・クライン



リチャード・J・メイヤーズ



マーク・B・チャップル



ブレント・H・ニールソン



アラン・F・バック



ケビン・W・ビアガン



アンソニー・D・パークインズ



ポール・B・バーバー



ラファエル・E・ピナ



ポール・D・ポーター



ポール・B・プラット



ポール・B・プラット



ポール・B・プラット



ポール・B・プラット



ポール・B・プラット



トーマス・T・リングワルド



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・G・ロビンズ



ポール・A・ヴェッター



ポール・J・ベラス



ポール・R・ワッカー



ポール・D・ライト



ポール・F・ウェブ



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト

七十人第二定員会

(アルファベット順)



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



ポール・D・ライト



第180回半期総大会に集った末日聖徒たち。  
上から時計回りに、ブラジル・サンパウロ、  
ニュージーランド・オークランド、  
アルゼンチン・フォルモサ、  
南アフリカ・ケープタウン、  
スウェーデン・ストックホルム、  
アイルランド・ダブリン、  
ウルグアイ・モンテビデオの会員たち





トーマス・S・モンソン大管長

# 選**び**についての 3つのR

わたしたちは皆、正しい選**び**をするのに必要な道具を携えて地上にやって来ました。

**神**権を持つ愛する兄弟の皆さん。今晚、靈感により皆さんに伝えようと感じていることを話すに当たって、天の御父の助けを頂けるよう心から祈っています。

最近、選**び**とその結果についてよく考えています。わたしたちは常に何かを選んでいきます。ささいな選**び**もあれば、とても大きな影響を及ぼす選**び**もあります。永遠という観点からは意味のない選**び**もあれば、永遠において**きわめて重要な選**び****もあります。

選**び**には様々な側面があるということ深く考えながら、わたしはそれらを3つに分けてみました。1番目は選**ぶ権利**（英語では right）、2番目は選**ぶ責任**（英語では responsibility）、3番目は選**びの結果**（英語では results）です。わたしはこれを、その頭文字を取って、「選**び**についての3つのR」と呼びます。

まず、選**ぶ権利**について話しましょう。わたしは、選**択**の自由、すなわち選**ぶ権利**という贈り物をわたしたちに与えてくださった、愛に満ちた天の御父にとっても感謝しています。教会の第9代大管長であるデビッド・O・マッケイ大管長はこう言いました。「神が人に与えられた最も偉大

な賜物は命ですが、それに次ぐ賜物はその命を管理する権利です。」<sup>1</sup>

わたしたちは、この世界が創造される前から自分たちに選**択**の自由があったこと、またルシフェルがわたしたちから選**択**の自由を奪おうとしたことを知っています。ルシフェルは、この選**択**の自由という原則にもわたしたちにもまったく信用が置けないとして、救いは強制によって与えるべきだと訴えました。そして自分の計画に従えばだれ一人失われることはない主張しました。しかしルシフェルは、自分の計画に従ったとしても、だれ一人として知恵を増し加えたり、強さを身に付けたり、哀れみ深くなったり、感謝の気持ちを深めたりできないことを理解していないようでした。もしくは、そんなことはどうでもいいと思っていたのかもしれませんが。

救い主の計画を選んだわたしたちは、人生の旅路が危険で困難なものなることを知っていました。世の中で生活し、罪や過ちを犯すことで御父から離れてしまうからです。しかし霊における長子が、自ら御自身を犠牲としてささげ、すべての人の罪を贖ってくださいました。筆舌に尽くし難い苦しみを通して、長子は偉大な贖い主、全人類の救い主とられました。

そのおかげで、わたしたちが御父のみもとに無事に戻る道が備えられたのです。

預言者リーハイはこう述べています。「そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な**仲保者**を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に**応じて束縛と死**を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」<sup>2</sup>

兄弟の皆さん、どのような状況に縛られていたとしても、わたしたちには常に選**ぶ権利**があります。

次に、わたしたちには選**ぶ権利**に加えて、選**ぶ責任**があります。中立はありません。どちらかを選**ばなければ**ならないのです。主はこのことを御存じです。サタンも知っています。わたしたちが地上で生きているかぎり、わたしたちの魂を奪おうという望みをルシフェルとその僕たちが捨てることはないのです。

天の御父は、手段を備えないままわたしたちを永遠の旅路に送り出しはなさいませんでした。その手段により、わたしたちは神から導きを受け、現世を終えた後で無事にみもとに戻ることができるのです。その手段とは祈りです。また、静かな細い声という、心に聞こえるささやきです。そして聖文です。聖文は、現世でわたしたちも克服すべき**試練**を無事に乗り越えた人々によって記されました。

わたしたちは皆、正しい選**び**をするのに必要な道具を携えて地上にやって来ました。預言者モルモンはこう述べています。「善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられている……。」<sup>3</sup>

わたしたちは、サタンの発する邪悪な教えに取り巻かれています。激しい攻撃にさらされることすらあります。それは次のようなメッセージで、皆さんも聞いたことがあるでしょう。「一度だけなら心配ないよ。」「大丈夫。だれも見えてない。」「やめよう



思えば、たばこも、酒も、薬物もいつだってやめられる。」「皆がしているのだから害はないよ。」こうした偽りの言葉には限りがありません。

分かれ道や曲がり角は人生に付き物ですが、楽に見える回り道をしてはなりません。決して戻ることができないかもしれないからです。狡猾なルシフェルはハーメルンの笛吹きのように軽快な音色で誘惑し、正しい選びという安全な道から、愛情に満ちた親の勧告から、神の教えという安全な場所から、疑うことを知らない人々を引き離そうとします。サタンがねらっているのは邪悪な人だけではありません。神の選民を含むすべての人です。サタンの笛の音色に耳を傾けたダビデ王は、心が揺らぎ、誘い出されて倒れてしまいました。ダビデの前にはカインが、後にはイスカリオ

テのユダが倒れました。サタンの方法は巧妙で、犠牲者は数え切れません。

ニーファイ第二書にはこうあります。「悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させる」<sup>4</sup>「悪魔はほかの人々にへつらい、『地獄はない』と告げ、……決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。』<sup>5</sup>「悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。』<sup>6</sup>

大切な選びに直面するとき、どのように決めればよいでしょうか。その場かぎりの満足を約束する事柄に、衝動や欲求に、仲間の圧力に屈しないようにするにはどうしたらよいでしょうか。

ルイス・キャロルの名作『不思議の国のアリス』のアリスのように優柔不断になってはいけません。アリスは分かれ道

に差しかかりますが、二つの道は正反対の方向に続いています。アリスは、そこで会ったチェシャ猫にこう尋ねました。「わたしはどちらの道を行けばいいの。」

猫は答えます。「それはおまえがどこに行きたいかによるね。自分の行きたい場所が分からなければ、どちらの道に行くかはどうでもいいことさ。』<sup>7</sup>

アリスと違い、わたしたちは自分がどこへ行きたいかを知っているのです、どちらの道に行くかは **とても大切** です。わたしたちは、道を選ぶことによって、自分の行く末をも選んでいるからです。

決断はいつもわたしたちの前にあります。賢明な決断には勇気、すなわち「いいえ、そうしません」と言う勇気と「はい、そうします」と言う勇気が必要です。決断が行く末を決めるのです。

皆さんに切にお願いします。どうか今、ここで、ゴールへと続く道からそれないという決意をしてください。わたしたちのゴールは天の御父とともに住むことです。ゴールに続くまっすぐで正しい道の途中には、ほかのゴールもあります。宣教師としての奉仕、神殿結婚、教会活動、聖文研究、祈り、神殿活動などがそうです。人生の旅路にはすばらしいゴールが数え切れないほどありますが、達成するには決意が必要です。

最後に、選びの **結果** について話します。すべての選びには結果が伴います。中には永遠の救いとはほとんど、またはまったく関係のない結果もありますが、逆に **とても大きく関係** する結果もあります。

長い目で見れば、緑と青のどちらのTシャツを着るかは大きな問題ではありません。しかしコンピューターでポルノグラフィのサイトにアクセスするかどうかは人生に **決定的な** 影響を与えます。そこに足を踏み入れるなら、まっすぐで安全な道から一歩それたこととなります。また、アルコールを飲ませたり薬物を試させたりする友人からの圧力に負けてしまうと、皆さんは戻れないかもしれない回り道を

することになります。兄弟の皆さん、わたしたちは皆、誘惑を受けます。12歳の執事も、成熟した大祭司も同じです。いかなる代価やどのような犠牲を払っても到達する価値のあるあの永遠のゴールから、どうか目と心と決意をそらすことのないようにしてください。

わたしたちが自分で許さないかぎり、誘惑、圧力、惑わしに負けることは決してありません。間違った選びをしたら、責めを受けるのはほかでもない自分です。かつてブリガム・ヤング大管長は、この真理について自分を例に挙げてこう述べました。「もしわたしブリガム兄弟が道を踏み外して、天の王国から締め出されたとしたら、その責めを受けるのはほかならぬブリガム兄弟です。天において、地において、地獄において責めを受けるのはわたしだけです。このことはあらゆる末日聖徒に当てはまります。救いは個人的な問題です。」<sup>8</sup>

使徒パウロの言葉はわたしたちを安心させてくれます。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」<sup>9</sup>

皆、間違った選びをします。間違ったままにしているのであれば、わたしは確信を込めて、正す道があるということを伝えます。その道は悔い改めと呼ばれます。どうか間違いを正してください。救い主は皆さんとわたしにこの喜ばしい贈り物をするために命を捨てられました。悔い改めの道は楽ではありませんが、約束は確かです。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」<sup>10</sup>「主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」<sup>11</sup>永遠の命を危険にさらさないでください。罪を犯してしまったら、正しい道に引き返すのが早ければ早いほど、より早く、赦しの奇跡によってすばらしい平安と喜びを見いだすことができます。



兄弟の皆さん、皆さんは高貴な生得権を持っています。御父の王国で永遠の命を得ることが皆さんのゴールです。このゴールは、輝かしい経験を1度すればたどり着けるというものではありません。生涯にわたって義にかなった生活が続け、賢明な選択を繰り返し、決意を貫いた結果として到達するのです。価値のあるいかなる報いを得るうえでも言えるのですが、永遠の命という報いを得るには努力が求められるのです。

聖文には次のようにはっきりと記されています。

「あなたがたの神、主が命じられたとおりに、慎んで行わなければならない。そして左にも右にも曲ってはならない。

あなたがたの神、主が命じられた道に歩まなければならない。」<sup>12</sup>

最後に、人生の早いうちにゴールを定めた人の話を紹介しましょう。教会員でありハーバード大学経営管理学教授のクレートン・M・クリステンセン兄弟です。

16歳のとき、クリステンセン兄弟は日曜日にスポーツは絶対にしないと決意しました。数年後、イングランドのオックスフォード大学に進学したクリステンセン兄弟は、バスケットボール部のセンターのポジションで活躍しました。そのシーズン、チームは一度も負けることなく勝ち進み、合衆国で言えばNCAAバスケットボールトーナメントに当たるイギリスの大会に出場しました。

無難に勝ち進んだチームはベスト4に名乗りを上げました。日程を知ったクリステンセン兄弟は愕然とします。決勝は日

曜日だったのです。兄弟もチームも苦しい練習の末にここまでたどり着いたのです。先発でセンターを任されることになっていたクリステンセン兄弟はコーチに心の葛藤を打ち明けました。ところが、コーチには理解してもらえず、試合に出場するようには言われませんでした。

決勝の前に準決勝がありました。不運なことに、準決勝で控えのセンターの選手が肩を脱臼してしまい、決勝戦に出場するようというクリステンセン兄弟への圧力はますます強くなりました。彼はホテルの部屋に入ってひざまずくと、この1回だけ、日曜日に試合に出てもいいか天の御父に尋ねました。クリステンセン兄弟は、祈りが終わる前に次のような答えを受けたと話しています。「クレートン、なぜわたしに尋ねるのですか。答えはあなたが知っています。」

クリステンセン兄弟はコーチのところに行き、決勝には出られないこと、それを心から申し訳なく思っていることを伝えました。チームは彼抜きで決勝を戦い、同じ時間、クリステンセン兄弟は近くのワードに出席しました。そして、試合に勝つように祈りました。チームは優勝しました。

運命を変えるような難しい決断から30年以上がたちました。時がたった今、クリステンセン兄弟はあの決断が人生で最も大切な決断の一つだったと語っています。別の決断をして、次のように言うことはとても簡単だったでしょう。「安息日を聖く保つことは確かに正しい戒めです。でも、この酌量すべき特殊な状況では、今



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

回だけ守れなくても仕方のないことです。」しかしクリステンセン兄弟は、結局のところ人生は最初から最後まで特殊な状況の連続であり、一度でも例外を作ってしまうと、この場合は仕方がないという切羽詰まったことが次に起こったとき、いとも簡単にまた例外を作ってしまったらと話しています。彼が得た教訓は、戒めは98パーセントの確率で守るよりも100パーセントの確率で守る方が簡単だということです。<sup>13</sup>

愛する兄弟の皆さん、選ぶ**権利**に感謝し、選ぶ**責任**を受け入れ、選びの**結果**を常に心にとどめることができますように。わたしたちは、神権を持つ者として一つとなり、慎重にそして正しく選ぶときに、天の御父から導きを受けるにふさわしくなれます。わたしたちは主イエス・キリストの業に携わっています。昔の人々のように、わたしたちも主からの召しを受け入れました。わたしたちは主の用向きを受ける者です。わたしたちは「主の器をになう者よ、おのれを清く保て」<sup>14</sup>という厳粛な戒めを守ることができるでしょう。そのようになるよう、厳粛に、へりくだって祈ります。わたしたちの主、イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』207
2. 2ニーファイ2:27
3. モロナイ7:16
4. 2ニーファイ28:21
5. 2ニーファイ28:22
6. 2ニーファイ28:21
7. ルイス・キャロル, *Alice's Adventures in Wonderland* (1898年), 89を基に編集
8. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』321
9. 1コリント10:13
10. イザヤ1:18
11. 教義と聖約58:42
12. 申命5:32-33
13. クレイトン・M・クリステンセン, "Decisions for Which I've Been Grateful" (ブリガム・ヤング大学アイダホ校でのディポーショナル, 2004年6月8日), [www.byui.edu/presentations](http://www.byui.edu/presentations) 参照
14. イザヤ52:11

## 神を信頼し、行っていく

学び、悔い改めて、主が求められることを行って行いたいという目的をもって耳を傾けると、皆さんは主を信頼していることを示していることとなります。

**愛**する兄弟姉妹の皆さん、この安息日に皆さんにお話ができうれしく思います。世界中の何百万という末日聖徒と友人の皆さんに向けて話す割り当てを受け、へりくだる思いです。この神聖な機会に備えるに当たり、皆さん一人一人に必要なことは何か、主はどんなメッセージを語るよう望んでおられるのかについて分かるよう、祈り、深く考えました。

皆さんが必要としていることは非常に多く、様々です。皆さんはかけがえのない神の子供です。神は一人一人を御存じですから、皆さんと皆さんの必要に合ったメッセージを送って励まし、正し、導いてくださいます。

神がこの大会で話すようわたしに望んでおられることを知るために、神の僕たちの言葉を聖文や過去の大会報告から読みました。そして、モルモン書に登場する偉大な主の僕、アルマの言葉を読んで、祈りの答えを受けました。

「おお、わたしが天使であって、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

まことに、わたしは雷のような声で、あらゆる人に悔い改めて贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないように、悔い改めて神のみもとに来ることを彼らに勧めたい。

しかし見よ、わたしはただの人であり、このように願うことさえも罪である。わたしは主から与えられたもので満足すべきだからである。」<sup>1</sup>

そして、アルマの回想の中に、祈り求めていたことに対する指示を見いだしました。「見よ、主はすべての国民に、その国民を使い、その国民の言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。まことに、主は賢明にも、御自分が彼らにとってふさわしいと思われるすべての事柄を教えることを許される。したがって、賢明にも主は正しく真実なことに応じて勧告されるということが、わたしたちには分かるのである。」<sup>2</sup>

神の僕が語るこのメッセージを読んで、今日なすべきことがはっきりしました。神はその子供たちに、メッセージとそれを伝える権能を持つ人を送られます。わたしがすべきことは、神と神の僕たちに対する信頼をはぐみ、わたしたちが行ってその勧告に従えるようにすることです。神



がこれを望むのは、わたしたちを愛し、幸せにしたいと思っておられるからです。それに、神への信頼が欠けることで悲しみが訪れることを神は御存じだからです。

神を信頼しなかったために天の御父の子供たちに悲しい結果が訪れた出来事は、世界が創造される前からありました。前世において、天の御父とその長子エホバが、現世で生活する計画を提示したところ、多くの兄弟姉妹たちがそれを拒みました。これは、神が預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示から分かります。<sup>3</sup>

ルシフェルがなぜ人々を扇動してこの造反に恐ろしくも成功したのか、すべての要因が分かるわけではありませんが、一つ明らかなことがあります。現世に来る祝福を失った霊たちは、永遠に惨めな状態を避けるために神に頼ろうとはしなかったということです。

神を信頼しなかった悲しい例は、天地の創造以来後を絶ちません。なぜ信仰をもって神に頼らなかつたのか、その理由がすべて分かるわけではないので、神の子供たちの生き方から慎重にその例を挙げます。皆さんの多くは、そのような人たちが危険な状況に陥ったことを学んできました。

例えばヨナは、ニネベに行くようにという主の言葉に従わなかったばかりか、別の所に行ってしまうました。ナアマンは、川の水で身を洗えば重い皮膚病を主が癒してくださるといふ主の預言者の指示を信頼することができませんでした。簡単な方法だったため、彼のプライドが許さなかつたのです。

救い主は、舟という安全な場所から下りて水の上を歩いて来るようペテロに言われました。この話を聞くとわたしたちは身につまされ、自分も神をもっと信頼する必要があると感じます。

「イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。

弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑



い、恐怖のあまり叫び声をあげた。

しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。

するとペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。』

イエスは、『おいでなさい』と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行つた。

しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、『主よ、お助けください』と言った。

イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、『信仰の薄い者よ、なぜ疑つたのか。』<sup>4</sup>

その後ペテロが主に頼り、殉教に至るまで主への奉仕を忠実に果たしたという事実から、わたしたちは勇気を得ることができます。

モルモン書で若いニーファイの話を読むと、主の戒めがどんなに困難に思えても、主をいっそう信頼して従おうという気

持ちになります。主に信頼を寄せるニーファイの言葉にわたしたちは安堵を覚えますが、これを語ったとき、ニーファイは危険で命がけの難題に直面していたのです。「そこで、わたしニーファイは父に言った。『わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。』<sup>5</sup>

このような信頼は、神を知ることから生まれます。福音の回復という輝かしい出来事を通して教会員は、「静まって、わたしこそ神であることを知れ<sup>6</sup>」という言葉で主がその民に示された平安を、地上のだけよりもよく感じてきました。わたしたちが神を信頼できるよう、神は御自身のことを明らかにしてくださいました。それを思うとわたしの心は感謝の気持ちでいっぱいになります。

わたしにとってそれは、1820年に一人の少年がニューヨーク州の農場の森で経

験した出来事に端を発します。その少年ジョセフ・スミス・ジュニアは、木々の間を歩いて人のいない場所に行き、ひざまずいて祈りました。イエス・キリストの贖いによって清められ、救われるためにはどうすればよいのか知りたかったのです。この祈りに神がこたえてくださることを信じて疑いませんでした。<sup>7</sup>

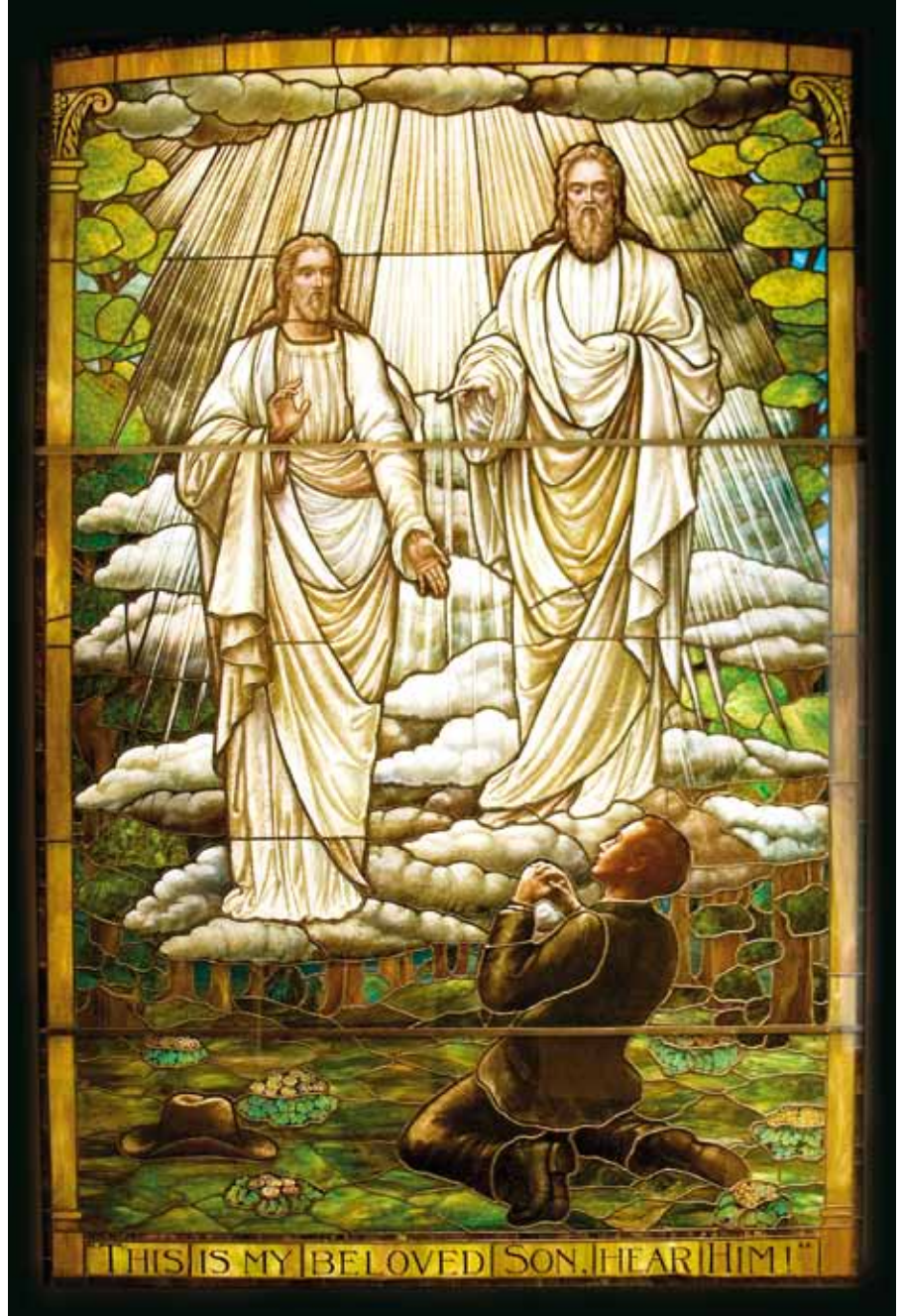
わたしはこの話を読む度に、神とその僕たちへの信頼が深まります。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。<sup>8</sup>

御父は、御自身が生きておられ、イエス・キリストは御父の愛する御子であって、御自身の子供たちを救うために御子を遣わされるほどわたしたちを愛しておられることを明らかにしてくださいました。そしてわたしは、神がこの無学な少年を使徒、預言者に召されたという証があるので、現代の神の使徒と預言者を信頼し、彼らが神に仕えるよう召す人たちをも信頼しています。

このような信頼は、わたしと家族の生活に祝福をもたらしてきました。何年も前のことですが、わたしはエズラ・タフト・ベンソン大管長が、このような大会で話すのを聞きました。そのとき大管長は、できかぎりのことをして負債を返済し、負債をなくすよう勧めました。住宅ローンのことにも触れ、不可能かもしれないが、抵当のある負債を完済できるならそれがいちばんいいと言ったのです。<sup>9</sup>



わたしは大会が終ると、「住宅ローンを完済する方法があると思うか」と妻に尋ねました。最初、そんな方法は思いつきませんでした。しかし夕方には、別の州で入手した不動産のことを考えていました。売り払おうとしたものの何年も売れないでいた物件です。

しかし、主を信頼し、主の僕のメッセージの中の言葉を信じて、月曜日の朝、わたしたちは不動産の売却を託してあったサンフランシスコの業者に電話をかけました。実はその2、3週間前にも電話したのですが、「この物件に興味を示す方はもう何年もの間いません」と言われていたのです。

しかし、大会翌日の月曜日にわたしの耳

に入ってきた返事は、神とその僕を今日に至るまでしっかりと信頼できるようにしてくれるものでした。

電話越しにその男性はこう言いました。「お電話をいただき、驚いています。実は、あなたの物件を購入できるかどうか、今日問い合わせに来た人がいるのです。」驚きながらもわたしが「その方はどのくらいの金額を提示されましたか」と尋ねると、それは、わたしたちの住宅ローンの残高より何ドルも多い金額でした。

単なる偶然だと人は言うかもしれませんが、しかし、わたしたちはローンを完済できました。そして、わたしたち家族は、今も預言者のメッセージの中の言葉に耳を傾けています。預言者は、神が人に得て

ほしいと望まれる安全と平安を見いだすには何をすべきかを告げるよう遣わされているのです。

このように神に頼ると、家族はもちろん、地域社会にも恵みが注がれます。わたしはニュージャージーの小さな町で育ちました。教会では、支部に定期的に出席する会員は20人にも満たないほどでした。

その少ない会員の中に、とても謙遜な、改宗者で年輩の女性がいました。強いノルウェーなまりの英語を話す移民でした。家族でたった一人の教会員であり、居住する町でたった一人の教会員でした。

この女性は、支部会長であったわたしの父を通して、主から支部の扶助協会会長に召されました。手引きがなかったために何をしたらよいのか分からず、近くに住んでいる教会員もいませんでした。知っていたのは、主が困っている人を心にかけておられることと、扶助協会のモットーである「愛はいつまでも絶えることがない」という短い言葉だけでした。

いわゆる「大恐慌」のさなかのことです。失業者と住む家のない人で町はあふれていました。そこで、この女性は自分には主から託された務めがあると感じ、近所の人に頼んで古着を譲り受け、洗濯してアイロンをかけました。そして、ダンボール箱に入れて家の裏のベランダに置いたのです。近所の人は、お金がなくて着る服に困っている人が相談に来ると、こう言ったものです。「この通りの先の家に行くといひ。モルモンの婦人が住んでいて、服を分けてくれる。」

主は市政を司ってはおられませんが、市の片隅を明るくしてくださいました。御自分を深く信頼する一人の目立たない女性を召すことで、彼女が主の思いを知り、実行できるようにされたのです。主に頼ったおかげで、この女性は市内の困っている御父の子供たちを何百人も助けることができました。

同じように神に頼るとき、国民にも祝福が注がれます。主に頼るならば、次のア

ルマの約束が成就することがわたしには分かってきました。「見よ、主はすべての国民に、その国民を使い、その国民の言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。まことに、主は賢明にも、御自分が彼らにとってふさわしいと思われるすべての事柄を教えることを許される。」<sup>10</sup>

神は国政を司ってはおられませんが、国々の民を心にかけておられます。国民のためになることを行い、主に頼る人を影響力のある地位に置くことができになり、実際にそうされているのです。<sup>11</sup>

世界中を旅行して、わたしはそれを実感してきました。人口1,000万人を超える都市で、大会に集う数千人もの末日聖徒に向けて話をしたことがあります。会場は巨大な運動競技場でした。

開会前に、ハンサムな若者が最前列に座っていることに気がつきました。彼と同じく、一般の人よりフォーマルな装いをした人たちが周りを囲んでいます。近くにいた教会の中央幹部にだれかと聞いたところ、この市の市長とその側近だとそっと教えてくれました。

集会後、わたしが車に乗ろうとして歩いていると、驚いたことにその市長がわたしにあいさつするために側近に囲まれながら待っていました。市長は進み出てわたしに握手を求め、こう言ったのです。「わたしたちの都市、わたしたちの国に来てくださってありがとうございます。人を育てるために皆さんがしておられることに感謝しています。皆さんのような人や家族がいるので、わたしたちが市民に望む調和と繁栄を生みだせるのです。」

その瞬間、わたしにはこの市長は、主がその子供たちの中で権力ある地位に置かれた誠実な人の一人だということが分かりました。この大きな都市、そして国の中で、教会員はほんの一握りしかいませんし、市長は教会の教義も教会員のこともほとんど知りませんでした。それでも神はこの市長に、神とその僕たちを信頼するという聖約を交わした末日聖徒は、市民の光と

なるというメッセージを送られたのです。

この大会で話す神の僕たちについてわたしはよく知っています。彼らは神の子供たちにメッセージを伝えるよう神から召されています。主は彼らについてこう言われました。「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」<sup>12</sup>

学び、悔い改めて、主が求められることを行って行いたいという目的をもって耳を傾けるとき、皆さんは主を信頼していることを示していることとなります。神を信頼して、この大会のあらゆる説教、歌、祈りの中に主のメッセージを求めて耳を傾けるならば、それを見いだせるでしょう。そして、行って主が望んでおられることを行うならば、神を信頼する力は強くなり、やがて主が自分を信頼してくださっていることを知って感謝の念に満たされるでしょう。

末日聖徒イエス・キリスト教会では、神から選ばれた僕たちを通して、今日神が語っておられることを証します。トーマス・S・モンソンは神の預言者です。天の御父と御子イエス・キリストは生きていて、わたしたちを愛しておられます。このことをイエス・キリストの御名により、証します、アーメン。■

#### 注

1. アルマ 29:1-3
2. アルマ 29:8
3. 教義と聖約 29:36-37; アブラハム 3:27-28 参照
4. マタイ 14:25-31
5. 1 ニューフェイス 3:7
6. 詩篇 46:10
7. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』28 参照
8. ジョセフ・スミス—歴史 1:16-17
9. 例として、エズラ・タフト・ベンソン「艱難の日に備える」『聖徒の道』1981年4月号、59-63 参照
10. アルマ 29:8
11. 歴代下 36:22-23; エズラ 1:1-3; イザヤ 45:1, 13 参照
12. 教義と聖約 1:38



十二使徒定員会会長  
ボイド・K・パッカー会長

## 器の内側を清める

悔い改めほど、神の寛大さと思いやり、そして<sup>あわ</sup>憐れみが豊かに表れているものはありません。

この総大会が開かれている現在、世の中には混乱と危険があふれています。若い人たちは、一体どのようにして生きていったらよいのか皆目見当がつかないでいます。世界にこのような状態が来ることは啓示によって警告されてきました。そして、どうするべきかが常に預言者と使徒たちに示されてきました。

主は「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語る」<sup>1</sup>ことを預言者ジョセフ・スミスに明らかにされました。神権の鍵<sup>かぎ</sup>が回復されて、祖父、父親、息子を通してすべての家庭に神権の権能が与えられました。

世界が混乱のただ中であつた15年前、大管長会と十二使徒定員会は「家族——世界への宣言」を発表しました。教会史上、5番目となる宣言です。これは、読んで従うことによって教会員に益をもたらしてくれる指針です。

この中に次のように記されている箇所があります。「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」<sup>2</sup>

「そこで、神々は降<sup>くだ</sup>って行って、御自分の形に人を組織し、神々の形に人を形造

り、男と女に形造られた。

そして、神々は、『彼らを祝福しよう』と言われた。また、神々は言われた。『彼らに、生み、増え、地に満ち、地を従わせるようにさせよう。』<sup>3</sup>

この戒めは現在も有効です。

「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」<sup>4</sup>

「人が存在するのは喜びを得るため」<sup>5</sup>ですから、わたしたちは幸せになるよう計画されています。

リーハイは、人は自由であり、「大いなる終わりの日に律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはない」<sup>6</sup>と教えました。

「主はわたしに賛成の票を投じておられ、ルシフェルは反対の票を投じている。だが、大切なのはわたしがどちらに票を投じるかなのだ」という古いことわざがあります。この言葉は、わたしたちの選択の自由には、サタンがどのような意向を持っていようと、それをしのぐ力があるという、教義上明らかな点をよく言い表しています。選択の自由は貴いものです。わたしたちは愚かにも、また何も考えずに選択の自由を捨ててしまうことはできますが、無理矢理取り上げられることはありません。

「悪魔がわたしにそうさせたのだ」という有史以来の古い言い訳もあります。そ

れは間違っています。悪魔は人を欺き、道を誤らせることはできますが、罪を犯したり、罪にとどまったりするようあなたやだれかに強制する力はありません。

命を創造する力を託されたことによって、最も大きな喜びを得ることができると同時に最も危険な誘惑を受けることもあります。この世で生活する賜物と新たな命を創造する力は神から与えられた祝福です。この力を義にかなって用いることにより、ほかの何にも増して、わたしたちは天の御父に近づき、満ちみちる喜びを経験することができます。この力は幸福の計画に偶然に付随しているものではなく、計画の鍵であり、中心となるものです。

永遠の律法に従ってこの力を用いるか、あるいはその神聖な目的を無視するかで、わたしたちが将来どのような存在になるかが永遠に決まります。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」<sup>7</sup>

人が父なる神に従うことを自由意志によって決め、その思いを祈りの中で神に表明するかどうかはまったく自由です。

従順であれば、これらの力を結婚の聖約の中で用いることができます。わたしたちの命の泉から子供たちと家族がもたらされます。夫婦間の愛は尽きることなく、生涯を通じて達成感と満足をもたらしてくれます。

これらの祝福をこの世で受けられない人は、次の世で与えられると約束されています。

永遠の忠誠を誓い、法律上正式な儀式を受けた後にのみ、また理想的には神殿で結び固めの儀式を受けた後に、愛を完全に表現するために、生殖の力を行使するのだけでなく、純粋な愛とは言えません。この力は永遠の伴侶となる男女すなわち夫婦の間だけで用いるべきものです。この点について福音はきわめて明確に教えています。

戒めを無視するのは自由ですが、「あなたは……してはならない」などの率直な

言葉で表現されている啓示については、注意を払うべきです。

サタンは、命をもたらす力を持つすべての人に対して嫉妬しています。サタンは命をもたらすことができません。その能力がないのです。「悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めている……。」<sup>8</sup> 悪魔はあなたを不道德な関係に誘い込み、生殖の力を義にかなって用いる基準を引き下げようとしています。

主は、御自身に従う者たちに理解しやすいイメージを与えるため、「のようなものである」という表現を使われました。以下はその例です。

「また天国は、……商人のようなものである。」<sup>9</sup>

「天国は、畑に隠してある宝のようなものである。」<sup>10</sup>

現在、ポルノグラフィーがもたらしている恐ろしい影響力は全世界に蔓延する疫病のようなものであって、ここに一人、そこに一人と感染させ、ほとんどの場合、夫や父親を通してあらゆる家庭に容赦なく入り込もうとしています。この疫病は、不幸なことにしばしば、霊的な致命傷を与えます。ルシフェルは「偉大な贖いの計画」<sup>11</sup>、「偉大な幸福の計画」<sup>12</sup>を覆そうと躍起になっています。

ポルノグラフィーは必ずキリストの御霊を退かせ、天の御父と子らの間の交わりを遮断し、夫婦間の愛に満ちた関係を引き裂きます。

神権にはこの上なく大きな力があります。神権の影響を受ける場所に自分を置いていれば、神権はポルノグラフィーという疫病からあなたを守ってくれます。ポル

ノグラフィーはまさしく伝染病です。従順であれば、神権は習慣を断ち切り、常用癖から抜け出す方法を教えてくれます。神権者にはその権能があり、邪悪な影響力を消し去ろうと努めるに当たってそれを行使用すべきです。

わたしたちは教会員に対して、目を覚まし、今起きていることを理解するよう警鐘を鳴らしています。両親の皆さん、この悪事が家庭の輪を脅かすことのないように、注意し、常に警戒してください。

わたしたちは結婚に関してサタンが勧める多くの代用品と偽物から守ってくれる道徳の標準を教えています。福音の原則と一致しない関係へと勧めるものはことごとく間違っていると理解しなければなりません。わたしたちはモルモン書から「悪事は決して幸福を生じたことがない」ことを学んでいます。<sup>13</sup>

人はこの世に生まれる前からそのように造られていたのであって、清くないもの、自然でないものに対して生来感じる誘惑から抜け出せないと考えている人がいます。そのようなことはありません。神がわたしたちの天の御父であられることを忘れてはなりません。

パウロはこのように約束しています。「神は……あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」<sup>14</sup> もしあなたにその意志があれば、習慣を断ち切り、常用癖に打ち勝ち、教会員にふさわしくないどのようなものからも離れることができます。アルマが警告しているように、わたしたちは「目を覚ましていて絶えず祈 [ら]」なければなりません。<sup>15</sup>

イザヤは警告しています。「わざわざいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。」<sup>16</sup>

何年前かに、わたしはアルバカーキ市の学校を訪れました。教師は、生徒が教室に子猫を持ち込んだときの出来事につい





て話してくれました。大騒ぎになったことは言うまでもありません。教師はその生徒に、前に来て子猫を抱いているように言いました。

そこまではよかったのですが、一人の子供がこう質問しました。「その子猫は雄ですか、雌ですか。」

そのことで授業をじゃまされたくなかった教師はこう言いました。「どうでもいいでしょう。どっちにしたって子猫よ。」

けれども生徒たちはあきらめませんでした。そして、一人の男の子が手を挙げてこう言いました。「調べる方法を知っているよ。」

もう避けて通れないと観念した教師は言いました。「どうするの。」

すると、生徒は答えました。「投票で決めるのさ。」

皆さんはこの話を笑うかもしれませんが、警戒していないといけません。不道徳を合法化するよう法律を変えるため、それを投票によって決めることを容認するだけでなく、提唱している人たちがいるのです。それはまるで、神の律法の目的や自然の法則を投票によって変えてしまうようなものです。自然の法則を否定する法律を押し通すことは不可能です。例えば、引力の法則を無効にすることを票決したとしても、それに何の意味があるでしょうか。

「創世の前に天において定められた不変の」<sup>17</sup> 道徳の律法と物理の法則があり、それらを変えることはできません。戦争によっても投票によっても道徳の標準を変えられないことは、歴史が繰り返し証明しています。根本的に間違っていることや邪悪なものを法律によって認めるとし

ても、後に来る苦痛や罰を避けることはできないのです。それは夜が明けたら朝が来るように確かなことです。

たとえ反対されようと、わたしたちは正しい道にとどまると決意しています。原則と、福音の律法と儀式を守ります。これらについて悪気なくあるいは意図的に誤解されることがあっても、気に留めません。わたしたちは道徳の標準を変えることができないし、変えるつもりもありません。神の律法に背くと、たちまち道に迷ってしまいます。家族を守り、育てなければ、文明と自由は必ず消滅してしまいます。

「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」<sup>18</sup>

罪や犯罪あるいは倒錯<sup>ろうこく</sup>の牢獄に閉じ込められている人はだれでも、扉の鍵を持っています。その鍵には「悔い改め」という文字が記されています。この鍵の使い方を知っていれば、サタンはあなたを捕ら<sup>とら</sup>えておくことができません。悔い改めと赦しという対を成す原則はサタンの恐ろしい力をしのいでいるのです。もしあなたがふさわしくない習慣や常用癖に縛られているなら、有害な行為をやめなければなりません。天使は教えを与え<sup>19</sup>、神権指導者は困難な時期を乗り切るよう導いてくれます。

悔い改めほど、神の寛大さと思いやり、そして憐れみ<sup>あわ</sup>が豊かに表れているものはありません。救い主であり、贖い主<sup>しよくい</sup>である神の御子によって成し遂げられた贖罪の持つ、完全な清めの力をあなたは理解し

ているでしょうか。主は言われました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。」<sup>20</sup> 贖い主はこの上ない愛の行為によって、わたしたちが受けなくてもよいように、わたしたちの罪に対する罰を受けてくださいました。

心から望む人には戻る方法があります。悔い改めは洗剤のようなものです。布地に深くしみ込んだ罪の汚れであっても、それは浮き出てきます。

神権者はボルノグラフィーのおぞましい残像を取り除き、罪を洗い流してくれる解毒剤を持っています。神権には習慣からの影響を、さらには、それがどれほど頑丈であっても常用癖の鎖を断ち切る力があります。その力は過去の過ちの傷跡を消し去ることができます。

すべての啓示の中でこれほど麗しく、慰めを与えてくれる言葉をわたしは知りません。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」<sup>21</sup>

告白し、罰を受けた後に、時々、悔い改めの最も難しい部分となるのが、自分自身を赦すことです。赦しとは文字どおり赦すことであると悟らなければなりません。

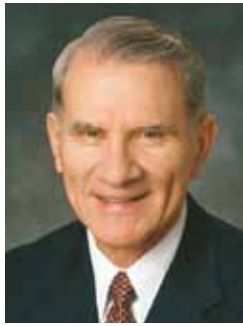
「そしてわたしは、民が悔い改める度に、わたしに対する彼らの過ちを赦そう。」<sup>22</sup>

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、悔い改めたにもかかわらず、ひどく墮落した生活から抜け出せないでいる一人の女性について話しました。彼女は、今何をすべきか大管長に尋ねました。

そこで大管長は、その女性に旧約聖書から、振り返って塩の柱になったロトの妻の物語<sup>23</sup>を読んで聞かせてくれるように言いました。彼女が読み終わったとき、大管長はこう尋ねました。「この物語からどのような教訓を学べますか。」

女性は「主は悪人を滅ぼされるということです」と答えました。

「そのことではありません。」そして、ス



七十人会長会  
ジェイ・E・ジェンセン長老

ミス大管長はその悔い改めた女性や他の人が学ぶべき教訓は、「後ろを振り返ってはならない」ことだと話しました。<sup>24</sup>

奇妙なことですが、ボルノグラフィーやそのほか清くない行いに対する最も単純で、強力な予防と治療法は、それを無視し、避けることだと思います。根を張ろうとしているふさわしくない思いを心の中から消し去りましょう。清くあろうと決意するとき、その人は神から与えられた選択の自由を正当に行っていることになりま

す。その後は、ミス大管長が勧告したように、「後ろを振り返ってはなりません。」わたしは、皆さんと家族の前途に平安と幸福が待ち受けていることを約束します。教会のすべての活動の究極の目的は、夫婦と子供たちが家庭で幸せに暮らすことなのです。わたしは、主の祝福が恐ろしい霊の伝染病と格闘している皆さんのう

#### 注

1. 教義と聖約 1:20
2. 「家族—世界への宣言」[リアホナ] 2004年 10月号, 49
3. アブラハム 4:27-28
4. アブラハム 3:25
5. 2ニーファイ 2:25
6. 2ニーファイ 2:26
7. 1コリント 3:16
8. 2ニーファイ 2:27
9. マタイ 13:45
10. マタイ 13:44
11. モルモン書ヤコブ 6:8; アルマ 34:31
12. アルマ 42:8
13. アルマ 41:10
14. 1コリント 10:13
15. アルマ 13:28
16. イザヤ 5:20
17. 教義と聖約 130:20
18. 教義と聖約 82:10
19. 2ニーファイ 32:3 参照
20. 教義と聖約 19:16
21. 教義と聖約 58:42
22. モーサヤ 26:30
23. 創世 19:26 参照
24. ボイド・K・バックナー, *The Things of the Soul* (1996年), 116

## 聖霊と啓示

聖霊は神会の第三の御方です。また、御父と御子とともに、すべてのことを知っておられます。

若い宣教師として伝道を始めてから1年余りがたったころのことです。啓示と聖霊について聖文や末日の使徒たちの言葉を読んでいると、あることに気づき、目の覚めるような思いをしました。わたしには自分の証、とりわけ、御父と御子についての証がなかったのです。すばらしい両親から受けた、借り物の光に頼って伝道に出ていました。両親の言葉を少しも疑うことのなかったわたしには、自分自身の霊的な証を求めるといふ考えがありませんでした。1962年、テキサス州サンアントニオでのあの2月の夜、自分で知る必要があるということに気づきました。狭い宣教師アパートで、静かに声に出して祈る場所を見つけ、こう祈りました。「天のお父様、そこにいらっしゃいますか。わたしは自分で知る必要があるのです。」

その晩しばらくして、わたしは生涯で初めて、神とイエスが実在の御方であられるということをご自分で知ることができました。耳に聞こえる声を聞いたわけでも、天の使いを見たわけでもありません。しかし、皆さんにも経験があると思いますが、わたしも、自分の思いに平安を告げ(教義と聖約 6:23 参照)、保証を与える(アルマ 58:11 参照)「聖霊の言い尽くせない賜物」(教義と聖約 121:26)と啓示の御霊によって知ることができたのです(教義と聖約 8:1-3 参照)。

その経験を通じて、「目を覚まし、能力を尽くして〔主の〕言葉を試すように勧めるアルマの言葉を実践すると何が起こるかを実感しました(アルマ 32:27)。その言葉、すなわち種は成長して木となりました。確かに、巨大な証の木となったのです。また、続けて主の言葉を試すことで証の木は増え続け、聖霊を通して、また聖霊によって得られる啓示を礎として、今や紛れもない証の森となっています。

#### 啓示は願うことで授けられる賜物

アメリカ大陸を訪れた救い主は十二弟子を召されました。弟子たちとその地の民へのメッセージの一つは聖霊についてでした。教えを授けられた後で、救い主は翌日に戻って来ることを約束し、その場を去られました。人々は夜通し働き、救い主の話が聞けるようにできるかぎり多くの

人々を集めました。弟子たちは民を集め、12組に分けると、救い主に教えられたことを教えました。その教えの中で最も重要なのは聖霊の大切さでした(3ニーファイ 11-18章参照)。それから人々はひざまずいて祈りました。彼らは聖霊を授けられることを心から願っていました(3ニーファイ 19:8-9 参照)。

民に御姿を現された救い主は、御父に祈りながら聖霊の大切さをさらに強調されました。

「父よ、わたしが選んだこれらの者に聖

霊を与えてくださり、感謝いたします。……

父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に聖霊をお与えください。」(3 ニーファイ 19:20 - 21)

モルモン書に記されたこの出来事を土台にすると、わたしはウィルフォード・ウッドラフ大管長がなぜ次のように言ったのか、さらによく理解できます。「聖霊の賜物こそが、人が授かることのできる最も大なる賜物なのです。……

〔聖霊は〕男性だけに与えられるものでもなければ、使徒や預言者だけに与えられるものでもありません。すべての忠実な男性や女性、およびキリストの福音を十分受け入れられる年齢に達しているすべての子供に属するものなのです。〕(「聖霊と個人の啓示」『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』49)

### 啓示は必要なときに答えを与えてくれる

聖霊は神会の第三の御方です。また、御父と御子とともに、すべてのことを知っておられます(教義と聖約 35:19; 42:17 参照)。聖霊は幾つかの重要な役割を果たされます。最も重要な役割は、御父と御子を証することです(3 ニーファイ 28:11 参照)。そのほかにも、すべてのことの真理を明らかにする(モロナイ 10:5 参照)、善を行うように導くという役割があります(教義と聖約 11:12 参照)。

トーマス・S・モンソン大管長は、善を行うように導かれるというこの重要な役割についての良き模範です。大管長は、救い主の模範に従って「よい働きをし」ています(使徒 10:38)。大管長は、人を訪ね、教え導き、救うために、聖霊から与えられる霊的な促しをないがしろにしないことの大切さを教えています。

ただし、時にはモンソン大管長やホームティーチャー、気遣ってくれる姉妹のような人が近くにおらず、助けの必要なときに教えと導きを受けられないこともあります。そのようなときに、わたしは慰め主から慰めや指示を受けるようになりました。

それは聖霊のもう一つの役割です(教義と聖約 36:2 参照)。

孫のクイントンは、多重の先天性疾患のある状態で生まれ、入退院を繰り返した末、1歳になる3週間前に亡くなりました。ジェンセン姉妹とわたしは、当時アルゼンチンに住んでいました。子供たちと一緒にいて、お互いに慰め合えればと心から願いました。愛する孫のそばにいてやりたいと思ったのです。わたしたちには祈ることしかできませんでした。ですから熱烈に祈りました。

ジェンセン姉妹とわたしは伝道部を巡回しているときにクイントンが亡くなったという知らせを受けました。わたしたちは集会所の廊下で抱き合い、慰め合いました。皆さんに証します。わたしたちは聖霊から確信を得ました。人知ではどうも計り知ることができない平安を頂いたのです。この平安は今なお続いています。

す(ピリピ 4:7 参照)。また、息子夫婦とその子供たちの生活に言葉では言い表せない聖霊の賜物が与えられるのを目の当たりにしました。その時のことを語る彼らには、今も信仰と平安、そして慰めが満ちています。

### 啓示とモルモン書

啓示という同じ賜物は、モルモン書に対するわたしの証にも影響を与えています。わたしは幾度となくモルモン書を読み、研究し、探求し、味わってきました。聖霊は、この書物が真実であり神から与えられたものであることを明らかにしてくださいました。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はモルモン書のことを、教会に欠くことのできない4つの隅石の一つと呼んでいます。ほかの3つの隅石とは、ジョセフ・スミスの最初の示現、神権の回復、そして言うまでも

### ドミニカ共和国ラスカオバスの専任宣教師と一人の姉妹が、総大会の部会の合間にバプテスマ会を行う準備をしている







なく、隅のかしら石であられるイエス・キリストに対するわたしたちの証です(エペソ2:19-21参照)。ヒンクレー大管長は次のように説明しています。「神から与えられたこれらの4つの偉大な賜物は揺るぎない隅石であり、末日聖徒イエス・キリスト教会ならびにその会員一人一人の証と確信の礎いしづえとなっています。」(「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号, 7)

神から与えられたこれらの4つの賜物は、わたしの信仰と証の錨いかりとなり、それらの一つ一つが聖霊を通して与えられる啓示によって確認されています。これから少しの間、隅石であるこれらの賜物のうちの二つ、すなわち、最初の示現とモルモン書に焦点を当てたいと思います。どちらも、子供たちが善い両親から生まれ、両親からよく教えられたという家庭環境から始まっていることは意義深い点です(ニーファイ1:1参照)。リーハイとジョセフ・スミスの人生で起こった出来事には以下のような共通点があります(1ニーファイ1章およびジョセフ・スミス—歴史1章参照)。

- 二人ともに特別な必要がある。リーハイは差し迫るエルサレムの崩壊から自身と自分の家族を救う必要がある。

また、ジョセフ・スミスはどの教会が真実か知る必要がある。

- 二人とも祈っている。
- 二人とも御父と御子の示現を受けている。
- 二人とも書物を渡されている。
- 二人とも福音を宣のべ伝えている。
- 二人とも聖霊から、また示現や夢で啓示を受けている。
- 最後に、二人は邪悪な人々によって脅かされる。リーハイとその民は逃亡して生き延びる。ジョセフは殉教する。

熱心に真理を探究する人に対し、宣教師がモルモン書をニーファイ第一書から学び始めるよう勧めるのはもっともなことです。この書には主の御霊が**あふれて**います。前半の章には、啓示と聖霊は預言者だけでなく、母親、父親、子供たちにも与えられるという明確なメッセージが記されています。

啓示と聖霊についてのメッセージは、モルモン書の序文で述べられているとおり、モルモン書のあらゆる箇所に見出すことができます。これらの真理について預言者ジョセフ・スミスは次のように要約しています。「モルモン書とそれらの啓示を取り去ったならば、わたしたちの宗教はど

こにあるでしょうか。どこにもありません。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』196)

末日聖徒であるわたしたちには、モルモン書への証があります。この証は啓示を通して与えられ、この宗教と教義が真実であることを確信させてくれるのです(モルモン書序文参照)。

御霊につける事柄は神聖であり表現し難いものです。わたしたちはアンモンのように断言します。「見よ、わたしはあなたがたに言うが、わたしは感じていることの万分の一も言い表せない[。]」(アルマ26:16)

しかし、わたしは証します。聖霊は実在の御方であり、証言者、啓示者、慰め主、案内者、天からの教師であられます。

わたしはへりくだり、この真実の生ける教会、この宗教が、これら4つの隅石を礎としていることを証します。イエス・キリストがまさしく隅のかしら石であられることを証します(エペソ2:19-21参照)。トーマス・S・モンソン大管長は主の預言者であり、わたしの後ろに座っている15人の男性は預言者、聖見者、使徒、そして啓示者です。彼らは聖なる神権と王国の鍵かぎを持っています。彼らを愛し、敬あやまい、支持たすけしています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■



中央若い女性第一顧問  
メアリー・N・クック

# 信者の模範になる

わたしは皆さんに……「信仰〔と〕純潔に〔おいて〕信者の模範にな〔る〕」よう勧めます。

**少**し前、小さなルビーが生まれ、親族の一員になりました。かわいい顔をのぞき込みながら、この世に生まれてくる前、この子は天の御父とともに住んでいたのだと感慨深く思いました。ルビーは偉大な幸福の計画を受け入れ、御父と救い主イエス・キリストに従うことを選びました。<sup>1</sup> その決断のおかげで、彼女は地上に来ることを許され、死すべき状態を体験して永遠の命に向かって進歩する機会が与えられたのです。こうして霊と体が結びつき、ルビーの学びの時が始まりました。ここで彼女は自らを証明し、キリストに従うことを選んで、永遠の命を受けるにふさわしい者となるよう備えることができるのです。

ルビーは清い状態で地上に来ましたが、ご計画のとおり、彼女は試練や誘惑に直面し、過ちを犯します。しかし、救い主の贖罪を通してルビーは救しと満ちみちる喜びを受け、再び清くなることができます。それは、天の御父のみもとで永遠に生きる備えのできた状態です。

誕生から数時間して、わたしはこのかけがえない子供を腕に抱く機会に恵まれました。わたしは母親に「ルビーが徳高く、清く、そして名前のとおり非常に尊い女性になれるように、わたしたちで教えてあげないとね」と言いました。<sup>2</sup>

すると母親は「今日から始めるわ」と

答えました。

「今日から始める」ために、ルビーの母親は何をすればいいのでしょうか。親、祖父母、指導者であるわたしたちはどのように始めて、子供たち、つまり青少年が永遠への道を歩み続けるのをどのように助けられるのでしょうか。わたしたちは「信者たちの模範」<sup>3</sup> にならなければなりません。

預言者ブリガム・ヤングはこう言っています。「何事であれ、子供たちにしてほしいと思っていることを、自分がしてしまうようなことがあってはなりません。做ってほしいと思うことについては模範を示さなければなりません。」<sup>4</sup> わたしたちは皆、そのように良い模範を示すことによって今日から始めることができます。

今日わたしは皆さんに救いに必要な二つの原則、すなわち「信仰〔と〕純潔に〔おいて〕信者の模範にな〔る〕」<sup>5</sup> よう勧めます。

信仰において信者の模範になってください。イエス・キリストを信じる信仰と証を率先して強めることで、言葉と模範を通して子供に証ができるよう備えてください。

信仰の模範となる人生を送ったすばらしい母親について話しましょう。預言者ジョセフ・スミスは幼いとき、母ルーシー・マック・スミスの姿を見て神を信じる信仰について学びました。ルーシーは聖文を探求することで答えを求め、<sup>6</sup> ジョセフも、

その習慣に倣って母親と同じように聖書に導きを求めました。<sup>7</sup>

ルーシーはまた、一人で祈り、主の助けを願い求めることによって家族の問題を解決しました。ある日、宗教のことで家族の意見に食い違いが生じたとき、ルーシーは「近く美しい山桜の森へ行き、主に祈りをささげた……」と言っています。<sup>8</sup>

ルーシーは深刻な健康上の問題に直面したときも大いなる信仰をもって祈りました。ジョセフが骨髄炎で危うく片足を失いかけたことも、ジョセフの姉ソフロニアが発疹チフスで命を落としそうになったこともありました。ソフロニアの病気について、ルーシーはこう書き残しています。「わたしは子供を見詰めました。……夫とわたしは手をしっかりと握り合い、ベッドのわきにひざまずいて、わたしたちの苦悩と懇願を主に注ぎ出しました。」<sup>9</sup> ソフロニアは助かりました。ルーシーの子供たちはきっと、母親が信仰を込めて祈る姿を、そして祈りの答えを受ける姿を頻繁に目撃していたことでしょう。

ルーシーは導きを求め、信仰を込めて祈りました。ジョセフも森に入り、母のように、主からの答えを求めながら信仰をもって祈りました。

わたしたちもルーシーのように、イエス・キリストを信じる信仰と証を強める方法を模範によって子供や青少年に示さなければなりません。それには、個人的に、また子供と一緒に聖文を学び、祈ることによって自らの信仰と証を強める必要があります。

ルーシー・スミスと違い、わたしたちに与えられているのは聖書だけではありません。わたしたちには、永遠の命の道へ「〔安全に〕導く」<sup>10</sup> 末日の聖文と末日の預言者の言葉が与えられています。モルモン書からは「しっかりと鉄の棒につかまりながら」<sup>11</sup> 歩む人々について学びます。「鉄の棒」は「神の言葉」<sup>12</sup> を指しています。誘惑に満ちた今日の世の中で、サタンはわたしたちが神の道から外れるよう巧妙に働きかけるので、御言葉に「しっ



かり……つかまりながら」歩むのは決して楽なことではありません。わたしたちが片方の手を鉄の棒にかけ、もう片方の手を世に預けて歩むならば、道を見失うという危険に子供や青少年をさらしてしまいます。一貫した模範を示さなければ、ヤコブの言葉のように、わたしたちは「良くない手本を示して……子供たちの信頼を失っ[て]」しまうでしょう。<sup>13</sup>

親、祖父母、そして指導者の皆さん、皆さんのメッセージは明瞭でなければなりません。明瞭なメッセージは、両手を鉄の棒に置き、聖文の真理と末日の預言者の言葉に込められた真理を實踐して、初めて与えることができます。皆さんはルーシーのように将来預言者になる子供を育てているわけではないかもしれませんが、皆さんは確かに将来の指導者を育てており、皆さんの行いが子供の信仰と密接に関連しているという点も彼女と同じです。

次に、清さにおいて信者の模範となってください。清くなる方法は、救い主の贖罪のほかにはありません。わたしたちがそれぞれ清くなる過程は、信仰、悔い改め、そして最初の聖約であるバプテスマから始まります。

子供たちがバプテスマの聖約に従って生活する助けとなるよう、ロバート・D・ハイルズ長老はこう助言しました。「バプテスマの水から出た瞬間、人は世から出て神の王国へ入るのだと子供に教えてく

ださい。聖約により、子供たちは主の戒めに従うことに同意するのです。」<sup>14</sup>

「聖約を交わすと、神に対する決意を重んじるという厳格な義務を負います。交わした聖約を守るためには、その妨げとなるような活動や、好きな物事をあきらめなければならぬのです。」<sup>15</sup>

聖約を交わすのは神聖な義務であること、また、聖約を守ることによって清さという祝福が得られることを青少年が理解するうえで、『若人の強さのために』は非常にすばらしい資料です。末日の預言者の言葉が載っています。末日の預言者の言葉、すなわち鉄の棒は青少年を細くて狭い道に安全に導き、進歩を遅らせるサタンのわなから逃れさせてくれます。この冊子には、従順になって「徳高いこと、好ましいこと」<sup>16</sup>を尋ね求めるときに与えられる多くの祝福についても書かれています。

親の皆さん、この冊子を個人でも入手して頻繁に読んでください。自分自身でも標準を守りましょう。福音について青少年と心を込めて話し合ってみてください。彼らが自ら標準を守りたいと願い、標準の意味と目的が分かるようになるでしょう。

「娯楽とメディア」の項と「服装と外見」の項に掲載されている教会の標準は世の標準と異なり、その違いは大きくなる一方ですので、特に取り組みがいのあるものになるかもしれません。

わたしたちは、自身が選ぶメディアを通して徳高いことと好ましいことの模範とな

らなければなりません。家庭に持ち込むメディアによって御霊に対する感受性が鈍ったり、家族や友達との関係に悪い影響が生じたり、福音の原則にそぐわない優先順位が描写されたりしないよう注意しなければなりません。インターネット、ソーシャルネットワーク、携帯電話、テレビゲームやテレビに長い時間を費やすと、実り多い活動や貴重な人との交流の機会を逃すということ子供が理解できるよう、わたしたちは模範によって示すことができます。

わたしたちはまた、自身の服装と外見によっても徳高いことと好ましいことの模範となります。聖約の民として、わたしたちには自分の体を大切に、守り、適切な衣服を身につける責任があります。神の宮<sup>17</sup>であり賜物である自分の体を大切にすべきだということ子供や青少年が理解できるよう助けなければなりません。わたしたちは、慎みのない衣服、つまり体にぴったりしすぎる服、透けて見える服、露出度の高い服などを買わない、または着ないことで模範を示します。

主と交わした聖約を守る人は、神を愛しているので、また約束された祝福があるので「いつでも……どのような所にいても」<sup>18</sup>従順でいられるように努力します。ある晩、夫と散歩していると、屋外結婚披露宴の会場のそばを通りかかりました。知らない人たちでしたが、徳高い人たちであることがすぐに分かりました。すばらしい



音楽や服装が選ばれていました。美しい花嫁のドレスはどこから見ても慎み深く、花嫁の付き人の服装も同様でした。この家族はその日の神聖さに世の方法を取り入れないことを選んだのです。

ここで、教会のすばらしい青少年に向けて話します。皆さんが、友達、教師、指導者、家族に義の模範を示していることに感謝します。皆さんの多くは家族でただ一人の会員です。たった一人で教会に出席している人もいるでしょう。皆さんの決意と義の模範は称賛に値します。辛抱強く、これからも義にかなった生活を続けてください。皆さんは多くの人から助けを受けることができます。トーマス・S・モンソン大管長は「模範的な家族であっても、心から関心を示してくれる善良な人の助けを幾らでも借りることができます」<sup>19</sup>

と語っています。

自分のワードやステークを見渡して「信者の模範」となっている指導者や友達を見つけ、その人たちから学んでください。

わたしも若い女性のとき、信者の模範となる人を見つけました。両親もそうでしたが、カーマおばさんもその一人でした。わたしが16歳のときにおばさんがステークの標準の夕べで話してくれたことをはっきりと覚えています。純潔を保つことと神殿結婚にふさわしくあることの大切さを教えてくださいました。わたしは彼女の証に深く感動しました。おばさんが徳高い生活を送っていることは小さいときから見ていたので、その教えがおばさんの生き方と矛盾していないことが分かりました。彼女の模範に従いたいと思いました。

若い男性と若い女性の皆さん、皆さん

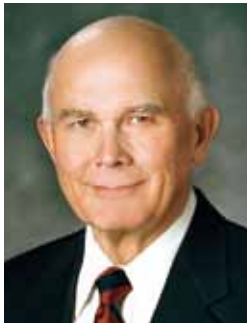
は今日から始めて、信仰と純潔において信者の模範となることができます。聖文研究と祈りを通して、日々信仰と証を強めてください。バプテスマのときに交わした聖約を守っていれば、清さを保ち、聖霊の導きを受けるにふさわしくなることができます。皆さんは今日から始めて、ほかの人の模範になれるのです。

いつか、皆さんがわたしのかわいいルビーにとって模範となる時が来るかもしれません。今、ルビーは永遠の命へ向かう道にあってすばらしいスタートを切りました。ルビーの両親は信者の模範になるという新たな決意をもって毎日を始め、家庭で義の模範を示しています。ルビーが選択の自由を行使し、その道に従ってくれることを望んでいます。

幸福の計画に感謝します。それがルビーもわたしたちも皆再び清くなって、天の御父のみもとで永遠に生きられるようになるための唯一の方法であることを証します。わたしたちが皆、今日から始められますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. アブラハム 3:22 - 26 参照
2. 箴言 31:10 参照
3. 1テモテ 4:12
4. 『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』191
5. 1テモテ 4:12
6. ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith by His Mother*, スコット・フェイサー・プロクターおよびモリーン・ジェンセン・プロクター編, 50
7. ジョセフ・スミス—歴史 1:11 - 12 参照
8. スミス, *History of Joseph Smith*, 58
9. スミス, *History of Joseph Smith*, 69
10. 「鉄の棒」『賛美歌』176 番
11. 1ニーファイ 8:30
12. 1ニーファイ 11:25
13. トルモン書ヤコブ 2:35
14. ロバート・D・ヘイルズ, *Return: Four Phases of Our Mortal Journey Home* (2010年), 60
15. 『伝道活動のガイド——わたしの福音を宣べ伝えなさい』63
16. 信仰簡条 1:13
17. 1コリント 3:16 参照
18. モーサヤ 18:9
19. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』2008年5月号, 66



十二使徒定員会  
ダリン・H・オックス長老

## 二つの伝達経路

現世の目的である成長を遂げるためには、個人の経路と神権の経路の両方を、適切なバランスで用いなければなりません。

天の御父はその子供たちに、御自分と交わるための二つの伝達経路を与えてくださっています。個人の経路と神権の経路と呼ぶことができます。すべての人がこのきわめて重要な二つの伝達経路について理解し、それらによって導きを受けるべきです。

### 1. 個人の経路

個人の経路では、わたしたちは直接天の御父に祈り、御父は御自分が設けられた手段によって、ほかの人を介さずにこたえてくださいます。わたしたちは天の御父に、イエス・キリストの御名によって祈り、御父は聖なる御霊やそのほかの方法を通してこたえてくださいます。聖霊の使命は、御父と御子について証し（ヨハネ 15:26; 2 ニーファイ 31:18; 3 ニーファイ 28:11 参照）、わたしたちを真理に導き（ヨハネ 14:26; 16:13 参照）、なすべきことをすべて示してくださることです（2 ニーファイ 32:5 参照）。この聖なる御霊を介した天の御父との個人的な伝達経路こそ、真理についてのわたしたちの証と、知識と、愛にあふれる天の御父からの個人的な導きの源です。この伝達経路は御父の驚くべき福音の計画に欠かせないものであり、それ

によって御父の子供たちはそれぞれが真理について個人の証を受けることができますのです。

聖霊を通じた天の御父への個人的な直接の伝達経路はふさわしさに基づいて、きわめて重要なものであるため、わたしたちは安息日ごとに聖餐を受けること



で聖約を更新するように命じられています。こうしていつも主の御霊を受け、その導きを受けられるという約束にふさわしくなるのです。

主と個人的に交わるこの伝達経路についてわたしたちが信じ、行っていることは、ほかのキリスト教徒たちと似ています。彼らも神と人との間を仲介する人間は必要ないと主張しています。その理由は、マルチン・ルターが信奉し、現在「万人祭司」として知られている原則の下で、すべての人は直接神に近づくことができるからです。それについては後でもう少し話します。

個人の経路は、個人的な決断を下すときや家族を管理するときに最も重要なものです。残念なことに、わたしたちの教会の会員の中にこの個人の経路の必要性を軽視している人がいます。預言者による指導、すなわち神権の経路は確かに重要ですが、そのため、個人の経路を通じて靈感によって自分で下すべき個人的な決断を、自分に代わって神権指導者に下してもらおうとする人がいます。神権の経路は、おもに教会の問題について天から導きを受けるために働きます。個人的な決断や家族の管理は、基本的に個人の経路を用いるべき問題です。

天の御父と直接交わるこの貴い個人の経路に関して、覚えておくべき注意事項をさらに二つ付け加えたいと思います。

第1に、完全な形においては個人の経路は神権の経路から独立して機能することはありません。神から人への伝達手段である聖霊の賜物は、神権の鍵を持つ者によって認められたときに、神権の権能によって授けられます。単に望んだり、信じたりするだけで得られるものではありません。そしてこの御霊を絶えず伴侶とする権利は、毎週、安息日に聖餐をふさわしく受け、従順と奉仕についてのパペテスマの聖約を更新するときに確認される必要があります。

同様に、もし神権の経路に従順であつたり、神権の経路と調和していなかったり



するなら、直接の個人の経路を通して確かな意思疎通を図ることはできません。主は「天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」と宣言しておられます(教義と聖約 121:36)。残念なことに、神の戒めを破っている人や神権指導者の勧告に従っていない人が、自分はある戒めや勧告に従わなくてもよいと神から示されたのだと断言することがよくあります。そのような人は、啓示や靈感を受けているのかもしれませんが、それは自分が思っているところから来るものではありません。悪魔は偽りの父であり、巧みに模倣することによって神の業をくじこうと絶えず機会をねらっています。

## II. 神権の経路

天の御父が聖霊を通して直接わたしたちに御心を伝えてくださる個人の経路と異なり、神権の伝達経路には、救い主イエス・キリスト、主の教会、および主の任命された指導者という仲介者が加わる必要があります。

イエス・キリストは、<sup>あがな</sup>贖いの犠牲によっ

て成し遂げられた事柄のために、わたしたちが主の贖罪の祝福を受ける資格を得るために満たさなければならない条件を定める力を持っておられます。そのようなわけで、わたしたちは戒めと儀式が与えられており、聖約を交わすのです。またそのようにして、約束された祝福を受ける資格を得るのです。それらはすべて、「わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に」(2ニーファイ 25:23)、イスラエルの聖者の<sup>あわ</sup>憐れみと恵みによってもたらされます。

イエス・キリストは地上で務めを果たされた間に、御自分の名前を有する神権の権能を受け、同じく御自分の名前を有する教会を設立されました。そしてこの最後の神権時代に、預言者ジョセフ・スミスに対する天使たちの働きを通して、主の神権の権能が回復され、主の教会が再び設立されました。この回復された神権と再び設立された教会こそ、神権の経路の核心となるものです。

この神権の経路を通して、神は過去の時代に聖文を通してその子供たちに語ってられました。またこの経路によって、神は現在、生ける預言者と使徒と、靈感を

受けたそのほかの指導者の教えと勧告を通して語られます。この経路によって、わたしたちは必要な儀式を受け、主の教会で奉仕する召しを受けます。主の教会という経路と、主の神権という権能を通じて、わたしたちは主の業を成し遂げるために不可欠な共同作業に携わる特権にあずかっているのです。これには、福音を宣べ伝え、神殿や礼拝堂を建て、貧しい人を助けることが含まれます。

この神権の経路に関してわたしたちが信じ、行っていることは、一部のキリスト教徒の主張と似ています。正当な権能による儀式が不可欠であり、それらはイエス・キリストによって権能と権限を与えられた者によって執行されなければならないという主張です(ヨハネ 15:16 参照)。わたしたちも同じことを信じていますが、言うまでもなく、その権能をどこから受けているかという点で、ほかのキリスト教徒と異なっています。

わたしたちの教会の会員や、以前会員だった人の中には、神権の経路の重要性を認めていない人がいます。そのような人々は、教会とその指導者とプログラムの

重要性を軽視しています。個人の経路だけに頼りながら、我が道を行き、教義の意味を定義し、預言者の教えに反し教会に対抗する組織を率いていると主張しています。このような行いには、今日軽蔑的に「組織的宗教」と呼ばれるものに対する敵意が映し出されています。組織的宗教の必要性を否定する人は、時の中間に御自分の教会とその役員を設立し、現代にそれらを再び設立された主の業を拒んでいます。

神の権能によって設立された組織的宗教は不可欠なものであり、使徒パウロも次のように教えています。

「それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ4:12-13)

わたしたちは皆、主の僕の声は主の声であるという、現代の啓示における主の宣言を覚えているべきです(教義と聖約1:38;21:5;68:4参照)。

きわめて重要な神権の経路に頼ること



に関して、覚えておくべき注意事項を二つ付け加えたいと思います。

第1に、神権の経路によって個人の経路の必要性がなくなるわけではありません。わたしたちは皆、真理についての個人の証を必要としています。信仰が強められるとき、必然的に両親や教師、神権指導者など、ほかの人々の言葉や信仰に頼ります(教義と聖約46:14参照)。しかし、もし真理について個人の証を得るのに、ある特定の神権指導者や教師に頼り切ったまま、個人の経路を通じて証を得ないならば、その人物の行いによって信仰を失う危険性がいつまでも続くことになります。真理についての成熟した知識や証を得るには、人の仲介に頼って自分と天の御父をつないでもらうべきではありません。

第2に、個人の経路と同様、神権の経路はわたしたちがふさわしく、従順でなければ、わたしたちのために十分に、また適切に機能しません。もし神の戒めに甚だしく背き続けるならば「神の御前から絶たれる」と(アルマ38:1)、多くの聖句が教えています。そのようなことが起こると、主とその僕たちは霊的な助けを与える力を厳しく制限され、わたしたちは自分で助けを得ることはできません。

主の僕が御霊と調和していることの大切さが浮き彫りになった例を歴史の中に見ることができます。若き預言者ジョセフ・スミスは、怒っているときや冷静さを失っているときには翻訳することができませんでした。

デビッド・ホイットマーは次のように回想しています。「ある朝、ジョセフが金版の翻訳に取りかかろうとしていたとき、家のことで問題が起こり、ジョセフはそれに腹を立てた。妻のエマがしたことが原因だった。オリバーとわたしは先に2階に上がり、間もなくジョセフもやって来て、翻訳にかかった。ところがまったく進まなかった。ただの一言も翻訳できなかった。そこでジョセフは階下に降り、外へ出て果樹園へ行き、主に祈った。

1時間ほどしてから家に帰って来て、ジョセフはエマに赦しを求めた。そして再び2階に戻って来たが、それから翻訳はすべて順調にいった。ジョセフは、謙遜で誠実でなければ何も翻訳できなかった。」<sup>1</sup>

### III. 両方の経路の必要性

天の御父が御自分の子供たちと交わるために設けておられる両方の経路の必要性についての例をさらに述べてこの話を締めくくります。御自分の子供たちの不死不滅と永遠の命をもたらすという御父の目的にとって、どちらの経路も不可欠なものです。昔の聖文にこの必要性について述べている話があります。義父エテロがモーセに、あまりに多くのことをなそうとすべきではないと助言を与えた話です。民は「神に何おうとして」(出エジプト18:15)、また「相互の間をさばいて」(16節)もらうために、朝から晩まで神権指導者に頼っていました。わたしたちがしばしば注目するのは、裁く者たちを任命して個人的なめ事の処理を彼らに委任するようにと、エテロがモーセに助言したことです(21-22節参照)。しかしエテロはモーセに、個人の経路の大切さについて次のような助言も与えています。「あなたは彼らに定めと判決を教え、彼らの歩むべき道と、なすべき事を彼らに知らせなさい。」(20節、強調付加)

つまり、すべての質問を神権指導者のもとに携えて行くことのないようモーセに従うイスラエルの民に教えなさいということです。戒めを理解して、ほとんどの問題を自分で解決するように靈感を求めべきなのです。

最近のチリでの出来事は、両方の経路の必要性を示しています。チリでは壊滅的な地震がありました。教会員の多くが家を失い、家族を失った人もいます。多くの人が自信を失いました。わたしたちの教会はそのような災害に対処する備えができていたため、速やかに食糧、避難施設、そのほかの物質的な援助を提供しま



した。チリの聖徒たちは、自分たちの物質的な必要にこたえる主の教会とその指導者たちを通して、主の御声<sup>みこえ</sup>を聞きました。しかし、神権の経路がどれほどうまく機能しても、十分ではありませんでした。それぞれの会員が祈りによって主を求め、慰めと導きのメッセージを直接受ける必要があったのです。それは求めて耳を傾ける人に聖なる御霊を通じてもたらされるものでした。

わたしたちの伝道活動もまた、両方の経路の必要性を示す例です。宣教師に召される男女はふさわしく、熱心です。神権の経路を通して受けてきた教えと個人の経路を通して受けてきた証があるからです。彼らは神権の経路を通して召されます。その後、主の代表者として神権の経路の指示の下に、求道者を教えます。真理を心から求める人は聞きます。そして宣教師は、メッセージが真実であることを個人の経路を通して自分で知るために祈るよう求道者に勧めます。

最後の例は、これらの原則が家庭と教

会における神権の権能というテーマにどのように当てはまるかを示すものです。<sup>2</sup> 教会におけるすべての神権の権能は、ふさわしい神権の鍵を持つ人の指示の下で機能します。これが神権の経路です。しかし、家庭を管理することに関しては、神権の鍵を持つ人から承認を得る必要はなく、父親であれ、独りで子供を育てる母親であれ、家族の事柄について権能を行使します。それは個人の経路に似ています。もしわたしたちが、天の御父が御自分の子供たちのために用意された計画のとおり成長を遂げ、人生の目的を達成しようとするなら、家庭生活と個人の生活において両方の経路が機能していなければなりません。

現世の目的である成長を遂げるためには、個人の経路と神権の経路の両方を、適切なバランスで用いなければなりません。個人の宗教上の行いがあまりにも個人の経路に頼ったものであるなら、個人主義が神の権能の重要性を消し去ってしまいます。神権の経路に頼りすぎている

なら、個人の成長が損なわれてしまいます。永遠の目的を達成するために、神の子供たちには両方の経路が必要です。回復された福音は両方について教え、回復された教会は両方を提供しているのです。

主の預言者トーマス・S・モンソン大管長について、そして彼が神権の経路を治める鍵を持っていることについて証します。主イエス・キリストについて、そしてこの教会が主の教会であることについて証します。回復された福音について、その真実性が天の御父への大切な個人の経路を通じてわたしたち一人一人に知らされ得ることについて証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. "Letter from Elder W. H. Kelley," *The Saints' Herald*, 1882年3月1日付, 68で引用。同様の報告がB・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*, 第1巻, 131で引用されている
2. ダリン・H・オークス, 「家庭と教会における神権の権能」『リアホナ』2005年11月号, 24-27 参照





トーマス・S・モンソン大管長

# 感謝という神の賜物

感謝の心は、天の御父が下さる祝福や、周りの人がもたらしてくれるすべてのことに感謝の気持ちを表すことで得られます。

すばらしい部会でした。教会の大管長となったとき、わたしはこう言いました。「引き受けさせてほしい割り当てがあります。それはタバナクル合唱団のアドバイザーです。」わたしの合唱団を誇りに思っています。

母はわたしについてこう言ったことがありました。「トミー、これまであなたがしてきたすべてのことを誇りに感じているけど、一つだけ言いたいことがあるわ。それはピアノを続けてほしかったということ。」

そこでわたしはピアノの前に座り母のために1曲弾きました。「行きましょう、[行きましょう] 誕生日のパーティーに」<sup>1</sup>そして母の額にキスをすると、母はわたしを抱きしめてくれました。

母のこと、そして父のことを思い出します。わたしや人々に良い影響を与えてくれた多くの中央幹部のことも思い出します。わたしの心には、夫に先立たれた85人の姉妹たちの姿も浮かんでいます。オープンで調理するための鶏を持って訪問しました。わずかなお金を差し上げたこともありました。

夜遅くにある姉妹を訪問した時のことです。福祉施設に着いたのは真夜中でした。受付の人はこう言いました。「彼女はぐっすり休んでいるはずですが、『必ず来るから』起こすようにとされています。」

姉妹の手を取ると、彼女はわたしの名

前を呼びました。彼女はすっかり目を覚ましました。わたしの手を自分の唇につけて言いました。「来てくれるって分かっていたわ。」どうして訪問しないでいられるのでしょうか。

美しい音楽を聴くと、あのときと同じ気持ちになります。

愛する兄弟姉妹、わたしたちは靈感に満ちた真理と希望と愛のメッセージを聞いてきました。わたしたちの思いは、わたしたちの罪を贖い、生き方を教え、祈り方を教え、御自身の行いによって奉仕の祝福を教えてください、わたしたちの主なる救い主、イエス・キリストに向いています。

ルカによる福音書第17章には、救い主についてこう記されています。

「イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。

そして、ある村にはいられると、重い皮膚病にかかった十人の人に会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、

声を張りあげて、『イエスさま、わたしたちをあわれんでください』と言った。

イエスは彼らをごらんになって、『祭司たちのところに行って、からだを見せなさい』と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

イエスは彼にむかって言われた、『きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。』

神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。』

それから、その人に言われた、『立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。』<sup>2</sup>

神の介在により、この重い皮膚病にかかった人たちは、半死半生の残酷な状態から救われ、新しい命を与えられました。主は感謝した一人を祝福されましたが、感謝しなかった9人には失望されました。

兄弟姉妹、わたしたちは受けた祝福に感謝することを覚えているでしょうか。心からの感謝は、祝福に気づかせてくれるだけでなく、天の扉を開いて神の愛を感じられるように助けてくれるのです。

愛する友であるゴードン・B・ヒンクレー大管長は言いました。「感謝しながら生活すれば、うぬぼれや虚栄心や利己心ではなく、自分にふさわしい感謝の精神で生活し、日々祝福を受けることができるでしょう。」<sup>3</sup>

聖書のマタイによる福音書にも、感謝についての話が記されています。ここでは、救い主が感謝の気持ちを表されています。主が3日間荒野をお歩きになったとき、4,000人以上が主に従い、ともに歩いていました。主は、3日間何も食べていないであろう彼らのことを哀れに思われました。しかし主の弟子たちはこう言っていました。「弟子たちは言った、『荒野の中で、こんなに大ぜいの群衆にじゅうぶん食べさせるほどたくさんのパンを、どこで手に入れましょうか。』」わたしたちの多くと同じように、主の弟子たちも欠けているものにしか目が行っていませんでした。

「イエスは弟子たちに『パンはいくつあるか』と尋ねられると、[弟子たちは]『七つあります。また小さい魚が少しあります』と答えた。



そこでイエスは群衆に、地にすわるようにと命じ、

七つのパンと魚とを取り、感謝してこれをさき、弟子たちにわたされ、弟子たちはこれを群衆にわけた。」

救い主はそこにあった分について感謝されたのです。すると奇跡が起こりました。「一同の者は食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七つのかごにいっぱいになった。」<sup>4</sup>

だれでも、祝福ではなく欠けているものの方にだけ注目してしまった経験があります。ギリシャの哲学者エピクテトスは言いました。「知恵のある人は、持っていないものを嘆かず、持っているものを喜ぶ。」<sup>5</sup>

感謝は天の原則です。預言者ジョセフ・スミスに与えた啓示を通して、主は宣言されました。

「あなたはすべてのことについて、主な

あなたの神に感謝しなければならぬ。……

また、すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」<sup>6</sup>

モルモン書で、わたしたちは「神が授けてくださる多くの憐れみと祝福を日々感謝しながら生活するように」<sup>7</sup> 言われています。

時間を取って祝福についてよく考えるなら、どのような状況にあっても、感謝すべきことがたくさん出てくるはずだ。

今、地球はすばらしい時を迎えています。今日の世界には間違ったことが多くありますが、正しく善いこともたくさんあります。幸せな結婚生活を送り、子供を愛し、子供のために犠牲を払っている親がいま

す。気遣い、助けてくれる友がいます。教えてくれる教師がいます。人生を祝福してくれるものは無数にあるのです。

いつまでも悲観的に考えるのをやめ、心の中に感謝の気持ちを育てるなら、自分自身を奮い立たせ、人を勇気づけることができます。感謝を忘れることが重い罪の一つに数えられるとすれば、感謝することは最も気高い徳の一つです。ある人はこう言いました。「感謝は最も偉大な徳であるばかりか、そのほかすべての徳の生みの親でもある。」<sup>8</sup>

心の中に感謝の気持ちを育てるにはどうすればよいのでしょうか。第6代大管長のジョセフ・F・スミス大管長はこう答えています。「感謝する人は、世界には感謝すべきことが数多くあることを知っています。その目には良いことの方が悪いことよりも多く映っています。愛がねたみに打ち勝ち、光がその人の生活から闇を追い払うのです。」さらにこう続けています。「高慢な心は感謝する心を破壊し、代わりに利己心を植え付けます。人は感謝と愛に満ちた人のそばにいる方がずっと幸福です。生活の中でよく祈ることを通して、神と人に対する感謝の気持ちを育てることに、どれほど心を注ぐべきでしょうか!」<sup>9</sup>

スミス大管長は、感謝の念を抱くには生活の中でよく祈ることが大切だと述べています。

人は、物質的なものがあれば喜び、感謝するのでしょうか。一時的にはそうでしょう。でも、深く永続する喜びと感謝をもたらすものはお金で買えません。例えば、家族、福音、友人、健康、能力、周りの人から受ける愛を買うことはできません。残念なことに、わたしたちはこれらの人やものを、あって当たり前だと思ってしまうときがあります。

イギリスの作家オルダス・ハクスリーはこう書いています。「あって当たり前だと思うことにかけては、たいいてい人はほとんど無限の能力がある。」<sup>10</sup>



最も感謝すべき人を、おろそかにすることがよくあります。手遅れになる前に感謝を表そうではありませんか。愛する人を亡くした一人の男性が後悔の念をこう述べました。「幸せだった日々を思い出しながら、度々思うのは、もっと言うべきだったのになんとも言えなかった感謝の言葉を、あの人の耳もとでささやければということです。」<sup>11</sup>

愛する人を失うと、必ずと言っていいほど後悔の念が生じます。頻繁に愛と感謝を伝えることによって、そのような後悔の念を最小限にとどめるよう最善を尽くしましょう。いつ手遅れになるかは、だれにも分からないのです。

感謝の心は、天の御父が下さる祝福や、周りの人がもたらしてくれるすべてのことに感謝の気持ちを表すことで得られます。これには意識的な努力が欠かせません。少なくとも感謝の心を知り、はぐくむまでは努力を続ける必要があります。ありがたいと思ひ、その気持ちを伝えるつもりであっても、忘れてたり、時間を取らなかったりすることがよくあります。「感謝しているのに伝えないのは、プレゼントを包んでいるのに渡さないようなものだ」と言った人がいます。<sup>12</sup>

日々の生活で試練や問題に直面すると、祝福に目を向けるのはたいてい難しくなります。それでも熱心に探し、懸命に見いだそうとするならば、どれほど多くを与えられているかに気づき、実感することができるのです。

ある家族の話を紹介します。大きな試練の中で祝福に気づくことのできた家族です。何年も前に読み、すばらしい内容だったのでずっと手もとに置いていました。ゴードン・グリーンという人が残した記録で、アメリカの雑誌に50年以上前に掲載されたものです。

ゴードンは自分がカナダの農場でどのように育ったかをつづっています。学校が終わると、ほかの子供たちがボール遊びや水泳をしても、ゴードンときょうだいは急いで帰宅しなければなりません。それでもゴードンの父親のおかげで、子供たちは働くことには大いに価値があるということを理解していました。それは特に収穫の後、家族で感謝祭を祝うときに実感できました。その日、父親は子供たちにすばらしいプレゼントをします。家に何があるかをすべて調べるのです。

感謝祭の朝、父親は子供たちを連れて地下室に行きます。そこにはリンゴの入った樽、甜菜の入った容器、砂に詰めたニンジン、山積みされたジャガイモの袋があったほか、棚は豆、コーン、サヤエンドウ、ジャム、イチゴやそのほかの瓶詰めでいっぱいでした。父親は子供たちにそれらをゆっくりと、一つ残らず数えさせました。次に納屋へ行ってどれだけの干し草があるかを調べ、また穀物倉にどれだけの穀物があるかを確認させました。牛、豚、鶏、七面鳥、ガチョウも数えました。父親は必要なものがあるか確認したいと言っていました。ほんとうは、神がどれほど

家族を祝福し、長時間の労働に報いてくださったかを、その祝日に実感してほしい。最後、母親が作ったごちそうのテーブルに皆で着いたとき、彼らの心は感謝で満たされました。

しかし、最も感謝した感謝祭の思い出は、感謝すべきことが何もないと思われた年のことだったとゴードンは書いています。

その年は順調に始まりました。前年の干し草の残りが残り、種も多く、生まれた豚も4頭いました。また、父親には貯金も少しありました。農家のあこがれである干し草を積む機械をいつか買うための貯金です。その年、町には初めて電気が通りました。ただしゴードンの家には電気を引く余裕はありませんでした。

ある晩、ゴードンの母親が山のような洗濯物を洗っていると、父親が入って来て彼女の持っていた洗濯板を取り、交代するから少し休んで編み物をしたらどうかと言いました。「君は眠っている時間以上に洗濯しているね。我が家も降参して、電気を引くべきだろうか。」母親は期待で胸が高鳴ったものの、干し草を積む機械が買えなくなると、涙がこぼれました。

その年、ゴードンの家にも電線が引かれました。高級品ではありませんでしたが、一日中働いてくれる洗濯機を買い、どの部屋の天井からも待望の電球をつり下げました。ランプに油を差すことも、ろうそくの芯を切ることも、すすけたガラスの



筒を洗うこともなくなり、ランプは屋根裏の物置にそっと置かれました。

農場に電気が通ったことは、その年の喜ばしい出来事の最後になってしまうところでした。作物が土から顔を出し始めると、すぐに大雨になりました。水はようやく引いたものの、植物は完全に流されていました。また種を植えましたが、さらなる大雨で地中の作物はだめになってしまいました。ジャガイモは泥の中で腐っていました。手放すつもりがなかった牛を数頭、豚やその他の家畜をすべて売りましたが、大した金額にはなりません。ほかの農家も皆同じ状況だったからです。その年彼らが収穫できたのは、嵐の中で生き残ったカブだけでした。

そしてまた感謝祭の季節が来ました。母親が言いました。「今年は感謝祭はできないわ。ガチョウ1羽さえいないのだから。」

しかし感謝祭の朝、ゴードンの父親は野ウサギを持って来て、母親に料理するように言いました。母親は、ウサギの肉は固くて料理に時間がかかると言いながら、不承不承料理を始めました。ウサギの肉と嵐を生き抜いたカブがようやくテーブルに並びましたが、子供たちは食べたくないといいました。母親は泣きました。すると父親は奇妙なことをしました。屋根裏からオイルランプを持って来ると、テーブルに載せて火をともし、子供たちに電気を消すように言ったのです。以前のようにランプの明かりだけになったとき、皆、以前はこれほど暗かったということが信じられませんでした。電気の明るい光がなかった

ころ、どうやって物を見ていたのだろうか、皆不思議に思うほどでした。

食事を祝福し、皆で食べました。食事が終わると皆で静かに座りました。ゴードンはこう書いています。

「古いランプの薄明かりの中で、わたしたちは再びはっきりと見ることができるようになった。……

すばらしい食事[だった]。野ウサギは七面鳥のようにおいしかったし、カブもこれまでで最高の味だった。

……乏しかったが、……我が家は……とても豊かだった。」<sup>13</sup>

兄弟姉妹、感謝を表すことは親切で高潔なことです。感謝を行動で示すことは寛大で気高いことです。しかし、常に感謝を心に抱いて生きることで、わたしたちは天に触れることができるのです。

今朝の話の最後に、感謝すべきすべてのことに加えて、主なる救い主イエス・キリストへの感謝をわたしたちが常に表すことができるように祈ります。主の栄えある福音は人生最大の疑問に答えます。「人はどこから来て、なぜここにいる、死んだ後、人の霊はどこへ行くのだろうか。」この福音は闇の中を生きる人々に神の真理の光を届けるのです。

主はいかに祈るべきかを教えられました。いかに生きるべきかを教えられました。いかに死ぬべきかを教えられました。主の生涯は愛の遺産です。主は病める者を癒し、虐げられた者を抱き上げ、罪人を救われました。

最後に主は独りで立たれました。使徒たちの数人は疑い、一人は裏切りました。ローマの兵士はそのわきを突き刺しました。怒った群衆は主の命を取りました。ゴルゴタの丘から今でも主の哀れみの声が聞こえます。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」<sup>14</sup>

「悲しみの人で、[悲哀]を知って[るこの方]」はどなたでしょう。<sup>15</sup> この「栄光の王」<sup>16</sup>、主の主はどなたでしょう。その

御方はわたしたちの主、救い主です。神の御子です。救いの源です。主は「わたしについてきなさい」<sup>17</sup>と招き、「あなたも行つて同じようにきなさい」<sup>18</sup>と教え、「わたしのいましめを守るべきである」<sup>19</sup>と訴えておられます。

主に従い、主の模範に倣い、主の御言葉に従いましょう。そうすることにより、わたしたちは感謝という神の賜物を主に差し出すのです。

それぞれの生活の中で、わたしたちが感謝という驚くべき徳を表すことができるよう心から誠実に祈ります。感謝が今も永遠にもわたしたちの心にしみとおりますように。救い主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

#### 注

1. ジョン・トンブソン, "Birthday Party," *Teaching Little Fingers to Play* (1936年), 8.
2. ルカ 17:11-19
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 250
4. マタイ 15:32-38 参照; 強調付加。
5. *The Discourses of Epictetus; with the Encheiridion and Fragments*, ジョージ・ロング訳 (1888年), 429
6. 教義と聖約 59:7, 21
7. アルマ 34:38
8. シセーロ, *A New Dictionary of Quotations on Historical Principles* で引用, H・L・メンケン選 (1942年), 491
9. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版 (1939年), 263
10. オルダス・ハクスリー, *Themes and Variations* (1954年), 66
11. ウィリアム・H・デービス, *The Autobiography of a Super-Tramp* (1908年), 4
12. ウィリアム・アーサー・ワード, アレン・クライン編, *Change Your Life!* (2010年), 15 で引用
13. H・ゴードン・グリーン, "The Thanksgiving I Don't Forget," *Reader's Digest*, 1956年11月号を基に編集
14. ルカ 23:34
15. イザヤ 53:3
16. 詩篇 24:8
17. マタイ 4:19
18. ルカ 10:37
19. ヨハネ 14:15



十二使徒定員会  
L・トム・ペリー長老

## アロンの神権

皆さんが受けている神権は特別な賜物<sup>たまもの</sup>です。主御自身がお与えになったものだからです。神権を行使し、尊んで大いなるものとし、神権にふさわしく生活してください。

25年前の総大会で話したとき、ある視覚教材を紹介しました。最年長の孫を隣に立たせたのです。孫は当時、アロン神権を受けて、執事に聖任されたばかりでした。わたしはその機会を借りてアロン神権を受けることの大切さについて彼に話しました。

わたしは孫にこう言いました。

「わたしは、君たち若者が受け継いでいるこの世の中の状況をあまり良いものだとは思っていない。君たちはその環境の中で成長していかなければならない。君たちよりも年長のわたしたちが、年齢的にも社会的にも、世の中を動かしていく立場にあるのだが、君たち、次の世代を背負っていく人々のために、あまり良い社会を築いてやることができなかつたと思っている。そのために、これから君たちが交わっていく人々の多くは、昔から伝えられてきた価値あるものを理解も敬いもせずに成長してきている。そして、同じ年ごろの仲間からの圧力が、以前に比べはるかに強く、難しいものになってきている。

わたしたちの家には、ラジオ、レコードプレーヤー、テレビなどがある。どれも健全な娯楽の提供に役立つが、わたしたちのためと言って作られている多くのもの

は、若人を高めるのに何の役にも立っていない。実際ほとんどのものは、人を墮落させるものばかりで、家の中でそれらのスイッチを入れると、善悪の感覚をまひさせ<sup>なじ</sup>てしまいそうな危険性もある。」(「われ汝らにアロンの神権を授く」『聖徒の道』1986年1月号, 48)

世の中が移り変わっても、この状況に変わりはありません。変わったのは科学技術だけです。アロン神権を持つ若い男性に、レコードプレーヤーなどというものを知っているか尋ねてみたいものです。知らない人のために言いますが、昔は居間に行ってその機械を動かすと音楽を聴くことができたのです。想像できますか。持ち歩くのではなく、自分がその機械の所に行かねばならなかつたのです。

孫のテリーには、旧約聖書のダニエルの話に基づいて4つの教訓も教えました。(1) 肉体を健康で清い状態に保つこと。(2) 知性を高めて賢くなること。(3) 雄々しくあって、誘惑に満ちた世の中で誘惑に屈しないこと。(4) 主を信頼すること、主の守りが必要なときは特にそうすること。

わたしはテリーへの勧告を次の言葉で締めくくりました。「聖典の中のこうした

物語は、古くなるということがない。君はこれから、執事、教師、祭司、宣教師、ホームティーチャー、長老定員会の会長など、主が備えられた様々な責任に就いていくと思うが、どんなときにも聖典のおもしろさは変わることがない。聖典は君に、信仰、勇気、隣人愛、そして主への確信と信頼を持つように教えてくれることだろう。」(『聖徒の道』1986年1月号, 50)

わたしが25年前に与えた勧めにテリーがずっと忠実であったと報告できることをうれしく思います。彼はその後メルキゼデク神権を受け、伝道に出て忠実に働き、現在は長老定員会会長として奉仕しています。そして言うまでもなく、かわいい娘を持つ父親です。

この四半世紀の間に多くのことが変わりました。孫の多くが大人になり、それぞれ子供をもうけていることも変化の一つです。今年の夏、わたしは神権者の輪に加わってひ孫の頭に手を置く機会にあずかりました。最年長のひ孫が父親からアロン神権を授か<sup>きょう</sup>ったのです。その子は隣に立っていませんが、彼と皆さん、つまりアロン神権を持つすべてのすばらしい若い男性に向けて話をします。

アロン神権を受けることは非常に特別な祝福です。歴史にはあの栄えある日のことが記録されています。神権が地上に回復され、再び人が神の代理人として行動し、聖なる神権の儀式を執行する権利が与えられた日のことです。オリバー・カウドリがペンシルベニア州ハーモニーにある預言者ジョセフ・スミスの家に着したのは1829年4月5日のことでした。オリバーは、ジョセフが行っているモルモン書という古代の記録の翻訳について尋ねました。それが神からのものであると確信したオリバーは翻訳を完成させるために筆記者となることに同意しました。オリバーが筆記者を務めてから翻訳作業はかどるようになりました。

1829年5月15日までは、ジョセフとオリバーの翻訳はすでに第三ニーファイ



で進んでいました。復活した救い主が西半球を訪れられた記録と、バプテスマに関する救い主の教えに二人の胸は高鳴りました。しかし、第三ニューフェイスを読み進むうちに、二人の心にはバプテスマについて疑問が生まれます。どのような様式のバプテスマが正しいのか。この神聖な救いの儀式を執行する権能を持っているのはだれなのか。二人はこの基本的な教義に関する疑問の答えを探し求めました。そして、祈りによって答えを求めることに決め、近くのサスケハナ川の岸辺へ向かいました。二人が心を注ぎ出すと天が開かれました。バプテスマのヨハネと名乗る天使が現れて、ジョセフとオリバーに、自分はより高い神権を持つベテロ、ヤコブ、ヨハネの指示の下で行動していると伝えました。そして、ヨハネは次のように告げたのです(ジョセフ・スミス—歴史1:72 参照)。

二人の頭に手を置いてバプテスマのヨハネは言いました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは

天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」(教義と聖約13:1)

後に、オリバーはこの出来事について次のように回想しています。「しかし……考えてみてほしい。さらにしばしば考えてみてほしい。……その手によってわたしたちが聖なる神権を受けたとき、どれほどの喜びがわたしたちの心を満ちし、またどれほど驚いてわたしたちがひれ伏したかを。」(ジョセフ・スミス—歴史1:71の注)

人類が神の権能の回復を何世紀も待ちわびた末、聖なるアロン神権の力と栄光が地上に戻ったのです。教義と聖約第107章には小神権がアロン神権と呼ばれる理由が述べられています。

「第二の神権は、アロンの神権と呼ばれる。それがアロンとその子孫に代々授けられたからである。

なぜそれが小神権と呼ばれるかといえ

ば、それが大神権、すなわちメルキゼデク神権に付属するものであり、外形上の儀式を執行する力を持つからである。

小神権すなわちアロン神権の力と権能とは、天使の働きの鍵を持ち、また聖約と戒めにならないう外形上の儀式、すなわち福音の文字、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを執行することである。」(教義と聖約107:13-14, 20)

アロン神権を持つ若い男性は、主の代理人として神権の責任を遂行する力と権能を授かるだけでなく、天使の働きの鍵も授かるのです。

アロン神権を持つ若い男性の皆さん、主は厳粛な聖約により、皆さんの忠実さに応じて皆さんの人生を祝福するという義務を負われていることを証します。聖霊の警告の声を中心に留めて導きに従うなら、皆さんは天使の働きという祝福を得るでしょう。この祝福により、皆さんの生活に知恵、知識、力、栄光が増し加わるのです。これは主が皆さんに約束された確かな祝福です。

数か月前、あるワードの断食証会に出席する機会がありました。立って証を述べた人々の中に、アロン神権のアドバイザーがいました。彼の証を聞いて、アロン神権者が天使の働きの鍵を持つことの意味を改めて実感しました。

アドバイザーはその日の朝にあったワードのアロン神権者との経験について語りました。教会に来る途中、断食献金の封筒を持って会員たちの家へ向かう二人の執事を見かけました。きちんとした服装をして、静かな威厳をもって割り当てを果たす姿に感銘を受けたそうです。その後アドバイザーは二人の祭司と一緒に、体と心に障がいを持つ人の施設を訪れ、<sup>せいさん</sup>聖餐を執り行いました。二人の若い男性にとっては初めての訪問でしたが、礼儀正しく、思いやりをもって神権の割り当てを果たしていたそうです。

アドバイザーは次に、深く胸を打たれた短い経験について話しました。祭司の一人がイエス・キリストの働き手となること、すなわち文字どおり仕える天使となることのほんとうの意味を思い出させてくれたのだそうです。出席者に水を配っていた若い祭司が、ダウン症と思われる男性の前に来ました。症状のために男性はトレイからカップを取って飲むことができません。若い祭司は即座に状況を察知しました。そして左手を男性の頭の後ろに当て、飲む体勢を取れるようにし、右手でトレイのカップを取って、優しく、ゆっくりと男性の唇に当てました。男性の顔に感謝の表情が浮かびました。あの御方に同じことをしていただいたときの表情でした。その後、このすばらしい若い祭司は、祝福された水を残りの出席者に配る割り当てを続けたそうです。

アドバイザーは証の中で、その感動の瞬間に立ち会ったときの気持ちを話しました。喜びの涙を静かに流しながら、このような、若く、思いやりにあふれた、従順なアロン神権者のいるこの教会の未来には何の不安もないということが分かったと話



ていました。

かつてエズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように述べました。「わたしが望んでいるのは、道徳的に清い生活をし、教会に忠実に出席している若い男性です。神権を尊んで大いなるものとし、『神への務め達成賞』を得、イーグルスカウトになった若い男性です。セミナーを卒業し、モルモン書に対して燃えるような証を持っている若い男性です。そのような若い男性を下さい。そうすれば、伝道中も、生涯においても主のために奇跡を行える青年を

お返ししましょう。』(「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年7月号、48参照)

このようなすばらしい若い男性や若い女性の親の皆さん。わたしたちは、子供に聖なる神権の教義を教えるという神聖な責任を皆さんに託します。皆さんの子供たちは早い時期から主の永遠の神権を持つことの祝福と、その祝福を得るにふさわしくなるために各自が何をしなければならぬのかを知らなければなりません。

ビショップの皆さん、皆さんはアロン神

権を持つ若い男性を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らに神権の義務を教えるという神権の鍵を持っています。アロン神権を受けるにふさわしい一人一人の若い男性が、神権者として彼らが帯びる義務と祝福を必ず理解するようにしてください。重要な割り当てを与え、また奉仕したり教え導いたりするのを助けることによって、彼らが神権を尊んで大いなるものとするを今から学べるように助けてください。

若い男性の皆さん、皆さんに真理と義を土台とした人生を築くという課題を出します。これは人生の重荷に耐える、永遠に揺るぐことのない唯一の土台です。皆さんが受けている神権は特別な賜物たまものです。主御自身がお与えになったものだからです。神権を行使し、尊んで大いなるものとし、神権にふさわしく生活してください。神権の力について、わたしが自分の経験から特別な証を持っていることを知ってください。神権は様々な方法でわたしの人生を祝福してくれています。

また皆さんに、この偉大な祝福を尊ぶ決心、そしてアロン神権の執事、教師、祭司の職への昇進の準備をする決心を今日するという課題を出します。メルキゼデク神権を受けるという偉大な祝福に備えてください。皆さんは、専任宣教師として奉仕する前に、この神権を受けるふさわしさを身に付ける必要があります。主は、皆さんが主の奉仕に備えるよう、特に、世界に主の福音を宣べ伝えるという偉大な責任に向けて備えるよう望んでおられます。主の聖なる神権を受けるよう備えるなら、主は文字どおり皆さんの頭こうべに祝福を注がれることを約束します。この証を、主であり救い主であるイエス・キリストの御名によっていたします、アーメン。■



十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老

## 聖霊を受けなさい

「聖霊を受けなさい」という言葉は受け身でいるよう言い渡すものではありません。むしろ、神権の命令、すなわち単に作用されるものになるのではなく作用するものとなるように促す、権威ある勧告なのです。

**わ** たしのメッセージは、聖霊を実際に受けるために日常生活で努力することの大切さについてです。主の御霊みたまがここにおいて、わたしたち一人一人を教え、教化するように祈っています。

### 聖霊たまものの賜物

1839年12月、ミズーリ州の聖徒たちが受けた不当な扱いに対し補償を求めて、ワシントン D.C.を訪れていたジョセフ・スミスとエライアス・ヒグビーは、ハイラム・スミスにあてて次のように書き送りました。「〔合衆国〕大統領との会見の中で、わたしたちの宗教は現代のほかの宗教とどのように異なっているのか尋ねられました。そこでジョセフ兄弟は『わたしたちが異なっているのはバプテスマの方法と、あん 按手による聖霊の賜物であり、そのほかの考慮すべき事柄はすべてこの聖霊の賜物の中に含まれると考えている』と述べました。』（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』97）

聖霊は神会における第3の御方です。霊の御方で、すべての真理について証あかしされます。聖文では、聖霊は慰め主（ヨハネ14：16－27；モロナイ8：26参照）、教師（ヨハネ14：26；教義と聖約50：14参

照）、そして啓示者（2ニーファイ32：5参照）と呼ばれています。御父と御子からの啓示は聖霊を通して伝えられます。聖霊は御父と御子の使者であり、証人です。

聖霊は、聖霊の力としても、聖霊の賜物としても地上の男性と女性に現れます。この力はバプテスマを受ける前の人にも及びます。これはイエス・キリストが救い主、あがな 贖い主であられることを確信させる証です。誠心誠意求める求道者は、聖霊の力を通して救い主の福音やモルモン書、回復の業、そしてジョセフ・スミスの預言者としての召しが真実であると確信できます。

聖霊の賜物は、正しい様式と権能によるバプテスマの後、メルキゼデク神権を持つ者による按手によってのみ授けられます。主はこのように宣言されました。

「まことに、悔い改めなさい。そして、あなたがたは一人一人、自分の罪の赦しのためにバプテスマを受けなさい。まことに、水によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、その後、火と聖霊によるバプテスマが来る。……」

また、あなたがたは信仰を持っている人々を、わたしの教会で按手によって確認しなければならない。そうすれば、わたしは彼らに聖霊の賜物を授けよう。」（教



義と聖約 33:11, 15)

使徒パウロはエペソ人にこのように尋ねて、この儀式を明確にしました。

『あなたがたは、信仰にはいった時に、聖霊を受けたのか』と尋ねたところ、『いいえ、聖霊なるものがあることさえ、聞いたことはありません』と答えた。

『では、だれの名によってバプテスマを受けたのか』と彼がきくと、彼らは『ヨハネの名によるバプテスマを受けました』と答えた。

そこで、パウロが言った、『ヨハネは悔改くわいかためのバプテスマを授けたが、それによって、自分のあとに来るかた、すなわちイエスを信じるように、人々に勧めたのである。』

人々はこれを聞いて、主イエスの名によるバプテスマを受けた。

そして、パウロが彼らの上に手をおくと、聖霊が彼らにくだつた。』(使徒 19:2-6)

「水に沈められるバプテスマは、福音の最初の儀式であり、……この儀式の後に聖霊の賜物を受けることによって、バプテスマは完全なものとなる。」(『聖句ガイド』「バプテスマ」の項, 208) 預言者ジョセフ・スミスは次のように説明しています。「バプテスマは、聖霊を受けるのに備える神聖な儀式です。聖霊を授かるための経路であり、鍵かぎです。按手による聖霊の賜物は、義の原則以外のどのような原則によっても受けることはできません。」(『教え——ジョセフ・スミス』96)

教会の新しい会員を確認し、聖霊の賜物を授ける儀式は、簡素でありながらも深遠です。ふさわしいメルキゼデク神権者はその人の頭の上に手を置き、その人の名を呼びます。それから、聖なる神権の権能と救い主の御名みなによってその人を末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として確認し、次の重要な言葉を言います。「聖霊を受けなさい。」

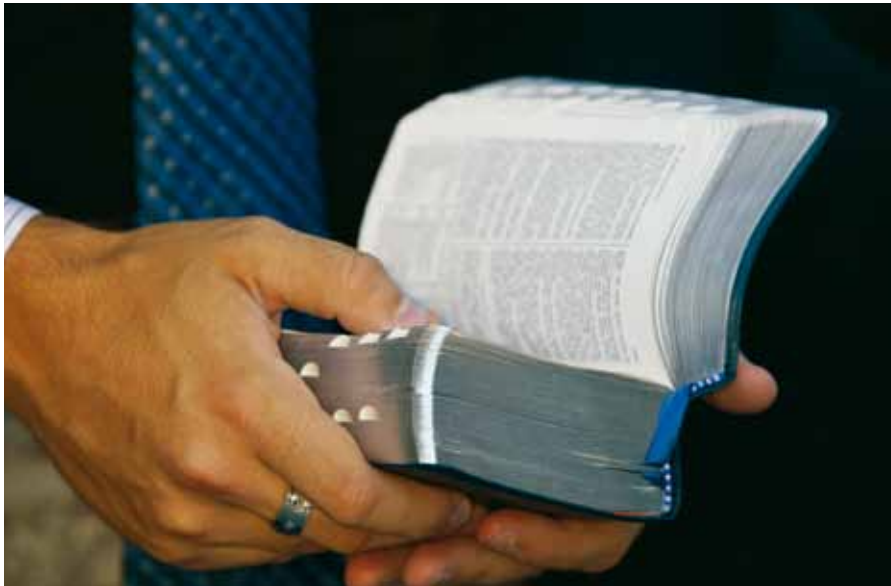
この儀式が簡素なために、わたしたちはその大切さを見逃してしまうかもしれません。「聖霊を受けなさい」という言葉



は受け身でいるよう言い渡すものではありません。むしろ、神権の命令、すなわち単に作用されるものになるのではなく作用するものとなるように促す、権威ある勧告なのです(2ニーファイ 2:26 参照)。わたしたちの頭に手が置かれてあの言葉が発せられれば、それだけで聖霊が生活の中で働いてくださるわけではありません。この儀式を受けるとき、わたしたち一人一人はほんとうに「聖霊を受け」、それに付随する霊的な賜物を得られるように望み、求め、努力し、ふさわしい生活をするとする神聖で途切れることのない責任

を受けるのです。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。」(教義と聖約 88:33)

神会の第3の御方ほんりよを伴侶とするよう求めるというこの権威ある勧告を常に実現するには何をすべきでしょうか。わたしの提案はこうです。(1) 聖霊を受けたいと心から望む。(2) 適切な方法で生活に聖霊を招く。(3) 神の戒めを忠実に守る。



### 心から望む

わたしたちはまず、聖霊がともにいてくださるようお願い、切望し、求めるべきです。皆さんもわたしも、モルモン書に出てくる、主の忠実な弟子たちの義にかなった望みから重要な教訓を学べます。

「十二人はその群衆を教え、また見よ、彼らは群衆を地の面にひざまずかせ、イエスの名によって御父に祈らせた。……

彼らは、自分たちが最も望んでいるものを求めて祈った。聖霊が授けられるようにと望んでいたのである。」(3 ニーフアイ 19:6, 9)

わたしたちも同じように、わたしたちが最も望むべきもの、すなわち聖霊を求めて、熱心に、一貫して祈ることを覚えているでしょうか。あるいは、世の煩いや毎日の生活に追われて、最も貴いこの賜物を軽視したり、なおざりにしたりしていないでしょうか。聖霊を受けるためには、まずわたしたちが生活の中で聖霊を伴侶とすることを常に心から望まなければなりません。

### 適切な方法で招く

わたしたちは、主の御霊を適切な方法で生活に招くときにより容易に御霊を受け、認識することができます。聖霊に強制したり、強要したり、命令したりすることはできません。そうではなく、聖霊がわたしたちに接してくださるのと同じ穏やかさと優しさをもって聖霊を生活に招くべきです(教義と聖約 42:14 参照)。

聖霊を伴侶として招くには様々な方法があります。聖約を交わして守ること、個

人や家族で誠心誠意祈ること、熱心に聖文を研究すること、家族や友人との適切な関係を強めること、徳高い思いや行動、言葉遣いをしようと努力すること、家庭や聖なる神殿、教会で礼拝することなどです。反対に、聖約や決意を簡単に破ること、祈りと聖文研究を怠ること、ふさわしくない思いや行動、言葉遣いは御霊を退かせたり、まったく来ないようにしたりしてしまいます。

ベニヤミン王が民に教えたように「さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこれらのことをすべて知った後、また教えられた後、もしもそれに背いてすでに告げられていることに反した行いを〔するならば〕、主の御霊から身を引いて、祝福と繁栄と守りを得るための知恵の道に導く御霊を自分の内に宿さないようにする」ことになるのです(モーサヤ 2:36)。

### 忠実に守る

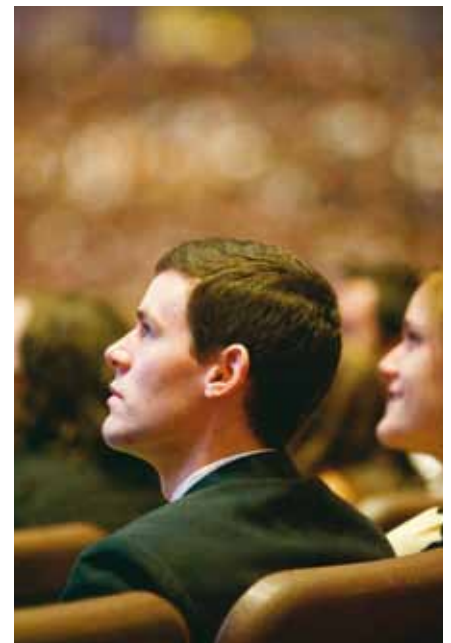
神の戒めを忠実に守ることは聖霊を受けるために不可欠です。わたしたちは毎週聖餐の祈りに耳を傾け、ふさわしい状態でパンと水を取るときにこの真理を思い出します。イエス・キリストの御名を受け、いつも主を覚え、その戒めを守ると聖約するとき、いつも御霊を受けられるという約束を受けます(教義と聖約 20:77 参照)。ですから、救い主の福音がわたしたちに行うように教えること、また、変わるように教えることはすべて、聖霊を伴侶とするという祝福をわたしたちが受けられるよう

にするためなのです。

なぜ祈りと聖文研究をするのか考えてみましょう。わたしたちは御子の御名を通して祈ることで、天の御父と交わることを切望します。また、標準聖典に含まれる光と知識を得たいと願っています。しかし、これらの神聖な習慣はおもに、わたしたちが御父と御父の愛される御子を常に覚えるための手段であり、それは聖霊を伴侶とし続けるための必要条件であることを覚えてください。

わたしたちが主の宮や安息日の集会で礼拝する理由について考えてください。神殿では亡くなった先祖に仕え、自分が住む地域のワードや支部では家族や友人に奉仕します。そして、兄弟姉妹との義にかなった交流も楽しめます。しかし、わたしたちが一致して集う第一の目的は、聖霊の祝福と導きを求めるためなのです。

祈り、聖文研究、集会、礼拝、奉仕、従順は、すべきことを書いた福音の長々しいチェックリストの別々の項目ではありません。この一つ一つの義にかなった習慣は、聖霊を受けなさいとの命令を遂行するために最も重要な霊的探求の大切な要





素なのです。わたしたちが守る神の戒めと、わたしたちが従う教会指導者の靈感に満ちた勧告は第一に御霊を伴侶とすることを目的としています。基本的に、福音のすべての教えと活動は生活の中で聖霊を受けることにより、キリストのもとへ行くことが中心となっています。

皆さんもわたしも、モルモン書の若者たちのようになれるよう努力するべきです。「すべての号令に従ってそのとおりに行うように努め……、実に彼らの信仰に応じ、そのようになりました。……

……彼らは、日々主なる神をよく覚え、まことに、主の掟と裁決と戒めをいつも守るように努めて……います。」(アルマ 57: 21 ; 58 : 40)

## 証

主は末日聖徒イエス・キリスト教会が「全地の面に唯一まことの生ける教会」とあると宣言されました(教義と聖約 1: 30)。この回復された教会は救い主の教会であるので真実の教会です。主は「道であり、真理であり、命」です(ヨハネ 14:

6)。そして、この教会が生ける教会であるのは、聖霊の働きと賜物のおかげなのです。地上に神権があり、聖霊を受けられる時代に生きていることは何と大きな祝福でしょう。

預言者ジョセフ・スミスが殉教して数年後、ジョセフはブリガム・ヤングに現れて時代を越えた次の勧告を与えました。「この民に謙遜で忠実であるように、主の御霊を必ず保つように、そうすれば御霊は正しい道へと導いてくれると伝えてください。注意深くあって、細い静かな声を退けないように、そうすれば細い静かな声は何をなすべきか、またどこに行くべきかを教えてくれ、王国の実をもたらしてくれると伝えてください。兄弟たちに、確信を与えるものに対して常に心を開いているように、そうすることによって聖霊の訪れを受けたときにはいつでも受け入れることができるようにと教えてください。彼らは主の御霊とほかのあらゆる霊を区別することができます。御霊は彼らの霊に平安と喜びをささやき、悪意や憎しみ、ねたみ、争い、そしてあらゆる悪を彼らの心から取り除

いてくれるでしょう。そして彼らは善を行い、義をもたらし、神の王国を築き上げることを望むようになるでしょう。兄弟たちに教えてください。もし主の御霊に従うなら、正しい道を進むことでしょう。」(『教え——ジョセフ・スミス』98)

わたしたちが聖霊を心から望み、ふさわしい方法で日常生活に聖霊を招くように祈ります。また、わたしたち一人一人が神の戒めに忠実に従い、現実に聖霊を受けることができるように祈ります。預言者ジョセフ・スミスがブリガム・ヤングに述べた祝福は、このメッセージを聞いたり読んだりするすべての人に当てはまるものであり、達成可能であることを約束します。

御父と御子が実在されることを証します。聖霊が啓示者であり、慰め主であり、わたしたちが教わるべき究極の教師であることを証します。そして、御霊の祝福と賜物が末日に回復されたまことの生けるイエス・キリストの教会の中で働いていることを証します。主イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。





七十人  
ラリー・R・ローレンス長老

# 勇気ある子育て

世の人々がほんとうに必要としているのは、母親や父親がはっきりとした態度で率直に話し、雄々しく子供を育てることです。

**今**日、わたしは10代の子供をお持ちの親に向けて話します。聡明で活力にあふれた若人は教会の未来です。だからこそ、敵対者の第一の標的でもあります。忠実な母親、父親の皆さんの多くは、今日こうして総大会の話を聞きながら、この大切な時期に子供たちを導けるよう答えを祈り求めています。わたしも最年長の孫たちが最近10代になりましたから、今日のテーマはわたしにとっても大切です。完全な親などいませんし、簡単な答えなどありませんが、信頼できる真理の原則があります。

若い男性と若い女性の2010年のミューチャルのテーマは、ヨシユア記から取られています。こう始まります。「強く、また雄々しくあれ。……恐れてはならない……。」(ヨシユア1:9) 聖典から引用されたこの言葉は、親にも当てはまるテーマではないでしょうか。この末日にあって、世の人々がほんとうに必要としているのは、母親や父親がはっきりとした態度で率直に話し、雄々しく子供を育てることです。

少しの間、想像してみてください。皆さんの娘が線路の上に座っているとします。列車の警笛が聞こえます。線路から離れるよう警告しますか。それとも、過保護だと思われるのが心配で、躊躇しますか。娘が警告を無視したら、急いで安全な場所へ移動させますか。もちろんそうするでしょう！ほかのどんな心配よりもまず

娘への愛が勝るでしょう。一時的に良く思われることよりも娘の命を大切にしてください。

試練と誘惑は10代の子供たちに貨物列車のようなスピードと勢いで襲いかかっています。家族の宣言にもあるように、親は子供を保護する責任があります。<sup>1</sup> これは、物理的にも霊的にも保護する責任があるということです。

モルモン書には、息子アルマが義の道から迷い出た息子に助言を与える様子が記録されています。コリアントンはゾーラム人の間で伝道中、重大な過ちを犯しました。アルマは彼を愛していたので、この問題について実に率直に語っています。アルマは息子が行った不道徳な行為に対して深く失望していることを伝え、罪がもたらす重大な結果について説明しました。

わたしはアルマの勇気ある言葉を読む度に心を動かされます。「それで、主の御霊はわたしに、『あなたの子供たちが……善を行うことを彼らに命じなさい』と言われる。したがって、わが子よ、わたしは神を畏れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。」(アルマ39:12) 父親からこのような指導を早めに受けたことが、コリアントンにとって転機となりました。その後、彼は悔い改めて忠実に働いたので(アルマ42:31; 43:1-2 参照)。

アルマの模範とは対照的な別の父親の例を聖典から紹介しましょう。それは旧

約聖書に登場するエリです。エリは預言者サムエルが子供のころイスラエルで大祭司を務めていました。聖典には主が彼を厳しく非難された理由が次のように記されています。「その子らが神をけがしているのに、彼がそれをとめなかったからである。」(サムエル上3:13) エリの息子たちはまったく悔い改めませんでした。そして、イスラエル全体がその愚かな行いのために苦しみました。エリの物語から、子供を愛しているなら、子供の言いなりになってはいけないということを学ぶことができます。

数年前の総大会で、ジョー・J・クリステンセン長老は、次のように指摘しています。「子育ての目的は人気コンテストで1位になることではないのです。」<sup>2</sup> 同様のことをロバート・D・ヘイルズ長老も述べています。「わたしたちは時々恐れを抱くことがあります。怒らせるのではないかと恐れて子供への助言を躊躇するのです。」<sup>3</sup>

何年も前に、17歳になる息子が友達と一緒に週末旅行へ行きたいと言いました。皆良い子ばかりでした。息子は許可を求めてきました。行かせてあげたかったのですが、何となく不安を感じました。妻に話すと、同じように不安を感じるとうのです。「その警告の声には耳を傾ける必要があると思うわ」という答えが返ってきました。

当然のことながら、息子はがっかりして、なぜ行かせたくないのか聞いてきました。わたしは正直に、理由は分からないと答えました。「良い気持ちを感じない、それだけのことなんだよ。君のことをほんとうに愛しているから、その気持ちを無視することができないんだ。」息子からは意外な答えが返ってきました。「いいよ、お父さん、分かった。」

子供は親が思う以上に理解力があります。なぜなら、わたしたちと同様に聖霊の賜物を授かっているからです。御霊が語るとき、子供はそれを理解しようと努めています。そして子供はわたしたちの模範



をしています。御霊の促しに注意することや「良い気持ちを感じない」ならばやめたほうが良いということを、わたしたちから学んでいるのです。

子育てに関する決定を下す際にとっても大切なのは、夫婦が一致することです。両親のうちいずれかが良い気持ちを感じないなら、許可すべきではありません。例えば、映画、テレビ番組、ビデオゲーム、パーティー、ドレス、水着、あるいはインターネットを使った活動について、どちらかが不安を感じるようであれば、勇気を出して伴侶の意見に賛成し、「だめ」と言ってください。

ある悲嘆にくれている母親からの手紙を紹介したいと思います。彼女の10代の息子は少しずつ御霊を失い、教会の活動から遠のいていきました。どうしてそうなったのかを母親は次のように説明しました。「息子が10代の間、わたしは心配ばかりしていました。暴力的なビデオゲームをやめさせようと努めたのです。夫に話し、この種のゲームについて警告している『エンサイン』や新聞の記事を見せました。ところが、夫は大して気にしませんでした

た。麻薬をやっているわけじゃあるまいし、心配しなくてもいいと言うのです。ゲームのコントローラーを隠したこともありましたが、夫はいつも息子に返していました。そうこうするうちに、戦うより……降参した方が楽になってきました。実のところ、パソコンゲームには麻薬とまったく同じように依存性があるとわたしは感じています。こんな経験はほかの親の皆さんに絶対にしてほしくありません。」

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの伴侶が何か良い気持ちを感じられない場合には、その気持ちを尊重してください。安易な道を選んで何も言わないでいたり何の行動も起こさないでいるうちに、破滅的な行動に至ることもあるからです。

結婚の準備ができるまで恋愛関係を延期するよう親が子供に教えることによって、多くの悲惨な状況を回避することができます。未熟なままに異性の友達とカップルになるのは危険です。いわゆる「カップル」になると恋愛感情が高まり、その結果、肉体的にも親密になることが多いからです。サタンはこのような流れを知っていて、それをうまく利用します。サタンは若

い男性に伝道を思いとどまらせたり、神殿結婚を妨げたりするためならどんなことでもするのです。

サタンがその目的を達成する前に、親が率直に話し、間に入る勇気を持つことが大切です。ボイド・K・バッカー長老は、こう教えています。「道徳にかかわる場合には、警告の声を上げる**権利**と**義務**の両方があります。」<sup>4</sup>

わたしがずっと信じてきたことは、深夜にほんとうに良いことは決して起こらないことと、若人は何時に帰宅するよう期待されているかを知る必要があることです。

親が夜寝ずに子供の帰りを待つことには大きな知恵があります。若い男性や女性は、その晩の自分がしたことについて話を聞き、お休みのキスをするまでは親が寝ないで待っていることを知っていれば、はるかに良い選択をするものです。

多くの文化に見られるある習慣に対して個人的な警告を発したいと思います。それは友人宅での「外泊」あるいは「夜明かし」の習慣です。ビショップ時代に、わたしはあまりにも多くの若者が「外泊」中に初めて知恵の言葉あるいは純潔の律



法を破ることに気づきました。家から離れて夜を明かしているときに、初めてポルノグラフィーを目にしたり、初めて警察の厄介になったりすることがあまりにも多いということです。

子供たちは親の影響から離れているときや夜遅くて誘惑に対する警戒心が弱くなっているときに、仲間からより大きな圧力を受けるようになります。泊まりがけの活動に不安を感じたら、恐れることなく、その内なる警告の声に耳を傾けてください。親としてかけがえのない子供たちを守らなければならないときには、いつも

祈ってください。

勇気ある子育ては必ずしも「だめ」と言うことばかりではありません。親には近代の預言者の助言に「はい」と言う勇気も必要です。教会の指導者は家庭の中に義にかなったパターンを確立するようにと勧めています。若人を強化する5つの基本的な習慣について考えてください。それは家族の祈り、家庭での聖典学習、家庭の夕べ、家族で一緒に取る夕食、一人一人の子供に対して行う定期的な面接です。

何をしようとして子供たちを集め、家族としてひざまずくには勇気が必要です。テ

レビヤコンピューターを消し、家族が毎日聖典を開いてページをめくるよう導くには勇気が必要です。月曜日の夜を家族のために取っておけるよう、その日の夜に行われる様々な招待を断わるには勇気が必要です。過密なスケジュールを避けて、家族と一緒に夕食を取れるようにするには勇気と自制心が必要です。

息子や娘に影響を与える最も効果的な方法の一つは、個人面接の中で助言を与えることです。じっくりと耳を傾けることで、子供の心の奥底にある望みを見いだし、義にかなった目標を立てられるよう導くことができます。また、子供たちについて自分たちがどんな霊的な導きを受けたかを伝えることもできます。助言を与えるには勇気が必要です。

想像してみてください。この5つの義にかなったパターンが常にすべての家庭で実行されたら、若者たちはどうなるでしょうか。ヒラマンの軍隊のように、無敵になるのではないのでしょうか（アルマ 57：25 - 26 参照）。

末日において10代の子供たちを育てるのは、非常に大きな責任です。サタンとその手下たちは、懸命にこの世代の人たちの霊性を引き下げようとしています。一方、主は勇敢な親が子供たちを引き上げるよう期待しておられます。親の皆さん、「強く、また雄々しくあれ。……恐れてはならない、おののいてはならない。」（ヨシュア 1：9）わたしは神が皆さんの祈りを聞き、こたえてくださることを知っています。主が勇気ある親たちを支え、祝福されることを証しします。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49参照
2. ジョー・J・クリステンセン「穢れた世にあって子どもを育てる」『聖徒の道』1994年1月号、13
3. ロバート・D・ヘイルズ「優しい親の情を込めて」家族への希望のメッセージ『リアホナ』2004年5月号、90
4. ボイド・K・バックナー「現代の道徳的環境」『聖徒の道』1992年7月号、71



七十人  
ペア・G・マーム長老

# 魂に休みが与えられ

魂に休みが与えられることには、思いと心の平安も含まれ、その平安はキリストの教義を学んでそれに従……った結果として訪れます。

スウェーデンのイエーテボリ市街には両側に美しい木が立ち並ぶ広い通りがあります。ある日、1本の大木の幹に穴があるのが見えたので、好奇心から中をのぞいてみると、中がすっかり空洞になっていました。空洞でしたが空ではなく、いろいろなごみでいっぱいでした。

その木がそのような状態でも立っていることに驚きました。見上げると、幹の上の方に幅の広い鉄の輪が付けられていました。この輪にはワイヤーが数本付いていて、それぞれ近くの建物にしっかり固定されていました。遠くから見れば、その木はほかの木と変わりませんでした。中をのぞいてみなければ、実際は中がうつろになっていて、中身の詰まった強い幹ではないということが分かりません。何年も前から、何らかの原因で、幹のあちこちが少しずつ弱まり始めていたのです。一夜にしてこうなったわけではありません。若い木が少しずつ生長して大木になるように、わたしたちも一歩ずつ成長して、あのうつろの木とは対照的に、中から外まで身の詰まった人になります。

イエス・キリストの贖いによる癒しを通して、わたしたちは高く、強く立つ力を得、光と理解、喜び、愛で心を満たされます。主は「御自分のもとに来て主の慈しみに

あずかるように、すべての人を招かれ……主のもとに来る者を決して拒まれ」ません(2ニコライ 26:33)。主はこう約束しておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:28-29)

この「休み」について、ジョセフ・F・スミス大管長はこうに述べています。「それは神の知識と愛を知ることだとわたしは思います。すなわち、わたしたちが正しい道を歩んでいるのであり、間違ったものを追求しているのではなく、人々の悪巧みによって起こる様々な教義の風に吹き回されたり、もてあそばれたりしているのではないということを理解できるほど、神の目的と計画に対して信仰を持つことです。わたしたちは、この教義が神から与えられたものであることを知っており、このことについてはだれにも尋ねません。勝手な見解やアイデア、とっぴな考えなど言わせておけばよいのです。あらゆる疑いや恐れがなくなるほどの高みにまで神を信じる信仰が高められた人は、『神の安

息』に入った人です。』(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』57)

魂に休みが与えられることには、思いと心の平安も含まれ、その平安はキリストの教義を学んでそれに従い、奉仕をすることや人を助けることによりキリストの手となった結果として訪れます。イエス・キリストを信じ主の教えに従うことにより、確固とした希望が得られます。この希望が魂の堅固な錨(いかり)となります。堅く確固とした、揺るぎない者になります。内なる平安を保ち、主の安息に入ることができます。しかし、光と真理に背を向けるなら、あの木のような虚しさが魂の奥底を占めることとなります。そしてその虚しさを永遠の価値を持たないもので埋めようとさえする可能性があるのです。

地上に来る前に霊の子供として存在していたことや、来世で不死不滅を受けることを考えると、現世で生活する時間は実に短いものです。

けれども現世の生涯は試しの時期です。しかしこの生涯はまた、試しの時期を無駄に過ごさないようにとの勧めに従うことを選択する機会の時でもあるのです(2ニコライ 9:27 参照)。わたしたちが頭の中で思い巡らす事柄、心の中に抱く気持ち、選択して行う行動はすべて、現世と来世の両方におけるわたしたちの人生に決定的な影響を与えます。

計画し実行する事柄を常に永遠の目で見ると、毎日自らの思いを高めることは役に立つ習慣です。この習慣が特に役に立つのは、今日があるうちにすべきことを明日まで放置しておく傾向に気づいたときです。

わたしたちは人生の中で様々な選択をするときに御霊の支えに助けられています。もしすでに受けている光と理解に背いて行動することを選択するなら、良心のとがめを経験します。もちろん、心地よいものではありません。しかし、良心のとがめは、悔い改めるべき時を即座に教えてくれるので祝福です。謙遜であり、義を行



いたいと望んでいるなら、自分を変えるためにすぐに行動することでしょう。一方、高慢で、「自らのために律法になろうと」する人は（教義と聖約 88：35）、悔い改めの精神が心にかぎり、サタンが「麻縄を彼らの首にかけて引っ張って行き、ついには強い縄で、とこしえに彼らを縛ってしまう」のを許すことになるのです（2 ニーファイ 26：22）。悪い影響力に従った結果として平安を得ることはありません。平安は神の賜物であり、神の御霊を通してのみ得られるからです。「悪事は決して幸福を生じたことがない」のです（アル

マ 41：10）。

日々の行動の中で、長期にわたる影響を持つのは、たいていは小さな、簡単なことです（アルマ 37：6－7 参照）。わたしたちの言葉、振る舞い、反応の仕方は自分だけでなく、周囲の人にも影響します。人格を築くこともできれば、壊すこともできます。例えば、わたしの祖母について、分かりやすく役に立つ話があります。祖母は自分の小さな子供に卵を買って来るように言いました。お使いを任された子供は喜びながら歩いて帰って来たことでしょう。ところが、家に着いたときにはほとんどの

卵が割れていました。その場にいた友人が祖母に、言いつけをきちんと果たさなかった子供をしかるよう勧めました。しかし、祖母は冷静に、賢明に答えました。「いいえ、しかっても卵は元に戻りません。家にある材料でパンケーキでも作って一緒に食べましょう。」

日常の小さな、簡単なことに賢明に靈感を受けて対処するようになると、結果として、魂に調和を確立し、周囲の人の人格を築き強めるような良い影響がもたらされます。なぜなら、善を行うように誘うすべてのものは「キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがって〔わたしたちは〕、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる」（モロナイ 7：16）からです。

先ほど述べた、中が空洞になった木はもうありません。数人の若者が穴の中に花火を入れたために木が燃えてしまったのです。もう手の施しようがなく、切り倒すほかありませんでした。大小にかかわらず、内側から人を破壊するものには気をつけてください。それらは爆発的な影響を及ぼして霊的な死を招く可能性があるのです。

代わりに、思いと心に永続する平安をもたらす事柄に心向けましょう。そうすれば、「神の前において〔わたしたちの〕自信は増〔すでしょう。〕」（教義と聖約 121：45）主の安息に入り、平安の賜物を受けるといふ約束は、この世的な一時の満足とは懸け離れたものです。それはまさに天の賜物です。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ 14：27）主は魂を癒し、強める力をお持ちです。主がイエス・キリストであられることを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。■





七十人  
ジャイロ・マサガルディ長老

# 罪というわなを避ける

強くあってください。良い選択をして命の木の實を食べてください。

よく晴れたある美しい朝、もうすぐ8歳になる孫娘ビッキーを連れて、市の貯水池となっている湖の近くまで散歩に出かけました。

小道のわきを流れる澄んだ小川のせせらぎを聞きながら、楽しく歩きました。両側には青々とした美しい木々が茂り、香りの良い花が咲き乱れていました。鳥のさえずりも聞こえました。

わたしは、青い目をした陽気であどけない孫娘に、バプテスマのためにどんな準備をしているのか尋ねました。

すると、答えではなく質問が返ってきました。「おじいちゃん、罪ってなあに。」

わたしは靈感を求めて心の中で祈りながら、できるだけ分かりやすく答えようとしました。「罪というのは、神様の戒めにわざと従わないことだよ。それは天のお父様を悲しませるし、苦しみや悲しみを味わうことになるんだよ。」

孫娘は見るからに不安そうな顔をして尋ねました。「どうしたらわたしたちは罪に負けてしまうの。」

こう尋ねた孫娘の純心さがよく分かりました。同時に、彼女が罪とかかわらないためにはどうしたらよいのかと心配していることも分かりました。

孫娘がもっとはっきり理解できるように、まわりの自然を例に取って説明しました。小道を先へ歩いて行くと、有刺鉄線のさくを支えるかなり大きな石の支柱がありま

した。重そうな石でしたが、周りには草花が伸び、小さな木の茂みができていました。時がたつと、これらの植物は支柱よりも大きく育つことでしょう。

わたしはもう少し先に行った所に、すでに植物に覆われてしまっている支柱があるのを思い出しました。知らず知らずのうちに少しずつ、そして完全に覆われてしまったのです。強固だった支柱は、自分がか細い植物に囲まれて壊されるなど思っていなかったのでは、とわたしは想像しました。こう思っていたかもしれせん。「問題ないよ。わたしは強くて大きいし、こんな小さな草木なんかどうってことないさ。」

そのため、そばにあった木が成長しても、支柱は初めのうちは気に留めません。そして日陰ができたので喜んでいました。しかし木は成長し続け、最初は弱々しかった2本の枝が支柱の周りに伸びていき、やがては巻きついてしまいました。

それでも支柱はまだ何が起こっているのか気がつきません。

歩き続けて間もなく、その支柱の前に来ました。地面から引き抜かれた状態でした。孫娘は感心した様子で尋ねました。「おじいちゃん、これが罪の木なの。」

そこでわたしは、これはどうしたら罪に負けてしまうのかを示すただの象徴、またはたとえなのだと説明しました。

この会話が孫娘にどんな影響を与えるかは分かりませんが、わたしにとっては、

罪が様々な形を取ることに、また、わたしたちが許すときに罪がどのように生活の中に忍び込んでくるかについて考える機会になりました。

わたしたちは注意を怠ってはなりません。早寝早起きをしているととても良いことが起きるように、小さな選択が大きな結果をもたらすからです。教義と聖約第88章124節はこう教えています。「……あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい。」早く寝る人は、従順であるためによく休むことができ、体と精神が活気づけられ、主の祝福を受けて目覚めるのです。

夜遅くまで起きている、祈ることなく一日を終える、断食をしない、安息日を破るというような、たいして重要とは思えない事柄、ほんのちょっとした間違いを犯すことで、徐々にわたしたちの感性は鈍くなり、さらに重大な罪を犯すことになるでしょう。

わたしが10代のころ門限は午後10時でした。今日では、その時間に夜遊びに出かける人もいます。しかしわたしたちは、最悪の出来事がよく起きるのは夜中であることを知っています。このような夜更けに、ふさわしくない環境に身を置く青少年がいます。こうした場所には、聖霊を伴い同伴とさせないような音楽や歌詞があります。そして彼らは、このような状況下で罪の格好のえじきになってしまうのです。

福音と一致しない標準を持つ友達を選んだことがきっかけで、罪のえじきになってしまう人が大勢います。そうした人々は、仲間にかかれ受け入れられようと、福音の原則や律法を曲げるようになり、その結果道を外れてしまいます。その先には、本人と愛する人に苦痛と悲しみをもたらす結果しかありません。

わたしたちは自分の周りで罪が枝を伸ばさないよう警戒しなければなりません。罪は様々な形で、どこにでも頭をもたげます。コンピューターや携帯電話も例外ではありません。このような技術は有益



であり、多大な恩恵をもたらすことができます。しかしこれらを不適切な方法で使って、長い時間ゲームをしたり、肉欲や快楽に引きずり込むような番組を見たり、ポルノグラフィーのようなさらに悪い事柄に手を染めたりすると破滅が訪れます。ポルノグラフィーは人格を破壊し、かかわる人を不潔な泥沼に引きずり込みます。大きな助けがなければ、この泥沼から這い出すことはできません。

この恐ろしい怪物は、当人だけでなく、罪のないその人の子供たち、伴侶、父親、母親、そのほかの愛する人々にも痛みや苦悩を与えます。肉欲や快楽の実実は苦汁と悲しみです。従順と犠牲の実実は甘美と永遠の喜びです。

どの標準に従うかという決断は、誘惑を受けるときではなく、その前にしておかなければなりません。以下を基準にして、行うことと行わないことを決めてください。

- 正しくて、主から出たものであり、幸福をもたらすものなら、わたしは行う。
- 真理から、主から、忠実で従順な者に約束された永遠の幸福から自分を引き離すものなら、わたしは行わない。

御父はわたしたちが間違った選択をすることを御存じだったので、すばらしい愛の計画を立てられました。そして悔い改める人、助けと慰めと赦しを求めて主のもとに来る人、進んでイエス・キリストの御名を受ける人のすべての罪を贖うため、世の救い主を備えてくださいました。

もしわたしたちが罪を犯したなら、直ちに助けを求めなければなりません。先ほどの話に出てきたさくの支柱が自力では自由になれないのと同じように、わたしたちも独りでは罪の罠から逃れることはできないからです。死の危険のある罠から逃れるには助けが必要です。

皆さんの親が助けてくれます。そしてビショップはわたしたちを助けるために神から召されています。心を開いてビショップに話してください。

教義と聖約第58章42節から43節にはこう説明されています。

「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。

人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」

湖の近くを散歩してから数か月後、孫娘は父親であるビショップからバプテスマの面接を受けました。面接の後、どうだったか尋ねると、わたしをいさめるかのような口調で言いました。「おじいちゃん、面接は秘密なのよ。知ってるでしょ。」

ビショップの皆さん、この答えを真剣に受け止めてください。孫娘は短い間にたくさんのことを理解して成長したようです。

先ほど話した木が悲しみ、苦痛、苦悩、束縛をもたらしたように、別の木はその逆のものをもたらします。そのことはニーフアイ第一書第8章10節から12節に書かれています。

「そして、一本の木が見えたが、その実は人を幸せにする好ましいものであった。

そこで、行ってその木の実を食べると、それは、今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが分かった。またその木の実は白く、今までに見たどんな白いものにも勝って白かった。

そしてその木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、強くあってください。良い選択をして命の木の実を食べてください。もし、何かの理由で間違い

を犯したり、道をそれたりすることがあったら、わたしたちは手を差し伸べてこう言います。「来てください。希望があります。わたしたちはあなたを愛し、あなたが幸せになるように助けたいのです。」

天の御父はわたしたちを心から愛しておられるので、独り子であるイエス・キリストを与えてくださいました。

イエス・キリストはわたしたちを心から愛しておられるので、わたしたちの罪の贖いのために御自分の命を与えてくださいました。

清くなって、その喜びを得るために、わたしたちは喜んで何を差し出しますか。

この真理を聖なるイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■



七十人  
マービン・B・アーノルド長老

## わたしの名前で 何をしてきたか

わたしたちもいつか、主の名前で何を行ったのか、救い主であるイエス・キリストに報告しなければなりません。

ジョージ・アルバート・スミス大管長が若いころ、亡くなった祖父のジョージ・A・スミスが夢に現れて尋ねました。「わたしの名前でお前がこれまで何をしてきたかを知りたいのだが。」大管長はこう答えました。「わたしがおじいさんの名前で行ってきたことで、おじいさんの恥になるようなことは一つもありません。」<sup>1</sup>

毎週聖餐を受けるとき、わたしたちは進んでキリストの御名を受け、いつも御子を覚え、御子の戒めを守ることを聖約し、約束します。もしわたしたちが進んでそうするならば、御子の御霊がともにあるという最も素晴らしい祝福が約束されます。<sup>2</sup>

ジョージ・アルバート・スミス大管長が祖父の名前で何を行ったかを、祖父に報告しなければならなかったように、わたしたちもいつか、主の名前で何を行ったのか、救い主であるイエス・キリストに報告しなければなりません。

箴言には良い名前を持つことの大切さが語られています。「令名は大いなる富にまさり、恩恵は銀や金よりも良い。」<sup>3</sup>「正しい者の名はほめられ〔る。〕」<sup>4</sup>

これらの聖句と良い名前を持つことの大切さについて深く考えていたとき、両親

がわたしの4人の兄と2人の姉とわたしのために残してくれた良い名前と遺産について多くのことを思い出しました。両親はこの世の富も、銀も金も持っていませんでした。家族9人は寝室が二つと風呂場が一つの家で暮らしていました。二人の姉妹は四方を囲った裏庭のポーチで寝ていました。両親が亡くなったとき、二人の数少ないこの世の財産を分けるためにわたしたちきょうだいが集まりました。母が残したものは、数枚のワンピースと、使い古した家具、そのほか個人的なものが2、3点でした。父は、大工道具と古い猟銃のほか、ほとんど何も残しませんでした。金銭的な価値のあるものといえば、簡素な家と小額の貯金だけでした。

二人が金銀よりはるかに貴重なものを残してくれたことを知り、わたしたちは感謝の気持ちで、人目もはばからず泣きました。両親はわたしたちに愛と時間をささげてくださいました。福音が真理であると何度も証してくれました。今その証は、二人の貴重な日記で読むことができます。言葉よりも模範によって、勤勉と正直と什分の一を完全に納めることを教えてくれました。また、さらに高い教育を受けること、伝道に出ること、そして何よりも大切なこととし



て、永遠の伴侶<sup>はんりよ</sup>を見つけて神殿で結婚し、最後まで堪え忍ぶという望みを抱かせてくれました。まさに、二人が良い名前という遺産を残してくれたことを、わたしたちはいつまでも感謝するでしょう。

愛する預言者ヒラマンとその妻に二人の息子が生まれたとき、二人は彼らをリーハイ、ニーファイと名付けました。ヒラマンは息子たちに、なぜ600年も前の先祖の名前を付けたのか話しました。

「見よ、わが子らよ、……わたしは、……わたしたちの最初の先祖〔リーハイとニーファイ〕の名を、あなたたちに付けた。わたしがこうしたのは、あなたたちが自分の名を思うときに……先祖の行いを思い起こせるように、そして先祖の行いを思い起こすときに、先祖の行いが善かったことがどのように言い伝えられ、書き記されているか分かるようにするためである。

わが子らよ、あなたたちは先祖について言い伝えられ、書き記されてきたように、自分たちについても言い伝えられ、書き記されるように善いことをしてもらいたい。

……あの貴い永遠の命の賜物<sup>たまもの</sup>をあなたたちも持てるようにということである。」<sup>5</sup>

兄弟姉妹、600年後にわたしたちの名前はどのように覚えられているでしょうか。

どうしたらキリストの御名を受け、わたしたちの良い名を守ることができるかにつ

いて、モロナイは次のように教えました。

「わたしはあなたがたに、キリストのもとに来て、あらゆる善い賜物を得るようになり、また悪い賜物や清くないものに触れないように勧めたい。

まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。」<sup>6</sup>

靈感によって書かれた『若人の強さのために』には次のように書かれています。「選択の自由は神に与えられた永遠の原則であり、その選択には道徳上の責任が伴います。……あなたは自由に自分で選ぶことはできますが、自分の行いの結果を自由に選ぶことはできません。一度選べばその選択に伴う結果を引き受けることになるのです。」<sup>7</sup>

愛するデボナと結婚した直後に、デボナは青少年のときのある経験を話してくれました。その経験を通して彼女は、自由を選ぶことはできても、行いの結果を自由には選べないという大切な教義を学んだのです。娘のシェリーの助けを借りて、アーノルド姉妹の経験を話したいと思います。

「わたしが15歳のとき、規則や戒めが多すぎると感じるのが何度もありました。そんなに制限がたくさんあっては、楽しい盛り普通のティーンエージャーは楽

しく生活できるのかしらと思いました。しかも、何時間も牧場で父の手伝いをしていたので、友達と過ごす時間もかなり減っていました。

その年の夏、わたしの仕事の一つは山の放牧場にいる牛がフェンスを破って小麦畑に行かないようにすることでした。牛が成長途中の小麦を食べると、腸が膨張し、窒息して死んでしまうのです。いつもフェンスに頭を突っ込もうとしている牛が1頭いました。ある朝、牛の様子を見るために馬でフェンス沿いに走っていると、その牛がフェンスを破って小麦畑に入り込んでいるのを見つけました。わたしは愕然としました。牛はかなり長い時間小麦を食べていたようで、すでに腹部が膨れ上がって風船のようになっていたのです。そして思いました。「なんて愚かな牛なの。お前を守るためにフェンスがあるのに、それを破って命を危険にさらすほど小麦を食べるなんて。」

父を呼びに急いで家に戻りました。でも再び畑に戻ってみると、牛は地面に横たわって死んでいたのです。牛が死んだのは悲しいことでした。その牛には草を食べさせるために美しい山の牧草地を与え、危険な小麦に近づかないようにフェンスも作ってやりました。それなのに、牛は愚かにもフェンスを破って自ら死を招いたのです。

フェンスの役割は何だろうか考えたとき、それは守りであると気づきました。戒めや両親が決めた規則が守りであるのと同じです。戒めも規則もわたしのためにあったのです。戒めに従うことで、肉体的、霊的な死から救われることを知りました。このときに学んだことは、わたしの人生における一つの転機となりました。」

アーノルド姉妹は、親切で賢く愛に満ちた天の御父が戒めを与えられる理由を知りました。戒めは、サタンが信じ込ませようとしているように、人を縛るものではなく、リーハイとニーファイにとってそうだったように、わたしたちを祝福し、未来の世

**15歳のアーノルド姉妹(写真はアーノルド姉妹の娘による当時の再現)は、家畜の放牧をしているときに、戒めにはわたしたちを守る力があることに気づいた。**



代のためにわたしたちの良い名前と遺産を守ってくれるものなのです。自らの選択の結果を身に受けてしまった牛のように、わたしたちも、フェンスの向こう側にある草は今もそしてこれからも決しておいしいものではないということを学ばなければなりません。なぜなら、「悪事は決して幸福を生じたことがない」<sup>8</sup>からです。この世の生活を終えるとき、わたしたちのだれもが自分の選択の結果を受けます。戒めは明白です。保護するものであり、制限するものではありません。そして、従順がもたらすすばらしい祝福は無限です。

天の御父は、わたしたちが皆間違いを犯すことを御存じでした。しかし悔い改めて、必要な修正をすることによって、救い主と再び一つとなり、救い主によってもたらされる快い平安を感じる事ができます。それを可能にした贖いにほんとうに感謝しています。

救い主はわたしたちに、日々自分の名前を清めて主に立ち返るように勧めておられます。主の励ましの言葉は愛と優しさに満ちています。主の言葉を読みますので、救い主が抱きしめてくださる光景をわたしと一緒に想像してください。「わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。」<sup>9</sup>

今日、わたしは皆さんに難しい課題を差し上げます。それはわたしの両親がわたしに与えたのと同じものです。わたしの両親はその良い名前のために永遠に覚えられることでしょう。その課題とは、行動する前に、救い主が自分のそばに立っておられる光景を思い描いて、「主がそばにおられると知りながら、そのことを思い、言い、行くだらうか」と自問するということです。たしかに主はここにおられます。預言者であるとわたしが証する、愛するトーマス・S・モンソン大管長が主なる救い主について話すときによく引用する聖句があります。「わたしはあなたがたに先



立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。」<sup>10</sup>

愛する救い主の前に立ち、主の御名で自分が何をしてきたかを報告するあの栄えある日に、「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおし〔ました。〕」<sup>11</sup>「わたしはあなたの御名を称えて来ました」と宣言できますように。イエスはキリストであられ、わたしたちが生けることができるようにと主が亡くなられたことを証します。イエ

ス・キリストの御名によって、アーメン。

#### 注

1. 『歴代大管長——生徒用手引き』(教会教育システム資料), 134
2. 教義と聖約 20:77 参照
3. 箴言 22:1
4. 箴言 10:7
5. ヒラマン 5:6-8, 強調付加
6. モロナイ 10:30, 32, 強調付加
7. 『若人の強さのために』, 4 参照
8. アルマ 41:10
9. 3 ニーファイ 9:13
10. 教義と聖約 84:88
11. 2 テモテ 4:7



十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード長老

# おお、悪しき者の あの狡猾な策謀よ

依存症に陥った人々には希望があり、この希望はイエス・キリストの贖いを通して得られます。

兄弟姉妹の皆さん、緑の木々が燃えるようなオレンジや赤、黄色に美しく紅葉し、ここロッキー山脈に秋の到来を告げてくれます。秋は、自然界のすべてのものが厳しい冬の寒さに備える季節です。

また秋は、フライフィッシングをする人々にとって特に楽しい季節です。この時期のマスは、冬のえさ不足に備えて体を強めるために、非常に食欲旺盛になるからです。

フライフィッシングをする人は、マスを巧みにだまして捕まえようとします。熟練した釣り人は、マスの行動、天気、水の流れ、マスが食べる虫の種類や、その虫が孵化する時期などを研究します。釣りに使う擬似餌を手作りすることもよくあります。小さな釣り針がはめ込まれたこの擬似餌は完璧でなければなりません。なぜなら、ほんの少しでも出来が悪ければ、マスはそれを見破り、食いつこうとはしないからです。

水面から飛び出て擬似餌に食いついたマスが逃げようともがき、ついに疲れ果ててリールで巻き上げられるのを見るのはスリルがあります。知識や技術を駆使する釣り人と、気高いマスとの一騎打ちです。

擬似餌を使って魚をだまして捕まえるのは、ルシフェルがわたしたちを誘惑し、

だまし、わなにかけるためによく使う方法と似ています。

マスが空腹に駆られて行動することを知っている釣り人と同じように、ルシフェルもわたしたちの「空腹」あるいは弱さを知っていて、擬似餌を使って誘惑します。そして、わたしたちがえさにかかる、人生という小川から釣り上げ、自分の冷酷な影響下に置いてしまうのです。捕まえた魚をそのまま水に戻してやる釣り人と違って、ルシフェルは獲物を進んで逃がすようなことはしません。彼の目標は、犠牲者を自分と同じように惨めにするることなのです。

リーハイは言いました。「彼〔ルシフェル〕は天から落ちて、とこしえに惨めな状態になったので、全人類もまた惨めな状態にしようとした。」(2 ニーファイ 2:18)

ほかの幹部の兄弟たちも語ったように、ルシフェルはずる賢く、狡猾です。ルシフェルがわたしたちに対して使うおもな方法の一つは、偽りを言い、だまし、悪を善、善を悪だと信じ込ませることです。そもそも世の初めの天上の大会議のときから、サタンは「主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとした……。

そして、彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、……自分の意のままにとりこ

にする者となった」のです(モーセ 4:3-4)。

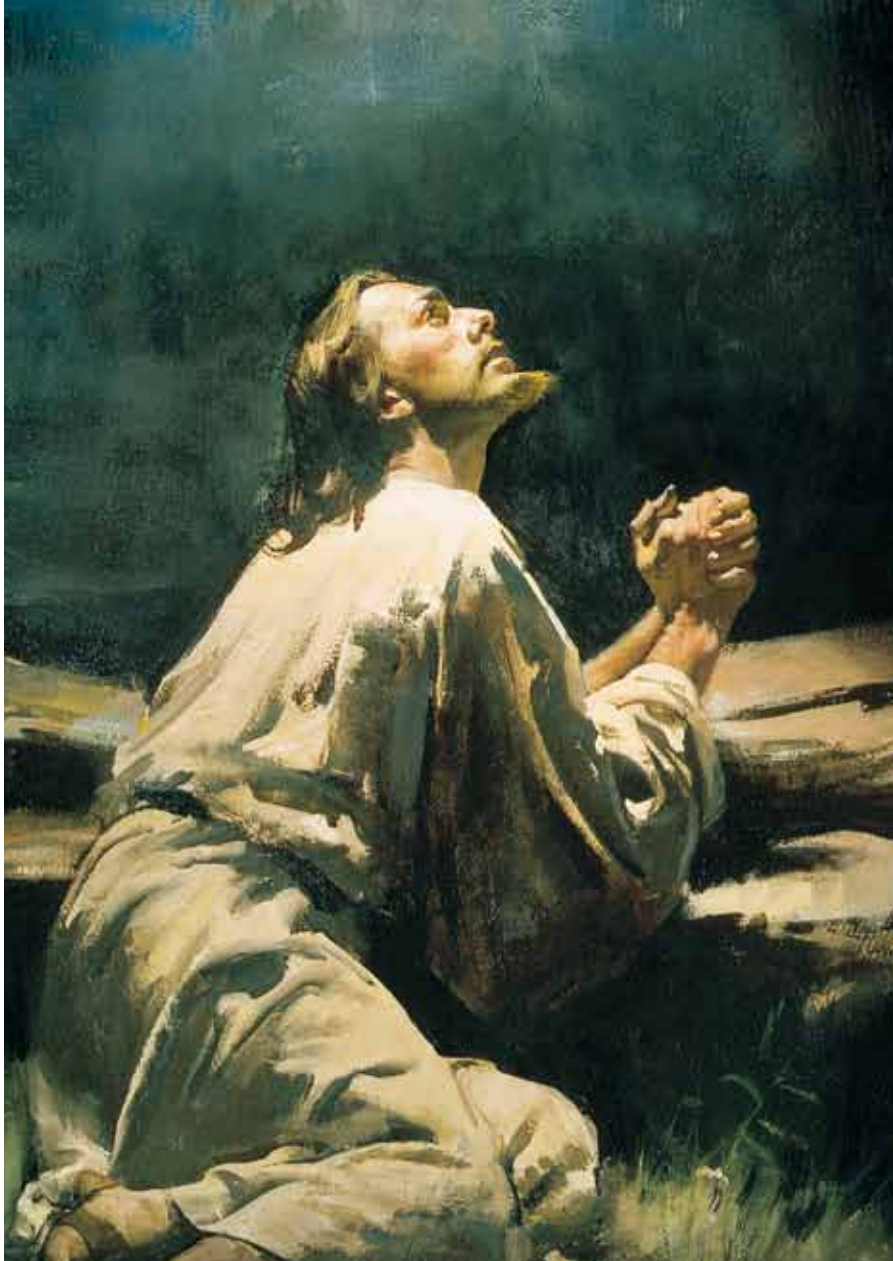
神が人にお与えになった選択の自由を巡る戦いは今日も続いています。サタンとその手下は、わたしたちの周囲の至る所に擬似餌を置き、わたしたちがだまされて擬似餌に手をつけるのを今か今かと待ち構えています。偽りの方法で釣り上げるためです。またサタンは人を依存症に陥らせ、選択の自由を失わせます。辞書によれば、どのような種類の依存症も、何かに屈し、選択の自由を失い、生命や生活を脅かす物質や行動の奴隷になることを意味します。<sup>1</sup>

研究者によれば、わたしたちの脳には快樂中枢と呼ばれる仕組みがあり、<sup>2</sup> 快樂中枢はある種の薬物や行動によって活性化されると、意志や判断、論理や道徳を支配する部分の働きを押さえつけてしまいます。そこで人は、正しいと分かっていることを放棄します。こうなると、釣り針がしっかり食い込み、ルシフェルに操られるのです。

サタンは、薬物や一時的な快樂が得られる行動を利用してわたしたちをわなにかけ、捕らえる方法を知っています。わたしはこれまで、人が再び自分自身を制御し、有害な薬物の乱用や依存症から解放され、自尊心と自立を取り戻そうともがき苦しむときの衝撃を見てきました。

最も依存性の高い部類の薬物を乱用した場合、脳は統制を失い、選択の自由は奪われてしまいます。そのような薬物には、ニコチン、アヘン系のヘロインやモルヒネ、その他の鎮痛剤、精神安定剤、コカイン、アルコール、マリファナ、興奮剤などがあります。

痛みや苦しみを和らげるために適切な薬を処方する訓練を受けた医師に感謝しています。しかし不幸なことに、現代社会には、処方された薬に依存し、乱用するようになる人が、教会員も含めてあまりにも多くいます。あらゆる偽りの父であるルシフェルはこのことを知っており、自分の



影響力を使って人の選択の自由を奪い、その恐ろしい鎖で、薬物を乱用する人々を縛り付けています（2ニーファイ28：22参照）。

最近わたしは、ある地元の病院の精神科に入院している姉妹と話しました。彼女は、以前は精神的にも身体的にもまったく健康で、すばらしい結婚生活、家族生活を送っていたのに、精神を病み、健康を損ない、家庭崩壊に至ってしまいました。事の始まりは、処方された鎮痛剤を乱用したことでした。

わたしと話す2年前、彼女は自動車事故で背中を痛めました。医師は、堪え難い痛みを和らげるために薬を処方してくれました。彼女はもっと多くの薬が必要だと考え、処方箋を偽造し、ついにヘロインを買うまでに至りました。その結果、彼女

は逮捕され、投獄されました。薬物依存は結婚生活までも破綻させました。夫は彼女と離婚し、子供たちの養育権を得ました。薬は痛みを抑えてくれるだけでなく、短い間でしたが高揚感や幸福感を味わわせてくれました。しかし、薬の効果はほんの数時間しか続かず、回数を重ねるごとに痛みが治まる時間は短くなっていきました。そこでさらに大量の薬物を使うようになり、依存症の悪循環に陥ってしまったのです。生活がすべて薬物に支配されました。わたしと話す前の晩、彼女は自殺を図りました。これ以上身体的、情緒的、霊的な苦痛に耐えることができなくなったのです。逃れられないわなにはまったようで、彼女は何の希望も感じられませんでした。

この姉妹のような処方薬の問題や、そ

のほかの薬物乱用は珍しいことではなく、わたしたちの周囲で起きています。自動車事故で亡くなる人の数よりも、処方薬依存症で亡くなる人の方が多地域もあります。<sup>3</sup> 兄弟姉妹の皆さん、どのような種類であれ、人をわなにはめてしまうような薬物を避けてください。何かを1度かいただけ、あるいは1粒の薬や1杯のアルコールだけで、依存症になることもあるのです。アルコール中毒から回復しつつある人にとっては、たった1杯のアルコールが、依存症か禁酒できるかを分けるのです。サタンはそれを知っています。瞬く間に依存症にしてしまうサタンの擬似餌にかからないようにしてください。

さて、兄弟姉妹の皆さん、どうかわたしの話を誤解しないでください。わたしは、治療可能な病気や肉体的な激しい痛み苦しむ人に使われる処方薬を問題にしているのではありません。これらの薬は確かに祝福です。わたしが話しているのは、医師が処方した分量に注意深く従う必要があるということです。また、そのような薬は子供やほかの人の手の届かない、安全な場所に保管する必要があります。

また、ギャンブルや邪悪なポルノグラフィのような有害で中毒性のあるものも非常に大きな問題です。個人を破滅に導くものであり、社会にはびこっています。兄弟姉妹の皆さん、忘れないでください。どのような種類の依存症も、何かに屈し、選択の自由を失い、奴隷になることなのです。テレビゲームや携帯メールなども、その一つに加える必要があるでしょう。ゲーマーと呼ばれる人たちの中には、一日18時間も費やして、あらゆるレベルのゲームに明け暮れる人もいます。生活のほかの側面はすべてないがしろにしています。携帯メールも依存を引き起こしかねず、人と人の大切なコミュニケーションを失わせてしまいます。しばらく前にあるビショップから聞いた話ですが、ワードの青少年二人が、並んで立っているのに直接話さず、メールでやり取りしていたというのです。



医学的な研究によれば、依存症は「脳の病気」とされています。<sup>4</sup> これは真実です。しかし、一度サタンに捕らえられてしまうと、それは霊の病気にもなってしまいます。しかし、どのような依存症のサイクルに陥ったとしても、必ず希望はあります。預言者リーハイは、息子たちに次の永遠の真理を教えました。「そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。」(2 ニーファイ 2:27)

依存症に陥り、克服したいと思っている人はだれでも、束縛から逃れ、霊的に自由になる方法があります。しかも効果は実証されています。その方法は祈りで始まります。わたしたちの霊と肉体を造られた天の御父と、真心から、熱心に、絶えず心を通じ合わせます。悪い習慣をやめようとするときにも、どんな罪であれ悔い改めようとするときにも、同じ原則に従います。わたしたちの心や肉体、思いや霊を変えるための処方箋は、聖典に書かれています。

預言者モルモンは次のように勧告しています。「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、……この愛で満たされるように、また神の子となれるように、……さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ 7:48)

ほかにも多くの聖句が証しています。依存症に陥った人々には希望があり、この希望は主イエス・キリストの贖いを通して得られます。神の御前にへりくだり、依存症の鎖から解き放たれるように願い求め、熱烈な祈りを通して全身全霊を主にさげることが必要です。

神権指導者は、依存症の人から助言を求められたとき、助けることができます。必要ならば、資格を持ったカウンセラーや LDS ファミリーサービスの助けを受けることもできます。依存症立ち直りプログラムは、「アルコールクス・アノニマス」(匿名のアルコール依存症者たち)の12のステップを基にして作られたもので、LDS ファミリーサービスを通して簡単に入手できます。

個人でまたは家族の中で依存症と取り組んでいる皆さんにもう一度伝えます。熱心な祈りこそ、平安を見だし、欲求を克服するのに必要な霊的な力を得るための鍵です。天の御父はすべての子供たちを愛しておられます。ですから御父に感謝し、心から主を信じていることを示してください。依存症を克服する力を願い求めてください。高慢さを捨て、生活と心を天の御父に向けてください。キリストの純粋な愛の力で満たされるように祈り求めてください。何度も繰り返す必要があるかもしれません。しかし、わたしは皆さんに証します。皆さんの肉体や思い、霊は変えられ、清められ、癒され、そして皆さんは解放されるでしょう。イエスは言われました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ 8:12)

わたしたちの目標は、さらに救い主のようになり、ついには天の御父とともに住むふさわしさを身に付けることです。そのためには、モルモン書の預言者アルマが語ったように、わたしたち一人一人が心の中に大きな変化を経験しなければなりません(アルマ 5:14 参照)。天の御父と主イエス・キリストに対する愛を、日々の選りや行動に表す必要があります。御二方

は、戒めを守る人々に平安や喜び、幸福を与えると約束してくださいました。

兄弟姉妹の皆さん、人をとる偽漁師ルシフェルが仕掛けた擬似餌に注意しましょう。ルシフェルが差し出す数々の危険な誘いを見分け、拒むだけの知恵と霊の目を持つことができますように。

そして、どのような種類であれ、依存症に陥ってしまった皆さん、希望はあります。なぜなら神はすべての子供たちを愛しておられるからです。また主イエス・キリストの贖いがすべてのことを可能にするからです。

依存症の鎖を断ち切って快復するというすばらしい祝福をわたしは見えました。主はわたしたちの牧者であり、贖いの力を信じるときわたしたちには乏しいことはありません。主は依存症という束縛から人を解放する力をお持ちであり、そうして下さることを知っています。なぜなら使徒パウロが宣言したように「わたしを強くして下さる〔キリスト〕によって、何事でもすることができ」からです(ピリピ 4:13)。兄弟姉妹、現在このような試練と闘っている人々がそのようになりますように、わたしはへりくだって祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 名詞 addiction (「依存症」)には、3つの意味があり、その1つは「主人に屈すること」という意味である。(audioenglish.net/dictionary/addiction.htm)
2. National Institute on Drug Abuse, *Drugs, Brains, and Behavior---the Science of Addiction* (2010年), 18, drugabuse.gov/scienceofaddiction/sciofaddiction.pdf 参照
3. エリカ・ポッター, "Drug Deaths Overtake Auto Deaths in Utah," 2009年12月 universe.byu.edu/node/4477 参照
4. National Institute on Drug Abuse, "The Neurobiology of Drug Addiction," セクション IV, 30 番, drugabuse.gov/pubs/teaching/teaching2/teaching5.html 参照。drugabuse.gov/funding/budget08.html も参照





トーマス・S・モンソン大管長

## また逢う日まで

最後まで堪え忍ばなければなりません。なぜなら、わたしたちが目指すのは、永遠の命を受けて天の御父のみもとで暮らすことだからです。

**兄** 姉妹、このすばらしい教会の総大会も閉会の時を迎え、わたしの心は満たされています。わたしたちは各部会の話者の勧めと証に耳を傾け、霊的に養われました。世界中のすべての会員を代表して、真理を説いてくれた人たちに心からの感謝を伝えます。モルモン書に記された、偉大なベニヤミン王の説教を聞いた人々の言葉をわたしたちも繰り返します。「民は皆、声を合わせて叫んだ。『そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かで真実であることを知っています。』」<sup>1</sup>

皆さんが時間を割いて、『エンサイン』(Ensign) や『リアホナ』11月号に掲載される大会説教を読むよう願っています。注意深く研究する価値のあるものです。

平安で快適で安全な環境の中で、この立派なカンファレンスセンターにともに集えたことはすばらしい祝福です。大会の様様はかつてないほど広範囲に中継され、大陸と海を越えて世界各地の人々に届けられました。皆さんの多くと距離的には遠く隔たっていますが、皆さんの気持ちを感じるとともにわたしたちの愛と感謝を伝えます。

今大会で解任となった兄弟たちに、長

年にわたる献身的な奉仕に対し、わたしたち全員の心からの感謝を伝えます。数え切れないほどの人が、主の業への皆さんの貢献によって祝福されてきました。

タバナクル合唱団とそのほかの聖歌隊

の皆さんは、各部会においてまさに天で歌われているような音楽を提供し、大会で行われたすべてのことに光彩を添えてくれました。皆さんの才能と能力を分かち合ってくれたことに感謝します。

わたしの信仰深い顧問であるヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ウークトドルフ管長に愛と感謝を伝えます。二人はまさしく知恵と理解の人であり、計り知れない働きをしています。二人の支持と助けがなければ、わたしがするよう召されている働きのすべてを行うことなどできません。十二使徒定員会の兄弟たち、また七十人定員会、管理ビジョブリックの全員を愛し、称賛します。彼らは無私の中で、効果的に奉仕しています。同様に、中央補助組織の役員として奉仕している姉妹や兄弟たちにも感謝しています。

イエス・キリストの回復された福音が与えられているわたしたちは何と恵まれてい





中央扶助協会会長  
ジュリー・B・ベック

ることでしょう。福音は、わたしたちがどこから、何のために地上に来て、死んだらどこに行くのかという疑問に答えを示してくれます。人生に意義と目的と希望を与えてくれるのです。

わたしたちは、困難と問題の山積する世の中に暮らしています。個人的な試練に能力の限りを尽くして対処し、試練から学び、克服していくためにこの地上にきています。最後まで堪え忍ばなければなりません。なぜなら、わたしたちが目指すのは、永遠の命を受けて天の御父のみもとで暮らすことだからです。御父はわたしたちを愛し、わたしたちがこの目標を成し遂げることを何よりも望んでおられるからです。祈りを通して御父に呼びかけるとき、御言葉（みことば）を学ぶとき、戒めに従うとき、御父は助け祝福してくださいます。わたしたちはそこに安全と平安を見いだせます。

神が兄弟姉妹の皆さんを祝福してくださいますように。皆さんがわたしやすべての中央幹部のために祈ってくれることに感謝します。わたしたちは、皆さんと皆さんが地上で神の王国建設を推し進めてくれることに心から感謝しています。

天の祝福が皆さんとともにありますように。皆さんの家庭が愛と思いやりと主の御霊に満たされますように。皆さんが福音に対する証を絶えず養い、それがサタンの攻撃に対する守りとなりますように。

今、大会は終わりました。家までの道りが安全でありますように。日々の時間を埋め尽くす多くの事柄に取り組むときにも、ここで感じた御霊がともにとどまりますように。互いに対して、いっそうの思いやりを示すことができますように。主の業にさらによく携わることができますように。

皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。半年後にまた逢う日までのお別れです。主なる救い主イエス・キリストの御名（みな）によって、アーメン。■

注

1. モーサヤ5:2

## 「わたしの王国の娘」—— 扶助協会の歴史と業

扶助協会の歴史を研究し応用すると、救い主イエス・キリストの弟子であるわたしたちが何者であるかが分かり、明らかになります。

この集会は、天の御父の思いと御心（みこころ）を知り、御父の計画における自分の責任について理解したいと望む、御父のすべての娘にとって賜物（たまもの）です。この1年間、大勢の姉妹を訪ね、皆さんの目を見て、皆さんを抱き締め、皆さんと笑ったり泣いたり、皆さんの喜びや悲しみ、功績について聞いたりしたときに心を動かされました。一人一人には筆舌に尽くしがたいほどの価値があり、天の御父は皆さんをよく御存じです。神の娘として、皆さんは永遠の称号を受ける準備をしており、各自が女性としての個性、特質、責任を備えています。家族や地域社会、この教会、そして貴い救いの計画が成功するか否かは、忠実な皆さんにかかっているのです。愛する姉妹の皆さん！心から愛しています。皆さんのために祈っています。

わたしたちは皆、この現世で非常に個人的な経験をしています。最近出会った二人の姉妹は、忠実に生活する方法を示してくれています。一人の姉妹はブラジル中央部に住んでいます。赤土の庭の中に建つ、赤いブロック塀に囲まれた、美しい

赤レンガの家は、俗世を遮断する避け所となっています。輝く瞳（ひとみ）の子供たちは初等協会の歌を知っていて、部屋の壁には『リアホナ』から切り抜いた救い主や神殿、神の預言者の絵や写真が飾られています。彼女と夫は、子供たちが聖約の中で生まれるように個人的な犠牲を払って神殿で結び固められました。彼女は、子供たちを福音の光と真理、力の中で育てるために欠かせない強さと靈感を受けられるよう絶えず主に祈っていると話してくれました。

もう一人の姉妹は香港（ホンコン）のビルの80階にある小さなアパートに独りで住んでいます。肉体的な問題を抱えていますが、気持ちは明るく、自立しています。彼女は家族の中で唯一の教会員です。小さな棚の上に聖典、扶助協会のテキスト、教会のそのほかの書物が並んでいます。彼女は家の中に御霊（みたま）に満たされた避け所を作っており、支部の会員にとって光となっています。

### 警告

わたしたちは多くの姉妹が過酷な、あるいは危険な状況の中で生活していることを知っています。絶え間ない空腹に悩



まされている姉妹、落胆や人の裏切りがあっても信仰を持ち前進する勇気を毎日振り絞らなければならない姉妹がいます。わたしたちは地球の終わりの時に生きているので、あちこちで大きな戦いのしるしがあります。末日聖徒の女性の力や目的、地位に関する偽の情報や誤解が蔓延しています。現在広まっている偽の情報は、女性が男性より劣っている、女性は大概かわいらしいが無知である、そして女性がどんなに頑張っても天の御父に受け入れられるほどの人物にはなれないと思込込ませます。使徒ペテロが語ったように、「あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定」<sup>1</sup> するのです。

モルモン書は何が起きているか、こう説明しています。

「見よ、その日、[サタン]は人の子らの心の中で荒れ狂い、人の子らをそそのかして善いことに対して怒らせる。

また、[サタン]はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、彼らは、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにし

て人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、『地獄はない』と告げ、『悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない』と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。<sup>2</sup>

権利の主張や言い訳、無関心、誘惑が蔓延する中で、注意力を研ぎ澄まさず、祈らず、靈感を受けようとしない神の娘は、聖文で述べられている「異なる神々」<sup>3</sup>を礼拝する「愚かな女ども」<sup>4</sup>になってしまう危険性が非常に高いのです。悲しいことに、生活の中で遭遇する困難や、世間に広まっている偽りの教義の結果、多くの姉妹は真理よりも偽の情報を信じています。多くの人々が祈りや聖文研究といった基本的な事柄をしていないと判明したことが、彼らが神の計画と調和していないことを立証しています。主御自身が「今は警告の時であり、多くの言葉を費やす時ではない」<sup>5</sup>とされています。

### 扶助協会は<sup>とりで</sup>誓おび避け所となるように組織された

この苦難の時代に神は御自身の娘を守

り、教え、靈感を与えるために、預言者ジョセフ・スミスに権能を与えて、教会の女性たちを組織させられました。天から任命され、神権によって導かれるこの組織は、扶助協会と呼ばれています。

扶助協会の目的は、神の娘たちが信仰と個人の義を増し加え、家族と家庭を強め、助けの必要な人々を見つけて手を差し伸べることを通して、彼女たちを永遠の命に備えることです。

扶助協会は神の計画を守るわたしたちの務めを明確にし、神の娘として一つにしてくれます。誤ったアイデンティティー、混乱、妨害の時代にあって、扶助協会は忠実な女性に真理を教える羅針盤および道しるべとなるよう意図されています。現代の義になかった女性は、信仰を増し、家族を強め、人に救助の手を差し伸べることによって、心の動揺に抵抗し、邪悪や霊的な破滅と闘い、個人的な災難を乗り越えるために啓示を豊かに受けようとしています。

### 扶助協会の歴史と業

わたし会長会は、神の娘たちが「地に住む者に下る災い」<sup>6</sup>に直面したときに堅固であるのを助けるために神がわたしたちになすように望んでおられることを知る

うと、祈って断食をし、深く考え、預言者、聖見者、啓示者たちと話し合ってきました。その結果、教会の姉妹たちが扶助協会の歴史について知り、そこから学ぶべきであるという答えを受けました。扶助協会の歴史を理解することで、忠実な女性の基礎となるアイデンティティーと価値が強められるのです。

これを受けて、教会の扶助協会の歴史をまとめた冊子を制作しており、来年使用できるようになります。これに先駆けて、『リアホナ』の家庭訪問メッセージのページでも扶助協会の歴史について採り上げています。歴史書の準備は靈感と啓示をもたらす経験となっています。

扶助協会の歴史を研究する中で分かったのは、扶助協会に対する主のビジョンと目的は、日曜日の眠気を催す集会ではないということです。主は婦人会や趣味や娯楽のグループよりももっと、もっと大きなことをお考えです。

主は扶助協会が民を築き、神殿の祝福に備えさせるのを助けるように意図されていました。主がこの組織を設立したのは、娘たちを御自身の業に協力させ、王国を築いてシオンの家庭を強めるうえで娘たちの力を借りるためでした。

### 歴史はわたしたちが何者であるか教えてくれる

わたしたちは自分たちの歴史を学ぶことによって、自分たちが何者であるかを学びます。世界中の善良な女性が自分のアイデンティティーや価値、大切さを知りたいと切に求めています。扶助協会の歴史を研究し応用すると、救い主イエス・キリストの弟子であるわたしたちが何者であるかが分かり、明らかになります。わたしたちの忠実さと奉仕は、わたしたちの改心や、主を覚えて主に従う決意を表します。1830年7月、教会の回復の初期に、主はこの神権時代の最初の女性指導者をお選びになり、こう言われました。「わたし〔は〕あなた、すなわちわたしの娘エマ・

スミスに語る……。まことに、わたしはあなたに言う。わたしの福音を受け入れる者は皆、わたしの王国において息子であり、娘だからである。」<sup>7</sup>

扶助協会の歴史は、天の御父が御自身の娘たちを御存じであることを教えています。御父は娘たちを愛しておられ、彼女たちに具体的な責任を与えられ、現世の旅路の中で語りかけ、導いてこられました。さらに、扶助協会の歴史は女性の地位を高めて実証し、女性が忠実な神権指導者とともに働く方法を示しています。

### 歴史はわたしたちのなすべきことを教える

わたしたちは自分たちの歴史を学ぶことによって、何をすべきかを学びます。扶助協会の歴史を通して、わたしたちは永遠の命の祝福にどのように備えればよいかを学びます。扶助協会という組織はシオンのワードや支部の姉妹たちの力を組織する責任を常に負ってきました。扶助協会集会、訪問教師の奉仕、協力して当たる奉仕活動を通して神の娘たちは主の業と王国における自分の責任について教えを受け、見守られ、靈感を受けてきました。ワードや支部の扶助協会会長は、その業を導くために召されています。

1年前のこの集会で、扶助協会集会の方針が発表されました。世界中のほとんどのワードと支部の扶助協会会長と姉妹たちがこの方針とその根底にある精神をしっかり受け止めてくれたという報告を受け、わたしたちはうれしく思っています。扶助協会の歴史的な目的と業が再び活気づいている様子を見るのができ喜ばしく感じています。姉妹たちのすべての集会が、本来の扶助協会という名前と呼ばれることにより、扶助協会に威厳と、アイデンティティーと敬虔さひょうけんが増しているのを見ています。信仰と個人の義が増し、家族と家庭がさらに強められ、扶助協会集会を正しく用いることを通して扶助協会の姉妹たちがさらに助けの手を差し伸べている様子をわたしたちは見えています。

扶助協会集会、訪問教師、そのほかの扶助協会の業に関するすべての方針は、扶助協会の歴史に基礎を置き、大管長会によって承認されています。

救いの業に携わることは、いつも扶助協会の責任となってきました。回復された教会の初期から、姉妹たちは日常生活で起きる出来事に対処するためにだれよりも早くから、だれよりも遅くまで、欠かさず必要な場所に足を運んできました。姉妹たちは、初等協会や若い女性、日曜学校などで奉仕するために扶助協会から出て行き、次の世代への光と徳の模範となっています。個人の奉仕は一人一人の姉妹の人格を築き、何百万人の忠実な女性が結束して行う奉仕活動によって、主の業における恐るべき信仰の軍勢が組織されます。歴史が示すように、回復の初めから、姉妹は伝道の最前線に立ち、現在も自ら伝道に出たり、若い男性と若い女性が伝道に備えるのを助けたり、福音の祝福とともに味わうよう友達や隣人、家族を招いたりしてきました。さらに歴史から分かることは、預言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに自らを神殿に備えることについて教えるために扶助協会の集会を利用しました。今日、家族歴史活動と神殿の業ごんにもは扶助協会の中心的な義務の一部です。

わたしたちの歴史的な目的を理解すれば、女性が「価値のないものに金を使〔わず〕……満足を得られないものに労力を費や〔さない〕」<sup>8</sup>よう正しい優先順位を学ぶのに役立ちます。扶助協会は使徒パウロが教えたことをする責任を絶えず負ってきました。すなわち、若い女性にまじめで慎み深くあり、純潔を守るように教え、結婚している姉妹には夫を愛し、子供を愛し、家庭を強めるように教えることです。<sup>9</sup>扶助協会の歴史はわたしたちを救い聖める大切な事柄や、わたしたちが個人として自立して主の王国で役に立つために必要なことを行えるように教えてくれます。

扶助協会の歴史を通じて存在する不変のテーマは、聖霊の力を活用する姉妹は生



身か既婚かにかかわらず、強く揺るぎない神の娘たちから成る偉大な世界規模の姉妹の組織に結ばれているのです。

### 歴史について知ることは変わる助けとなる

わたしたちが自分たちの歴史を学ぶのは、それによってわたしたちが変われるからです。結局のところ、歴史の価値は日付や時間、場所にはありません。ではなぜ歴史に価値があるかと言えば、それは、原則と目的と規範を教え、わたしたちが何者であって、何をすべきかが分かるように助け、シオンの家庭を強め地上の神の王国を築くために姉妹たちを結束させてくれるからです。靈感によって運営するなら、扶助協会は恐れや疑問、自己中心主義を信仰と希望、慈愛に変えることができます。主の業を推し進めるとき、扶助協会の歴史は世界中の忠実な姉妹によってさらに書き加えられるでしょう。主は今日扶助協会を強め、御自身の娘たちに栄えある未来を用意しておられます。

天の御父とその御子イエス・キリストが現実の御方であられることを<sup>あかし</sup>証します。預言者ジョセフ・スミスを通して、福音、すなわち女性のアイデンティティーと目的についてのよきおとすれが地上に回復されました。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

### 注

1. 2ペテロ 2:1
2. 2ニーファイ 28:20-22
3. ヨシユア 24:23
4. 2テモテ 3:6
5. 教義と聖約 63:58
6. 教義と聖約 1:17
7. 教義と聖約 25:1
8. 2ニーファイ 9:51
9. テトス 2:4-5 参照
10. マタイ 6:4; 3ニーファイ 13:4 参照

活の中で主の靈感をもって働き、自分の責任に関する啓示を受けるといものです。

### 歴史は忠実な女性を一つにする

わたしたちが自分たちの歴史を学ぶのは、それによって忠実な女性の一つになれるからです。扶助協会の歴史は、<sup>しん</sup>芯が強く、忠実な、目的を持った女性が登場する、御霊に満ちた歴史です。主の回復された教会の一部である扶助協会は、今や170近く国にあります。世界中どこにいても、主の教会の成人女性は重要な責任を受けることができます。

教会の少女と若い女性は『神への信仰』と『成長するわたし』を通して、神殿や将

来の責任に焦点を当てて目標を立てることを学びます。そして扶助協会でも信仰と個人の義を増し加え、自分たちの家族と家庭を強め、助けの必要な人々を見つけて手を差し伸べることにより、神殿と永遠の命の祝福に向かって前進し続けるのです。忠実な姉妹はたとえ称賛や注目を受けなくても働くことを学びます。なぜなら扶助協会は、隠れて施し(またはささげ物)をするときに隠れたことを見ておられる天の御父が公に報いてくださると言われた主イエス・キリストの教えに基づいて栄えるからです。<sup>10</sup>

わたしたちは扶助協会の歴史と業を通して、年齢や経済状態、教育の有無や独



中央扶助協会会長会第一顧問  
シルビア・H・オールレッド

# 確固として、 揺るぎなくある

わたしたちが忠実に最後まで堪え忍ぶならば、天の御父のすべての祝福、つまり永遠の命と昇栄を受けることができます。

**世** 界中の忠実な女性の集まりに参加できることに感謝しています。様々な国で何千人もの皆さんに会ってきました。皆さんの忠実さと献身はわたしを強めてくれました。善良さの模範と福音への決意がわたしを奮い立たせてくれました。皆さんのひそかな行いによる無私の奉仕と、証や確信のある言葉は、わたしを謙虚にしてくれました。

今晚皆さんに幾つか質問をします。これまで皆さんの多くと交わした会話の中で尋ねたことと同じ質問です。

1. 信仰が試されるような困難に遭ったとき、確固として揺るぎなくあるにはどのようなことが助けとなりますか。
2. 試練や逆境の中で支えてくれるものは何ですか。
3. 堪え忍び、真のキリストの弟子となるために何が助けとなりますか。

皆さんの答えには次のようなものがありました。

1. 天の御父が自分を愛し、大切に思っていてくださるという知識。
2. イエス・キリストの贖いの犠牲を通し

て、忠実な者に約束されたすべての祝福が成就するという望み。

### 3. 贖いの計画の知識。

今日伝えるメッセージは、皆さんの心の中から表現されたこれらの確信の言葉をさらに詳しく説明したものです。

ローマ人への手紙第8章16節にこうあります。「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。」天の御父がわたしを知っておられて、愛し、思っていてくださることをはっきりと感じた最初の記憶は、15歳でバプテスマの水に入ったときでした。それまでも神が存在され、イエス・キリストが世の救い主であられることは知っていました。御二方を信じて愛していましたが、喜んでバプテスマの聖約を交わしたその日まで、御二方がわたし個人を愛し、大切に思っておられることを感じたことはありませんでした。

200万人に対してほんの一握りの宣教師しかいなかった時代に、宣教師がわたしを見つけ、教えてくれたことがすばらしい奇跡であることがはっきり分かりました。そして、宣教師をわたしの家まで導くという特別な方法によって、天の御父がわ

たしを御存じで、愛してくださっていることを知ったのです。

今わたしは、神が愛の神であられることを知っています。これは真実です。なぜならわたしたちは神の子供であり、神はわたしたちが皆、喜びと永遠の幸福を得ることを願っておられるからです。神の業と栄光とは、わたしたちが不死不滅と永遠の命を得ることです。<sup>1</sup> そのために神は幸福の計画を用意してくださいました。わたしたちの人生の目的は自分自身のために永遠の命と昇栄を得、ほかの人も同じ祝福を得られるように助けることです。わたしたちが肉体を得て信仰の試しを受けられるように、神はこの地球を創造されました。神は選択の自由という貴い賜物を下さり、それによりわたしたちは永遠の幸福へ続く道を選ぶことができます。天の御父の贖いの計画は、皆さんとわたしのためにあります。神のすべての子供たちのためにあるのです。

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。

神は彼らを祝福して言われた、『生めよ、ふえよ、地に満ちよ。』<sup>2</sup>

「主は彼らに、主なる彼らの神を礼拝〔する〕ようにと戒めを与えた。アダムは主の戒めに従順であった。」<sup>3</sup>

アダムとエバは子供をもうけ、計画は実行されていきました。

わたしたち一人一人が神の娘として、きわめて重要で不可欠な役割があることをわたしは知っています。御自分の業を進める目的で、神はその娘たちに神聖な特質を授けてくださいました。子供を宿し、育てるという神聖な業を女性に託されたのです。これ以上に重要な業はありません。これは聖なる召しです。一人の女性にとって最も高貴な仕事は、理想的には夫と協力して、永遠の家族を築く神聖な業です。

結婚の祝福や子供を持つ祝福をまだ受けていない姉妹がいるのをわたしは承知しています。時が来れば、皆さんが忠



実な者に約束されたすべての祝福を受けることを約束します。「これからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち……最後まで堪え忍ぶ」<sup>4</sup> 必要があります。永遠の見地から見れば、祝福に欠けるところがあるのは「つかの間にすぎない」のです。<sup>5</sup>

それに、戒めを守り、家族を養い友人や隣人を世話するのに、必ずしも結婚している必要はありません。皆さんの賜物、才能、技術、そして霊的な強さは、王国を築くために大いに必要です。そのような重要な義務を果たしたいという皆さんの意欲に主は頼っておられます。

主は言われました。

「わたしは、あなたを忘れることはない。

見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある。」<sup>6</sup>

主は皆さんを愛しておられます。皆さんの望み、失望を御存じです。皆さんの痛み、苦難は常に主の御前みまえにあるので、主は皆さんをお忘れにはなりません。

神のわたしたちへの愛を最もよく表しているのは、わたしたちの罪を贖い、救い主、贖い主とするために、愛する御子イエス・キリストを遣わされたことです。

ヨハネによる福音書第3章16節にはこうあります。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それ

は御子みこを信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」

救い主は言われました。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。」<sup>7</sup>

イエス・キリストが進んで犠牲の小羊とられたことは、主の御父への愛とわたしたち一人一人に対する無限の愛の表れでした。

イザヤは救い主の苦しみを次のように述べました。

「彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……

……彼はわれわれのところがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。……その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」<sup>8</sup>

主御自身も宣言されました。「神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。」<sup>9</sup>

主が死の縄目を断られたことにより、全人類が復活できるようになりました。主は不死不滅という賜物を下さったのです。

わたしたちが悔い改めるなら苦しみを受けることのないように、イエス・キリストはわたしたちの罪を負って苦しまれ、正義の要求を満たすために亡くされました。

キリストを信じて罪を悔い改め、神のみもとに入るために必要な救いの儀式を受

けるとき、わたしたちはイエス・キリストを救い主として受け入れたことを証明します。救いの儀式は、わたしたちが交わす聖約を象徴しています。主の律法と戒めに従うという聖約は、わたしたちを神と結びつけ、信仰を強めてくれます。信仰とキリストに対する確固とした思いは、地上での経験の一部である人生の困難に直面するために必要な勇氣と自信を与えてくれます。

1992年に夫がパラグアイ・アスンシオン伝道部を管理する召しを受けてすぐ、わたしたちはパラグアイのチャコ平原で孤立した地域の支部大会に出席しました。<sup>10</sup> 舗装道路を4時間、それから荒れた道をさらに7時間かけて行きました。しかし、わたしたちを歓迎する幸せそうなミストラールの会員に会った途端、危険でつらい長旅のことなど忘れてしまいました。

フリオ・イェグロスという若い支部会長がいました。フリオと妻のマルガリータは、その支部で神殿の結び固めの儀式を受けていた数少ない家族のうちの一家族でした。わたしは二人に神殿参入の経験を話してほしいと頼みました。

当時いちばん近くにあったのは、アルゼンチンのプエノスアイレス神殿でした。ミストラールからは片道27時間を要し、彼らは二人の幼い子供を連れて出発しました。真冬のとても寒い時期でしたが、多くの犠牲を払って神殿に着き、永遠の家



### ニュージーランド、オークランド

族として結び固められました。帰る途中、二人の子供の具合がとても悪くなり、亡くなりました。途中子供たちを埋葬し、帰宅したときは夫婦二人だけとなっていました。悲しみも、寂しさもありましたが、驚いたことに心は慰められて平安でした。この経験について二人はこう話しました。「子供たちは主の宮でわたしたちに結び固められました。ですから子供たちを永遠に取り戻すことができると知っています。この知識はわたしたちに平安と慰めを与えてくれています。わたしたちはこれからも神殿で交わした聖約にふさわしく忠実でなければなりません。そうすれば子供たちとまた一緒になれるからです。」

パラグアイのこの忠実な会員が持っているような強い信仰と希望を持つには、どうすればよいでしょうか。

わたしは大勢の皆さんから何度も繰り返し、皆さんが神の愛を信じていること、神の祝福を受けると信じていること、救い主イエス・キリストによる贖いの計画を理解しその計画における自身の重要な役割を理解していることを聞きました。この宣言に対する信仰をどのように強めればよいでしょうか。

わたしにとって助けとなった4つのことを提案します。祈り、聖文の研究、従順、そして奉仕です。

### 祈り

祈りは天の御父と意思を通わせる行為です。祈るとき、わたしたちは神への信仰と、神がわたしたちを祝福する力をお持ち

であることを認めるのです。

アルマ書第37章37節にはこのようになります。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるよう、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」

### 聖文の研究

天の御父の計画を知って理解することは、自分が何者であり、何になるべきなのかを知る助けとなります。

主は言われました。「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」<sup>11</sup>

すべての女性が聖文を研究する必要性が大いにあります。聖文の真理に精通すればするほど、生活の中で真理を実践でき、神の目的を果たす力を身に付けることができます。また、毎日の個人の祈りと聖文の研究は、生活に聖霊の影響力と力をもたらしてくれます。

### 従順

主は言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」<sup>12</sup> 忠実に従うならば、わたしたちが神のような特質を伸ばし、心を変える助けとなります。

教義と聖約にはこのような勧告があります。

「あなたが交わした聖約を固く守りなさい。……

絶えずわたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたは義の冠を受けるであろう。」<sup>13</sup>

福音に従って生活するという固い決心は、イエス・キリストへの信仰と希望を育てます。

### 奉仕

主に仕える機会はたくさんあります。姉妹一人一人が、わたしたちの周りにいる貧しい人や助けを必要としている人を探し出し、支援するように求められています。「貧しい人や助けを必要としている人」には、霊的、情緒的に助けが必要な人たちも含まれます。また、「死者を救う」責任も託されています。家族歴史を探求したり、神殿の業を行ったりすることで果たすことができます。さらに、人々に福音を伝えるという戒めを受けていますが、伝道活動に携わる方法は数多くあります。これらすべてが主に仕える方法です。天の御父は、強い者が弱い者を強くするように望んでおられます。皆さんが神の子供たちを強め、世話するとき、皆さん自身の信仰も強められます。

天の御父が御自身の子供たち一人一人を、完全に、個々に、そして常に愛しておられることをわたしは知っています。わたしたち女性には、幸福の計画にとってなくてはならない役割があることを知っています。主が求めておられることはただ、わたしたちの最善の努力であり、わたしたち一人一人が王国の建設に必要なのです。贖いは現実のもので、イエス・キリストは救い主であり、贖い主であられます。わたしたちが忠実に最後まで堪え忍ぶならば、天の御父のすべての祝福、つまり永遠の命と昇栄を受けることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

### 注

1. モーセ1:39 参照
2. 創世1:27-28
3. モーセ5:5
4. 2ニーファイ31:20
5. 教義と聖約121:7
6. イザヤ49:15-16
7. ヨハネ15:9
8. イザヤ53:4-5
9. 教義と聖約19:16
10. パラグアイ西部の降雨量の少ない過疎地域
11. ヨハネ5:39
12. ヨハネ14:15
13. 教義と聖約25:13, 15





中央扶助協会会長会第二顧問  
バーバラ・トンプソン

# ある者は哀れみの心を持ち、違いを生み出す

家庭訪問の真髄は、……生活が変わり、涙がぬぐわれ、<sup>あかし</sup>証が強まり、愛され、家族が強められ……るのを見ることです

**愛**する姉妹の皆さん、皆さんと同席し、主に対する皆さんの力と主への愛を感じることは素晴らしい祝福です。日々、皆さんが愛と哀れみを人々に分かち合っていることに感謝します。

ノーブーで扶助協会が始まって間もないころ、姉妹たちは家々を回って互いに教え導き、必要なものを見極め、食べ物を運び、病人を世話し、女性たち一人一人とその家族に哀れみを示していたことをわたしたちは知っています。<sup>1</sup> このことを考えると、ある者は哀れみの心を持ち、違いを生み出す、<sup>2</sup> というユダの手紙の聖句が思い浮かびます。この聖句とその意味について深く考えるとき、わたしの思いは救い主に向かいます。聖文には、すべての人に対するキリストの愛と哀れみについて多くの記述があります。

新約聖書には、キリストは困っている人々の世話をなさるとき「彼らを深くあわれまれた」<sup>3</sup> ことが幾度も書かれています。救い主は、彼らが飢えているときは哀れんで食べさせ、病気のときは癒し、霊的な豊かさが必要なときは教えを授けられました。

哀れみとは、人に対して愛と憐れみを

感じることです。つまり、思いやりを持ち、人の苦しみを軽くしたいと願うことです。親切と優しさを示すことです。

救い主はわたしたちに、御自身がされたことをするようにと言われました。<sup>4</sup> それは互いに重荷を負い合い、慰めの要る者を慰め、悲しむ者とともに悲しみ、<sup>5</sup> 飢えている人に食べさせ、病人を見舞い、<sup>6</sup> 弱い者を助け、垂れている手を上げ、<sup>7</sup> 「互いに王国の教義を教え合〔う〕」<sup>8</sup> ことです。わたしにとってこうした言葉や行いは、人を教え導く人、つまり訪問教師を表しています。

家庭訪問は、互いに見守り、強め、教え合う機会を女性に与えます。アロン神権の教師が「常に教会員を見守り」「彼らとともにいて彼らを強め」<sup>9</sup> の責任を担っているのとよく似て、訪問教師は、奉仕するように召された女性の一人一人について祈り、よく考えることによって愛を示します。

バック姉妹はわたしたちに次のことを思い起こさせてくれました。「イエス・キリストの模範と教えに従っているわたしたちは、主の代わりに愛し、知り、仕え、理解し、教え、導くために与えられた、この神聖な割り当てを尊んでいます。」<sup>10</sup>

<sup>まよ</sup>今日は二つのことについて話します。

- 訪問教師として奉仕することによって、あなたが人々にもたらす祝福
- 人々に仕えるときにあなたが受ける祝福

## 訪問教師として奉仕することによって、あなたが人々にもたらす祝福

少し前、アラスカ州アンカレジである女性のグループと話す機会がありました。部屋には12人ほどの姉妹がいて、さらに電話を使ってアラスカ各地の都市や町から6人の参加者が加わりました。姉妹たちの多くは教会の建物から何百マイルも離れた所に住んでいます。彼女たちは家庭訪問について教えてくれました。

すべての姉妹を直接訪問するには飛行機や船に乗るか、長時間車を運転しなければなりません。時間と費用を考えると、姉妹たちの自宅を訪問することは明らかに無理でした。それでも彼女たちは互いをとても身近に感じていました。いつもそばにいることはできなくても、互いのために心を込めて祈り、担当の姉妹たちが何を必要としているのか知るために聖霊の導きを求めていたからです。電話やインターネット、手紙を使って絶えず連絡を取るようになっていました。主と聖約を交わし、担当の姉妹たちを祝福し強めたいと願った彼女たちは、愛によって奉仕していたのです。

コンゴ民主共和国のある一組の献身的な訪問教師は、大変な距離を歩いて赤ちゃんのいる女性を訪問していました。この二人の姉妹は祈りによってメッセージを準備し、訪問先の愛する姉妹の生活に良い影響を与える方法を知りたいと願いました。訪問先の姉妹は二人が来て大変喜びました。彼女にとってその訪問は、彼女のためだけに与えられた天からのメッセージだったのです。訪問教師が彼女の小さな家を訪ねたことで、その姉妹、家族、訪問教師の全員が高められ、祝福を受けました。二人は長い距離を歩くことを犠牲と感じてはいないようでした。



哀れみ深い訪問教師が、この女性に良い影響を与え、生活を祝福したのです。

教会には、距離、費用、安全などの問題があるために、毎月直接の訪問をできない地域があります。しかし、互いに愛することを心から求め、互いを見守り、強め合っている姉妹たちは、個人の啓示の力によって、主から受けたこの召しを果たす有意義な方法を見つけています。

靈感を受けた扶助協会の会長はビショップと相談し、祈りをもって訪問教師を割り当てています。ワードの女性一人一人を見守り、世話をする責任を持つビショップを助けているのです。相談して啓示を受けるといふこの過程を理解するとき、わたしたちは教え導くという大切な責任をさらに深く理解します。そして、より強い確信をもって、努力するわたしたちを導く御霊に頼ることができるようになるのです。

わたしも、毎月数人の女性を訪問し、ほっとしながら「家庭訪問が終わりました!」と誇らしげに宣言する姉妹の一人です。報告するべきことはそれで終了かもしれませんが、そのためだけに訪問しているのであれば、何と残念なことでしょう。

家庭訪問の真髄は、月間の報告書の100パーセントという数字を見ることではありません。それは生活が変わり、涙がぬぐわれ、証が強まり、愛され、家族が強めら

れ、元気づけられ、飢えた人が食べ、病人が見舞いを受け、悲しむ人が慰められるのを見ることです。実際、家庭訪問が終わることは決してありません。なぜなら、わたしたちは常に見守り、強めているからです。

家庭訪問のもう一つの祝福は、一致と愛が増すことです。聖文は、どうすればこれを達成できるかを勧告しています。「また彼は……互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。」<sup>11</sup>

多くの女性が、教会に戻って来た理由について、忠実な訪問教師が毎月訪問して導き、助け、愛し、祝福してくれたからだと述べています。

中には、あなたの分かち合うメッセージが最も大切な部分だという訪問もあることでしょう。皆さんが伝えるメッセージ以外に霊を豊かにするものがほとんどない、という人生を送っている女性もいるのです。『リアホナ』の家庭訪問メッセージは福音のメッセージです。どの女性もこのメッセージによって信仰を増し、家族を強め、慈愛の奉仕に力を注ぐことができます。

あるときは、ただ耳を傾けることだけが訪問の最大の祝福であることもあるでしょう。よく聞くことにより、慰め、理解、癒しが訪れます。またあるときは、家に行って何か作業をしたり、泣いている子供をなだめたりするなど、行動する必要があるかもしれません。

### 人々に仕えるときにあなたが受ける祝福

人々に仕えるときにあなたが受ける祝福はたくさんあります。わたしはこんなことを言ったことがあります。「ああ、家庭訪問を終わらせなくては。」(それは、自分は姉妹を訪問して教えるのだということをおぼえていたときです。家庭訪問が祝福ではなくて重荷だと思ったときです。)それでも確かに、わたしは家庭訪問に行く度に、行く前よりも良い気持ちになりました。多

くの場合、訪問先の姉妹よりもわたし自身の方がはるかに高められ、愛され、祝福されました。愛が強まり、奉仕への望みも強まりました。天の御父がどれほど素晴らしい方法を用いて、わたしたちが互いに見守り、世話をし合えるようにしてくださったかが分かるようになりました。

訪問教師として得られる祝福には、この機会がなければよく知り合えなかった人と知り合い、友達になれることも含まれます。時には、家庭訪問を通して自分がだれかの祈りの答えになれることがあります。また、家庭訪問を通して個人の啓示を受けたり霊的な経験をしたりすることもできます。

自分のワードで、また世界中で家庭訪問に参加しながら、わたしは人生のほかの場面では経験できないほど謙虚にさせられ、喜びを感じ、霊的な経験をしてきました。福音を教え合い、ともに泣き、笑い、問題を解決し合ってきました。わたしは高められ祝福を受けました。

月末のある晩、わたしは遠出の支度をしていましたが、一人の姉妹の家庭訪問がまだでした。時間も遅く、約束も取っていません。電話もしておらず、同僚もいませんでした。それでも友人のジュリーを訪問することは大切だと思い、そうすることにしました。ジュリーの娘アシュリーは生まれつき骨がもろくなる症状を抱えており、6歳近くなってもとても小さく、腕を動かすことと話すこと以外はほとんど自分ですることができませんでした。朝から晩まで羊皮のじゅうたんの上で横になる日々でした。アシュリーは明るくて陽気な子で、わたしは彼女と一緒にいるのが大好きでした。

その夜、ジュリーは訪ねて来たわたしを招き入れてくれました。するとアシュリーが声を上げ、見せたいものがあると言いました。わたしは部屋に入ると、床の上のアシュリーのそばにひざをつきました。お母さんは反対側にいます。アシュリーは言いました。「わたしこんなことができる



のよ！」少しお母さんに助けてもらいながら、彼女は寝返りを打つとまた元の体勢に戻りました。彼女は6年近くをかけてこの素晴らしい目標を達成したのです。この特別な出来事に、ともに手をたたき、歓声を上げ、笑い、泣きながら、わたしは自分が家庭訪問に行ったこと、そしてこの素晴らしい出来事を逃さずに済んだことを天の御父に感謝しました。この訪問から何年もたち、大好きなアシュリーはすでに亡くなりましたが、彼女とあの特別な経験にわたしはいつまでも感謝することでしょう。

愛するわたしの母は何年もの間、素晴らしい献身的な訪問教師として奉仕しました。どうすれば訪問先の家族を祝福できるか常に考えていました。家族を強めたいという気持ちから、特に訪問先の姉妹の子供たちに注意を払っていました。あるとき教会で、5歳の子供が母のところに走って来てこう言いました。「わたしの訪問教師よね。大好きよ！」その光景は今でも思い出すことができます。素晴らしい女性たちとその家族の人生にかかわることは母にとって祝福でした。

家庭訪問についての経験が、心温まる、

素晴らしいものばかりであるとは限りません。歓迎されない家を訪問するときや、とても忙しくてなかなか会えない姉妹もいます。良い関係を築くのに長い時間がかかる姉妹もいるかもしれません。それでもその姉妹を愛し、心にかけて、祈るように真心から努めるならば、見守り、強める方法が見つかるよう聖霊が助けてくださるでしょう。

トーマス・S・モンソン大管長は、救い主のように人を教え導くことの達人です。大管長がだれかを訪問し助けているのは見慣れた光景です。大管長はこう言いました。「わたしたちの周りには、……わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。」<sup>12</sup>

「〔姉妹〕は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」<sup>13</sup>

わたしたちが訪問し教える女性たちは、わたしたちに託されています。愛と哀れみをもって、託された人たちの生活に良い影響を与えましょう。

姉妹の皆さん、皆さんを愛しています。皆さんが天の御父と救い主イエス・キリストの愛を感じられるように祈っています。救い主が生きておられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. ジル・マルバー・デール、ジャナス・ラッセル・キャンロン、モーリーン・アーセンバック・ピーチャー、*Women of Covenant: The Story of Relief Society* (1992年), 32-33 参照
2. ユダ 1: 22 参照
3. マタイ 9: 36; 14: 14
4. ヨハネ 13: 15 参照
5. モーサヤ 18: 8-9 参照
6. モーサヤ 4: 26 参照
7. 教義と聖約 81: 5 参照
8. 教義と聖約 88: 77
9. 教義と聖約 20: 53
10. ジュリー・B・ベック「扶助協会—神聖な業」『リアホナ』2009年11月号, 113
11. モーサヤ 18: 21
12. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85
13. 教義と聖約 12: 8



トーマス・S・モンソン大管長

# 愛はいつまでも 絶えることがない

互いを裁かず批判せず、この人生を一緒に旅する人たちにキリストの純粋な愛を示そうではありませんか。

今 晩、わたしたちの魂は天に届くほど喜んでます。わたしたちは祝福されて、美しい音楽と靈感あふれるメッセージに耳を傾けてきました。主の御霊があります。主の靈感を受けてわたしの考えと思いを皆さんに伝えられるよう祈っています。

まずは、わたしが話したいことをうまく表現している短い話から始めましょう。

リサとジョンという若い夫婦が新しい土地に引っ越して来ました。ある日の朝、朝食を取りながらリサが窓越しに外を見ると、隣の家の人が洗濯物を干していました。

「あの洗濯物、汚れが落ちていないわ」とリサは大声で言いました。「隣の人は洗濯の仕方を知らないのね。」

ジョンも外を見ましたが、何も言いませんでした。

隣人が洗濯物を干す度に、リサは同じことを言いました。

数週間後、リサは窓から外を見て驚きました。隣の庭に、すっきりときれいな洗濯物が干してあったからです。リサは夫に言いました。「ジョン、見て。隣の人もやっと、洗濯の仕方が分かったみたいよ。でも、どうして分かったのかしら。」

ジョンは答えました。「実は、答えを知っているんだ。驚くかもしれないけど、今朝早起きしてはくがうちの窓をふいたんだよ。」

今晚は、わたしたちが互いをどう見ているかについて、2、3話します。掃除をしていない窓を通して人を見てはいないでしょうか。すべての事実を知っているわけではないのに人を裁いてはいませんか。人を見ると、どこを見ていますか。どんな判断を下しているのでしょうか。

救い主は「人をさばくな」<sup>1</sup>とされました。そして、続けてこう言っておられました。「なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。」<sup>2</sup>言い換えると、「なぜ、隣の家の洗濯物が汚いと言いつつ、自分の家の窓が汚れていることを認めないのか」となります。

完全な人はいません。自分は完璧だと豪語する人には会ったことはありません。それなのにどういふわけか、人はとかく自分の不完全さを棚に上げて他人の欠点を指摘しがります。他人のしていることやしていないことを裁いてしまうのです。

本人の心や動機、状況など知るすべもないのに、人の言葉や行いを批判します。「さばくな」という戒めがあるのはそのた

めです。

わたしは47年前にこの総大会で、十二使徒定員会の一員として召されました。当時は中央神権委員会の一つで奉仕していましたから、自分の名前が呼ばれる前はその委員会の会員と一緒に所定の席に着いていました。ところが妻はどこに行ったらよいか、だれと一緒に座ったらよいか分からず、タバナクルのどこにも席を見つけることができませんでした。すると、わたしたちと親しい中央補助組織の管理会員で役員席に座っていた姉妹がモンソン姉妹に声をかけて隣に座らせてくれました。この女性はその後間もなく発表されるわたしの召しについて、まったく知りませんでした。しかし、モンソン姉妹が不安そうに座る場所を探しているのに気づいて、親切に席を勧めてくれたのです。愛する妻はほっとして、この心遣いに感謝しました。ところがその席に腰を下ろすと、少し大きめのささやき声が後ろから聞こえてきました。管理会員の一人が不快感をあらわにして、管理会員のくせによくも「よそ者」を役員席に座らせたわねと周囲の人にこぼしたのです。その席を勧められた相手がだれであったにせよ、この思いやりのない言葉の言い訳にはなりません。ただ、この「じゃま者」が最も新しい使徒の妻だと分かったときにこの人がどう感じたかは想像するしかありません。

わたしたちは人をその行いや言葉で裁く傾向があります。しかしたいていの場合、外見で判断してしまいます。服装や髪型、体型など、数え上げればきりがありません。

外見で人を裁くことについての古典的な話が、ずっと昔、アメリカ国内向けの雑誌に載りました。これは実話です。聞いたことのある人もいるかもしれませんが、繰り返し聞くに値する話です。

メアリー・バートルズという女性の家が、病院の玄関の向かいにありました。メアリーの家族は1階に住んでおり、上の階の部屋は病院の外来患者用に貸していま



した。

ある晩、非常に醜い<sup>ようぼう</sup>容貌の老人が戸口にやって来て、一泊できる部屋はないかと聞いてきました。老人は腰が曲がっていて、しわだらけで、赤いはれもののせいで顔はいびつになっていました。老人は昼からずっと宿泊できる部屋を探しましたが見つかりませんでした。「この顔のせいでしょうな」と老人は言います。「確かにひどい顔なんだが、治療すれば良くなるだろうと医者に言われていましてね。」老人は、ベランダのロッキングチェアで寝られれば十分だと言います。話しながら、この背の低い老人が小さな体に似合わぬ大きな心の持ち主であることがメアリーには分かってきました。満室ではありましたが、メアリーは「腰掛けて待っていてください。横になれる場所を見つけますから」と老人に言いました。

就寝時間になると、メアリーの夫は老人のためにキャンプ用の簡易ベッドを用意しました。翌朝メアリーが見に行くと、シーツがきちんとたたんであり、老人はベランダに出ていました。老人は朝食を断りましたが、バスに乗るために家を出る直前、次の治療のときにも泊めてもらえるかと聞いてきました。「ご迷惑はおかけしません」と約束し、「いすで寝させてもらえればけっ

こうです」と言いました。メアリーは、ぜひまた来てくださいと答えました。

この老人は数年にわたって治療に通い、メアリーの家に泊まりました。職業は漁師だということで、魚介類や自分の庭で取れた野菜を必ず持って来てくれました。また、小包を送ってくることもありました。

そのような心のこもったプレゼントを受け取ると、メアリーは、この醜い腰の曲がった老人が初めて彼女の家に泊まり、翌朝出て行った後に隣人から言われた言葉を度々思い出しました。「夕べあの醜い老人を泊めたのですか。わたしは断りました。あんな人を泊めたら客が逃げますから。」

確かに客が「逃げた」ことが1、2度ありましたが、メアリーは「あの老人と知り合いになってさえいれば、彼らの病苦も少しは楽になっていたでしょうに」と思ったのです。

その老人が亡くなった後のことです。メアリーはある日、温室で家庭菜園をしている友人と話していました。友人の育てている花を見ていると、あちこちへこんでさびついた古いバケツに見事な黄色の菊が植えられているのに気づきました。友人の説明はこうでした。「鉢が足りなかったの。でもきれいな花が咲くって分かっていただけから、まずは古バケツでいいと思っ

たの。花壇に移せるようになるまでの少しの間だから。」

メアリーは天国でも同じなのではないかと思っただけでほえみませんでした。神は、あの背の低い男性のところに来てこうおっしゃったのかもしれませんが。「彼は特別に美しい人です。この小さくて不恰好な肉体に宿って地上の生活を始めることをいとわないでしょう。」しかし、それは遠い昔のことです。神の庭園でこの立派な人物は、胸を張って立っているに違いありません！<sup>3</sup>

見かけというものは当てにならず、人を評価する尺度としてはあまり役に立ちません。救い主は、「うわで人をさばかない」<sup>4</sup>ようにと勧告しておられます。

ある女性団体の会員が、団体の代表に選ばれた女性について抗議しました。本人に会ったことはないけれども、写真からすると太りすぎていて不適任だと言うのです。彼女はこのような発言しました。「この組織には何千人もの女性がいるのですから、もっと良い代表を選ぶことができたはずですよ。」

確かに、選ばれた女性は「モデルのような体型」ではありませんでした。しかし、彼女を直接知り、その人となりを知っている人は、写真からはどうい分らないことを見ていました。写真からは人懐っこい



笑顔と自信に満ちた表情が**見て取れました**が、写真から**見て取れなかった**ことは、彼女が忠実で思いやりのある友人であり、聡明で、主と主の子供たちを愛して奉仕する女性だということでした。地域社会でボランティアとして働いており、親切で世話好きな女性であることは写真からは読み取れませんでした。つまり、写真は彼女の真の姿を映し出していなかったのです。

質問します。態度や行い、霊的な特質が**身体的な特徴**に反映されるとしたら、抗議した女性は、彼女が批判した女性と同じくらい美しいでしょうか。

愛する姉妹の皆さん、あなたという人は一人しかいません。皆さんは互いに多くの点で違っています。結婚している人もいます。子供と一緒に家庭にいる人もいれば、外で働いている人もいます。また、子供が独立して出て行った人もいます。結婚はしていても子供がいない人もいます。離婚した人もいれば、夫を亡くした人もいます。独身の女性も大勢います。学位を持っている人もいれば、そうでない人もいます。最新ファッションの服を買う余裕のある人もいれば、日曜日にふさわしい服が1着あれば幸せだという人もいます。このような相違点を挙げれば、きりがありません。違っていることが原因で、互いを裁きたくなるのでしょうか。

生涯の大半をインドの貧民街で暮らし

たカトリックの修道女マザー・テレサは、深遠な真理を語っています。「人を裁いていたら、愛する時間がなくなってしまいます。」<sup>5</sup> 救い主はこのようにお教えになりました。「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」<sup>6</sup> 質問します。互いを裁いていながら、互いに愛し合うことができますか。答えはマザー・テレサと同じです。「いいえ、できません。」

使徒ヤコブはこのように教えています。「もし人が信心深い者と自任しながら、舌を制することをせず、自分の心を欺いているならば、その人の信心はむなしものである。」<sup>7</sup>

「愛はいつまでも絶えることがない」<sup>8</sup> という扶助協会のモットーを、わたしはいつも愛してきました。愛すなわち慈愛とは何でしょうか。預言者モロナイは、「慈愛はキリストの純粋な愛」<sup>9</sup> であると教えています。モロナイは、レーマン人に別れを告げる言葉の中でこう宣言しています。「あなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは決して神の王国に救われぬ。」<sup>10</sup>

慈愛、すなわち「キリストの純粋な愛」は、批判することや裁くことの対極にあるとわたしは考えます。慈愛といっても、ここでは物資を与えて苦痛を和らげるということには触れません。もちろんそれは必要で、行うべきことです。しかし今晩は、

寛大になり、人の行動をおおらかな心で受け止めるときに示す慈愛について考えています。赦すという慈愛、忍耐するという慈愛です。

わたしが考えている慈愛とは、病気のときや悩み苦しむときだけでなく、相手の欠点があらわになったときにも、間違いを犯したときにも、相手の立場になって考え、同情し、慈しみを示すことです。

忘れ去られている人に目をかけ、落胆している人に希望を与え、苦しんでいる人を助ける慈愛が大いに必要とされています。真の慈愛は、行動する愛です。慈愛は至る所で必要とされています。

必要とされているのは、当事者のためになる場合を除き、他人の不幸なうわさを聞いたり人に話したりすることを喜びとしない慈愛です。アメリカの教育者であり政治家でもあったホーレス・マンはかつてこう言いました。「悩みに同情するのはただの人間、悩みを和らげてこそ神の子となるのだ。」<sup>11</sup>

慈愛とは、自分を打ちのめす者に忍耐することです。ささいなことに腹を立てないように気持ちを抑えることです。人の欠点や失敗を受け入れることです。人をありのままに受け入れることです。外見の奥にある、時が過ぎても衰えることのない特質に目を向けることです。レッテルをはろうとする衝動を抑えることです。

キリストの純粋な愛である慈愛は、独身ワードの若い姉妹たちが、自分たちの扶助協会の会員の母親の葬儀に出席するために一緒に何百マイルも移動するときに表れます。慈愛は、献身的な訪問教師が、興味を示さず多少批判的な姉妹を何年にもわたって毎月訪問する姿の中に示されます。夫を亡くした年配の女性が忘れ去られずにワードの行事や扶助協会の活動に連れて来られるとき、そこに慈愛があります。扶助協会ではつとと独りである姉妹に「一緒に座りましょう」と声をかけるときに慈愛が感じられます。

幾つもの小さな方法で、皆さんのだれも

## 大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

が慈愛を示すことができるのです。完璧な人生を送っている人などいません。互いを裁かず批判せず、この人生と一緒に旅する人たちにキリストの純粋な愛を示そうではありませんか。だれでも自分に降りかかる問題に全力で取り組んでいるのです。そのことを認めて、助けるためにわたしたちにできる全力を尽くしましょう。

慈愛は「最も気高く、尊く、しかも強い愛」<sup>12</sup>と定義されています。慈愛は「キリストの純粋な愛であって、……終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸い」<sup>13</sup>です。

「愛はいつまでも絶えることがない。」長年にわたって引き継がれてきたこの扶助協会のモットーは永遠の真理です。このモットーが、何を行うときにも皆さんの指針となりますように。このモットーがまさに皆さんの魂に刻み込まれ、皆さんのすべての思いとすべての行動に表れますように。

姉妹の皆さんにわたしの愛を伝え、天の祝福が皆さんのうえにあるよう祈ります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

### 注

1. マタイ 7:1
2. マタイ 7:3
3. メアリー・パートルズ, "The Old Fisherman," *Guideposts*, 1965年6月号, 24-25から翻案
4. ヨハネ 7:24
5. マザー・テレサ, R・M・ララ編, *A Touch of Greatness: Encounters with the Eminent* (2001年), xで引用
6. ヨハネ 15:12
7. ヤコブの手紙 1:26
8. 1コリント 13:8
9. モロナイ 7:47
10. モロナイ 10:21
11. ホーレス・マン, *Lectures on Education* (1845年), 297
12. 『聖句ガイド』「慈愛」の項
13. モロナイ 7:47

話者	実話や物語
ジェフリー・R・ホランド長老	ジェフリー・R・ホランドの伝道資金を両親が払った(6)。
ローズマリー・M・ウィクソム	母親が嵐の中を運転する間に祈った子供たち(9)。
D・トッド・クリストファーソン長老	D・トッド・クリストファーソンの祖父は羊の毛を刈って得たお金を伝道資金に充てた(16)。 資産を不平等に分けたビジネスパートナー(16)。
ロバート・D・ヘイルズ長老	床にニスを塗りながら部屋の隅に追い込まれ、身動きが取れなくなったロバート・D・ヘイルズ(24)。
クエンティン・L・クック長老	不正直な男性の悔い改めを助けたビショップ(27)。
ラッセル・M・ネルソン長老	友人にモルモン書を分かち合ったラッセル・M・ネルソン(47)。 インターネット mormon.org を見た後で教会員になった若い男性(47)。
パトリック・キアロン長老	サソリに刺されたパトリック・キアロン(50)。
フアン・A・ウセダ長老	家族の聖文研究のときに娘に腹を立てた父親(53)。
ヘンリー・B・アイリング管長	入院中のヘンリー・B・アイリングの父親を見舞ったスペンサー・W・キンボール(59)。
トーマス・S・モンソン大管長	日曜日にバスケットボールをすることを断ったクレイトン・M・クリステンセン(67)。
ヘンリー・B・アイリング管長	貧しい人々に与えるための服を集めた扶助協会会長(70)。
ボイド・K・パッカー会長	悔い改めた女性が、後ろを振り返らないように促された(74)。
ジェイ・E・ジェンセン長老	祈って聖霊からの証を受けたジェイ・E・ジェンセン(77)。
トーマス・S・モンソン大管長	苦しいときでさえ感謝することを学んだ家族(87)。
L・トム・ベリー長老	体の不自由な男性が聖餐を受けられるように助けた若い祭司(91)。
ラリー・R・ローレンス長老	ある活動に対して良くない気持ちを感じたので家にとどまるように息子に告げた両親(98)。
マービン・B・アーノルド長老	小麦を食べ過ぎて死んだ牛(105)。
M・ラッセル・バラード長老	処方薬の濫用から依存症に陥った女性(108)。
シルビア・H・オールレッド	神殿での結び固めから帰る途中で悲劇に遭った家族(116)。
バーバラ・トンブソン	アシュリーの母親の訪問教師として祝福を受けたバーバラ・トンブソン(119)。
トーマス・S・モンソン大管長	醜い男性を宿泊させた宿屋を営む夫婦(122)。

# 中央補助組織会長会

## 扶助協会



第一顧問  
シルビア・H・オールレッド



会長  
ジュリー・B・ベック



第二顧問  
バーバラ・トンプソン

## 若い女性



第一顧問  
メアリー・N・クック



会長  
イレイン・S・ダルトン



第二顧問  
アン・M・ティブ

## 初等協会



第一顧問  
ジーン・A・スティーブンス



会長  
ローズマリー・M・ウィクストム



第二顧問  
チェリル・A・エスプリン

## 若い男性



第一顧問  
ラリー・M・ギブソン



会長  
デビッド・L・ベック



第二顧問  
エードリアン・オチャオ

## 日曜学校



第一顧問  
デビッド・M・マッコッキー



会長  
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問  
マシュー・O・リチャードソン

## わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

### 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使ってレッスンを準備

したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

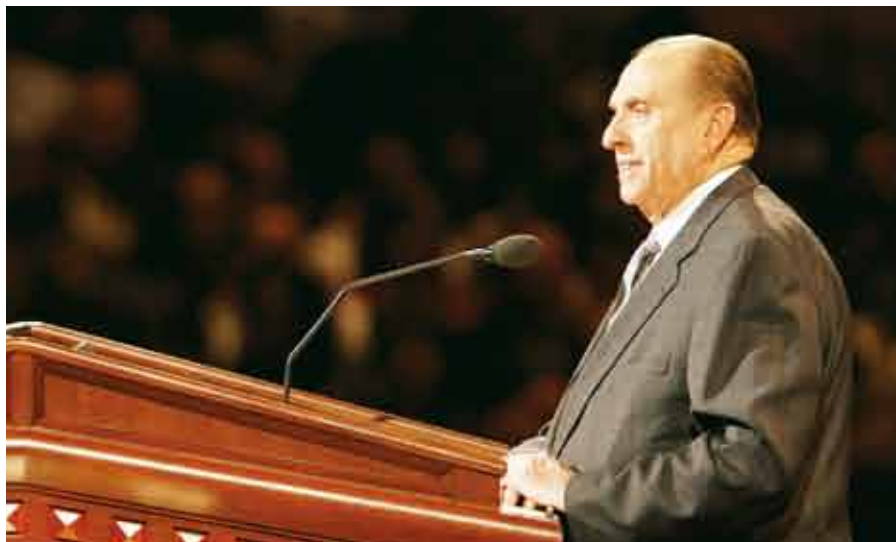
原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。■

月	第4日曜日のレッスン教材
2010年11月— 2011年4月	『リアホナ』2010年11月号掲載の説教*
2011年5月— 2011年10月	『リアホナ』2011年5月号掲載の説教*

\*これらの説教は、[conference.lds.org](http://conference.lds.org) にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧できます。(訳注— [ldschurch.jp](http://ldschurch.jp) からアクセスできます。「福音ライブ러리」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブ러리」「リアホナ」の順にクリックし、2010年5月号のアイコンをクリックしてください。)





## モンソン大管長、宣教師になるよう呼びかけ、5つの新しい神殿を発表する

**ト**ーマス・S・モンソン大管長は、2010年10月2日(土)と3日(日)に行われた第180回半期総大会の最初の説教で、さらに多くの教会員に宣教師として奉仕するよう呼びかけ、5つの新しい神殿について発表した。

モンソン大管長は「ふさわしく、能力があるすべての若い男性」に伝道に出る準備をするよう呼びかけ、伝道に出ることを熱望する若い女性を歓迎すると伝え、教会は「もっと大勢」の熟年の夫婦が伝道に出ることを必要としていると述べた。

「宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。」

モンソン大管長は5つの新しい神殿が建設される計画を発表した。それらは、アメリカ合衆国コネチカット州ハートフォード、アメリカ合衆国インディアナ州インディアナポリス、ポルトガル・リスボン、メキシコ・ティファナ、フィリピン・ウルダネータである。

これにより、現在建設中あるいは建設が発表された神殿の数は23になった。これらの23の神殿が完成すると、全世界の教会の神殿の数は157になる。

モンソン大管長はこう述べた。「わたしたちはこれからも神殿を建設していきます。……教会員にとってますます身近になってくる神殿に、引き続き忠実に参入できますように。」(『リブレット』2010年11月号、4)

今回の発表により、ポルトガル、インディアナ州、およびコネチカット州では、初めて神殿が建つことになる。ウルダネータ神殿はフィリピンでは3番目、ティファナ神殿はメキシコでは13番目の神殿となる。

4月から10月の総大会にかけての6か月で、教会は4つの新しい神殿を奉献した。アリゾナ州ヒラバレー神殿、ブリティッシュコロンビア州バンクーバー神殿、フィリピン・セブ神殿、ウクライナ・キエフ神殿が奉献された。ハワイ州ライエ神殿は大掛かりな改修工事の後、2010年11月21日に再奉献される予定である。■

## 世界指導者 訓練集会

**世**界指導者訓練集会の放送が、2010年11月13日に行われる。この放送では、新しい教会指導手引き(『第1部 ステーク会長およびビショップ』と『第2部 教会の管理運営』)についての指導を行う。

この放送には以下の会員たちが招待されている——中央幹部、地域七十人、ステーク会長会、伝道部会長会、地方部会長会、ステークおよび地方部書記、ステークおよび地方部幹部書記、高等評議員、ステークおよび地方部の扶助協会・若い男性・若い女性・初等協会・日曜学校の会長会、ビショップリック、支部会長会、ワードおよび支部書記、ワードおよび支部幹部書記、大祭司グループリーダーおよび補佐、長老定員会会長会、ワードおよび支部の扶助協会・若い男性・若い女性・初等協会・日曜学校の会長会、ワード伝道主任。

この訓練は30以上の言語で放送される。放送時間などの詳しい情報は地元の神権指導者から発表される。■

## 総大会を 日々の生活の中で 活用し続ける

**わ**たしたちは、メッセージを聞き、御霊を感じ、勧告に従うと決心しました。しかし、総大会が終わった今、これからの6か月間その気持ちを保ち続けるにはどうすればよいでしょうか。

世界中の教会員に、総大会のメッセージを覚えて実行するために行っている事柄を紹介してもらいましょう。

### 総大会を日々の生活の中で活用し続ける

運動中、運転中、家事をしているとき、その日の準備をしているときに、説教を聞いています。

— ジェームズ (カナダ・オンタリオ州)

朝食のときに聞く説教を家族に順番で選んでもらっています。

— アシュリー (アメリカ合衆国ワシントン州)

日曜日に家族で総大会の映像を少しずつ見えています。

— グラント (アメリカ合衆国カリフォルニア州)

### 家庭の夕べに説教を取り入れる

家族でもう一度学びたいメッセージを選び、それらを家庭の夕べで教えるように家族に割り当てています。

— バーンとジェニファー (アメリカ合衆国ユタ州)

一つの説教を読んだり、映像で見たりして、家族で取り組むことのできる目標を探しています。

— トニー (アメリカ合衆国アリゾナ州)



### 聖文研究に説教を利用する

朝に聖典を読み、夜に総大会の説教を一つ読むというふうに、交互に繰り返して読んでいます。

— ダイアン (アメリカ合衆国ワシントン州)

毎晩子供たちを寝かしつけるときに、一つの説教を読んでいます。

— ハザー (アメリカ合衆国ユタ州)

説教を読んだ後で、その説教の参照聖句を調べています。

— ベッキー (アメリカ合衆国ユタ州)

中央幹部が行うように特に勧めている事柄に蛍光ペンで印を付け、その勧告に従うことに集中しています。

— ヘレン (オーストラリア)

### テーマに従って学ぶ

総大会で語られたテーマの中から自分の生活で改善したい事柄と一致するテーマを

リストアップして、次の総大会までにそれらのテーマについて一つずつ改善していくようにしています。

— レベッカ (アメリカ合衆国テキサス州)

聖文研究で数日間、または、家庭の夕べで数週間、一つのテーマについて集中しています。

— フランシス (ナイジェリア)

### メッセージを分かち合う

教会の掲示板や配付物に総大会の言葉を載せています。

— トッド (アメリカ合衆国ウェストバージニア州)

総大会読書クラブを主催したり参加したりしています。インターネットで行うものもあれば、直接会って行くものもあります。毎週一つの説教を学んで、学んだことを分かち合う準備をして読書クラブに出席します。

— ステファニー (アメリカ合衆国ユタ州)

## おわびと訂正

20 10年5月号の裏表紙の裏に掲載された、アル・ラウンズの描いた作品「ペンシルベニア州ハーモニー」に関する説明文の3文目を次のように修正いたします。「また、この地で預言者ジョセフはモルモン書の大部分を翻訳した。」

2010年10月号の『リアホナ』としてお届けした『末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿』の中で、4-5ページに掲載されたワシントンD.C. 神殿の写真と、神殿冊子の裏表紙に掲載されたオレゴン州ポートランド神殿の写真撮影した写真家は、ロバート・A・ボイドでした。■



# 家 族

## 世 界 へ の 宣 言

末日聖徒イエス・キリスト教会  
大管長会ならびに十二使徒評議会

**わ**たしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

**す**べての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

**前**世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

**神**がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

**わ**たしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

**夫**婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

います。「子供たちは神から賜<sup>たま</sup>わった嗣業<sup>しぎょう</sup>であり」（詩篇127:3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

**家**族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦<sup>ゆる</sup>し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

**わ**たしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

**わ**たしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。



「若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。いつも清く純粋で、主を代表するにふさわしくあってください。健康と体力を維持してください。……」第180回半期総大会の最初の部会でトーマス・S・モンソン大管長はそう述べた。「若い姉妹の皆さん。皆さんには専任宣教師として奉仕するという若い男性と同じ神権の責任はありませんが、宣教師として価値ある貢献ができます。皆さんの奉仕を歓迎します。そして熟年の兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは熟年の夫婦をもっと大勢必要としています。……夫婦そろって専任で主の業に携わることで得られる、すばらしい御<sup>みたま</sup>霊と充実感を味わう機会は、人生にそうめったにあるものではありません。」

